



札幌市立大学年報

平成20年度



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

はじめに　—3年度目の概観—

公立大学法人札幌市立大学は平成18年4月1日に創立し、3年度目を迎えた。

この年、学生の進路相談、就職相談、国家試験対策支援や企業開拓などを目的としたキャリア支援センターを開設した。平成20年8月には、(社)日本看護協会が認定する認定看護管理者制度サードレベル教育課程を、全国で4番目、北海道では唯一の教育機関としてスタートし、学外から10名が210時間を受講した。また、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に応募した看護学部の「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」が採択されたのはうれしいニュースであった。

教育活動面では、本学の特色であるデザイン学部と看護学部の連携教育において、1年次の「スタートアップ演習」に加えて、3年次後期から「学部連携演習」が新たにスタートした。また両学部ともに3年次対象の各分野における中核としての専門教育科目を開講した。

4年度目の入学者選抜状況は、デザイン学部受験者は前期161名（2.98倍）、後期97名（6.93倍）、特別選抜は55名（4.58倍）で、看護学部受験者は前期122名（2.54倍）、特別選抜96名（3.00倍）であった。また、編入学者選抜試験では、デザイン学部18名、看護学部7名が入学した。

研究活動面では、学内研究費配分として、学術奨励研究9件、学内共同研究6件を採択した。学外研究費は、科学研究費補助金14件（デザイン学部4件で教員31名での取得率は13%、看護学部10件で教員37名での取得率は27%である）。ここで科学研究費補助金取得件数が大学の研究水準の一般的な評価指標となっていることを考えると、全教員数68名に対して、取得数14件（取得率21%）の状況は本学の大きな課題である。一方で、受託研究費10件、共同研究費3件、研究助成2件、寄附金5件を得た。海外研修は36件実施した。個人研究業績件数は、デザイン学部265件、看護学部317件であり、研究に対するアクティビティの高さを示している。

社会活動面では、地域連携研究10件、高大連携活動等12件、学生参加事業41件、その他の地域貢献諸活動22件、公開講座31件、専門職支援・セミナー講師等は131件（デザイン学部37件、看護学部94件）であった。このように本学の地域に対する社会貢献活動は極めて活発に行われているといえる。

開学3年度目は大学院設置特別委員会において、平成22年4月大学院開設へ向けて教育課程、教員組織、施設・設備等に関する具体的な検討を進めた。本学にとって初めての大学院のデザインを進めるにあたって、異なった考え方尊重し組み込みながら一つの方向を打ち出してゆくことの困難さを痛感した。何といっても教育、研究や社会活動は人間相互の協同なくしては成り立たない。幸いにして平成20年度の年度計画もほぼ目標通りに達成できた。

平成21年3月には、本学芸術の森キャンパスの基礎となった札幌市立高等専門学校の5年制本科が18年の歴史に幕を閉じた。「北の新しい芸術文化の創造と地域産業の活性化を図るため」という開校時の目標と、自由な校風とデザイン教育の基軸を、これからは札幌市立大学へ継承発展させてゆきたい。そして、これからは何よりも大学を構成する学生・教職員、そして市民、すべての人たちが夢を抱ける大学の建設を目指したい。

札幌市立大学学長　原　田　昭

目 次

はじめに

概要

1	大学設置の経緯	1
2	デザイン学部の概要	3
3	看護学部の概要	4
4	キャリア支援センターの開設	6
5	認定看護管理者制度サードレベル教育課程の開講	6
6	「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」の採択	7
7	運営体制図	8
8	行事	9

教育活動

1	教育活動概要	10
2	共通教育・連携教育	11
3	デザイン学部	18
4	看護学部	42
5	その他	68

研究活動

1	研究活動概要	72
2	連携研究一覧	73
3	個人研究費による研究一覧	73
4	学内公募研究課題一覧	76
5	学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	77
6	寄附金の受入状況	78
7	海外研修記録	79
8	個人別業績一覧	81

社会活動

1	地域貢献諸活動	117
2	公開講座開催実績	125
3	学会及び社会における活動	129
4	非常勤講師実績	142
5	専門職支援・セミナー講師等	144
6	国際交流	153
7	サテライトキャンパスの利用状況	153

平成21年度入学者選抜結果

1	入学者選抜要項	154
2	選抜状況	158

附属図書館

1 概要	160
2 利用状況	161

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況	162
2 役員及び審議会委員名簿	163

学内運営の概要

1 部局長会議	164
2 企画戦略会議	165
3 教授会	166
4 附属図書館	168
5 地域連携研究センター	170
6 アドミッションセンター	172
7 キャリア支援センター	173
8 学内委員会	174

資料

1 中期計画	193
2 平成20年度年度計画	204
3 平成20年度決算	215
4 教職員数	216
5 管理職一覧表	216
6 教員一覧表	217
7 学生定員及び学生数	218
8 授業料等	218
9 奨学金貸与・授業料減額免除実施状況	219
10 学生の入選・受賞	219
11 学生の課外活動	221
12 後援会	221
13 教育・研究刊行物一覧	222
14 施設	222
15 大学への交通アクセス	228

編集後記

概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要であり、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップができるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称) 札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称) 札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称) 札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称) 札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称) 札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉校

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び教育、研究審議会

学内運営の概要

資料

2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった产学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

したがって、デザイン学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的因素に機能の基盤となる工学的因素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえるとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 高いコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

② 課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することができる能力を養う。

③ デザインの基礎となる表現力

豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。

④ 人間や環境に配慮したデザイン能力

人間にとて使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。

⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想

固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。

⑥ 企画力や管理・運営能力

デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により援助過程が進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるよう常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、札幌市立大学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内、あるいは全国的な視点から看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も

増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 対人関係形成能力

豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

② 権利擁護・安全なケア提供能力

さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。

③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力

緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。

④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力

看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。

⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力

主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 キャリア支援センターの開設

「札幌市立大学学則」（平成18年学則第1号）第16条第2項の規定に基づき、「公立大学法人札幌市立大学キャリア支援センター規則」（平成20年規則第2号）を制定し、キャリア支援に係る改善・充実、方策等を実施する組織として、平成20年4月にキャリア支援センターを開設した。

平成20年度のキャリア支援センターは、デザイン学部長、看護学部長、デザイン学部キャリア支援委員会委員長、看護学部キャリア支援委員会委員長及び事務局次長の5名によって構成した。

【目的】

センターは、札幌市立大学の教育理念に基づき、学生のキャリア支援に係る改善・充実、方策等を実施することを目的とする。

【業務】

1) 学生の進路に関する事項

進路相談（大学院説明会等）、就職相談（就職ガイダンス、公務員試験対策、資格試験対策等）、国家試験対策支援（看護学部）、企業開拓（企業訪問、PR活動等）等

2) デザイン学部及び看護学部の各学部キャリア支援委員会の連絡調整に関する事項

3) その他キャリア支援に関する事項

5 認定看護管理者制度サードレベル教育課程の開講

急速な社会変化に対応する医療・看護サービスの質向上を担う看護管理者育成を目的として(社)日本看護協会が認定する認定看護管理者制度サードレベル教育課程を、全国で4番目、北海道では唯一の教育機関として平成20年8月に開講した。

教育理念としては、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対する質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整えることにより、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与し、保健医療福祉に貢献することを目的としている。

具体的には、社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営して行くことのできる能力の拡大と看護事業の起業・運営に必要な経営管理に関する知識・技術・態度の修得を目指す。

平成20年度は、札幌市内や道外の医療機関の看護部長や大学院修士号取得者10名が、平成20年8月25日から平成21年1月30日の期間に「保健医療福祉政策論」、「保健医療福祉組織論」、「経営管理論」及び「経営者論」等を39日間（8週間）・12単位・210時間受講した。

6 「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」の採択

「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」（平成20年度予算額86億円）は、文部科学省が大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された教育の質の向上につながる教育取組の中から特に優れたものを選定し、広く社会に情報提供とともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国全体としての高等教育の質保証、国際競争力の強化に資することを目的としたものである。

看護学部において申請した「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」は、採択率が全体で15.76%という中で採択され、平成22年度までの3年間について、大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）により経費措置を受けることとなった。平成20年度は、19,872千円の補助金交付を受けた。

取り組みの概要については、以下のとおりである。

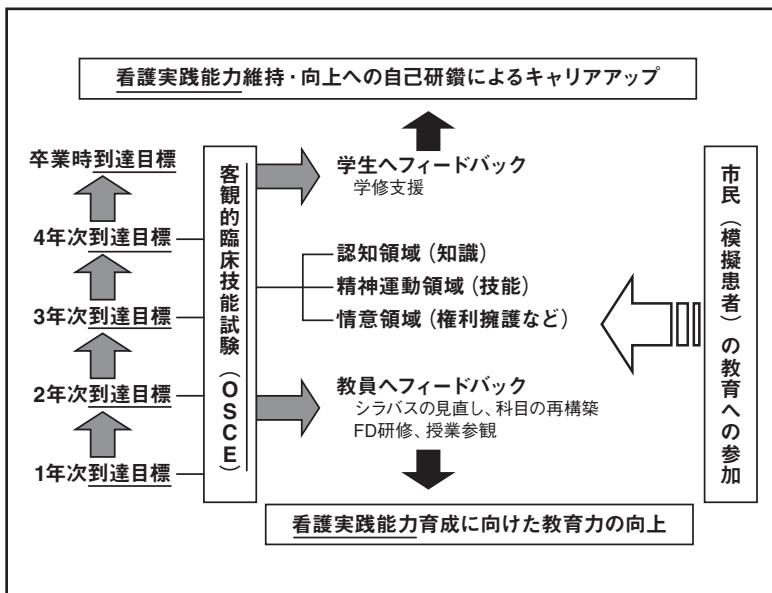
【概要】

看護学基礎教育において、看護実践能力の育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標や看護技術項目の卒業時到達度が、国などの関係機関から次々と提示されている。これは、卒業時の能力と医療現場や社会が求める看護師の能力に、ギャップを生じていることが大きな要因である。現在の看護学基礎教育は、認知領域（知識）、精神運動領域（技能）と情意領域（権利擁護、態度、倫理観など）を統合した教授法によって実施されている。しかし、その評価は個々の専門領域単位で行われているため、学生個々の看護実践能力を形成的に、あるいは卒業時の到達度を客観的に評価している看護系大学は極めて少ない。

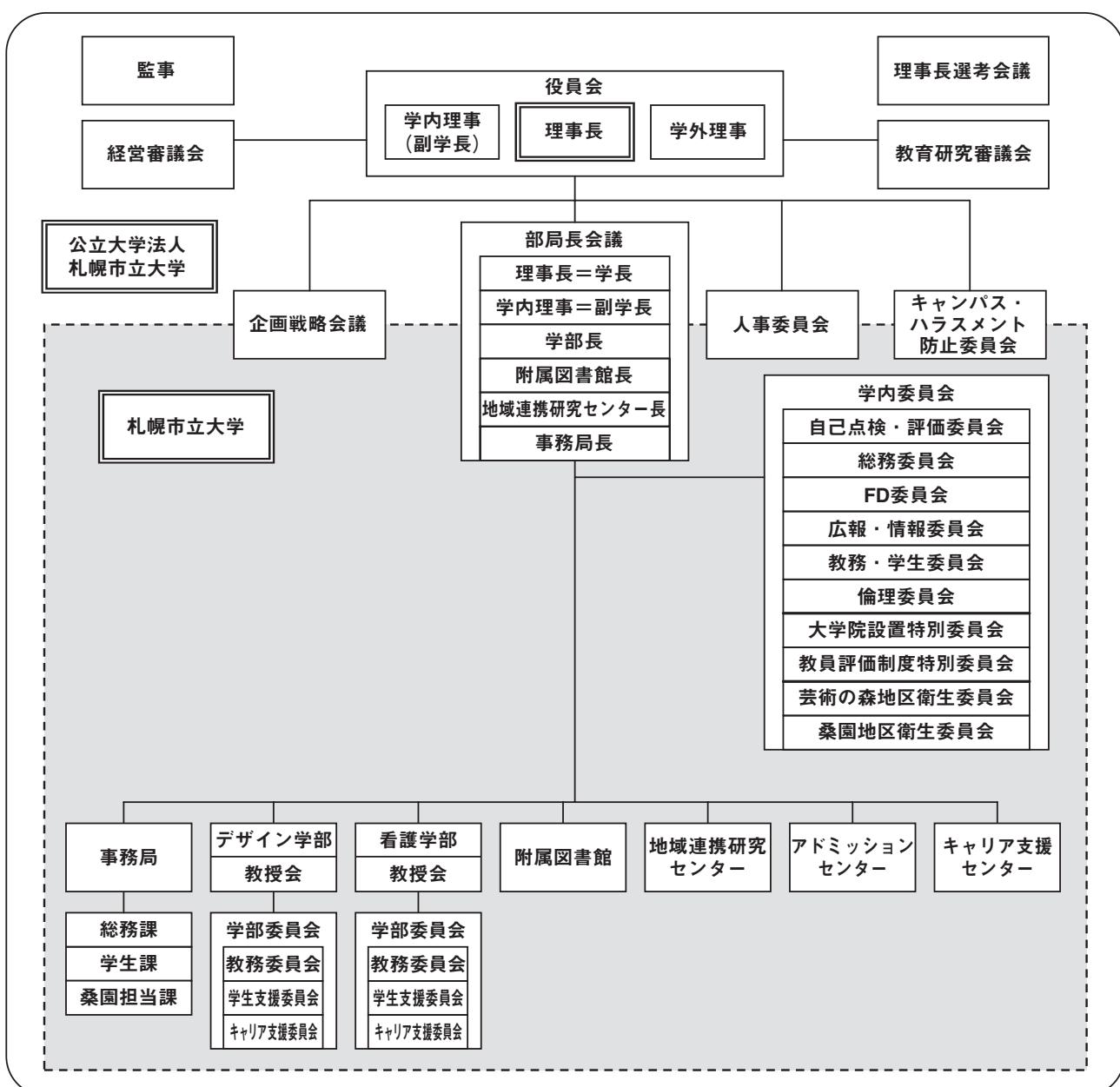
本学は、平成18年度に開学し、専門領域の科目は、概論（講義）、援助論と技術論（演習）、臨地実習という講義→演習→実習の流れを基本軸としたカリキュラム構築を特徴としている。加えて市民（模擬患者）の参加による演習を全学年に導入し、早期から対人関係能力の育成を重視した教育を行ってきた。専門領域ごとに修得した看護技術の有機的統合を図るために、近年、医療系教育で臨床技能を適正に評価するための方法として有効とされている客観的臨床技能試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）を用いた到達度評価の導入に着手したところである。看護実践能力を評価する試験としてOSCEを導入している看護系大学は少なく、試験の妥当性や評価の客観性については十分議論がなされていない。

そこで本取組では4年間で修得する看護技術内容、到達度及び評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含んだ到達度評価として、OSCEを用いて学年ごとに評価する。その結果をもとに教授法やシラバスを見直し、必要なFD研修を企画しながら教育実践を蓄積し、看護教員の教育力を向上させていく。このように全教員参画型で行われる本取組は、客観的成績評価を目的としたOSCEを志向するだけではなく、看護実践能力を育成することに主眼をおいた「育てるOSCE」への挑戦である。

学年別到達目標を提示し、全学年にOSCEを導入することによって、学生の主体的な学修意欲を育み看護実践能力を向上させるとともに、教員は自分の専門領域以外のOSCE課題に参画することによって、教員の実践力が向上し、互いの教育内容が有機的に連携する効果をねらう。また、学生は卒業時までに修得した看護実践能力が明確に示されるため、将来、実践の場でどのようなキャリアを積み上げていくのかがより具体的になり、効果的な自己研鑽のもとキャリアアップが可能となる。



7 運営体制図



8 行事

前期開始	4月1日
春季休業	4月1日～3日
入学式・後援会総会	4月3日
ガイダンス	4月4日
前期授業開始	4月7日
履修登録期間	4月7日～18日
健康診断	4月16日
第1回オープンキャンパス	6月28日
編入学試験（推薦） デザイン学部	7月26日
前期定期試験期間	8月6日～12日
夏季休業	8月13日～9月9日
編入学試験 看護学部	9月13日
第2回オープンキャンパス	9月27日
ガイダンス	9月30日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月1日
履修登録期間	10月1日～14日
編入学試験（一般） デザイン学部	10月4日～5日
大学祭	10月11日～12日
特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月22日
冬季休業	12月22日～1月4日
後期定期試験期間	2月13日～19日
一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
特別選抜入学試験（私費外国人留学生） デザイン学部	2月25日
春季休業	3月9日～31日
一般選抜入学試験（後期日程） デザイン学部	3月12日
後期終了	3月31日

教育活動

1 教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に共通する「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「i Movieによる映像編集ワークショップ」、「AdobeCS2によるデザインワークショップ」、「木工室安全講習会」及び「フリーハンドドローイング実習」を、また、幅広い知識と経験を得る目的で「看護医療に必要なチャイルドライフ・デザインとはなにか」、「世界における空間デザインの流れ」などの特別講義を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門知識と高度な技術を系統的に学習できるよう、①専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と、②看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」の2つの科目群で構成した。看護学実習は、さまざまな場で生活する人の健康レベル、あらゆる発達段階における人々に対して、それまでに学んだ理論や知識、技術を実践し、実際のかかわりを通して、総合的な看護実践能力を養うことを目的とし、看護職や関連職種の活動を見学体験する「看護初期実習」をはじめ11の実習科目を段階的・体系的に実施した。さらに、実践的な技術の修得のために、演習科目において模擬患者を活用した演習を行うとともに、学年末に客観的臨床技能試験（OSCE）を用いた評価を実施し、学生にフィードバックした。

また、看護学部における教育課程と実習の位置付けの理解を得るために、主たる実習施設である市立札幌病院看護部を対象とした実習指導者会議と、全実習施設を対象とした臨地実習指導者会議を開催するとともに、本学の教員が各実習施設における看護業務を把握するための研修を実施した。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
スタートアップ演習 ◎原 俊彦 酒井 正幸 杉 哲夫 中原 宏 矢部 和夫 エルサニマロアン 町田 佳世子 斎藤 雅也 福田 大年 松井 美穂 三谷 篤史 樋之津 淳子 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 星 美和子 渡邊 由加利 神島 滋子 進藤 ゆかり 塚辺 蘭子 照井 レナ 三上 智子	演習 60時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や小人数編成によるグループ活動を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得するとともに、調査・分析プロジェクトを通じ、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持つもらうためのコア科目。</p> <p>【到達目標】主体的に勉学・研究に取り組む姿勢／他者とのコミュニケーション能力／基本的な学習技術の習得／学生生活や将来への展望を持たせる。</p>
哲学と倫理 ★山田 友幸	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】心と身体はどのような関係にあるのかという問題をめぐって、近世から現代に至るさまざまな哲学者の考えを再構成的にたどり、世界の中における心の位置について理解を深める。</p> <p>【到達目標】心について考えるための基本概念である二元論、一元論、因果作用、心脳同一説、決定論的法則、随伴現象、非還元的物理主義、非法則の一元論、付隨性、機能主義等の概念の理解。</p>
体のしくみ ★杉原 俊一	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】体のしくみについて運動・動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、講義・実習等を通じて筋や関節が運動・動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能との関連から理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生体の構造と機能を運動学的観点から理解する。 2 身体運動を理解するための運動学的分析方法を説明できる。 3 動作分析方法について説明できる。 4 歩行、姿勢に関して運動学的な見方を説明できる。 5 体表解剖の基礎を理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
人間関係を考える ★椿 武愛子	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかかわらなければならない。そのためには、相手を知り、相手を認めることができて大切を知り、コミュニケーションを上手にとるために、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。</p> <p>【到達目標】人間関係がスムーズになりテキパキと仕事が出来、輝いて見え、自分に自信が持てる人間になる事を目標にする。</p>
札幌を学ぶ 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとして招き、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、話を聞きともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。</p> <p>【到達目標】地域社会に対する興味・関心／人の話を注意深く聞き理解する能力／適切なコメント・質問をする能力などを身につける。</p>
英語 I A ★大野 拓恵 ★清水 香 ★水島 梨紗	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。</p> <p>【到達目標】比較的平易なレベルの英文を、的確に文の内容、論理展開を把握しながら、一定のスピードで読める力を習得する。</p>
英語 I B 町田 佳世子 松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。また、ある程度まとまった内容を英語で表現するために必要なパラグラフ・ライティングの書き方を、プレゼンストーミングなどの基礎から学び、論理的かつ明晰な英文を書くために必要な英文の構成の仕方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】前期ではセンテンス・レベルからの作文の練習から始め、パラグラフ程度の長さのまとまりのある内容を英語で表現できるレベルの力を習得する。</p>
英語 I C ★ママドヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ一方、英語でのプレゼンテーション能力を身に付けることを主たる目的とする。</p> <p>【到達目標】ある程度まとまった内容を口頭で表現できる、英語でのプレゼンテーション能力の基礎力を身に付ける。</p>
日本語表現法 ★千葉 孝一	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】言葉に関する学術用語を学び、多角的に考える為の基礎知識を培う。その上で、適切な日本語表現とは何かについて正しく理解するとともに、自分の考えを相手に明快かつ分かりやすく伝える文章表現力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】言葉をめぐる様々な学術用語（シニフィエ・コノテーション等）を適切に使用できる事／学術的な文章と一般的な文章の違いを理解し、前者の約束事に沿った文章を執筆できる事。</p>
基礎カウンセリング ★小坂 守孝	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】カウンセリングは、適応上の課題を有する個人が、専門家の援助を受け課題解決を図る過程である。ここではロールプレイ等を通じ、カウンセリングの基礎を学ぶ。併せて、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、また、カウンセラーの役割について理解を深める。</p> <p>【到達目標】カウンセリングとは何をすることなのかを理解すること。カウンセリングの実際について体験を通して理解すること。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
情報リテラシー I ◎大渕 一博 柿山 浩一郎	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーIではコンピュータのしくみや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。</p> <p>【到達目標】ワープロ・表計算・プレゼンテーションなど基本的なソフトウェアの操作を理解し、ツールとして自由に活用できることを目指します。</p>
情報リテラシー II ◎大渕 一博 柿山 浩一郎	演習 30時間	1年次 前期・後期	<p>【科目のねらい】これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーIIでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。</p> <p>【到達目標】情報倫理を遵守しながらインターネットを情報収集、情報発信のツールとして活用すること、ならびに関連する技術について理解することを目指します。</p>
宗教と思想 ★堀 雅彦	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「宗教を信じるのは自分の頭で考えることの放棄だ！」と言う人もいるでしょう。しかし、そういう声に賛成の手を挙げる前に、様々な宗教的伝統のただ中で育まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみませんか。そこには人間や社会、自然などをめぐる広い意味での「思想」があり、私たち自身のものの見方に反省を迫るような要素が少なからずあるはずです。この講義では、そのような「宗教の中の思想」の輪郭を捉えるためのヒントを、様々な角度から示したいと思います。</p> <p>【到達目標】宗教に対する一般的な誤解、偏見がほどける／セム的一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）や仏教など、国際社会に大きな影響を与える諸宗教の歴史と思想の基本がわかる／自分と宗教（宗教的なもの）との関係を繰り返し問い合わせ直す態度が形成される。</p>
芸術と文化 ★望月 由美子	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】人類の歴史のなかで創り出されてきた美術作品がある時代、社会のなかで如何なる意味を有し、如何なる役割を担っていたのかについて考える。美術史の専門知識や解釈の方法論を学ぶことによって、今日われわれを取り巻いているCMや、雑誌、ポスター、TVドラマ、映画をはじめとする多くのイメージが、日常生活のなかで人間の行動や心理面に如何なる作用を及ぼしているのかについて学際的な視野から考える力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 19世紀から20世紀にかけての美術史の方法論（デスクリプション、イコノグラフィー、イコノロジー）の基礎論を学び、実際に絵画・彫刻分析を行って図像の意味を読み取る力を養う。 美術史・文化史の専門用語に関する基礎知識を養う。 最終的に、「芸術」と括られるものが、単なる美術館における鑑賞物といったものではなく、人類の歴史をさまざまな角度から再考するための最も重要な歴史史料のひとつであることを作品創造となる学生各自が経験的に学ぶことが目標となる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
心のしくみ ★橋本道子	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】日常生活に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしている様々なシステムや現象について、心理学的に考える。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。</p> <p>【到達目標】様々な領域の心理学的研究について概観し、心理学全般についての知識を得る。</p>
現代社会と家族 原俊彦	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化等が進んでおり、家族のありようや個人と家族のかかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。</p> <p>【到達目標】家族に対する关心を養う／家族の変化を統計的に捉える方法を学ぶ／家族と地域社会の関係や日本の家族が抱える課題を理解する。</p>
現代社会と経済 ★近藤公彦	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。我々は普段、消費者としてモノやサービスを買い、利用している。コンビニでお弁当を買い、ファッショング専門店で服を買い、シネマコンプレックスで映画を鑑賞し、携帯電話を使っている。一方、売り手である企業は、そうした製品やサービスを消費者に提供することで利益を上げる。その過程で企業は、消費者の好みを探り、彼らを満足させられる製品・サービスの開発に努め、ライバル製品との競争にどのように勝つかを常に考えている。この講義では、社会の経済主体の中心である企業のマーケティング活動に焦点を当て、その理解を通じて現代の社会や経済を見る眼を養う。具体的には、企業戦略の基本的な考え方をマーケティングの視点から提供し、具体的な事例を多く交えながら説明するとともに、適宜、テーマに則したビデオを見たり、雑誌記事を読み、ディスカッションやレポートを通じてマーケティングの理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> マーケティングを通して企業活動を理解し、社会、経済を見る知識を習得する。 ディスカッションやプレゼンテーションの能力を養う。
統計の世界 原俊彦	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を探し出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。</p> <p>【到達目標】統計学的な考え方や基本的な手法に対する理解／表計算ソフトを用いたデータの加工能力／統計を用いた推計・検定の処理の基礎を身につける。</p>
英語ⅡA 町田佳世子 ★大野拓恵 ★清水香 ★水島梨紗	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ的確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取れる語彙力を養成する。</p> <p>【到達目標】複雑な構文、難易度の高い語彙を含む英文を、的確に理解できる読解力を習得する。速読、パラグラフ・リーディングなど多様な読みのスキルを身につける。</p>
英語ⅡB 松井美穂 ★白土淳子 ★向井千和子	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】「英語ⅠB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力をさらに伸ばし、研究レポート等を英語で表現できる力を身に付ける。具体的には前期で習得したパラグラフ・ライティングの書き方をエッセイ・ライティングへと発展させることに主眼を置く。</p> <p>【到達目標】エッセイ・ライティングレベルの長文を論理的に書く技術を身に付ける。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
英語ⅡC ★ママドヴァセヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】「英語ⅠC」で培ったスピーチング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で発信する力を養う。同時に、ある程度複雑な内容のネイティブの会話や説明などを正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、更なるリスニング力の向上を目指す。</p> <p>【到達目標】英語で自らの考え方や意見を論理的に発信できる力を身につけるとともに、論理的な内容の英語を聞いて理解できる力を身につける。</p>
プレゼンテーション ◎武田 豊明 柿山 浩一郎	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】今日の社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。</p> <p>【到達目標】プレゼンテーションの業界標準といえるソフトウェア、Microsoft PowerPointを使いこなせるようになることを、スキル的な目標とする。また、プレゼンテーションは一方的なものではなく、行う側と受ける側といった2者間の関係であるとの視点から、オフィシャルな場におけるコミュニケーション能力の向上を総合的な目標とする。</p>
対人コミュニケーション 町田 佳世子	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。</p> <p>【到達目標】コミュニケーションという営みについて基本的な理論を学び、身近なコミュニケーション行動をその知識を基に観察または内省する。その結果を自らのコミュニケーションに適用し、より豊かなコミュニケーションを目指す。</p>
手話 ★高橋 淨	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者およびろうをめぐる問題についても考えてみたいと思います。</p> <p>【到達目標】ろう者に対する理解を深めると共に手話による簡単な会話を習得する。日常会話をを行う。必要な手話表現技術を習得する。</p>
ジェンダーを考える ★川畑 智子	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】人権問題やジェンダーの基本的な考え方について、基礎的な知識を習得する。また、ジェンダーを生み出す社会的な構造や、最近のジェンダーの課題について、事例を通して考察する。現代の日本社会の問題から具体的なテーマをとりあげ、現代日本社会における男女の性別秩序をとらえる。こうしたテーマについて深く考えてみたい人、こうしたテーマに関心のある人などの受講をお薦めします。</p> <p>【到達目標】この授業の目的は、ジェンダーという分析概念を使用して社会を読み解く力をつけ、どのように社会と向き合い、生活していくべきかについて考えることである。すなわち社会生活を営むための知恵を身につけ、より生きやすい社会を創造するためには何が必要かを考えることである。</p>
健康とスポーツ ★林 恒宏	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】多くの日本人の生活は、栄養過多の一方、運動が不足しており、ストレスの解消や発散も十分になされない状態にある。また、こうしたことが、体力の低下やさまざまな健康障害を引き起こす原因となっており、スポーツの必要性がますます増加している。ここではスポーツによる健康維持と体力づくりのための知識の習得を目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本人の健康問題の現状と国、地方自治体、民間の対応策を理解する。 2 どのような運動療法、スポーツが効果的か、基本的知識を実技を通して理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
現代社会と国際関係 ◎★佐々木 政文 ★近藤 浩 ★田中 祥彦 ★松岡 亮	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 私たちは今、海外のニュースが瞬時に伝わってくる時代に生きています。毎日のように飛び込んでくるニュースも「なぜ?」を考えなければ、関心を持ち得ないし真相も見えません。この授業では、北海道新聞の記者が新聞などのニュースを基に、分かりやすく楽しく時代のトレンドに沿って伝えます。</p> <p>【到達目標】 海外事情の基礎を理解し、自らの考えを論理的に説明できるようにする。</p>
ボランティア活動を考える ★小沼 春日	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 ボランティア活動の起源、活動を支える思想、活動の今日的状況と課題について学ぶ。また、現代社会では「地域におけるボランティア活動」が非常に注目されていることから、地域のボランティア活動の事例も参考にしながら、身近なボランティア活動についても考える。</p> <p>【到達目標】 本科目の受講をとおして、「ボランティア活動」を多角的に捉え、関連する諸領域・分野との関係性に関する洞察力、及び「主体的に行動する力」の涵養を目指す。</p>
実践英語A 町田 佳世子 松井 美穂	演習 30時間	2年次 前期・後期	<p>【科目のねらい】 英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、デザイン・看護の各専門に関する英語図書の購読を通じ専門英語に慣れるとともに、専門分野に関する語彙を習得することを目指す。また、1年時に習得したパラグラフ・ライティング／エッセイ・ライティングの書き方を基礎に、さらにそれを発展させて専門分野に関連したエッセイ・ライティングの練習も行う。</p> <p>【到達目標】 英文で書かれた専門分野に関する論文を読んだり、また、英文で論文を書くことができるレベルの語学力の習得を目指す。</p>
実践英語B ★ママドヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、将来学術分野や実社会において、専門分野に関することがらを英語で聞き取り、議論できるように、さらに英語力を発展させる。授業ではそれぞれの専門分野に関する内容を口頭で発信する練習を行いながら、専門用語も習得する。授業はそれぞれの学部に分かれて行われる。</p> <p>【到達目標】 専門に関する事柄を英語でプレゼンテーションすることができ、また会議等において英語でディスカッション等ができるレベルの語学力の習得を目指す。</p>
中国語 ★照井 はるみ	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 中国語入門の基礎として、文字・発音・文法を学習し基本的日常会話を習得するとともに、中国の歴史・文化等についても触れ、中国に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 教科書全10課の学習を終えることによって、中国語で自己紹介文を書き発表することを目指す。</p>
ロシア語 ★ジーノフ ウラジーミル ★ジーノワ ナターリア	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 ロシア語での読み書き、ロシアでの生活においてもっとも良く使う会話を習得する。また、現代のロシアの音楽や映画についても触れ、ロシアに対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 簡単な文章、例えば会話帳などを読むことが出来る。ロシア語でのメールや絵葉書が書けるようになる。ロシア語での簡単な会話（天気、家族、食事など）が出来る。</p>
グループ・ダイナミックス ★鹿内 啓子	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 人は家族、学校、職場等さまざまなグループの中で、お互いに影響を与え合い、行動を変化させながら生活しており、そこにおいてはグループ・ダイナミックス（集団力学）が作用している。この授業では、人がどのように他者から影響されるのかを身の回りの事例から学び、集団における人間の心理や行動についての基礎的な理解を深める。またこのような影響力の要因から集団が持つ機能や意思決定の仕組みなどについて学んでいく。</p> <p>【到達目標】 知らず知らずのうちに私たちに影響を与えている基本的な要因を学ぶことによって、自分や他者の行動を客観的に見直し、不当な影響力に冷静に対処する能力や態度を身につけることを目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
環境を考える 矢部 和夫	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 地球環境問題の根源となっているのは、都市領域が人間の生存環境を作る自然領域を蚕食していくことである。また、地球は地域の集合体であると考えられ、その保全はそれぞれの地域で環境を保全することで達成される。このような視点から、地域環境保全の意義や地球環境の諸問題を取り上げ、その対策について、人間の暮らし、文化との関連で考える。</p> <p>【到達目標】 環境問題の原因と発生のメカニズムを把握し、問題を正確に捉える。</p>
教育を考える ★竹中 健	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 家庭教育、学校教育、生涯教育などの教育は、人間や人間形成にとってなぜ必要なものとして位置づけられてきたのか？人びとがこれまで「教育」に求めてきた意味づけについて、歴史的変遷から考察をおこなう。また教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について知る。</p> <p>【到達目標】 近代における「教育」は、社会のなかでどのような概念として位置づけられてきたのかを理解し、社会にとっての「教育」の意味を自分なりに考えることができるようになることを到達点とする。</p>
韓国語 ★松田 由紀	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 韓国語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、韓国の歴史、文化等についても触れ、韓国に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ハングルが読めること、簡単な会話を暗記すること（教科書のカタカナ会話1～10を暗記）。</p>

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

3 デザイン学部

1) 平成20年度時間割

① 1年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30	情報リテラシーI 大渕	デザイン史 武邑 原田 羽深	情報リテラシーI 大渕		人間関係を考える 椿
2	10:40 ~ 12:10	情報リテラシーII 大渕	色彩設計論 中井	情報リテラシーII 大渕	日本語表現法 千葉 英語 IA 清水 英語 IB 松井 英語 IC 水島 英語 IC マッマドヴァ	哲学と倫理 山田(友)
3	13:10 ~ 14:40	デザイン原論 吉田(恵) 原田 武邑	造形基礎実習I 斎藤(利) 石崎 杉	英語 IA 水島 英語 IB 向井 英語 IC マッマドヴァ 英語 IC バトリア	日本語表現法 千葉 英語 IA 清水 英語 IB 松井 英語 IA 水島 英語 IC マッマドヴァ	札幌を学ぶ 原
4	14:50 ~ 16:20	造形基礎実習I 斎藤(利) 石崎 杉	造形基礎実習I 斎藤(利) 石崎 杉	英語 IA 水島 英語 IB 向井 英語 IC マッマドヴァ 英語 IC バトリア	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎力ウンセリング 小坂 英語 IA 大野 英語 IB 白土 英語 IB 町田 英語 IC バトリア
5	16:30 ~ 18:00	造形基礎実習I 斎藤(利) 石崎 杉		体のしくみ 杉原	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎力ウンセリング 小坂 英語 IA 大野 英語 IB 白土 英語 IB 町田 英語 IC バトリア

② 1年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30	プログラミングI 大渕	デザイン方法論 酒井		現代社会と家族 原	手話 高橋(淨)
2	10:40 ~ 12:10	プログラミングI 大渕	感性科学 張	英語 II A 水島 英語 II A 町田 英語 II B 松井 英語 II C バトリア	芸術と文化 望月(由)	手話 高橋(淨)
3	13:10 ~ 14:40	コンピュータ基礎実習I 大渕 城間 吉田(和) 造形基礎実習II 上遠野 片山	コンピュータ基礎実習I 大渕 城間 吉田(和) 造形基礎実習II 上遠野 片山	英語 II A 水島 英語 II A 町田 英語 II B 松井 英語 II C バトリア	プレゼンテーション 武田 英語 II A 柿山 英語 II B 清水 英語 II C 向井 英語 II B 松井 英語 II C マッマドヴァ	英語 II A 大野 英語 II B 白土 英語 II C バトリア 英語 II C マッマドヴァ 対人コミュニケーション 町田
4	14:50 ~ 16:20	コンピュータ基礎実習I 大渕 城間 吉田(和) 造形基礎実習II 上遠野 片山	コンピュータ基礎実習I 大渕 城間 吉田(和) 造形基礎実習II 上遠野 片山	宗教と思想 堀	プレゼンテーション 武田 英語 II A 柿山 英語 II B 清水 英語 II C 向井 英語 II B 松井 英語 II C マッマドヴァ	英語 II A 大野 英語 II B 白土 英語 II C バトリア 英語 II C マッマドヴァ 対人コミュニケーション 町田
5	16:30 ~ 18:00			心のしくみ 橋本	統計的世界 原	現代社会と経済 近藤

(3) 2年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	感性デザイン論 張	ジェンダーを考える 川畠 ロシア語 ジダーノフ	デザイン法規 津幡	デザイン解析論 中原	ユニバーサルデザイン論 酒井
2	10:40 ～ 12:10	現代芸術論 上遠野	実践英語A 松井 実践英語A 町田 ロシア語 ジダーノフ 中国語 照井	中国語 照井	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤(利) コンピュータ基礎実習IIA 増田 (3D)	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤(利) コンピュータ基礎実習IIA 望月(澄) (3D)
3	13:10 ～ 14:40	プログラミングII 城間	実践英語B バトリア 実践英語B マッマドヴァ ロシア語 ジダーノワ 中国語 照井	中国語 照井	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤(利) コンピュータ基礎実習IIA 増田 (3D)	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤(利) コンピュータ基礎実習IIA 望月(澄) (3D)
4	14:50 ～ 16:20	ヒューマンファクターズ入門 泉	現代社会と国際関係 佐々木 健康とスポーツ 林		創造産業論 武邑	
5	16:30 ～ 18:00		グループ・ダイナミックス 鹿内 ボランティア活動を考える 小沼			

※集中講義：認知科学 9月1日～9月5日

(4) 2年後期

		月	火	水	木	金
					前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	広告デザイン 吉田(和) ヒューマンファクターズ 安田	教育を考える 竹中	韓国語 松田	メディアビジネス フィッシャー 齋藤・インテリアデザイン 那須 中村	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IB 望月(澄) (ムービー)
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン論 吉田(恵) 那須 山田(良) 製品デザイン論 杉 コンテンツデザイン論 望月(澄) メディアデザイン論 武邑	環境を考える 矢部 実践英語A 町田	コンピュータグラフィクス 福田 韓国語 松田	メディアビジネス フィッシャー 齋藤・インテリアデザイン 那須 中村	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IB 望月(澄) (ムービー)
3	13:10 ～ 14:40	エコロジーデザイン論 矢部	情報社会論 武邑	コンピュータグラフィクス 福田 コンピュータ基礎実習II B 田辺 (ムービー)	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習II C 城間 (CAD) 那須	ダイナミック オブジェクトデザイン 空間デザイン史 羽深 広告デザイン 吉田(和)
4	14:50 ～ 16:20	デザイン総合実習I	視聴覚教育メディア論 武田 江川	コンピュータ基礎実習II B 田辺 (ムービー)	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習II C (CAD) 城間 那須	
5	16:30 ～ 18:00	デザイン総合実習I	生涯学習概論 木村	博物館概論 矢部 奥岡 高橋(信) 山田(悟)	製品造形論 石崎 細谷	

(5) 3年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30		インタラクションデザイン 酒井 柿山	物語デザイン論 望月(澄)	製品計画論 柿山	プロトタイプ 三谷 シミュレーションI
2	10:40 ~ 12:10	博物館実習 矢部 石井 佐藤 吉崎	アニメーションI 望月(澄) 都市計画論 中原	環境計画論 斎藤(雅) 吉田(恵) 矢部 細谷 マルチメディア コンテンツデザイン	感性情報学 張 出版メディアデザイン 吉田(和)	コンテンツ制作システム論 福田
3	13:10 ~ 14:40	博物館資料論 古沢 亀谷 佐藤	建築計画論 那須 メディア文化史 武田		景観デザイン論 吉田(恵) 他6名	ブランド構築 武邑
4	14:50 ~ 16:20	博物館経営論 矢部 金子 佐藤	博物館情報論 武邑			デザイン総合実習II
5	16:30 ~ 18:00					デザイン総合実習II

※集中講義：学外実習A（インターンシップ）、学外実習B（フィールドスタディ）

(6) 3年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ~ 10:30	寒冷地デザイン論 斎藤(雅) 山田(良) 吉田(修)	バーチャルリアリティ 細谷 柿山		アートマネジメント論 上遠野	
2	10:40 ~ 12:10	観光とデザイン 中原 井原 小野 高崎 俵	アニメーションII 福田 空間デザイン法規 小林	地場産業振興論 小早川	構造・材料実験 羽深 プロトタイプ 酒井 シミュレーションII 細谷 デジタル映像 福田 コンテンツデザイン	構造力学 石丸 メカトロニクス 三谷
3	13:10 ~ 14:40	デジタル映像史 武邑		建築構法 羽深 製品デザイン史 杉 メディア芸術論 フィッシャー	感性インタラクション 張 デザイン 細谷 構造・材料実験 羽深	
4	14:50 ~ 16:20			デジタルアーカイブ 高橋(昭)		デザイン総合実習III
5	16:30 ~ 18:00		学部連携演習 斎藤(利) 河野 ※他両学部教員計29名	インターネット 大口 メディアデザイン		デザイン総合実習III

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
教養科目	導入科目	スタートアップ演習	2	1年前期	2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理	2	1年前期	4単位以上
		宗教と思想	2	1年後期	
		芸術と文化	2	1年後期	
	環境を考える教育を考える	2	2年後期		
		2	2年後期		
		2	2年後期		
		2	2年後期		
	人間に対する理解	心のしくみ	2	1年後期	4単位以上
		体のしくみ	2	1年前期	
		ジェンダーを考える	2	2年前期	
		人間関係を考える	2	1年前期	
共通教育科目	社会に対する理解	健康とスポーツ	2	2年前期	6単位以上
		現代社会と家族	2	1年後期	
		現代社会と国際関係	2	2年前期	
		現代社会と経済	2	1年後期	
	札幌を学ぶ	札幌を学ぶ	2	1年前期	6単位以上
		ボランティア活動を考える	2	2年前期	
		統計的世界	2	1年後期	
		2	2年後期		
	コミュニケーション科目	英語ⅠA	1	1年前期	8単位以上
		英語ⅠB	1	1年前期	
		英語ⅠC	1	1年前期	
		英語ⅡA	1	1年後期	
		英語ⅡB	1	1年後期	
		英語ⅡC	1	1年後期	
		実践英語A	1	2年前期	
		実践英語B	1	2年前期	
		韓国語	1	2年後期	
		中国語	1	2年前期	
		ロシア語	1	2年前期	
合計					28単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
専門教育科目	デザイン基礎	デザイン原論	2	1年前期	16単位以上
		デザイン史	2	1年前期	
		デザイン方法論	2	1年後期	
		色彩設計論	2	1年前期	
		感性科学	2	1年後期	
		感性デザイン論	2	2年前期	
		ユニバーサルデザイン論	2	2年前期	
		創造産業論	2	2年前期	
		現代芸術論	2	2年前期	
		デザイン解析論	2	2年前期	
		ヒューマンファクターズ入門	2	2年前期	
		認知科学	2	2年前期	
		デザイン法規	2	2年前期	
		エコロジーデザイン論	2	2年後期	
		情報社会論	2	2年後期	
		造形基礎	2	1年前期	6単位以上
		造形基礎実習Ⅰ	2	1年後期	
		造形基礎実習Ⅱ	2	2年前期	
		デザイン材料加工実習Ⅰ	2	2年前期	
		デザイン材料加工実習Ⅱ	2	2年後期	
		情報基礎	2	1年後期	8単位以上
		コンピュータ基礎実習Ⅰ	2	2年前期	
		コンピュータ基礎実習Ⅰ(A(3D))	2	2年後期	
		コンピュータ基礎実習Ⅰ(B(ムービー))	2	2年前期	
		コンピュータ基礎実習Ⅰ(C(CAD))	2	2年後期	
		プログラミングⅠ	2	1年後期	
		プログラミングⅡ	2	2年前期	
合計					40単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
専門教育科目	空間デザイン系	空間デザイン論	2	2年後期	34単位以上を修得
		空間デザイン史	2	2年後期	
		景観デザイン論	2	3年前期	
		都市計画論	2	3年前期	
		空間デザイン法規	2	3年後期	
		構造力学	2	3年後期	
		建築構法	2	3年後期	
		構造・材料実験	2	4年前期	
		建築設備計画	2	3年前期	
		建築計画論	2	3年前期	
		環境計画論	2	2年後期	
		家具・インテリアデザイン	2	2年後期	
		住宅論	2	4年前期	
		製品デザイン系	2	2年後期	34単位以上を修得
		製品デザイン史	2	3年後期	
		製品造形論	2	2年後期	
		製品計画論	2	3年前期	
		感性情報学	2	3年前期	
		ヒューマンファクターズ	2	2年後期	
		インタラクションデザイン	2	3年前期	
		メカトロニクス	2	3年前期	
		ロボティクス	2	4年前期	
		感性インターラクションデザイン	2	3年後期	
		プロトタイプシミュレーションⅠ	2	3年前期	
		プロトタイプシミュレーションⅡ	2	3年後期	
		ヒューマンケア機器デザイン	2	4年前期	
		コンテンツデザイン系	2	2年後期	34単位以上を修得
		コンテンツ制作システム論	2	3年前期	
		物語デザイン論	2	3年前期	
		バーチャルアリティ	2	3年後期	
		コンピュータグラフィクス	2	2年後期	
		アニメーションⅠ	2	3年前期	
		アニメーションⅡ	2	3年後期	
		デジタル音響デザイン	2	4年前期	
		ダイナミックオブジェクトデザイン	2	2年後期	
		マルチメディアコンテンツデザイン	2	3年前期	
		デジタル映像コンテンツデザイン	2	3年後期	
		ネットワークシステムデザイン	2	4年前期	
		メディアデザイン系	2	2年後期	34単位以上を修得
		メディア文化史	2	3年前期	
		知的財産権論	2	3年後期	
		メディア芸術論	2	4年前期	
		アートマネジメント論	2	3年後期	
		広告デザイン	2	2年後期	
		ブランド構築	2	3年前期	
		デジタルアーカイブ	2	4年前期	
		コンテンツ流通技術	2	2年後期	
		メディアビジネス	2	3年前期	
		出版メディアデザイン	2	3年後期	
		インターネットメディアデザイン	2	4年前期	
		放送メディアデザイン	2	3年後期	
		合計			34単位以上
専門教育科目	デザイン応用	寒冷地デザイン論	2	3年後期	8単位以上
		観光とデザイン	2	3年後期	
		地場産業振興論	2	3年後期	
		デザインマネジメント	2	4年前期	
		起業論	2	4年前期	
		デザイン英語	2	3年前期	6単位
		学外実習A(インターンシップ)	2	3年前期	
		学外実習B(フィールドスタディ)	2	3年前期	
		合計			22単位以上
専門教育科目	学部連携	学部連携演習	2	3後~4前	2単位
		合計			
		デザイン総合実習Ⅰ	2	2年後期	
		デザイン総合実習Ⅱ	2	3年前期	
		デザイン総合実習Ⅲ	2	3年後期	
		卒業研究	6	4年	11単位
		合計			
自由科目	学芸員課程関連科目	生涯学習概論	1(自由)	2年後期	
		博物館概論	2(自由)	2年後期	
		博物館経営論	1(自由)	3年前期	
		博物館資料論	2(自由)	3年前期	
		博物館情報論	1(自由)	3年前期	
		博物館実習	3(自由)	3年前期	
		視聴覚教育メディア論	1(自由)	2年後期	

(2) 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	-	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
デザイン原論 ◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 デザインの概説、また、これまでの、あるいはこれからの中のデザインについて、デザインの基本的な考え方と広範なデザインの対象を理解する。まず、原田はデザインの基本的な考え方や概念について述べ、また、さまざまな製品のデザインについて、デザインの対象、設計・計画手法、最新の取組を概説する。つぎに、吉田は公園や緑地等の大規模空間を含む空間のデザインについて、デザインの対象や設計・計画手法を具体的な事例を取り上げて解説する。さらに、武邑はデジタル映像やゲーム、ウェブに至る多様なコンテンツ創造とメディア流通計画やビジネスモデルのデザインについて、最新の取組を具体的な事例を取り上げて解説する。</p> <p>【到達目標】 学生はデザインの概念、方法、成果、今後の展開、諸課題などについて学び、デザインの広範囲で多彩な対象領域についての興味を抱くことを目標とする。</p>
デザイン史 ◎武邑 光裕 原田 昭 羽深 久夫	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 デザインの理解を深めるため、社会、産業、生活、文化が変化する中で、どのようにデザインが変遷してきたのか、デザインの時系列的な変遷を背景となる環境と対比しながら概説する。デザインの歴史的変遷について、代表的なデザイン思想とその歴史的意味について概観し、あわせて現代デザインの問題点とその展開について理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 デザインの歴史的変遷を理解すると同時に、社会システムの中でデザインの果たす役割と意味について学ぶ。現代のデザインに連続する社会的課題や近・現代史の中でのデザインを概観する。</p>
色彩設計論 ★中井 和子	講義 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 色彩はさまざまなデザインの基盤となる重要な要素である。色彩の基本的知識を学習するとともに、平面・立体・空間・環境など、いろいろな造形物や空間表現へ応用できる能力の習得を目指す。色の見え方、色のイメージと性質、色の測定方法と表現、色彩心理、色彩調和など、人間の行動と生活環境との関係性において、色彩の効果的活用や色彩計画について考え学習する。</p> <p>【到達目標】 「色彩」についての基本的知識を理解する。いろいろなデザイン活動に応じた「色彩」の考え方の違いを学び、色彩設計への基本的デザイン力を身につける。</p>
造形基礎実習 I ◎齋藤 利明 石崎 友紀 杉 哲夫	実習 60時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 対象を的確にとらえる觀察力や洞察力と、取り込んだイメージを正確に表現する基礎的能力を身に付けるため、鉛筆デッサン等のトレーニングを行う。モチーフを觀察し、そこに潜むかたち・色・材質感などの特徴をとらえながら、用具の特性を生かして描写することにより、デザインの基礎となる觀察力や平面での描写力、構成力、表現力などを身に付ける。</p> <p>【到達目標】 デッサンの構成要素を段階的に実習することにより、デザインを創作し昇華させるために必要な描写力、構成力の基礎を習得する。シルクスクリーンの総合課題ではデザインイメージを平面上に形として表現し、的確に伝えることができる表現力を習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
デザイン方法論 酒井 正幸	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】生活者のニーズを把握し、それに適合する製品・サービスのコンセプトの創出、プロトタイプの制作、検証、市場導入に至るまでの一連のデザインプロセスと各ステージでの方法論を学ぶ。具体的には下記各項目について講義と演習を通じて学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フィールド観察やフォーカスグループによる課題発見。 2 ブレーンストーミングや商品地図法によるコンセプトメイキング。 3 ユーザビリティテスト、アピアランステスト等による検証と見直し。 4 市場導入にあたって配慮すべき事項の確認。 <p>【到達目標】課題発見から提案にいたる一連のデザインプロセスの基礎を習得する。</p>
感性科学 張 浦 華	講義 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】人間は理性によって合理的判断をすることのほかに、感性の働きによって心地よいといった感情を持つが、こうした感性の働きはデザインに大きく取り入れられようとしている。感性は曖昧であるという理由で自然科学の対象とされてこなかったが、近年になって感性の働きが理性の働きと同様に重要な意味を持っていることが解明してきた。感性の働きが人間にとてどのような役割を果たしているのか、これまでの感性科学の取組を紹介しながら、感性科学の基礎を理解させる。</p> <p>【到達目標】感性の働きと知性の働きとの違いを理解し、デザインにおける感性の取り込みについての基礎を学ぶ。</p>
造形基礎実習Ⅱ ◎上遠野 敏 片山 めぐみ	実習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】造形基礎実習Ⅰで身に付けた平面の表現能力をもとに、立体的なアイデアをスケッチ・パースや展開図、投影図等により平面表現する手法を習得する。平面の図案から紙やクレイ、石膏といった実材を使った立体モデルを制作することによって、2次元の図面と3次元モデルの関係やデザインに必要な立体物の構成について理解させるとともに、立体物の制作を通じて3次元の表現力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イメージした立体を三面図やパースで表現することができる。 2 デザインにおける立体造形の基礎を習得することができる。 3 石膏による型取り技法が習得できる。
コンピュータ基礎実習I ◎大渕 一博 城間 祥之 吉田 和夫	実習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】コンピュータを利用したデザイン作業において一般的に用いられるフォトレタッчソフト及びドロー系ソフトの基本操作を理解させる。フォトレタッчソフトでは、写真画像の補正、効果、変形の技術をフォトコラージュ作品の制作を通して学習させる。ドロー系ソフトでは、ベジェ曲線の操作技術習得を目的として図面、イラストレーション、オリジナルタイプフェース制作を行う。また、これらのソフトを連携して活用する手法や、ページレイアウトソフト・PDF加工などへの展開も見据えながら、印刷物・Web・オンラインプレゼンテーションなどに応用可能な表現手法を身につけさせる。</p> <p>【到達目標】デジタルデザインに不可欠なソフトウェアをデザインツールとして自由に使いこなす能力を身に付け、あわせて関連する知識を理解することを目指します。</p>
プログラミングI 大渕 一博	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】Webサイト構築に必要とされるプログラミング技術を理解させる。Web制作の現場では、Web制作用ソフトウェアを利用することが多いが、その場合でも基本的なHTMLの知識は必要とされる。具体的には、インターネットのしくみを理解させながら、HTML・XHTMLとスタイルシート（CSS）によるWebサイト制作演習を行う。</p> <p>【到達目標】Web制作に関わる基本的な作業手順を理解し、Webコンテンツを適切に制作できることを目標とします。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
感性デザイン論 張 浦 華	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 デザインの評価は論理的側面ばかりでなく感性的側面による点に特徴がある。人間特有の外界認識方法である感性が、感性評価、情報処理、情報検索などの認識過程で、どのような特徴を有するのか、方法論的な視点も加えながら、人間の感性の働きをデザインにどのように組み込んでいかなければよいかについて解説する。感性的概念形成（印象・連想）などのように感性工学の側面からデザイン企画を行うと、いかに効果的であるかについて理解させる。</p> <p>【到達目標】 機能デザインではなく、感性デザインの方法論について、ケーススタディを通して理解する。</p>
ユニバーサルデザイン論 酒井 正幸	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 ユニバーサルデザインを生み出す背景となった現代社会の高齢化、IT化に伴う社会システムの複雑化の現状等を理解した上で、ユニバーサルデザイン開発方法論について学習する。障害者や機能の低下した高齢者のみならず多様性を持つ健常者的心身特性や生活実態を理解し、すべての製品・システム・サービスが具備すべき特性とそれを実現するためのプロセスや方法論について事例を交えて学習する。</p> <p>【到達目標】 ユニバーサルデザインの対象となるユーザーの特性の理解、ユニバーサルデザイン開発に必要な評価基準や方法論の基礎を習得する。</p>
創造産業論 武邑 光裕	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 英国 の創造産業振興政策に始まり、世界的な潮流となった「創造産業」を概観し、創造性（Creativity）を原資とする新たなデザイン産業のあり方とは何かを理解させる。インクルーシブデザイン、ブランド・アイデンティティ、コミュニケーションデザイン、経験デザインといったデザインの新潮流と、芸術文化産業に求められる「創造性」と「コンテキスト」の意味を解説する。</p> <p>【到達目標】 創造性を原資とする産業の可能性とその未来の開拓を学ぶ。実際の起業精神の発端や現実社会の経済システムと新規の事業形成の可能性を探る。</p>
現代芸術論 上遠野 敏	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリズム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズム等について、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 20世紀から現在までの現代芸術を系譜を通して理解することができる。 2 現代芸術の理解を深めることによってデザインの専門性を拡充することができる。 3 表現の自由を尊重し、発想の転換や創造の概念を学ぶ。
デザイン解析論 中原 宏	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 デザインを進める上で重要となる、要素間の関連性やデータの背後に潜む要因を探求する能力、主要要因を識別する能力などの養成を図る。具体的には、社会調査・意識調査の調査方法と分析手法、相関分析、回帰分析、多変量解析など、各種データ分析手法の基礎について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 各種調査方法とデータ分析手法に係る知識と理解力、およびそれら手法の応用能力の習得。</p>
ヒューマンファクターズ入門 ★泉 隆	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 人間・機械・環境系において人間の諸特性を理解し、人間に優しい環境・システムを設計することは今日重要な課題となっている。これら人間の諸特性を理解するとともに、どのようにこれらの特性をシステム・環境設定に生かせば、人間の生活が健康で快適なものとなるかを、人間工学的な視点から考察する。特に、人の作業能力に適合した快適で、疲労の少ない、安全な機器、環境、作業条件を構築するための考え方、手法の基礎を講義する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間・機械・環境系における情報の流れ（コミュニケーションの枠組み）を理解する。 2 情報システムなどの機械の使いやすさとわかりやすさの考え方を学ぶ。 3 ノンバーバルなコミュニケーションの重要性を理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
デザイン法規 ★津 幡 笑	講義 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 デザインの開発を行う上で、他人の権利を侵害せず、かつ自己の新たな権利を構築するには、知的財産権の制度を理解し、情報を調査・分析する必要があり、デザインに関連したさまざまな法律や制度を踏まえておく必要がある。ここでは、著作権、意匠権、商標権といった知的財産権を中心にながら、デザインと関連の深い各種法規について、基本的な知識を体系的に習得するほか、法規が制定された背景や意義を理解する。</p> <p>【到達目標】 最終的には商標法、意匠法、不正競争防止法、著作権法などデザインに関する各種知的財産法の規律を修得することを目的とします。</p>
デザイン材料加工実習I ◎上 遠野 敏 石崎 友紀 齋藤 利明	実習 60時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 デザインの材料にはさまざまなものがあるが、ここでは木やプラスチック、セラミックスといった材料の特性について概説した上で、実際に課題を作成させ、材料の特性に合わせた加工技術や各種工作機械の活用方法を習得させる。また、デザインの目的に合致した材料の選択と、その加工方法についても理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 木工機械を安全に操作して加工することができる。 2 素材の特性を理解し、計画的に加工することができる。 3 泥漿鑄込み成形技法による磁器制作を通し、セラミックの特性および加工技術を理解する。
コンピュータ基礎実習IIA (3D) ◎望月 澄人 ★増田 直也	実習 60時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 コンピュータの三次元空間を用いた造形表現を学び、モデリング、マッピング、レンダリング等のCG（コンピュータグラフィクス）独自の技術を理解した上で、その性質をデザインや表現に結び付ける手法を学ぶ。また、自由度の高い連続した曲面を定義できるサーフェースモデルやメッシュ系のアルゴリズムを持った3DCGソフトウェアを用いることにより、建築やプロダクトなどの人工物だけでなく、人間や動植物といった有機的な形態や材質感の表現を含めた立体造形物を構築する技術を習得させる。</p> <p>【到達目標】 3DCG独自の技術であるモデリング、マッピング、レンダリング等の方法や関連を理解し、ライティングやカメラ設定を使った空間演出が出来ることを目指とする。</p>
プログラミングII 城間 祥之	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 VisualBasicプログラミング演習を通してプログラミング言語への興味を喚起し、他のスクリプト言語への足掛かりを得ることを目標とする。特にここでは、簡単な数値計算・インターフェースプログラムの作成を通して、VisualBasicの画面を構成するウインドウやツールボックスの役割と操作を習得させる。また、フォームウインドウに配置したオブジェクトとその動作を制御する関数プロシジャーの作成を通してプログラムによる制御方法の習得を図り、ユーザインターフェースデザインとの関係を理解させる。また、これらのプログラム演習を通して、VisualBasicの基本文法を習得させる。</p> <p>【到達目標】 Visual Basicの文法を習得し、日常生活で出会う事象の数学モデル化とその計算プログラム作成、及び簡単なインタラクションデザインプログラムを作成できること。</p>
認知科学 ★吉橋 昭夫	講義 30時間	2年次 前期 集中	<p>【科目的ねらい】 人間の認知と思考に関する研究を中心に、「わかること」「理解すること」に関する認知科学の知見を概観する。理論と実例とともに参照しながら、知的な人工物と人間との関わりについて理解する。わかりやすさを実現するためのインターフェース・デザインを実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 人間の認知とユーザ・インターフェースについて関心を持つ。認知科学の基礎的な知識を身に付けるとともに、デザインとの関連やわかりやすさをデザインすることの重要性を理解する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
エコロジーデザイン論 矢部 和夫	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】生物を分子レベルから、生態系レベルまで幅広い階層構造から把握し、この過程を通じて、進化のしくみ、生物の利己的な本質や空間内の多種共生のしくみを学びながら、地域の生物多様性を保全・向上することの意義について論じる。また、主要な自然生態系の構造と機能の概要を解説するとともに、これを基にしてビオトープ造成や自然再生の先進的な技術や事業を紹介しながら、エコロジーデザインの基礎的な概念を理解させる。</p> <p>【到達目標】最近の環境保全・生物多様性の議論を正確に捉えるために、エコロジーの基礎を理解し、あわせて、エコロジーという概念と近年盛んに取り上げられているエコ〇〇という使われ方の違いを意識できるようになること。</p>
情報社会論 武邑 光裕	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】近年、情報技術の進展は著しく、ポーダーレスでリアルタイムな情報の伝達や共有は、これまでの社会を大きく変えようとしている。ここでは、社会、文化、生産活動における情報の役割や仕組みを概説するとともに、近代以降の情報技術の進展や、現代の情報社会がもたらす社会システムの変革について、さまざまな角度から講義する。</p> <p>【到達目標】情報社会の本質を理解し、次代の情報・メディア産業の課題について考察する。</p>
デザイン材料加工実習Ⅱ ◎石崎 友紀 上遠野 敏	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】デザイン材料加工実習Ⅰで習得した知識や加工技術を発展するために、ここでは金属を取り上げる。さまざまな金属の特性について概説した上で、実際に課題を制作させ、金属の切除・曲げ、溶接、ロウ付け、組立てといった加工技術を習得させる。また、デザインの目的に合致した金属の選択と、金属に合わせた加工方法についても理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 金属の特性を理解することができる。 2 金属工作機械を正しく安全に操作して加工することができる。 3 金属加工の手工具類を正しく安全に使用することができる。 4 金属を意図した通り正確に成型加工することができる。
コンピュータ基礎実習ⅡB (ムービー) ◎望月 澄人 ★田辺 達也	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】デジタル映像技術の進歩は、合成技術の革新でもあるとも言え、レイヤーに分けられたキャラクター、小道具、背景などの画像やムービーについて、性質の異なったソースを自在に融合させた映像制作が可能なため、さまざまな表現を行うことができる。ここでは、CGアニメーションの基本的技術を学び、動く、変形する、出現と消滅、繰り返すなどの映像の基礎的手法を学び、映像制作を通して表現技術を養う。</p> <p>【到達目標】実写によるコマ撮りアニメーション制作を通じてアニメーションの制作プロセスを理解する。ソフトウェアを使用してキーフレームアニメーションを制作できるようになる。</p>
コンピュータ基礎実習ⅡC (CAD) ◎城間 祥之 那須 聖	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】3次元物体形状を図面に表現する製図法の基礎について、実際の製図を通して習得させたうえで、コンピュータを利用した設計技術・表現技術、特にCAD (Computer Aided Design) を通して図面表現と具体的な設計方法について理解させる。授業では、CADの利用法について、①基本的な設定、②作図法、③表現方法の3段階に分けて解説し、複数のアプリケーションを複合的に用いた表現能力を養う。特にここでは、建築系CAD (VectorWorks) と製品系CAD (SolidWorks) の操作・表現技術を修得し、授業後半ではCADを用いたオリジナルの設計を行い、デザインツールとしてCADを利用する基礎的能力を養成する。</p> <p>【到達目標】製図法を理解し、実際の図面を解読し、2D CADでの平面表現と3D CADで立体表現することと共に、それらを組み合わせたプレゼンテーションができることが目標である。また、3D CAD技術を駆使して家電品やIT機器などの筐体形状モデリングや動作シミュレーションができるようになることも目標である。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
空間デザイン論 ◎吉田 恵介 那須 聖 山田 良	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン基礎科目（デザイン原論、デザイン史等）を踏まえ、人間と環境を考えた空間デザインの有様と課題について理解し、空間デザインを行う際の視座と課題について学ぶ。具体的には、空間デザインの意義と有用性について、哲学・社会・倫理・技術面からパースペクティブな思考を行い、屋内外、都市・自然風景地と多岐に渡る具体的な事例を知り、その背景とプロセスを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 空間デザインの諸問題に対して、時代・社会を背景とした課題の認識を行うとともに、批評的な視点を持ち、自ら課題を定義し、計画・設計へ向けて方針を立てる事ができることを目標とする。</p>
空間デザイン史 羽深 久夫	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 空間デザインを地域ごとに分け、各地域の時代を古代、中世、近世に分けて、住宅を中心とした空間デザインの歴史的な成立と展開を概説する。19世紀以降は近代デザインと現代デザインに分けて、日本と世界における住宅を中心とする空間デザインの歴史を国際様式、地域、環境の視点から、その展開と系譜を概説し、21世紀における日本の空間デザインの方向性を明らかにする。また、北海道における空間デザインの歴史的な過程についても概説する。</p> <p>【到達目標】 日本建築史の基本的な知識の修得が基本である。日本建築史の歴史的展開過程の理論を踏まえながら北海道における建築のながれを理解し、西洋建築史、東洋建築史、近代建築史の基礎を修得する。</p>
家具・インテリアデザイン ◎那須 聖 ★中村 昇	講義+演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 日常生活の居住環境の中でかかわりの深い家具と、建築物の内部空間を構成するインテリアのデザインについて、具体的な事例を用いて理解を深める。また、建築空間や都市空間における要素としての家具や内部空間について、的確な空間把握と利用目的に応じた設計をするための能力を養う。授業では、家具・インテリアデザインの歴史、インテリアデザインの因子を理解した上で、演習を通して、使用目的や素材・形態・使用環境それぞれの関係を考慮したデザイン能力を身に付ける。さらに、実物大の家具モデルの制作を通して具体的なデザイン能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間工学、知覚、安全性を考慮して室内空間の基本的計画（平面計画、家具配置、造作、仕上）ができること。 2 使用目的、使用者の行為、材料の特性などを理解した上で、独自の着想に基づき家具のデザインができること。
製品デザイン論 杉 哲夫	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 製品デザインは、未来への夢を描く中から人とモノと環境との間にある課題を見出し、具体的なカタチを通じて解決を図っていくものである。ここでは、具体的な製品デザインの事例を取り上げながらアイデア発想の視点や、製品をデザインしていく上で必要な条件やプロセスを理解し、自らの考えをデザインする方法論の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 製品デザインで必要な基礎知識を、座学と演習を通じて理解を深めると共に製品デザインへの取り組みの視座を広げることを目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
製品造形論 ◎石崎 友紀 細谷 多聞	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】「形態は機能に従う」と語ったのは20世紀初頭、アメリカの建築家ルイス・サリバンだが、それ以後「機能美」などという表現も出現して人間が作るあらゆる道具に多大な影響を与え、合理主義的な近代製品デザイン造形の基本的な考え方とされている。ここでは、機能の完全進化形としての生物や植物の持つ構造や形態を製品造形に応用する手法を解説する。また、情報化に伴う社会的価値観と生活意識の変化により、機能よりも感性的な評価やメッセージ性等が製品の造形に考慮されるべき要素として求められる傾向もあり、そうした事柄についても考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 製品造形における設計と意匠を具現する行程を理解する。 2 製品造形における構造と形態の役割を理解する。 3 成功例を観察し、社会的、歴史的な意義と必然性を理解する。 4 成功例を観察し、造形性と機能美の性能を理解する。
ヒューマンファクターズ ★安田 光孝	講義+演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】基本科目として学んだヒューマンファクターズ入門の理解のもとに、「ヒト」との関係がより調和するようデザインしていく人間工学的手法について学ぶ。また、演習等において、「ヒト」の感性を評価する官能評価手法について理解を深める。</p> <p>【到達目標】「ヒト」の身体的・生理的・認知的・心理的特性を理解し、「ヒト」を中心とした「モノ」をデザインする人間工学の考え方を学ぶ。また、「ヒト」の感性を評価する官能評価手法を習得する。</p>
コンテンツデザイン論 望月 澄人	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】コンピュータグラフィクスを始め、アニメーションやウェブ等を対象とするコンテンツデザインの基本的な考え方を理解させる。多様化するさまざまなメディアが存在する中で、コンテンツを制作することは、知的欲求や感情的欲求を満たすコンテンツを生産し供給することである。コンテンツはどのような欲求に対して制作され、どのようにデザインされるのか、他のデザインとどこが違うのかなどについて論じる。</p> <p>【到達目標】コンテンツデザインの歴史と分野を知る。自身の欲求の客観的位置づけができる。</p>
コンピュータグラフィクス 福田 大年	講義+演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】コンピュータグラフィクスの技術進化を解説し、進化を遂げるCG表現技術などを、主要なソフトウェアを用いて学ぶ。高度化する3次元コンピュータグラフィクス技術や実写との合成技術など、映画等で用いられている先端のCG表現領域についても触れる。</p> <p>【到達目標】コンピュータグラフィクスの技術進化やツールのことを体系的に理解する。そして、コンピュータの能力や特性を利用したグラフィック制作ができる能力を身につける。また、画像情報の「編集」や「構成」に関する事を演習を通して研究し、各自のデザイン活動に活かすことができる能力を身につける。</p>
ダイナミックオブジェクトデザイン ◎齋藤 利明 城間 祥之	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】ロボットのようなダイナミックオブジェクトは高度情報化社会における動態人工物である。ここでは、ヒューマノイド型ロボットの関節機構と携帯電話の折り畳み機構から動体機構を学習し、からくり人形型人工物の制作を通して手動機構製作を実践する。また、ヒューマノイド型ロボットによる「喜怒哀楽」動作表現、および人形の顔の表情表現を通して、ダイナミックオブジェクトによる「感性表現」を学ぶ。</p> <p>【到達目標】モータ駆動による関節機構の動作原理を学習し、ヒューマノイド型ロボットの組み立てを通してモータによる動作制御法を理解する。また、からくり人形型人工物の制作を通して手動機構の動作伝達構造を理解し、実製作できるようにする。さらに、ロボットの動作表現や人形の顔の表情表現を通して人工物による感性表現法を習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
メディアデザイン論 武邑 光裕	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 マスメディアからマルチメディアまで、多様なメディア形式の中で流通するコンテンツをプロデュースし、具体的なメディアの選択から流通形態にまで及ぶ新たなデザイン領域の可能性を概観する。クリエイティブな発想、構想力によるメディアの創造とその展開過程など、放送、映画、音楽、出版、インターネットなど、主要メディアを通した「文化の産業化」過程について学ぶ。特に、グローバル化するメディア産業を見据え、国際戦略としてのコンテンツ流通とメディア・プロデュースの文脈、具体的なメディアビジネスを通しての国際競争力あるメディアデザインを概説します。各国の版権ビジネスや、ローカリゼーション（地域化）とグローバル化（世界化）とのダイナミックな対話によるコンテンツ・プロデュース手法、デザイン戦略におけるグローバル化への対応など、近年のグローバル・メディアデザインの戦略的な背景などを考察することで、世界市場で通用するコンテンツの創造とはいかなるものかを、権利発生からその販売までを通してシミュレーションします。</p> <p>【到達目標】 メディアデザインの概念や方法論を理解し、具体的なデザイン事例を通して、学生自らの方法論を体得する。</p>
広告デザイン 吉田 和夫	講義+演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 広告を取り巻く環境の変化はITの技術革新と消費者のライフスタイルの多様化に集約される。IT技術の進歩によるメディアの再評価は広告そのものの概念まで変容させている。同時に消費者の行動様式の解釈も、意識と心の分析など、より本質的な観点からのアプローチが要求されている。これらを踏まえメディアの多様性を意識した次世代の広告のあり方を探る。演習では世代別ライフスタイルを基にしたコミュニケーションコンセプトの立案と企画・発想力の開発に力点を置いた広告課題の制作を行う。</p> <p>【到達目標】 広告における情報発信の流れを、発信者・メディア・受信者それぞれの関係から理解する。同時にグラフィックデザインによる情報伝達の基本を把握する。</p>
メディアビジネス フィッシャー ニーナ	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 メディアビジネスを事業化するまでの筋道を核として、多様なメディアビジネスモデルを取り上げる。主要メディア（テレビ、映画、音楽、出版、インターネット、イベントなど）における新たなビジネスモデルを、各メディアを代表する事例研究とその分析を通して学ぶ。メディア形式と内容を理解し、テレビから携帯電話に至る一連のメディア環境から生まれるメディアビジネスについても考察する。今期は、世界のミュージックビデオ制作作品をその深部から検討する。成功しているミュージックビデオ監督の仕事の概念や発想に基づいて、独自のミュージックビデオのアイデアを、地域の音楽シーンと協力しながら発展させる。</p> <p>【到達目標】 音楽会社からプロのミュージックビデオ制作者などを招き、彼らの仕事の内実を学習する。</p>
デザイン総合実習 I (空間デザインコース) ◎那須 聖 吉田 恵介 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 斎藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目的ねらい】 デザイン基本科目（デザイン原論、デザイン史、色彩設計論、ユニバーサルデザイン論、造形基礎実習、コンピュータ基礎実習等）や展開科目（空間デザイン論、家具・インテリアデザイン等）の修得を踏まえ、基礎的な表現方法を修得し、課題制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。身近な住環境の把握から住空間計画、街並み景観計画の基礎実習へと制作プロセスに従いながら、空間デザインの基礎的な表現方法を学ぶと共に、併せて空間をデザインすることの意義を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 建築設計の基礎的な表現方法を修得し、戸建住宅について、課題の分析、企画、計画、設計までの一連のデザイン能力を身に付けることを到達目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習I (製品デザインコース) ◎杉 哲夫 石崎 友紀 酒井 正幸 張 浦華 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、実験や制作などの実習を通じ、デザインに関する知識・技術をより深める。デザイン総合実習Iでは、製品デザインとして必要な調査分析や実験、デザインモデル制作やレポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 課題発見からコンセプト立案、デザイン案の制作といった一連のプロセスを習得すると共に、自分の作品集に自信を持って載せることのできる作品を作ることを目標とする。</p>
デザイン総合実習I (コンテンツデザインコース) ◎細谷 多聞 齋藤 利明 城間 祥之 望月 澄人 大渕 一博 福田 大年	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え、作品制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 コンテンツデザインを行う上での基礎的な能力を、コンピュータを活用したイメージ制作、および基礎的なプログラミング技術の双方から獲得する。</p>
デザイン総合実習I (メディアデザインコース) ◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 エルサニマロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え、作品制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。多様なメディアを対象とするデザイン・プロジェクトを理解し、地域の経済活動や文化の創造に寄与するメディア・デザインの方法論を、多様な実習過程を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 地域貢献の具体例として、実習の成果を積極的に地域に伝える。</p>
景観デザイン論 ◎吉田 恵介 ★井上 剛宏 ★酒井 忠康 ★庄司 達 ★中野 美代子 ★三宅 理一 ★宮前 保子	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 景観デザインについて都市・自然景観領域の事例理解と分析手法を学ぶ。まちづくり、パブリックアート、都市環境保全、庭園芸術にみる景の造作などの最新事例から、これまでの景観概念について論考し、景観を踏まえた新しい空間デザインの可能性をさぐる。</p> <p>【到達目標】 都市空間における「景・気」の諸相を学び、人のための景観デザインの重要性と本質性を考える論考を行い、受講者のデザイン能力向上に資する。</p>
都市計画論 中原 宏	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 都市の概念や、都市及び都市計画の歴史、都市の機能と空間構造、土地利用計画プロセス、都市計画制度、市街地再開発事業、都市基盤整備等、都市空間のデザイン技法全般について体系的に学習する。さらに、国内外の先進的まちづくり事例の学習を通して、転換期にある現在の都市計画の動向とその背景について理解を深めるとともに、新たな都市計画手法についても論及する。</p> <p>【到達目標】 都市、都市計画・まちづくりに係る知識と理念、および、まちづくりプロジェクトに応用できる技法の習得。</p>
建築計画論 那須 聖	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 建築全体の中での「計画」が果たす役割を明確にし、設計に向けての論理的かつ発明的な思考を行うための知見と思考方法を養成する。具体的には、建築計画の史的理を通して現代に通ずる計画理念を解説した上で、建築過程における計画の位置づけと条件の定義、人体寸法と使用目的に基づく単位空間、住宅や事務所といった特定の課題に対する計画の進め方、計画手法としてのモデル的考え方、空間の知覚、などについて講義する。</p> <p>【到達目標】 建築における「計画」が果たす役割を、史的考察、現代の建築過程における位置づけ、具体的な計画手法などを通して理解し、条件の明確な理解と条件に基づいた計画目標の設定、それにふさわしい建築の内容を具体的に計画できる能力をつけることを目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
環境計画論 ◎斎藤 雅也 吉田 恵介 矢部 和夫	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 地球環境時代の今日、建築や都市の環境計画を行うためには、対象地やその周辺環境に本来備わる環境要素（太陽光、風、雨、雪、植生など）をヒトの安全性、健康性、快適性が得られるようにコントロールするとともに、地域にある自然環境の保全に配慮しなければならない。本講義では、建築環境、周辺環境、広域環境の3つの入れ子から成る系を「環境システム」として捉え、環境計画の基礎理論について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 環境システムの基礎理論を習得し、環境に配慮したデザイン全般に展開できる基礎を習得する。</p>
製品計画論 柿山 浩一郎	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 デザイナーは企業とユーザーの間に位置し、両者にとっての最適な価値ある解決策を導き出すことが求められている。ここでは、社会動向等を踏まえたデザインの方向性や、デザインアイデンティティ構築など、企業のデザイン戦略の事例を通じ、①ユーザーのニーズや市場における価値観の変化を把握する方法論、②企業経営の視点からの製品企画、商品化計画のあり方を理解し、製品コンセプトの立案に必要な要素項目と計画方法を身に付けることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 本講義では、製品計画においてその効果が期待できる「コンジョイント分析」を活用する能力を身に付ける。また、アジア近隣諸国の追い上げの激しい現代において、日本が発信すべき新しい価値軸「感性価値」を、製品の計画にどのように反映していくかを講義の中で模索し、新しいセオリーの構築を行うことも目標とする。</p>
感性情報学 張 浦 華	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 人の感性を工学的に応用するための情報処理技術について解説する。工業製品などの操作において人間の心理的あるいは身体的反応をどのようにデータ化するのかを学び、感性評価手法として、心理的評価、生理的評価及び身体的評価のデータのデザインへの応用を学ぶ。生体情報を応用したインタラクションとデザインへの可能性を考えさせる。</p> <p>【到達目標】 感性データの収集、数量化する方法とデータ解析方法を学ぶ。感性インターラクションを実現するためのセンサーの仕組を学び、センサーを応用したデザインの可能性を探り、新しいインターフェースを考える力を持つ。</p>
インタラクションデザイン ◎酒井 正幸 柿山 浩一郎	講義+演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 高機能化・多機能化により複雑化する電子機器やウェブサイトなどのインターフェースを「人間中心設計」の視点からいかに使いやすいものにしていくか、そのプロセスと方法論について解説する。インタラクションデザインの持つ「物理的側面」、「認知的側面」、「感性的側面」の3側面を理解した上で被験者とプロトタイプを用いたユーザビリティ評価演習（プロトコル解析・主観評価）を通じ、人間中心設計の理念を体験的に理解する。</p> <p>【到達目標】 インタフェースの人間中心設計に必要な評価視点と方法論を習得する。</p>
プロトタイプシミュレーションI 三谷 篤史	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 プロダクトの多くは単純な外形だけの構成ではなく、その内部や連続する外部に別の可動機構や蓋など複数の部品の組み合わせで成り立っている。主たる外形をデザインする場合でも、各部同士の干渉や相互作用をも考慮した造形処理が行われる。ここでは、可動機構を装備した機器をテーマにデザインを行い、手加工に加えて、ラピッドプロトotypingにより効率的で正確なハードモックアップを制作し、デザインとファンクションを同時に検証して、プロトタイプシミュレーションの基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 プロトタイプシミュレーションの手法を学び、プロダクトデザインにおけるプロトタイプシミュレーションの重要性を理解する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
コンテンツ制作システム論 福田 大年	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】コンテンツ制作における作業工程管理やミドルウェアの利用を学ぶ。特に映像制作上のワークフローで、シナリオの生産からロケハン、制作管理にかかる主要なソフトウェアが、いかに制作の効率的な工程に大きな貢献をしているかなどを具体的にコンテンツ制作を想定して概説する。さらに映像のみならず、ゲームや音楽など、現代のコンテンツ制作に利用可能な制作支援ソフトウェアなどを取り上げ、コンテンツ支援システムの利活用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】コンテンツ制作の作業工程を、デザイン／映像業界や地域の取り組み事例などから把握し、なおかつ授業内での作業工程シミュレーションにて体験することで、関係分野との連携の重要性やコンピュータ技術の活用によるコミュニケーションの円滑化への取り組みを理解する。</p>
物語デザイン論 望月 澄人	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】コンテンツ制作においては、ストーリー要素をいかにデザインするかによって、さまざまなナラティブ（語り方）が生まれる。アニメーション、映像、絵本のようなりニアな表現、あるいはインタラクティブゲームのようなノンリニア作品におけるデザインコンセプトとそのソースを分析するとともに、新たなデザイン表現の可能性を探り、自己のアイデンティティによるナラティブを創造する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】物語作品のデザイン意図を理解する。原作をビジュアル化する為のデザイン提案が出来るようになる。</p>
アニメーションⅠ 望月 澄人	講義+演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】アニメーションは、すべてが造形物から成り立っており、実写では不可能な省略、単純化、デフォルメ、擬人化などによる象徴的な表現、感情表現が可能である。この性質は、ストーリー、キャラクター、背景、モーション、サウンドなどすべての要素において適用される。これらを一つのコンセプトにまとめ、ディレクションを行い、絵コンテによって計画を立て、伝える力を養う。</p> <p>【到達目標】ストーリーアニメーションの計画、デザイン設定、制作が行えるようになる。</p>
マルチメディアコンテンツデザイン 細谷 多聞	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】マルチメディアを構成するさまざまなメディアや情報は多岐にわたっており、コンテンツ制作にはそれらのディテールの技術ばかりではなく、メディア間を横断した全体の流れを利用者に分かりやすく伝えることが重要である。マルチメディアにおける情報表現要素である「文字」、「映像」、「音声」の個々の役割を学習するとともに、これらの要素が複合的にかかわりあって総合的効果を生み出しているマルチメディアの特性を活用したデザイン技法を習得する。</p> <p>【到達目標】マルチメディアのさまざまな要素に対する理解を深めるとともに、それぞれの特性や表現上のルールを踏まえたマルチメディアデザイン表現が行えるようになることを目標とする。</p>
メディア文化史 武田 豊明	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】メディアの歴史について、身振りと言葉から現代のインターネット基盤に至るまでを、19世紀から20世紀の中に現れた多様なメディアの文化史を通して概観する。情報メディア技術の歴史的景観から60年代のTV文化、90年代のインターネット文化の登場など、メディアと人間が織り成してきた文化の諸相を時代区分に即して、事例を紹介しながら理解させる。</p> <p>【到達目標】各時代における宗教、為政者、企業、市民の立場から、各種メディアの活用と社会に与えた影響について理解し、現代社会とこれからの社会での新しいメディアをどのように活用していくか、その方法と課題について理解することを目的とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
知的財産権論 ◎★林 幹浩 ★安河内 正文	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 知的財産、知的財産権について、歴史的な経緯や制度の変遷を踏まえて、その現代的意義を解説するとともに、情報経済の主要な資産となる知的財産と、情報社会を支える知的財産権制度についてマクロ的観点から理解を深める。ソフトウェア特許やデジタル著作権等の重要事項、それらを取り巻くさまざまな事項についても考察する。特にこの講義では、机上の理論ではなく、実社会においてデザインやコンテンツといった知的財産がどのように活かされ、富を生んでいるかを実態として学ぶことを主眼とし、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 その分野の経済人をゲストにお迎えし、実際のデザインビジネスやコンテンツビジネスがどう動いているのかをお話しいただくとともに、 2 受講生はゲストのお話を聞くだけでなく、ゲストに対して自らをアピールする機会を持ち、ゲストと相互にコミュニケーションする「インタラクティブ・セッション」を行う。 <p>【到達目標】 知財権の基礎を学ぶとともに、実際のビジネスに活かせるデザイン・コンテンツ・ソフトといった知財のあり方を理解し、またそれを実現するためのコミュニケーション能力を高める。</p>
ブランド構築 武邑 光裕	講義+演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 信頼と約束の記号であるブランドは、企業や地域社会のアイデンティティを焦点化する「資産」として、最も注目されている経営戦略の一つと言える。ここでは、企業や地域におけるブランド構築の実例を分析し、デザインを活用したブランドの構築方法、展開手法などを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ブランド構築演習を通して、企業や地域のブランド構築の実際を学ぶ。あわせてブランド価値評価や評価指標を学ぶことで、ブランド形成に必要な構成要因についての知識を深める。ロゴのデザインがブランド構築のすべてでないように、記号化されたブランド総体を理解することは、ブランド・デザイン全体の作業領域を知ることになる。</p>
出版メディアデザイン 吉田 和夫	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 デジタルメディアの多様化におけるDTP (Desktop Publishing) の実際と今後の可能性を探る。印刷メディアの特性を意識したグラフィックデザインによるビジュアルコンセプトの立案及びタイポグラフィを中心とした情報の編集手法を、雑誌の企画編集、広告制作などの演習課題を通して学習する。同時に商業印刷ベースでのデータ制作及び受け渡し方法などの基本技術を習得するほか、デジタル化に伴う多様なメディアへの活用方法についても論及する。</p> <p>【到達目標】 編集出版デザインにおける企画立案とデータ制作の手法をデザイナーの立場から理解する。DTP編集デザイン用アプリケーションの操作方法を習得する。</p>
学外実習A (インターンシップ) ◎中原 宏 城間 祥之 杉 哲夫 吉田 和夫	実習 60時間	3年次 集中	<p>【科目的ねらい】 企業等において一定期間の就業体験をすることによって、各職場の実情を理解させるとともに、「仕事」とは何かを学生自身に考えさせる。事前学習において、社会人としての自覚やマナーを十分指導するとともに、学生には実習先となる企業等を調査・研究させ、その上で、企業等において大学で学んだ知識・技術を実践させ、事後にはレポートとしてまとめさせる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インターンシップ制度に関する知識の習得。 2 社会人マナーの修得。 3 社会観および職業観の高揚。
学外実習B (フィールドスタディ) ◎齋藤 利明 酒井 正幸 齊藤 雅也	演習 60時間	3年次 集中	<p>【科目的ねらい】 道内外のデザイン先進企業、デザイン先進地域、歴史的建築物、現代建築の先進事例やデザイン関連展示施設等の調査を通じて社会・産業へデザインを適用するまでの知識・ノウハウについての理解を深める。事前調査研究において、調査の目的や、調査対象の特徴について予め十分な検討・調査を行い、事後にはレポートとしてまとめる。</p> <p>【到達目標】 フィールド（社会・産業）の観察から、デザイン視点からの課題抽出能力、および先進事例観察を通じて実践的なデザイン要素、開発手法などを習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習Ⅱ (空間デザインコース) ◎羽深 久夫 吉田 恵介 中原 宏 矢部 和夫 斎藤 雅也 那須 聖 山田 良 片山 めぐみ	実習 60時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】2年次のデザイン基本科目、展開科目及び発展科目である総合実習Ⅰと空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえて、住空間設計、住環境設計、景観設計の観点から、建築・環境に関わる専門的な課題を具体的なまちづくり事例の中に発見し、空間デザインの実践的なプロセスを学ぶ。</p> <p>【到達目標】札幌市における様々な地域環境の違いに配慮しながら、環境や景観を含んだ建築空間を建築計画や地域計画を通して計画・設計する。</p>
デザイン総合実習Ⅱ (製品デザインコース) ◎張 浦華 石崎 友紀 酒井 正幸 杉 哲夫 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】異なるデザイン分野の研究論文を紹介し、問題発見から仮説の構築、検証、そして解決策としての結論に至るまでの流れについて学び、具体的な研究計画書作成を通して論文構築力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 様々な研究分野のなかで、どのような分野の研究を行うかを自ら発見する力を身に付ける。 2 デザインに関する研究テーマを立案し、その研究計画書を作成する力を身に付ける。 3 学術論文の読解力を身に付けることにより、自分の意見や考えを第三者に的確に伝える方法を学ぶ。 4 研究論文執筆のための基礎的な技術や知識について学ぶ。
デザイン総合実習Ⅱ (コンテンツデザインコース) ◎城間 祥之 齋藤 利明	実習 60時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】デザイン総合実習Ⅰを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための企画・制作課題を与え、具体的な作品制作を通して実践的なデザイン能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】様々なジャンルにおけるデザインの現場に即したデザイン発想実習を通して、コンテンツデザインにおいて最も重要なデザイン発想・デザイン展開の仕方を習得する。また、新規コンテンツ企画・立案課題を通してデザイン企画の方法を習得し、「札幌の新規観光コンテンツ」課題へ適用する実践力を養う。</p>
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース) ◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】デザイン総合実習Ⅰを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通して実践的なデザイン能力を身に付ける。共通のねらい：自己のポートフォリオを作る。内容：第1課題ルポルタージュを素材としたビジュアルブックの編集デザインを通して、情報の編集と整理及び視覚化の手法を学ぶ。さらにその成果をウェブデザインや戦略的プレゼンテーションへと昇華させる。</p> <p>【到達目標】札幌市や地域の企業などと共に、隨時実習の成果目標となる広報宣伝計画などを実現させる。</p>
空間デザイン法規 ★小林 宏	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】空間デザインに関連する法令は、都市・建築空間の質、建築・住宅の性能に大きくかかわってくる。建築計画、設計及び施工を行うに当たって必要となる関係法令について、建築基準法を中心に条文の趣旨及び背景について解説するほか、都市計画法、消防法、建築士法といった法令とのかかわりについても論及する。事例を紹介しながらわかりやすく解説することで、各法令の必要性と趣旨を十分理解させる。</p> <p>【到達目標】条文を解読し建築物の意匠設計に法令の主要規定を反映することができること及び設計図を見て設計内容が法令の主要規定に適合しているか否かを判定できることを到達目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
構造力学 ★石丸 修二	講義+演習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】建築物などにどのような力がかかるかを理解し、その力を計算することは、建築物や構造物を設計する上で非常に重要なことである。ここでは、建築物や各種構造物が、力学的にどのような構造になっているか、構造力学の基礎理論や原理を理解させる。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に関する基礎理論を体系的に解説するほか、演習を交えることで理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 単純ばかり、簡単なトラス構造やラーメン構造の応力が解けるようになる。 建築デザインにおける構造力学の役割・必要性を理解する。
建築構法 羽深 久夫	講義+演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】住宅を中心とする建築は、環境と共生しながら人間を安全に守る装置であるために、意匠、計画のほかに材料、構造、施工を踏まえた建築構法からデザインを行い、空間を成立させなければならない。木構造の小屋組、軸組、床組と各部詳細の基本を概説しながら、原寸図作成の演習を行い、基本寸法や断熱材を含めた構成を理解させる。木構造の理解の上に、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、組積造についても、小屋組、軸組、床組と各部詳細の基本を概説する。</p> <p>【到達目標】日本建築の特徴である木構造の基本を歴史的展開過程をたどりながら理解し、構造体として成立する要件を修得する。木構造を踏まえて、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、組積造の基本を理解する。</p>
構造・材料実験 羽深 久夫	実習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】建築を成立させる空間デザインは、自然や都市環境において自立する空間と外力（風、地震等）に対して安全な空間を成立させるために、建築材料としての性能とそれを組み合わせたときの建築構造としての性能の理解が必要である。外部空間と内部空間を構成する構造材料のうち、基本となる木材、セメント・コンクリート、鉄筋等の物理的特性を把握するために、試験用供試体を作成し、強度試験を行う。</p> <p>【到達目標】建築構造における木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造の基本を理解し、建築材料の基本的素材である木材、コンクリート、鉄鋼および仕上材料について、物理的特性と化学的特性を試験用供試体の制作、強度試験を通して理解する。</p>
製品デザイン史 杉 哲夫	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】デザインの世紀とも呼ばれる20世紀に創られたプロダクトデザイン製品の変遷史を基本軸に、各年代の美学を形成した世相と、現実社会の問題をデザインがいかにして解決してきたのかを概観する。授業では産業革命による工業製品の氾濫から、アーツ&クラフト、バウハウス運動などを経て、モダンデザイン理念の確立から現代デザインへの展開を平易に述べるとともに、歴史的に意義のある名品を取り上げながら製品デザインに関する視野を広げる。</p> <p>【到達目標】製品デザインの歴史を作ってきたモノ・人・世相に対し、座学とレポート作成を通じて理解を深めると共に、製品デザインに対する視座を広げることを目標とする。</p>
メカトロニクス 三谷 篤史	講義+演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】現在多くの機器には、自動制御のための電子回路が搭載されている。ここでは、製品デザインに必要なメカトロニクスの基礎についてわかりやすく解説するほか、具体的な機器を事例としてあげ、その中でマイクロプロセッサやセンサ、アクチュエータなどがどのような役割を果たしているのかを概説する。また、簡単な電子回路を搭載した課題を制作することで、制御や駆動のシステムを理解させる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> メカトロニクス製品の構造や駆動のメカニズムを理解し、新たなメカトロ製品を開発するための基礎技術や知識を学ぶ。 メカトロニクスにおける代表的なアクチュエータである、電磁モータの駆動方法を理解する。 メカトロ機器の頭脳となる計算機やマイクロプロセッサの役割を理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
感性インターフェースデザイン ◎張 浦 華 細谷 多聞	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】インターフェースのデザインにおいて、最近になって感性インターフェースデザインが注目されている。機器を操作するに当たり、個々の人間の習慣や使用頻度、無意識的な生体反応パターン、身振り運動等の人間の感性的反応を活用して論理的操作によらない操作インターフェースを紹介しつつ、新しいインターフェースのあり方を考えさせながら、体験的にデザイン制作の演習を行う。</p> <p>【到達目標】機器との関係における感性の働きを理解するとともに、これを活用したインターフェースの仕組みを実現する技能的な表現力を獲得する。</p>
プロトタイプシミュレーションⅡ ◎酒井 正幸 細谷 多聞	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】フォーカスグループやユーザビリティテストにおいて必要なプロトタイプシミュレーションの具備すべき機能、制作方法およびそれを用いた評価方法について学習する。プロトタイプは開発の段階、評価方法によって要求機能、制作方法が異なる。開発の上流段階においては操作の大まかな流れ（状態遷移）を模擬した簡易プロトタイプが用いられ、製品化直前の下流段階においては、「感性的側面」も含め、具体的な表現や動きを伴う詳細なプロトタイプシミュレーションや、原寸プロトタイプが必要となる。ここではこれらのプロトタイプシミュレーションの制作を通じて、各プロトタイプの機能と役割を理解させる。</p> <p>【到達目標】主にデザイン開発の上流工程でデザイナー自身が制作するプロトタイプシミュレーションの制作手法とそれを用いた評価手法を習得する。</p>
デジタル映像史 武邑 光裕	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】デジタル映像の歴史を展望する。デジタル技術によって生産された歴史的な映像作品からCG作品を紹介し、撮像過程を持たないCG映像から現実の映像表現領域を更新し続けるデジタル映像特殊効果など、シミュレーションからエンターテイメント映像領域の展望について学ぶ。</p> <p>【到達目標】デジタル時代の映像コンテンツやメディアの機能を理解する。優れた映像作品を鑑賞し、作品の分析・批評を通じて、映像作品と文化に対する理解を深めることを目標とする。映像の革新を担う作家、プロデューサーとしての感受性を磨く。</p>
バーチャルリアリティ ◎細谷 多聞 柿山 浩一郎	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】VR（バーチャルリアリティ）とは、「仮想現実」という訳語では理解されにくい概念である。「事実上の現実」として編成されるVRの概念を学び、具体的にVRの表現技術や、コンテンツ制作に必要なVRのモデル化などを、多彩なコンテンツ事例を通して学ぶ。実際にVRの知覚体験を通じて、演出上のデザインシナリオの考察とポイントの把握、解像度、ポリゴン数、素材となる図形の生成、画像処理など表現技術上の留意点を踏まえ、VR表現の基礎技術を具体的なコンテンツ事例を通して習得する。</p> <p>【到達目標】情報化された事象と、現実空間からのインターフェースな働きかけの双方を関連づける表現手法を獲得するとともに、それを実現する原理を技術的に理解し、以降の制作活動に活用できるようになることを目指す。</p>
アニメーションⅡ 福田 大年	講義+演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】アニメーションとは、無機的な物体に生命感や躍動を与えるという概念である。いかに人間の性格や感情の表現が、今日の電子ゲームやアニメーション作品に重要な意味を与えていているかを解説し、実際の身体表現やモーションキャプチャーを利用してアニメーションの動きを生成する表現技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】アニメーションの原理、技術進化を体系的に理解する。そして、自然の現象や法則、身体表現などから得た情報をアニメーション制作に活かす課題を通して、動的コンテンツ制作への応用能力を高める。</p>
デジタル映像コンテンツデザイン 福田 大年	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】デジタル映像とは、CGと実写との合成要素を含んだ広範囲でマルチユースが可能な映像情報であり、地上波デジタル放送の普及により、今後ますますニーズが高まることが予想されている。ここでは、デジタル映像表現技術を学び、実際のHDTV映像作品からCG作品までを制作するために必要なワークフローやデジタル映像編集システムなどを習得する。</p> <p>【到達目標】デジタル映像制作の基礎的技術とデジタル映像の汎用性の高さを理解し、その可能性を各自のデザイン活動に活かすことができる能力を身につける。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
メディア芸術論 フィッシャー ニーナ	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】 メディア芸術と総称される1980年代以降の新たな芸術表現分野を中心に、先端科学技術と芸術表現とのかかわりについて概観する。メディア芸術作品の具体的な事例を通して、作品解析とともに探る。特に本年は、地域の文化的、構造的発展のための国際コンテンツポラリーアートビエンナーレの必要性について検証する。将来、札幌がビエンナーレを創始していくべきか、ビエンナーレの開催が札幌でどのように展開しうるか、また、他の都市とどのような差別化をはかるのかを見極めるための戦略立案を行う。その他のビエンナーレや世界中で毎年行われるアートイベントについて研究し、特に、2007年イスタンブルビエンナーレ、カッセルのドクメンタ12、今年の横浜トリエンナーレ、ベルリンビエンナーレなどを題材とする。</p> <p>【到達目標】 札幌はどのようなビエンナーレを求めるのか？その一番いい時期は？ビエンナーレ開催を希望する札幌が提供すべき基本条件とは何か？最初の一歩は何か？授業では、札幌のコンテンツポラリー・アートに関する戦略と実践的なアプローチの仕方について考えていくが、その際、都市の創造的発展を社会にも目に見える形にすることを目的としながら、公共のスペースにアートという面から参画する、学生によるエキシビションの計画とその実現方法についても取り組む。さらに、アーティストの活動スペースの創始について、とりあえずは第一段階として若いアーティストが自身の芸術的取り組みや発想を表現できるスペースとなる、芸術という組織体(organism)における育成の場(cell)の創出について議論する。</p>
アートマネジメント論 上遠野 敏	講義 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】 芸術を通して、その価値や有用性を社会の中で、広く展開するためのアートマネジメントの基礎を学ぶ。コンテンツポラリー・アートの表現の変容や歴史的系譜を理解し、現代を照射する展覧会の企画やキュレーション、関連事業、実施、運営、記録、図録の資料化など、将来の芸術産業創出を見据えた実践方法や考え方を講義する。美術館やギャラリーの活用のほかにも、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりの観点から、市民との協働や地域文化振興など、地域創造による脱アートスペースの可能性についても考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 芸術の意味や価値を考察して、社会的な展開を図り公開をする目的を理解する。 2 地域貢献に参画する基礎力を養うことができる。 3 芸術産業創出による地域振興の課題に取り組む姿勢を育成する。
デジタルアーカイブ ★高橋 昭憲	講義+演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】 全世界のウェブ情報を記録するインターネット・アーカイブや映像、音楽、ソフトウェアなどを保存するための技術やその意味などを明らかにし、メディアデザインの創造的苗床となるデジタルアーカイブの可能性について考える。また、こうした分野の人材育成を考慮して、放送・映像、音楽などのパーソナル・アーカイブの制作方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 デジタルアーカイブの実例を通して制作プロセスとその目的・意義を理解する。</p>
インターネットメディアデザイン ★大口 岳人	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】 インターネットをメディアとして概観し、ウェブなどのメディア形式とコンテンツの構造を理解させ、新たなインターネットを用いた多様なメディアデザインについて考える。インターネットという世界規模の情報基盤の中で、いかなるメディア形式を持つサービスやシステムが開発可能かを、具体的な課題を通して考察する。</p> <p>【到達目標】 インターネットメディアデザインとは何かを学び、演習を通して視覚化する思考・力を養い、グループでのコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>

概要	授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
寒冷地デザイン論 ◎斎藤 雅也 山田 良 ★吉田 修	講義 30時間	3年次 後期		<p>【科目のねらい】寒冷地特有のデザインについて、空間的なアプローチと製品的なアプローチの両面から理解を深めるほか、北海道（札幌）特有のデザインの可能性についても考察する。具体的には、北欧をはじめ諸外国の寒冷地における空間デザイン、製品デザイン事例に基づき、その背景から成立までのプロセスと地域による特徴を学ぶ。また寒冷地にて空間性能を決定づける熱環境など、建築環境デザインの可能性を考察する。札幌でのデザインの方向性を考察する演習課題も併せて行う。</p> <p>【到達目標】寒冷地デザインにおける特質・制約やさまざまな事例を理解した上で、寒冷地でのポテンシャルをひき出す自らのデザイン提案を行う基礎を養う。</p>
観光とデザイン ◎中原 宏 ★井原 縁 ★小野 有五 ★高崎 邦子 ★俵 浩三	演習 30時間	3年次 後期		<p>【科目のねらい】多面的なテーマである「観光」を「デザイン」の視点からとらえ、「観光」と「デザイン」の関係について考察することを目的とする。具体的には、自然・歴史・文化・生活・景観など、地域の個性や資源を再認識し、地域の魅力を引き出す方法を学ぶとともに、これらを活用した地域活性化を行う方法についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】アーバンツーリズム、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどに係る基礎知識の習得および、資料やフィールドサーベイによる、まちや地域の資源の発見能力や、地域活性化へ向けた地域の魅力のプレゼンテーション技能の習得。</p>
地場産業振興論 ★小早川 譲	講義 30時間	3年次 後期		<p>【科目のねらい】地域の産業振興は、その地域特有の歴史や環境等を踏まえるとともに、マクロ的な産業動向や経済状況を見据えた中長期的視点からのアプローチが必要になる。また、地域のNPO等の団体と緊密な連携を図って、総体として地域の産業活性化を図ることが重要である。これまで国や地方自治体で推進してきた地場産業振興やデザイン振興等の各種事例を紹介し、地域における産業振興のあり方について学ぶ。</p> <p>【到達目標】地場（地域）産業の振興の基本的なフレームを企業経営者、地域経営者の両方の視点から理解する。</p>

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び教育研究審議会会

学内運営の概要

資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
学部連携演習 ◎齋藤 利明 武邑 光裕 石崎 友紀 上遠野 敏 城間 祥之 杉 哲夫 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦華 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 斎藤 雅也 那須 聖 山田 良 ◎河野 総子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子	演習 60時間	3年次 後期～ 4年次 前期	<p>【科目のねらい】看護学部およびデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互にかかわりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護およびデザインの自己の専門性について理解を深める。 2 相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 3 課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。 4 異分野の専門性に触ることを通して、自身の専門性を拡充することができる。
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース) ◎中原 宏 吉田 恵介 羽深 久夫 矢部 和夫 斎藤 雅也 那須 聖 山田 良 片山 めぐみ	実習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】デザイン基本科目、展開科目及び発展科目である総合実習Ⅰ、Ⅱと空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえて、住空間設計、住環境設計、景観設計の観点における空間デザインの調査・分析と計画・設計を学ぶ。とくに、中心市街地と郊外に関する2課題について、各教員のゼミ形式による実習をとおし、実践的なデザイン能力を身につけるとともに、卒業研究に向けた準備を行う。</p> <p>【到達目標】空間デザインを巡る様々な課題に関するデザイン応用能力を養う。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース) ◎酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 張 浦華 柿山 浩一郎 三谷 篤史	実習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。</p> <p>【到達目標】 課題発見からコンセプト立案、デザイン案の具現化、高質化、および検証にいたるデザインの全プロセスを総合的に習得する。</p>
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース) ◎斎藤 利明 城間 祥之 望月 澄人 細谷 多聞 大渕 一博 福田 大年	実習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。</p> <p>【到達目標】 コンテンツデザインにおける課題発見からデザインコンセプト立案、アイデアの創出・立案、フィニッシュワークおよびデザイン検証に至るプロセスを総合的に習得する。</p>
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース) ◎フィッシャー ニーナ 武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 エル サニ マロアン	実習 60時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作課題を立案・制作し、卒業制作に至る各自のテーマの選択を指導する。(フィッシャー ニーナ、エル サニ マロアン) ・自らの制作課題を立案し、卒業研究へ至る研究方法論を学ぶ。主に大学における研究論文制作など、個別の研究テーマの選択に向けて指導する。(武邑光裕) ・自己のアイデンティティを社会との関係の中から考察するアートを習得する。(上遠野敏) ・視覚伝達デザインにおける情報の収集・整理、視覚化の手法をタイプフェースデザイン、IV計画、フローチャートデザイン、広告企画などを通して学習する。また、プランディングの視点からはショップの企画開発をテーマとして取り上げ、市場リサーチ～業種設定～店舗デザイン～パブリシティ計画という一連のプロセスを通して社会の中で機能するデザインを確認する。(吉田和夫)
生涯学習概論 ★木村 純	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 今日、生涯学習の重要性が増し、人々が様々な機会と方法で継続的に学習することが求められるようになった。人々の生涯学習は、従来の「生活拡充共生型」の社会教育にとどまらず、職業やまちづくりなどに必要な専門的能力の獲得を目指す「リカレント教育」(あるいは継続教育)を含むものとして展開しているが、後者も含む生涯学習活動を支援・促進する理論・方法等の理解を図る。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習の理念がどのような歴史的な背景のなかで確立したものかを知る。 2 今日の地域住民の生涯学習はどのような内容が求められているのかを知る。 3 生涯学習の進め方とその評価の方法を知る。 4 以上の知識を自らが生涯学習者として成長していくための基礎としてどのように活かすことができるかを考える。
博物館概論 ◎矢部 和夫 ★奥岡 茂雄 ★高橋 信裕 ★山田 悟郎	講義 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 博物館の歴史を通して博物館の概念を理解し、併せて博物館法を通して博物館への基本的認識を深める。また、文化財の収集や保存、展示等の基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 博物館施設への関心を喚起し、学芸員の役割を理解することを目標とする。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
視聴覚教育メディア論 ◎武田亘明 ★江川克之	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】生涯学習時代における視聴覚教育の意義について確認するとともに、世界の博物館・美術館における先進的な視聴覚メディアのデザイン計画についても概観し、視聴覚メディアの効果的利活用の現状と効果について検討する。特に、博物館・図書館・公民館における視聴覚メディアの利用から、マルチメディアやクロスプラットフォーム・メディア、デジタル情報を処理するメディアの利活用法など、知的財産権や著作権処理を含むメディアアリテラシーの観点からも概説する。</p> <p>【到達目標】市民に効果的に社会教育を推進するための、広報誌等の編集・出版、webでの情報公開と情報共有、プレゼンテーションソフトを活用した講演などの方法について理解し、具体的に視聴覚メディアを活用できるようになることを目的とする。</p>
博物館経営論 ◎矢部和夫 ★金子啓明 ★佐藤幸宏	講義 15時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】博物館の運営について全体的な視点から理解を図る。併せて、博物館における文化財や資料の収集、管理、調査研究、活用、教育普及、および人員の構成と活動、施設等の実態について教示する。</p> <p>【到達目標】博物館の設置条件、機構や組織を理解し、経営の目的・理念と方法を考える。</p>
博物館資料論 ◎★古沢仁 ★亀谷隆 ★佐藤幸宏	講義 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の習得を図る。</p> <p>【到達目標】博物館資料の取り扱いについて理解し、博物館資料を用いて調査研究を進めることができる。展示の企画・構成を作成し、自ら評価することができる。</p>
博物館情報論 武邑光裕	講義 15時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】博物館における情報の意義と活用方法について理解を図る。近年の博物館・美術館における情報コミュニケーション活動の役割は、実体的展示内容の補足的な情報提供といった枠組みから、情報の「文脈」(コンテキスト)自体が、展示環境全体を決定づけるというように、情報の生産と流通に大きく左右されている。ここでは、博物館・美術館における「情報」の概念を整理し、情報の展示や、次世代のミュージアムにおける情報提供や活用の方向性や方法論を具体的な事例をもとに概説する。博物館・美術館に収蔵される実体物のみならず、デジタル情報に変換された多用な情報デジタル・アーカイブの構築と運用、各種情報機器の利用法、特にインターネットの多様な活用などについても詳細に学んでいく。</p> <p>【到達目標】博物館の情報学、ミュージアムの情報学として成立する課題の整理を行う。情報展示、情報流通、文脈展示などの事例をもとに、ミュージアムが今や情報の生産活動主体であることを学ぶ。</p>
博物館実習 ◎矢部和夫 ★石井淳 ★佐藤幸宏 ★吉崎元章	実習 90時間	3年次 集中	<p>【科目のねらい】博物館関係科目を踏まえて博物館資料の文化財としての意義や構造を知り、博物館の活動に実際に触れるとともに、資料収集・保管・展示、調査研究、教育普及等の活動についての知識・技能を習熟させる。</p> <p>【到達目標】講義と実習を通じて、学芸員業務と博物館の現状に関するより深い理解へ導くことを図る。</p>

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4 看護学部

1) 平成20年度時間割

① 1年前期

		月	火	水	木	金
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)			
1	9:00 ~ 10:30		看護観察技術論 大野(夏) 佐藤(公) 星 ※隔週開講	情報リテラシーI 柿山		人間関係を考える 椿
2	10:40 ~ 12:10		看護観察技術論 大野(夏) 佐藤(公) 星 ※隔週開講	情報リテラシーI 柿山	日本語表現法 千葉 英語IA 清水(香) 英語IB 松井 英語IA 水島 英語IC マッダヴァ	哲学と倫理 山田(友)
3	13:10 ~ 14:40	形態機能学 I 高野(廣)		英語IA 水島 英語IB 向井 英語IC マッダヴァ 英語IC パトリシア	日本語表現法 千葉 英語IA 清水(香) 英語IB 松井 英語IA 水島 英語IC マッダヴァ	札幌を学ぶ 原
4	14:50 ~ 16:20	形態機能学 I 高野(廣)		英語IA 水島 英語IB 向井 英語IC マッダヴァ 英語IC パトリシア	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎カウンセリング 小坂 英語IA 大野(拓) 英語IB 白土 英語IB 町田 英語IC パトリシア
5	16:30 ~ 18:00	看護学原論 河野 地域保健学概論 清水(光) 加藤 新納		体のしくみ 杉原	スタートアップ演習 原、中原、 樋之津 ※他両学部教員計19名	基礎カウンセリング 小坂 英語IA 大野(拓) 英語IB 白土 英語IB 町田 英語IC パトリシア

※集中講義：看護初期実習 6月9日～6月13日

② 1年後期

		月	火	水	木	金
		前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	前半(第1~7.5週)	後半(第7.5~15週)	
1	9:00 ~ 10:30	病理病態学 小林	薬理学 富樫	看護過程論 渡邊 大野(夏) 佐藤(公)		現代社会と家族 原 手話 高橋
2	10:40 ~ 12:10	病理病態学 小林	看護理論 中村	看護過程論 渡邊 大野(夏) 佐藤(公)	英語IIA 水島 英語IIA 町田 英語IIB 松井 英語IIC パトリシア	芸術と文化 望月 情報リテラシーII 柿山 手話 高橋
3	13:10 ~ 14:40	基礎看護技術論 佐藤(公) 樋之津 大野(夏) 菊地 藤井 星 渡邊 三上(智)	形態機能学 II 高野(廣)	英語IIA 水島 英語IIA 町田 英語IIB 松井 英語IIC パトリシア	プレゼンテーション 武田 英語IIA 清水(香) 英語IIB 向井 英語IIB 松井 英語IIC マッダヴァ	英語IIA 大野(拓) 英語IIB 白土 英語IIC パトリシア 英語IIC マッダヴァ 対人コミュニケーション 町田
4	14:50 ~ 16:20	基礎看護技術論 佐藤(公) 樋之津 大野(夏) 菊地 藤井 星 渡邊 三上(智)	形態機能学 II 高野(廣)	宗教と思想 堀	プレゼンテーション 武田 英語IIA 清水(香) 英語IIB 向井 英語IIB 松井 英語IIC マッダヴァ	英語IIA 大野(拓) 英語IIB 白土 英語IIC パトリシア 英語IIC マッダヴァ 対人コミュニケーション 町田
5	16:30 ~ 18:00	感染予防論 滝沢	人間発達援助論 宮崎 中村 坂倉 松浦	心のしくみ 橋本	統計の世界 原	現代社会と経済 近藤(公)

※集中講義：基礎看護学臨地実習I 10月20日～10月24日

(3) 2年前期

		月		火		水		木		金	
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)			前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	人間工学 樋之津 佐藤(秀)		ジェンダーを考える ロシア語	川畠 ジダーノフ	生命科学 山田(恵)	社会福祉学 大内		環境保健 加藤 齋藤(健)	老年看護学概論 坂倉	
2	10:40 ～ 12:10	疾病治療学B 向井		実践英語A 実践英語A ロシア語 中国語	松井 町田 ジダーノフ 照井(は)	医療情報	小笠原	疾病治療学A 小倉		臨床栄養学 高野(良)	
3	13:10 ～ 14:40	公衆衛生学 村松(宰)	家族社会学 原	実践英語B 実践英語B ロシア語 中国語	バトリシア マッマドヴァ ジダーノワ 照井(は)	生命倫理 村上		疾病治療学概論 富樫(武)		症状マネジメント論 樋之津 大野(夏) 須田 菅原 藤井 村松(真)	
4	14:50 ～ 16:20	成人看護学概論 中村	成人看護援助論 須田 中村 菅原	現代社会と国際関係 佐々木 健康とスポーツ 林		精神看護学概論 山本				症状マネジメント論 樋之津 大野(夏) 須田 菅原 藤井 村松(真)	
5	16:30 ～ 18:00		成人看護援助論 須田 中村 菅原	グループ・ダイナミックス 鹿内 ボランティア活動を考える 小沼							

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月26日～6月6日

(4) 2年後期

		月		火		水		木		金	
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)			前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30		精神看護援助論 守村 安田	教育を考える 竹中				臨床薬理学 唯野		援助の人間関係論 大野(夏) 樋之津 藤井	在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤
2	10:40 ～ 12:10	母性看護学概論 宮崎	精神看護援助論 守村 安田	環境を考える 実践英語A	矢部 町田	臨床心理学 葛西		小児看護学概論 松浦	看護倫理学 宮崎 リボウイツ	援助の人間関係論 大野(夏) 樋之津 藤井	在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤
3	13:10 ～ 14:40	韓国語	松田			疾病治療学C 三澤			がん看護学 樋之津 松山	老年看護援助論 坂倉 村松(真) 東出	
4	14:50 ～ 16:20	在宅看護学概論 中村							がん看護学 樋之津 松山	老年看護援助論 坂倉 村松(真) 東出	
5	16:30 ～ 18:00	感染管理論 スードイ 石角	チーム医療論 河野 中村					手話	高橋		

※集中講義：成人看護学臨地実習Ⅰ 11月4日～11月21日

(5) 3年前期

		月	火	水	木	金			
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	保健統計 村松(宰)	小児看護援助論 松浦 吉川 富樫(武)			成人看護技術論 須田 菅原 藤井 神島		リハビリテーション看護学 奥宮 石鍋 佐久間	
2	10:40 ～ 12:10	保健統計 村松(宰)	小児看護援助論 松浦 吉川 富樫(武)			成人看護技術論 須田 菅原 藤井 神島		リハビリテーション看護学 奥宮 石鍋 佐久間	
3	13:10 ～ 14:40		在宅看護技術論 菊地 坂倉 保田 照井(レ)		保健医療福祉制度論 館石	精神看護技術論 守村 河村		地域看護学概論 加藤 清水(光) 金川	
4	14:50 ～ 16:20	認知症ケア スードイ	在宅看護技術論 菊地 坂倉 保田 照井(レ)		保健医療福祉制度論 館石	精神看護技術論 守村 河村		母性看護援助論 宮崎 高室 内田	
5	16:30 ～ 18:00	認知症ケア スードイ						母性看護援助論 宮崎 高室 内田	

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月19日～5月23日
 成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月23日～8月1日

(6) 3年後期

		月	火	水	木	金			
		前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)	前半(第1～7.5週)	後半(第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	研究方法論 松浦 樋之津	小児看護技術論 吉川 松浦		看護教育学 近藤(潤)		地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		ペリネイタルケア 吉川 高室
2	10:40 ～ 12:10	研究方法論 松浦 樋之津	小児看護技術論 吉川 松浦		透析ケア 城下 佐々木		地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村		救急看護学 菅原 中村 三上(剛)
3	13:10 ～ 14:40	寒冷地医療 前沢	健康教育指導法 加藤 清水(光) 新納 保田 松村		パリアティブケア 石垣		重症集中ケア 菅原 中村 小山		母性看護技術論 高室 宮崎 渡邊 多賀
4	14:50 ～ 16:20	地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村	健康教育指導法 加藤 清水(光) 新納 保田 松村			老年看護技術論 村松(真) 坂倉 進藤		母性看護技術論 高室 宮崎 渡邊 多賀	
5	16:30 ～ 18:00	地域看護援助論 清水(光) 加藤 新納 保田 塚辺 松村	学部連携演習 河野 齋藤(利) ※他両学部教員計29名			老年看護技術論 村松(真) 坂倉 進藤		放射線医療管理論 池田	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月25日～12月19日、1月19日～1月30日

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
教養科目	導入科目	スタートアップ演習	2	1年前期	2単位
	文化に対する理解	哲学と倫理 宗教と思想 芸術と文化 環境を考える教育を考える	2 2 2 2	1年前期 1年後期 1年前期 2年後期 2年後期	4単位以上
		心のしくみ 体のしくみ ジェンダーを考える 人間関係を考える 健康とスポーツ	2 2 2 2 2	1年後期 1年前期 1年前期 1年前期 2年前期	4単位以上
		現代社会と家族 現代社会と国際関係 現代社会と経済 札幌を学ぶ ボランティア活動を考える 統計の世界	2 2 2 2 2	1年後期 2年前期 1年前期 1年前期 2年前期 1年後期	6単位以上
	コミュニケーション科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 実践英語A 実践英語B 韓国語 中国語 ロシア語	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1年前期 1年前期 1年前期 1年後期 1年後期 1年後期 2年前期 2年前期 2年前期 2年前期	8単位以上
		日本語表現法 プレゼンテーション 基礎カウンセリング 対人コミュニケーション グループ・ダイナミックス 手話 情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	1 1 1 1 1 1 1 1	1年前期 1年後期 1年前期 1年後期 2年前期 1年後期 1年前期 1年後期	4単位以上
		合計			28単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 生命科学 生命倫理 環境保健 人間工学	2 2 1 1 1 1	1年前期 1年後期 2年前期 2年前期 2年前期 2年前期	5単位以上
		薬理学 臨床薬理学 臨床栄養学 病理治療学 疾病治療学概論 疾病治療学A 疾病治療学B 疾病治療学C 感染予防論	1 1 1 2 1 1 1 1	1年後期 2年後期 2年前期 1年後期 2年前期 2年前期 2年後期 1年後期	10単位
		公衆衛生学 社会福祉学 家族社会学 チーム医療論 感染管理論 臨床心理学 地域保健学概論 保健医療福祉制度論 保健統計 医療情報	1 1 1 1 1 1 1 1 1	2年前期 2年前期 2年前期 2年後期 2年後期 2年後期 1年前期 3年前期 3年前期 2年前期	6単位以上
		合計			21単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数
		必修	選択		
専門教育科目	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論 看護理論 援助の人間関係論 人間発達援助論 看護初期実習 看護倫理学 健康教育指導法	1 1 1 1 1 1 1	1年前期 1年後期 2年後期 1年後期 1年前期 2年後期 3年後期
			看護過程論 看護観察技術論 症状マネジメント論 基礎看護技術論 基礎看護学臨地実習Ⅰ 基礎看護学臨地実習Ⅱ 研究方法論	1 1 2 2 1 2 1	1年後期 1年前期 2年前期 1年後期 1年前期 2年後期 3年後期
			小児 母性 成人 老年 精神 在宅	1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2	2年後期 3年前期 3年後期 3年後期 2年前期 3年前期 3年後期 2年前期 3年前期 2年前期 3年前期 3年後期 2年後期 3年前期 3年後期 2年後期 3年前期 3年後期
			成年看護学概論 成年看護援助論 成年看護技術論 成年看護学臨地実習Ⅰ 成年看護学臨地実習Ⅱ	1 1 1 3 2	2年前期 2年前期 3年前期 2年後期 3年前期
			老年看護学概論 老年看護援助論 老年看護技術論 老年看護学臨地実習Ⅰ 老年看護学臨地実習Ⅱ	1 1 1 1 2	2年前期 2年後期 3年後期 3年前期 3年後期
	健康レベルに応じて生活を援助するもの	健康問題への対応 コミュニケーション・情報技術	精神看護学概論 精神看護援助論 精神看護技術論 精神看護学臨地実習	1 1 1 2	2年前期 2年後期 3年前期 3年前期
			在宅看護学概論 在宅看護援助論 在宅看護技術論 在宅看護学臨地実習	1 1 1 2	2年後期 2年後期 3年前期 3年前期
			リハビリテーション看護学 がん看護学 認知症ケア 透析ケア 重症集中ケア 救急看護学 放射線医療管理論 ペリネイタルケア パニアティブケア 寒冷地医療	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3年前期 2年後期 3年前期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期
			地域看護学概論 地域看護援助論 地域看護技術論 ヘルスプロモーション活動論 地域看護学臨地実習	1 2 1 1 3	3年前期 3年後期 4年前期 4年前期 4年前期
			看護管理学 看護教育学 卒業研究 ヘルスケアマネジメント実習 看護情報学 災害看護学 国際看護学 国際保健学 医療経営学 医療安全管理論 現代専門職論	1 1 4 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4年前期 3年後期 4年 4年後期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 4年前期 11単位以上
	学部連携	合計	学部連携演習	2	3後~4前 2単位

(2) 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
(専門基礎科目)	(19)	(2)	(21)
(専門科目)	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

3) 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
形態機能学Ⅰ ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】形態機能学では、生命現象を論理的に思考できるように、身体の構造と機能について学習する。形態機能学Ⅰでは、1.人体を構成する細胞・組織の基本構造と機能を学ぶ。2.身体全体を統合し調節する神経系と内分泌系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。3.循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、血液・造血器、免疫組織の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 細胞と組織の種類、およびそれらの構造と機能を説明できる。 2 中枢神経系、末梢神経系、内分泌器、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、血液・造血器、免疫組織について構造と機能を説明できる。
地域保健学概論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美	講義 15時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、地域保健・産業保健の基本的な知識と保健指導の基礎について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人々が生活を営む上での健康の意義を述べることができる。 2 地域で生活している人々の健康と生活の質の向上を意図した保健活動の概要が理解できる。 3 様々な健康課題の解決に向けて、保健・医療・福祉対策が講じられていることを知る。
看護学原論 河野 総子	講義 15時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】看護学の構築（要素）を基盤とし、生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこにかかわる看護実践の方法や場を通し、「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活体としての人間存在について、理解を深め、人々の体験として健康と健康障害について理解する。 2 看護活動の場と看護者の役割について学び、看護観の基礎を形成する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
看護初期実習 ◎大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 高室 典子 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利	実習 45時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 看護初期実習は、看護職が活動する保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機付けとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職とのかかわりを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の対象は、様々な健康レベルにある人々であることを知る。 2 人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。 3 保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。 4 対象者の健康上のニーズに対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。
看護観察技術論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 星 美和子	演習 30時間	1年次 前期	<p>【科目のねらい】 アセスメントを基本的人間観察論と位置付け、バイタルサイン及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護における観察の目的を説明できる。 2 看護に必要な情報を収集・分析できる。 ① 主観的・客観的な情報を区別できる。 ② バイタルサインの測定が正確にできる。 ③ フィジカルアセスメントの方法を学び、実施できる。 3 収集した情報を、記録・報告できる。 4 援助者として適切な姿勢や態度がとれる。
形態機能学Ⅱ ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 形態機能学Ⅱでは、1生殖器系、感覺器系・運動器系について構造と機能を、病態に連づけて学ぶ。2食物の消化・吸収・代謝および体液の恒常性について基本的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生殖器系と感覺器系についてその構造と機能を説明できる。 2 主要な骨・筋肉・血管・神経の解剖学名をいえる。 3 主要な筋肉の起始・停止・作用をいえる。 4 骨の形が合目的にできていることを説明できる。 5 食物の消化・吸収・代謝過程を説明できる。 6 体液の恒常性が維持される機序を説明できる。
薬理学 ★富樫 廣子	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 医薬品の生体に及ぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。</p> <p>【到達目標】 薬物の相互作用による副作用など、看護における注意点を理解する上で必要な基礎的知識を習得する。</p>
病理病態学 ★小林 正伸	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】 病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生態防御機構についての概要を理解する。</p> <p>【到達目標】 病気の成り立つメカニズムを理解する。主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
感染予防論 ★滝沢 慶彦	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目的ねらい】微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。</p> <p>【到達目標】ヒトに感染する病原微生物（細菌、ウイルス、原虫、真菌）の種類と、感染経路、症状、診断、治療、予防について覚えること。また、生体の防御機構について理解すること。</p>
看護理論 中村 恵子	講義 15時間	1年次 後期	<p>【科目的ねらい】看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護理論の基礎となる概念（人間、看護、健康、環境）について理解できる。 2 看護理論発展の歴史について理解できる。 3 主な看護理論家が提唱する理論の基礎について学ぶ。
人間発達援助論 ◎宮崎 みち子 中村 恵子 坂倉 恵美子 松浦 和代	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目的ねらい】人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間発達の共通性・特異性、および人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。 2 発達理論の特徴を理解する。 3 人間の発達段階各期における看護援助の視点を理解する。
看護過程論 ◎渡邊 由加利 大野 夏代 佐藤 公美子	演習 30時間	1年次 後期	<p>【科目的ねらい】対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を用いながら看護過程の実際を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程の意義と目的を説明できる。 2 看護過程の各段階について説明できる。 3 事例について、ヘンダーソンの看護の概念に基づき、看護過程を展開することができる。
基礎看護技術論 ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 星 美和子 渡邊 由加利 三上 智子	演習 60時間	1年次 後期	<p>【科目的ねらい】対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎看護技術の原則と根拠を明確にし、技術を修得する。 2 健康な人を対象にした一部の看護技術項目を、一人あるいは指導を受けながら安全に実践できる。 3 自主的に演習課題に取り組み、技術の修得に向けた学修態度がとれる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
基礎看護学臨地実習 I ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 星 美和子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 蘭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 渕本 雅昭	実習 45時間	1年次 後期	<p>【科目のねらい】</p> <p>1 入院患者の生活環境を知り、それらの思いや健康状態、健康ニーズを学ぶ。 2 入院患者に行われている看護について体験的に学ぶ。 3 入院患者とのかかわりを通して、ヒューマンケアの基本を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1 入院患者の生活環境を知る。 2 入院患者が、自分の健康状態や療養生活、自分が受けている看護をどのように認識しているかを知る。 3 健康障害のある人に対する看護の実際を知る。 4 保健医療福祉チームを構成している各部門の概要・役割・機能を知る。 5 看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 6 実習グループにおけるリーダー及びメンバーシップの役割関係を建設的・協力的に務めることができる。 7 実習を通して、ヒューマンケアについて学んだことを説明し今後の学習課題を明確にできる。</p>
生命科学 ★山田 恵子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、生命観の変遷を学ぶ。生命の基礎である細胞、体を構成する主な成分について学び、さらに、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。また、看護においても重要な対象である癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1 生命の単位である細胞について理解する。 2 細胞がどのようにエネルギーを产生し、外部エネルギーを取り入れるのかを理解する。 3 分子からみた生命現象を理解する。 4 遺伝情報はどのようにして発現するのかを理解する。 5 病気と遺伝子の関わりを理解する。</p>
生命倫理 ★村上 友一	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 医療技術の発展と共に従来の生命観や価値観が対立するような事例が生じてきた。伝統的な価値観に自己決定の原則を加えただけで対応していくことには限界がある。本講義では、生命倫理の問題群の中から、終末期医療、脳死移植、生殖医療に論点を絞る。これらの問題について厚みのある理解をもつことが目標される。</p> <p>【到達目標】 本講義では、「知識」をもつことではなく、「問題意識」をもつことが目標とされる。「知識」だけでは、実際に問題に直面したときに適切な対処ができるとは思われないからである。紋切り型の回答を止めて、きちんと問題に向き合う姿勢が求められる。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
環境保健 ◎加藤 登紀子 ★齋藤 健	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人々の健康や生活と環境との密接なかかわりを説明できる。 どのような人間活動が環境を破壊し、健康問題を引き起こしているか説明できる。 持続可能な循環型社会をつくるための環境行動について述べることができる。
人間工学 ◎樋之津 淳子 ★佐藤 秀一	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間工学の基礎的概念と看護学との関係が説明できる。 人の動作に必要な機能の特性がわかる。 人の生体計測および動作分析方法の基礎を学ぶ。 看護ケア・福祉機器・病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明できる。
臨床栄養学 ★高野 良子	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康時の「栄養状態」を評価・判定できる。 「栄養状態の特徴」に応じた栄養マネジメントを理解できる。 患者に「栄養マネジメント」の基本を説明できる。
疾病治療学概論 富樫 武弘	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 人の健康を損ねるものには極めて多くの疾病がある。しかしながら、多くの疾病に共通した発生の要因があり、いくつかの疾病で似たような特質を有している。ここでは、諸臓器の構造と機能をまず理解し、諸臓器に発生する主な疾病的症状並びに疾病発生の仕組み、検査の方法、治療法に関する基本的な知識を学ぶ。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。</p> <p>【到達目標】 生命を維持し活動するためには全身諸臓器が単独で、また関連しあって正常な機能を発揮する必要がある。正常な機能を理解しさらに機能が破綻して疾病を発症する機構を理解することを到達目標とする。また疾病の診断方法、検査法を理解することを到達目標とする。</p>
疾病治療学A ★小倉 滋明	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
疾病治療学B ★向井 正也	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
公衆衛生学 ★村松 宰	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 人々を取り巻く環境は、人間の生理機能に影響を与え、健康の保持増進、健康障害の発生にかかわっている。地域で生活するすべての人々の疾患を予防することや、より良い健康レベルの獲得を目指すなどの健康に関する問題について、医学的、社会学的、疫学的、医療行政的視点から学び、組織的な保健活動について学習する。また、人々の健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の概念が説明できる。 2 衛生統計指標や人口統計指標の定義について説明できる。 3 疫学の方法論を理解する。 4 国の衛生行政と地方の保健所業務及び市町村の衛生行政業務について説明できる。 5 公衆衛生活動として感染症の予防対策や、生活習慣病の概念からライフスタイルの面から疾患の予防対策をあげることができる。 6 労働者の健康を維持する視点から職業性疾患について分類し説明できる。 7 人間の健康の維持増進、疾病の予防を実践するために関わる環境要因について説明できる。 8 WHOの機構及び機能と多国間協力の現状について概説できる。
社会福祉学 ★大内 高雄	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 現代における社会福祉の概念とその歴史的変遷について学習し、併せて、福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係を理解する。また、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、社会的生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や社会福祉の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今日、社会福祉を必要とする背景と具体的諸問題を理解する。 2 今後の社会福祉を展望するにあたり、日本や諸外国の社会福祉の歴史や理念を理解する。 3 社会的な生活困難を抱える人々の地域自立生活支援を援助する技術を理解することと同時にその実践上の視点や方法を習得する。
家族社会学 原 俊彦	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 人間生活の基礎的な単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会における家族の役割及び生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。</p> <p>【到達目標】 家族と社会、家族と個人の関係についての関心や理解力を得ること。家族社会学の基礎的な専門用語を習得すること。</p>
医療情報 ★小笠原 克彦	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目的ねらい】 医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、患者情報の管理を理解するために、倫理や経営など社会科学的側面、コンピュータやシステムなど理工学的側面、電子カルテや各種システムなど医療的側面など多視点から見た医療情報について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療における個人情報の安全な取り扱いと管理方法を列挙できる。 2 医療における情報・システムの役割とその具体的な運用方法を説明できる。 3 医療における情報の発展的な活用方法を提示し、関連分野との関連性を説明できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
症状マネジメント論 ◎樋之津 淳子 大野 夏代 須田 恭子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 村松 真澄	演習 60時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 健康障害時の臨床症状の表れ方と人体機能の変化、特に生体試料である血液や尿等における種々の成分の変化との関連性を解析する。また、代表的な病態の自覚的及び他覚的な臨床所見の見方、臨床検査データの読み方、治療経過の評価を基に、看護の臨床の場で役立つ症状マネジメントを修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 何らかの症状をもっている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 根拠をもとにした症状マネジメントの方法がわかり、一部実践できる。
基礎看護学臨地実習Ⅱ ◎樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 星 美和子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 蘭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 福島 眞里 渕本 雅昭	実習 90時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 医療機関で療養生活を送る患者様を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためにコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。以上により、看護の対象となる患者様やご家族の特性及び看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者との対人関係を築き、患者の特性や看護の必要性を説明できる。 対象に応じた看護過程の一連のプロセスを展開し、記述できる。 基本的な日常生活援助を安全に実施できる。 看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 受け持ち患者の看護過程の展開を通して自己の学修課題を明確にすることができる。
成人看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 成人期にある対象の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに生活習慣と健康障害の関連など成人保健活動の基本について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人期にある対象の発達課題を基礎として、身体・精神・社会的特徴を述べることができる。 成人期の保健について理解し、成人期に経験しやすい健康上の諸問題について列挙できる。 健康障害の各経過の特徴を理解し、生活へ及ぼす影響について考えることができる。 成人期の健康障害に伴う治療について学び、成人看護援助論へ結びつけることができる。 健康障害を持つ対象を支援するための看護に必要な理論について学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
成人看護援助論 ◎須田 恭子 中村 恵子 菅原 美樹	演習 30時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 健康障害の病態と治療等を通して、成人期における生活習慣病などの健康障害を有する対象と、その家族に対する基本的看護援助方法について学習する。また、生活習慣病予防のための健康増進対策など、成人保健活動の援助についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害の病態と治療を理解し、成人期にある対象の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な看護援助方法がわかる。 2 健康障害を有する対象と、その家族の心理・社会的側面に対する援助方法を理解し、看護過程の展開により必要な看護援助がわかる。
老年看護学概論 坂倉 恵美子	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 社会の構成員としての高齢者の存在の意味を考え、高齢者の特徴とその生活について、加齢による健康的側面と社会環境の両側面から理解を深める。また、老年保健および老年看護活動の基本的考え方、方法について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学における老年看護学の位置づけを説明できる。 2 老年期にある人々の加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響を説明できる。 3 高齢者の保健・医療・福祉の変遷と将来予測を説明できる。 4 老年看護の機能と役割について説明できる。 5 現在自分がもっている老年観を言語化し、洞察する必要性について説明できる。
精神看護学概論 ★山本 勝則	講義 15時間	2年次 前期	<p>【科目のねらい】 精神保健医療の変遷と現状を学びつつ、精神の成り立ちとメカニズムを知り、精神健康の保持増進及び疾病の予防と回復を援助する精神看護の役割と課題について理解する。また、精神障害のある対象の人権や福祉、精神保健について考える。</p> <p>【到達目標】 精神看護学が精神保健医療において果たす役割と、精神障害者が抱える精神病理学的问题、また、そのために直面する生活上の課題について理解し、生活を再構成する精神看護の方法を修得できる。</p>
臨床薬理学 ★唯野 貢司	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。</p>
疾病治療学C ★三澤 一仁	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、外科疾患、感覚器系疾患、歯科・口腔系疾患、脳・神経系疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
チーム医療論 ◎河野 総子 中村 恵子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 医療従事者として、チーム医療について必要な知識を習得する。社会環境の変化に伴い、医療が細分化されるとともに高度な内容となってきており、医師を中心であった医療から対象を中心とした専門家集団による医療が求められるようになった。このことを踏まえ、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を把握する。 2 チーム医療における患者・家族と医療従事者の関係について理解する。 3 医療従事者間の連携や協働について学ぶ。 4 チーム医療実践上の倫理的問題について理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
感染管理論 ◎スードイ神崎 和代 ★石角 鈴華	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理対策を学ぶ。また、医療機関などの施設における感染管理の重要性についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べることが出来る。 2 感染予防の手法、ハンドラブ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べる事が出来る。 3 感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べる事が出来る。 4 CDC等の感染関連組織の機能を理解する。
臨床心理学 ★葛西 康子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】「ケアをすること (=ケアリング)」とは、健康問題に関わる援助実践を含んだ、人間の成長・発達の支援を意味している。このプロセスに生起するケアの担い手と受け手との関係性と協働作業について、臨床心理学の知見を紹介し学び合いたい。</p> <p>【到達目標】本講義では、臨床心理学を対人援助学および「ケアをすること」として捉え、その基礎知識や臨床における視点の習得を目指す。そしてこれらを看護実践の場へ援用し思考することを目標におきたい。</p>
援助的人間関係論 ◎大野 夏代 樋之津 淳子 藤井 瑞恵	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めると共に、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容、共感について理解し、自己と他者との関係が成立し信頼関係を確立することによって援助が可能となることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】自己概念を再構築し、対人関係形成における自己の傾向に気づくことができる。援助者として聴くこと、伝えることができる。援助的人間関係を形成するために、意図的に関わることができる。</p>
看護倫理学 ◎宮崎 みち子 ★リボウイツ よし子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意志決定を行うための枠組みを理解する。さらに、看護ケアを行うという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 価値の特質が理解できる。 2 看護実践上の倫理的概念が理解できる。 3 看護における倫理的意志決定モデルの特徴が理解できる。 4 事例を基に、倫理的分析と倫理的意志決定が考察できる。
小児看護学概論 松浦 和代	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を学習する。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察する。総じて、小児看護の役割、責務および実践活動の意義を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。 2 子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。 3 子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。
母性看護学概論 宮崎 みち子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】周産期のみならず広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母性看護の基盤となる概念が理解できる。 2 母性看護の現状と課題が考察できる。 3 母性看護の対象特性が理解できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
成人看護学臨地実習 I ◎藤井 瑞恵 須田 恭子 菅原 美樹 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 塚辺 蘭子 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恒子 原井 美佳 渕本 雅昭	実習 135時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にある対象をライフサイクルの側面から捉えることができる。 2 成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に捉えることができる。 3 成人期にある対象の健康障害、健康レベル、環境をアセスメントすることができる。 4 看護問題を解決するために援助方法を計画することができる。 5 成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。 6 成人期にある対象と援助的人間関係を形成することができる。 7 看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護援助論 ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 ★東出 俊之	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】老年期の加齢的変化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び、高齢者およびその家族を対象とした基本的援助方法について学習する。老年期にある人の健康状態に対する診断・治療過程における看護方法を自立支援の視点から学修する。高齢者ケアをめぐる社会制度の種類と内容を理解し、政策的課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者特有の疾病と治療について理解し、加齢に伴う諸機能の変化と関連させて説明できる。 2 高齢者の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な援助方法について説明できる。 3 高齢者の健康増進プログラムについて転倒予防、認知症予防の看護について説明できる。 4 要介護者家族や高齢者を取り巻くケアシステムの種類と内容について説明できる。
精神看護援助論 ◎守村 洋 ★安田 素次	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。</p> <p>【到達目標】精神障害者の病態像および生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する社会生活およびライフサイクル各期での精神保健について説明できる。</p>
在宅看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】地域で在宅生活の継続を目指す、あるいは在宅における対象者の生活を困難にしている要因を追及するため、在宅看護の概念・諸制度を理解し、生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護活動の目的、展開方法と技術について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護の機能と役割について理解する。 2 在宅看護とその対象者の特徴を理解する。 3 在宅看護の実施機関である訪問看護の活動と看護の専門性について理解する。 4 在宅ケアチームを構成する諸機関および専門職の役割と連携を理解する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
在宅看護援助論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 ★工藤 和子	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 健康障害をきたし、在宅看護の対象である在宅療養者及び要介護支援高齢者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅療養者および要介護支援高齢者の諸特徴を理解する。 2 在宅療養者および要介護支援高齢者の家族に対する援助の考え方について理解する。 3 在宅看護の展開方法について理解する。 4 訪問看護と他機関の連携の実際を理解する。 5 社会資源の活用と、在宅ケアチームにおける訪問看護師の役割について理解する。
がん看護学 ◎樋之津 淳子 ★松山 茂子	演習 30時間	2年次 後期	<p>【科目のねらい】 がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんを取り巻く看護・医療の動向を説明できる。 2 がんの症状をもっている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 3 症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
保健医療福祉制度論 ★館石 宗隆	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 保健・医療・福祉に関する様々な制度・施策の中から、特に重要なものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。同時に、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 各回の講義ごとに取り上げる制度・施策の概要、目的、背景及び今日までの歩み等について正しく理解し、自分自身の意見を基に議論することができる。</p>
保健統計 ★村松 宰	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 医療・看護分野のほとんどの分野において他の分野に比べると個体変異の大きい数値データや質問紙調査にみられる定性的データを扱うことが多い。このようなデータの解析に対して、共通に適用できるような数学的基礎を学ぶと共に看護分野に必要とされる統計解析上の基礎的知識を修得し今後の看護師業務および保健師業務や看護学研究に反映させる能力を養う。また疫学領域においてはEBN（科学的根拠に基づく看護学）の概念を理解しその実践能力を養う。特に疫学的分析前向き研究（コホート研究）、後向き研究（患者対照研究）、介入研究の代表的研究を理解する。その際にはデータを疫学的に処理する時に、バイアス・交絡などに常に注意し、疫学的思考態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 確率の初步的な知識である確率変数、確率分布、期待値、分散などの概念を知る。 2 統計学の基本的概念である母集団、標本分布法則、中心極限定理、統計量などの基礎的事項を知る。 3 統計的手法の基礎となる推定、検定についてその考え方や応用の方法を理解する。 4 医学統計学の基礎を理解しそれを医学・看護領域のデータ解析にコンピュータを使って応用する。 5 疫学の定義と歴史を学習し、疫学で扱う指標、手法を学ぶとともに、その実践例を学習し応用できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
小児看護援助論 ◎松浦 和代 吉川 由希子 富樫 武弘	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 小児看護学概論を踏まえ、小児期に多い健康障害の病態、治療法および看護援助の方法について基本的な知識を学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識と技術を修得する。 2 小児期に多い疾患について、特有な症状、疾病発生のメカニズム、検査方法および治療法に関する基本的な知識を修得する。 3 主な疾患別に看護援助の要点を修得する。看護援助のあり方を、子どもと家族への発達支援の観点から考察する。
母性看護援助論 ◎宮崎 みち子 高室 典子 ★内田 亜紀子	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 女性のライフサイクル各期における生理的変化と特徴的な疾患・治療、および対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 女性に特有な疾患が理解できる。 2 妊産褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的特徴、必要な保健指導が理解できる。 3 妊産褥婦および新生児に必要なケアが考察できる。 4 妊産褥婦および新生児を取り巻く家族に必要なケアが考察できる。
成人看護技術論 ◎須田 恭子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 神島 滋子	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 成人看護援助論を踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について、看護過程を展開しながら学ぶ。また成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病の疾患に対する基本的な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害を有する対象とその家族への基本的な援助技術が実施できる。 2 看護過程を展開しながら効果的に看護を提供するための基本的な看護技術が実施できる。
成人看護学臨地実習Ⅱ ◎菅原 美樹 須田 恭子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 渕本 雅昭	実習 90時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性が理解できる。 2 健康障害が対象と家族に及ぼす影響について、多方面から統合的にアセスメントできる。 3 看護過程を展開するうえで、健康問題を明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価ができる。 4 対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。 5 看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。
老年看護学臨地実習Ⅰ ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 45時間	3年次 前期	<p>【科目的ねらい】 自立した生活を営む健康な高齢者との触れ合いを通して、高齢者の暮らしや健康への配慮の仕方を体験的に学ぶ。また、加齢に伴う身体的、社会的、心理的变化とその家族が抱える健康問題と日常生活上の困難な課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象の発達課題を説明できる。 2 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を説明できる。 3 健康高齢者が日ごろ感じている健康上のニーズ、行っている健康法について知り、説明できる。 4 健康高齢者の生活において老人福祉センターの果たす役割について知り、説明できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
精神看護技術論 ◎守村 洋 河村 奈美子	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 精神看護援助論を踏まえて精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族とのかかわり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。</p> <p>【到達目標】 精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する。精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる。</p>
精神看護学臨地実習 ◎守村 洋 河村 奈美子	実習 90時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <p>【到達目標】 対象とのかかわりを通し、精神障害のある対象を理解する。治療的コミュニケーションの技法及び精神科における看護援助を、実践を通して修得する。精神障害をもつ対象の生活を理解し、支援システムを説明できる。看護学生として責任ある行動や態度を修得する。</p>
在宅看護技術論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 保田 玲子 照井 レナ	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 在宅看護援助論を踏まえ、在宅看護、訪問看護に関する援助技術、知識、対応方法について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、在宅療養者やその家族に対する看護に必要な基本技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅療養者の特性を踏まえた援助関係の基本を理解できる。 2 在宅看護の看護過程を展開し、必要な援助技術を明らかにできる。 3 訪問看護を実践するための基本的な看護技術を理解し、一部実施する。
在宅看護学臨地実習 ◎スティ神崎和代 菊地 ひろみ 照井 レナ	実習 90時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 在宅で療養している人とその家族に対して提供する看護の役割・機能を理解するとともに、在宅療養者や障害者及びその家族の生活と健康を理解する。また、保健・医療・福祉の連携と、在宅ケアシステムの社会資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 在宅看護対象者（以下、対象者）の生活および生活環境を認識し、関心を持てる。 2 対象者の身体的、情緒的、社会的特性を理解できる。 3 対象者と効果的なコミュニケーションをはかることができる。 4 家族をはじめとする介護者の生活および生活環境を認識し、関心を持てる。 5 対象者の健康問題の原因、程度および現在の状況が理解できる。 6 対象者と家族の問題解決能力をアセスメントし、問題の所在を示すことができる。 7 対象者に対して、生活機能の維持・向上の観点から支援を考えることができる。 8 在宅における生活援助技術を一部経験し、在宅における看護技術の特徴を理解する。 9 対象者の在宅療養を支える連携の必要性を認識し、関連専門職および関係機関の連携の実際を理解できる。 10 在宅看護に必要な看護の責任、倫理的配慮の重要性を理解できる。
リハビリテーション看護学 ◎★奥宮 曜子 ★石鍋 圭子 ★佐久間 隆	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 ライフステージにおける看護の対象やその家族の特徴と、生活行動を困難にしている障害の特徴を学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する。また、疾患や障害に応じたリハビリテーションへの看護援助について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションにおける看護の役割を説明できる。 2 生活行動を困難にしている疾病や障害の特徴を理解する。 3 障害を持つ人とその家族における生活の再構築のための看護支援を計画することができる。 4 自立に向けた安全・安楽な看護援助技術を習得する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
認知症ケア スードイ神崎 和代	演習 30時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 老年期における認知症の発現過程と認知障害のある高齢者の援助方法について学ぶ。また、認知症を持つ高齢者の日常生活・社会生活への適応を支援する看護方法や介護家族を支援する方法、疾患進行遅延対策について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症及びアルツハイマー病の定義をし、夫々の臨床的特徴を述べることが出来る。 2 脳内の臨床的变化を理解すると共に重症度によるアルツハイマー病の分類と各レベルの特徴を述べることが出来る。 3 米国の最新レベルの認知症ケア、医療、看護の在り方を説明することが出来る。 4 認知症をコミュニケーション、栄養、環境の観点から理解し、支援方法を述べることが出来る。 5 認知症をケアする現場においてケア実態を冷静に観察し、それらを文章、又は口頭で表現出来る。 6 認知症をもつ高齢者の家族やケア提供者の直面している課題を述べることが出来る。
地域看護学概論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 ★金川 克子	講義 15時間	3年次 前期	<p>【科目のねらい】 地域看護活動の概念と機能について理解し、人々が地域の生活の中で直面する健康問題を個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスにかかる看護活動及び地域保健について基本的な考え方と方法を学習する。また地域看護の対象及び活動、役割などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護活動の歴史・概念や、地域における保健・看護活動の重要性を述べることができる。 2 地域（コミュニティ）の健康レベルと社会情勢、生活環境との関連を述べることができる。 3 ライフサイクル各期における多様な健康レベルにある人々への生活支援のポイントを述べることができる。 4 地域看護活動分野に特有なコミュニティケアと保健師の役割が説明できる。
健康教育指導法 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 松村 寛子	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 健康教育の基本となる理念と教育活動に必要な方法（企画、方法及び評価）を理解する。また、健康についての知識の習得や態度を形成し、保健行動の獲得や変容のために重要な保健看護活動の実践に生かす。</p> <p>【到達目標】 健康教育の理念・理論・意義・目的を述べることができる。対象（個人・集団）に適した健康教育の方法（企画・実施・評価）のポイントを述べることができる。保健行動の獲得・変容・継続のための保健指導・生活支援の方法を述べることができる。</p>
研究方法論 ◎松浦 和代 樋之津 淳子	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップを学修する。また、文献検索の実際を体験的に学修し、先行研究の活用方法を修得する。学修過程を通して、卒業研究に必要とされる基礎的な能力、態度、および倫理観を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップについて説明できる。 2 関心のある看護研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 3 関心のある看護研究課題について研究計画書の作成を試み、理論的文脈を推敲する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
小児看護技術論 ◎吉川 由希子 松浦 和代	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 小児看護援助論を踏まえて、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程の展開と共に学ぶ。また、健康障害をもつ子どもとその家族に必要な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、看護実践能力の向上をめざす。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもと家族の健康生活への支援について基本的な援助技術を修得する。 2 小児に特有な看護技術について原理原則および標準的な手順を説明することができる。 3 事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。
小児看護学臨地実習 ◎吉川 由希子 松浦 和代	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し看護に必要な基本的知識・技術・態度を養うとともに看護実践能力を向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象とのかかわりを通して、子どもの成長・発達・保育について理解を深める。 2 健康障害をもつ子どもと家族への生活支援について学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの基礎知識を踏まえて看護実践でき、その効果を評価できる。 2 疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識を踏まえて看護実践でき、その効果を評価できる。 3 対象者やチームメンバーと効果的なコミュニケーションをとることができる。
母性看護技術論 ◎高室 典子 宮崎 みち子 渡邊 由加利 多賀 昌江	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 母性看護援助論を踏まえて、母性やその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、母性特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥および新生児期にある事例を通して、看護計画を立案できる。 2 母性看護に必要な基本的技術を修得する。
母性看護学臨地実習 ◎高室 典子 宮崎 みち子 渡邊 由加利 多賀 昌江	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 母性看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥期にある母子と家族への援助について学ぶ。 2 次世代を育む家族機能と支援について学ぶ。 3 安全と人権を配慮した看護の実践を学ぶ。 4 生命の誕生の尊さを考える。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊産褥婦、新生児および家族に必要な看護過程が展開できる。 2 妊産褥婦および新生児の安全と人権を配慮した看護の実践ができる。 3 母性看護に必要とされる看護者の役割が説明できる。 4 母子の健康生活に関わる社会資源が説明できる。 5 生命（いのち）の誕生を通して、人間の生命尊重について考察できる。
老年看護技術論 ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり	演習 30時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】 老年看護援助論を踏まえて、高齢者を総合的に評価する方法を学び、高齢者及びその家族を対象とした援助技術について学ぶ。また、高齢者に特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に修得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の総合機能評価が理解できる。 2 高齢者の生活障害にあった看護援助技術ができる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・到達目標
老年看護学臨地実習Ⅱ ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 90時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】老年期にある対象を加齢や疾病とそれに影響される生活機能障害をもふくめ、総合的に理解し、対象個々のQOL向上に向けた援助ができる基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 老年期にある対象を身体的、精神的、社会的、発達的側面から統合的に説明ができる。 老年期にある対象の健康上の問題をアセスメントし、問題を抽出し看護計画が立案できる。 老年期にある対象の状態にあった援助方法を実施し、評価することができる。 老年期にある対象の人生と人格を尊重した態度を表出できる。 医療施設、介護保険施設において働く看護師の役割や他職種との連携・協働について説明できる。
透析ケア ◎★城下 弘一 ★佐々木 美乃	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】透析患者の各種病態を理解し、それらをもたらす疾患と各症状、必要な処置及び療養方法について学ぶ。さらに、食事療法やストレスなど透析患者及びその家族が抱える課題や看護に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 透析患者の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。 透析患者の、自己管理への支援・精神的支援に必要な知識を学ぶ。 透析患者への必要な技術やケアを実践するために必要な知識を学ぶ。
重症集中ケア ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】重症集中治療看護の概念および沿革と集中治療を必要とする患者の生命を支え、集中治療中の身体的、心理的、社会的側面から患者とその家族を援助する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 集中治療と看護の歴史的変遷、特徴、役割が理解できる。 集中治療を必要とする患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴が理解できる。 集中治療を受ける患者・家族への看護援助方法が理解できる。
救急看護学 ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】救急患者の特徴と病態を理解し、それらをもたらす疾患と各症状、必要な処置など救急患者に対する看護に必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 救急医療・救急看護の特徴と役割が理解できる。 救急患者にみる多彩な病態と治療・看護について理解できる。 生命危機状況にある患者・家族の心理状態と心のケアの必要性が理解できる。 救急医療および救急看護の現状と課題について理解できる。
放射線医療管理論 ★池田 光	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目のねらい】医療を含め、さまざまな領域で利用されている放射線の物理学的性質、生物学的作用に関する基礎的知識を理解する。また、医療の分野を中心とした放射線利用、防護・障害防止の考え方について学ぶ。</p> <p>【到達目標】放射線の基礎を学習し、無用な不安を払拭するとともに、適切な防御を学習する。現在の医療は、診断、治療とともに、放射線機器なしでは成立しない。一般撮影、CT検査、RI検査など診断について、また放射線治療の基礎知識をあわせて習得する。</p>

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目的ねらい・到達目標
ペリネイタルケア ◎吉川 由希子 高室 典子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】周産期にある母体、胎児、新生児を中心に、低出生体重児や早産児などの特徴や援助技術について学習する。また、母親を中心とした家族への支援や育児指導、保健センターにおける様々な相談窓口などの社会資源の活用についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胎児期の成長発達と母体の健康管理について理解できる。 2 周産期にみられる母体の異常や胎児・新生児の異常と医療のあり方について理解できる。 3 低出生体重児や早産児の特徴と正常な成長発達を促すために必要な援助について理解できる。 4 母親を中心とした家族への支援のあり方と育児指導、および社会資源について理解できる。
パリアティブケア ★石垣 靖子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】治癒が困難な状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、QOLを最良のものにするために必要な知識や技術を学ぶ。また、終末期の全人的なケアにおける理念、倫理的諸問題を理解し、ケアを提供する上で必要な技術の原理を理解し、その基本的な方法を習得する。</p> <p>【到達目標】パリアティブケアを受ける対象とその家族が直面するトータルペイン(全人的苦痛)を理解し、クオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。</p>
寒冷地医療 ★前沢 政次	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】積雪寒冷地の環境や生活について理解とともに、寒冷地であることによる保健・医療・福祉分野における特徴や課題などについて学ぶ。また、寒冷地において人々が安全で安心して生活するための健康増進や看護・介護などの援助方法についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】寒冷地特有の問題を住民生活の場から感知し、保健・医療・福祉・教育の場で活用できる知識・技術・態度を身につける。</p>
地域看護援助論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美 保田 玲子 塚辺 蘭子 松村 寛子	演習 60時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】地域看護活動に特徴的な援助方法の基盤となる基本的な理論、知識および技法について学ぶ。特に、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法、特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の対象となる人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助方法（健康相談、健康診査、健康教育、家庭訪問、地域組織活動）を説明又は実践することができる。 2 地域看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。 3 個人・集団への看護活動や地区情報から地域の健康課題を明確にし、地域ニーズに対応した保健事業を考えることができる。
看護教育学 ★近藤 潤子	講義 15時間	3年次 後期	<p>【科目的ねらい】看護教育の基本となる教育の目的と概念、日本における看護教育制度、看護教育におけるカリキュラムのプロセス、教授・学習・評価といった看護教育の展開の過程について理解し、教育の現状と今後の課題について考察する。</p> <p>【到達目標】教育の概念を理解する。看護教育の現行制度とその成立過程を理解する。カリキュラム・教授計画のたて方の基本を理解する。</p>

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・到達目標
学部連携演習 ◎河野 総子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子 ◎齋藤 利明 武邑 光裕 石崎 友紀 上遠野 敏 城間 祥之 杉 哲夫 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦 華 フイッシャー ニーナ 細谷 多聞 斎藤 雅也 那須 聖 山田 良	演習 60時間	3年次 後期～ 4年次 前期	<p>【科目のねらい】 看護学部およびデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互にかかわりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護およびデザインの自己の専門性について理解を深める。 2 相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 3 課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。 4 異分野の専門性に触ることを通して、自身の専門性を拡充することができる。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成20年6月9日～13日	市立札幌病院	83人
		市立札幌病院静療院	15人
		札幌市はるにれ学園	12人
		札幌市かしわ学園	9人
		札幌市みかほ整肢園	12人
		札幌市ひまわり整肢園	11人
		札幌市第二かしわ学園	12人
		札幌市あかしあ学園	12人
		札幌市中央老人福祉センター	15人
		札幌市東老人福祉センター	15人
		札幌市厚別老人福祉センター	12人
		札幌市豊平老人福祉センター	14人
		札幌市南老人福祉センター	12人
		札幌市西老人福祉センター	15人
		札幌市中央区介護予防センター大通公園	9人
		札幌市東区介護予防センター北栄	11人
		札幌市豊平区介護予防センター美園	8人
		札幌市南区介護予防センターまこまない	7人
		札幌市手稲区介護予防センター中央・鉄北	11人
		札幌北訪問看護ステーション	6人
		札幌東訪問看護ステーション	7人
		札幌白石訪問看護ステーション	6人
		札幌厚別訪問看護ステーション	6人
		札幌清田訪問看護ステーション	6人
		札幌西訪問看護ステーション	6人
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成20年10月20日～24日	市立札幌病院	216人
		手稲済仁会病院	116人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成20年5月26日～6月6日	市立札幌病院	486人
		手稲済仁会病院	234人
小児看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	市立札幌病院	175人
		KKR札幌医療センター	151人
		札幌医科大学附属病院	72人
		天使病院	68人
		札幌市みかほ保育園	6人
		札幌市山の手保育園	15人
		札幌市若草保育園	12人
		札幌市新川保育園	15人
		札幌市新琴似保育園	15人
		札幌市あけぼの保育園	6人
		札幌市青葉保育園	6人

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
小児看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	札幌市東札幌保育園	12人
		札幌市白石保育園	13人
		札幌市東白石保育園	10人
		札幌市豊園保育園	6人
		札幌市美園保育園	6人
		札幌市山の手乳児保育園	6人
		札幌市澄川乳児保育園	12人
		札幌市北乳児保育園	12人
		札幌市新琴似乳児保育園	12人
		札幌市菊水乳児保育園	4人
		札幌市東札幌乳児保育園	6人
		札幌市豊園乳児保育園	6人
		東区保育・子育て支援センター	16人
		豊平区保育・子育て支援センター	6人
		西区保育・子育て支援センター	6人
		手稲区保育・子育て支援センター	15人
母性看護学臨地実習	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	市立札幌病院	358人
		札幌医科大学附属病院	174人
		天使病院	116人
		北海道社会保険病院	116人
成人看護学臨地実習 I	平成20年11月4日～21日	市立札幌病院	689人
		手稲渓仁会病院	208人
		KKR札幌医療センター	117人
成人看護学臨地実習 II	平成20年6月23日～8月1日	市立札幌病院	773人
老年看護学臨地実習 I	平成20年5月19日～23日	札幌市中央老人福祉センター	27人
		札幌市北老人福祉センター	27人
		札幌市東老人福祉センター	27人
		札幌市白石老人福祉センター	24人
		札幌市厚別老人福祉センター	27人
		札幌市豊平老人福祉センター	27人
		札幌市清田老人福祉センター	12人
		札幌市南老人福祉センター	15人
		札幌市西老人福祉センター	27人
		札幌市手稲老人福祉センター	27人
老年看護学臨地実習 II	平成20年11月25日～12月19日 平成21年1月19日～30日	西円山病院	280人
		介護老人保健施設グーラー北の沢	168人
		慈啓会病院	105人
精神看護学臨地実習	平成20年6月23日～8月1日	市立札幌病院静療院	260人
		中江病院	251人
		札幌花園病院	175人

授業科目	実習期間	実習機関	延べ人数
在宅看護学臨地実習	平成20年6月23日～8月1日	札幌市中央区第1地域包括支援センター	8人
		札幌市北区第1地域包括支援センター	10人
		札幌市北区第2地域包括支援センター	24人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市東区第2地域包括支援センター	8人
		札幌市白石区第1地域包括支援センター	8人
		札幌市白石区第2地域包括支援センター	22人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市南区第1地域包括支援センター	14人
		札幌市西区第2地域包括支援センター	21人
		総合支援センターえがお	20人
		中央相談センター	8人
		北相談センター	12人
		東相談センター	12人
		白石相談センター	12人
		豊平相談センター	12人
		南相談センター	8人
		西相談センター	8人
		手稲相談センター	8人
		札幌北訪問看護ステーション	22人
		札幌東訪問看護ステーション	22人
		札幌白石訪問看護ステーション	24人
		札幌西訪問看護ステーション	24人
		札幌手稲訪問看護ステーション	30人
		訪問看護ステーションあいしん	16人
		訪問看護ステーション円山	16人
		渓仁会琴似訪問看護ステーション	16人
		はまなす訪問看護ステーション	9人
		訪問看護ステーションあおば	16人
		訪問看護ステーション本郷	14人
		訪問看護ステーション時計台	16人
		来夢ライン訪問看護ステーション	16人
		来夢ライン療養通所介護事業所	12人
		居宅介護支援事業所 西円山敬樹園	8人
		指定居宅介護支援事業所 東札幌	22人
		指定居宅介護支援事業所 ディ・グリューネン	22人
		KKR札幌医療センター訪問看護室	16人
		札幌徳洲会病院在宅医療室	38人

5) 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）

教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」平成20年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成20年6月20日 ～7月16日	模擬患者養成フォローアップ研修の開催 ※開催日・参加者数：6月20日（4名）、6月27日（4名）、7月2日（4名）、7月11日（4名）、7月16日（4名）
平成20年9月18日 ～10月17日	模擬患者養成コースの開催 ※開催日・参加者数：9月18日（52名）、9月25日（45名）、10月2日（48名）、10月9日（42名）、 10月16日（45名） ※授業見学会（10月3日～17日 全3回実施、延べ45名）
平成20年10月15日	看護学部FD・SD研修会「教育GP採択報告」の実施
平成20年11月～	教育GP推進会議の開催（全6回） 実習室に各種シミュレータの導入
平成20年11月19日	全学FD・SD研修会「教育GPの獲得経緯、今後の計画及び展望」の実施
平成20年12月	パンフレットの作成・配布及びホームページの公開
平成21年1月～	看護実践記録用紙による各学年の到達状況の調査を実施
平成21年1月9日	看護学部FD研修会「ファシリテータとしての教育力を磨く」の実施
平成21年1月12日	大学教育改革プログラム合同フォーラム（開催地：横浜市）参加、ワークショップ及びパネル展示
平成21年1月15日	模擬患者養成コース特別講演会「看護学教育における模擬患者の役割」の実施
平成21年1月23日 ～25日	岐阜大学教育研修ワークショップ参加
平成21年2月10日	臨地実習指導者会議の開催
平成21年2月20日 ～26日	1～3年次OSCE実施 ※実施日・参加者数：2月20日（3年次生66名）、2月23日（1年次生62名）、2月26日（2年次生58名） 学年別評価及び学生への個別フィードバック、スーパーバイズの実施 模擬患者養成コースとしてOSCE見学会を実施
平成21年3月～	1～3年次の到達度評価の検証 到達目標・看護技術項目・シラバスの再検討
平成21年3月23日	本学と病院との連携協力に関する意見交換会の実施
平成21年3月25日	成果報告会・意見交換会の実施 ※参加者数：成果報告会99名、意見交換会54名 成果報告書の作成

5 その他

1) ゲストスピーカー

(1) デザイン学部

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
札幌を学ぶ	平成20年5月9日	築島 健 (札幌市保健福祉局精神保健福祉センター 所長)	原 俊彦
	平成20年5月16日	横内 龍三 (株)北洋銀行 取締役頭取)	
	平成20年5月23日	長沢 誠 (気象予報士)	
	平成20年5月30日	竹中 万紀子 (東海大学 非常勤講師)	
	平成20年6月6日	津元 英比古 (札幌市観光文化局観光部観光企画課 観光イベント担当課長)	
	平成20年6月20日	飯田 俊郎 (札幌国際大学 現代社会学部教授)	
	平成20年6月27日	三井 雅勝 (札幌市市民まちづくり局総合交通計画部 交通企画課長)	
	平成20年7月4日	新津 順一 (札幌市子ども未来局子ども育成部 子ども企画課長)	
	平成20年7月11日	島田 英二 (映画監督・北海道情報大学准教授)	
	平成20年7月18日	上田 文雄 (札幌市長)	
デザイン原論	平成20年6月16日	篠原 千尋 (ヴァージニア大学 建築学部修士課程大学院生) 川口 美穂 (株)ライヴ環境計画)	吉田 惠介
感性科学	平成20年10月7日	岡崎 章 (拓殖大学 工学部工業デザイン学科教授)	張 浦華
ユニバーサルデザイン論	平成20年7月11日	城戸 恵美子 (三菱電機(株)デザイン研究所インターフェースデザイン部 インターフェース第1位グループ 専任)	酒井 正幸
空間デザイン論	平成21年2月4日	長谷川 演 (株)アトリエテンマ 代表取締役)	吉田 惠介
環境計画論	平成20年7月2日	麻生 嘉 (一級建築士・森林インストラクター)	矢部 和夫
製品デザイン論	平成20年12月15日	和田 義則 (元パナソニック(株)環境本部 エコデザイン推進担当課長)	杉 哲夫
メディア芸術論	平成20年10月29日	柴田 尚 (NPO法人S-AIR 事務局長)	フィッシャー ニーナ
	平成20年11月5日	Florian Baron (アーティスト)	

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
ブランド構築	平成20年6月13日	若林 良三 (株)ウエス 取締役)	武邑 光裕
	平成20年6月20日	斎藤 ようこ (株)電通プロジェクト・プロデュース局文化プロジェクト部) 明神 光浩 (株)電通プロジェクト・プロデュース局文化プロジェクト部)	
メディアビジネス	平成20年10月23日	田中 一志 (Chameleon Label 代表・音楽プロデューサー)	フイッシャーニーナ
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	平成21年2月6日	山口 昌伴 (道具学会会長・坐る文化研究所長)	石崎 友紀

② 看護学部

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
環境保健	平成20年7月17日	宮本 啓二 (札幌市保健福祉局 生活衛生担当部長)	加藤 登紀子
保健医療福祉制度論	平成20年4月23日	矢野 光一 (札幌市保健福祉局 衛生研究所長)	館石 宗隆
	平成20年5月14日	岡田 寿 (札幌市保健福祉局 障がい福祉担当部長)	
	平成20年5月28日	武田 純子 (有)ライフアート 代表取締役)	
	平成20年6月13日	永田 久美子 (認知症介護研究・研修東京センター 主任研究主幹)	
医療情報	平成20年5月21日	山本 裕之 (札幌市病院局経営管理部総務課 情報システム担当係長)	小笠原 克彦
援助の人間関係論	平成20年10月24日	松本 典子 (札幌医科大学附属病院看護部 副部長)	大野 夏代
看護初期実習	平成20年5月13日	鹿毛 美千子 (社)北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部 主幹)	大野 夏代
症状マネジメント論	平成20年7月25日	大科 宣子 (日本コンチネンス協会 北海道支部長)	樋之津 淳子
基礎看護技術論	平成20年11月10日	齋竹 一子 (@訪問看護ステーション 所長)	佐藤 公美子
小児看護技術論	平成20年11月4日	牧田 靖子 (市立札幌病院看護部看護科 看護師)	吉川 由希子
老年看護学概論	平成20年5月16日	小野 弘	坂倉 恵美子
老年看護技術論	平成20年10月30日	苅安 誠 (北海道医療大学 心理科学部教授)	村松 真澄
	平成20年11月6日	鈴木 英樹 (キタライフ北のくらしと地域ケア研究所 代表)	坂倉 恵美子
精神看護援助論	平成21年1月26日	宮岸 真澄 (NPO法人すみれ会 会長)	守村 洋

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
在宅看護援助論	平成21年1月23日	高井 昌章 (在宅難病療養者) 油谷 清美 (社)北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部 副主幹)	菊地 ひろみ
在宅看護技術論	平成20年4月15日	西村 光章 (在宅難病療養者) 伊志嶺 志津子 (社)北海道総合在宅ケア事業団札幌東ステーション 看護師) 伊豆 昌人 (在宅生活支援サービスえいぶる 介護士)	菊地 ひろみ
リハビリテーション看護学	平成20年5月2日	高橋 奈美 (札幌医科大学 保健医療学部助手) 藪中 弘美 (脳外傷友の会コロポックル 役員)	奥宮 晓子
がん看護学	平成20年12月18日、 平成21年2月5日	高口 弘美 (市立札幌病院看護部看護科 看護師)	樋之津 淳子
地域看護援助論	平成20年10月20日	内田 由満子 (札幌市保健福祉局保健所感染症総合対策課 結核対策係長) 石坂 直子 (増毛町役場福利厚生課 保健指導係長)	清水 光子
	平成20年11月20日	鈴木 敦子 (元 養護教諭会 会長)	

2) 特別講義

年月日	タイトル	講師
平成20年6月5日、 6月12日	日本庭園の作庭技法	井上 剛宏 (株)植芳造園 代表取締役)
平成20年6月23日	手書きによるパースとアクソメの描き方	櫻井 亮一 (株)プラツツ 代表取締役)
平成20年9月24日	木工室安全講習会	上遠野 敏 (札幌市立大学 デザイン学部教授)
平成20年9月26日	出前講座「北海道新幹線」	八柳 壽修 (札幌市市民まちづくり局 新幹線推進担当課長)
平成20年9月30日	i Movieによる映像編集ワークショップ	大渕 一博 (札幌市立大学 デザイン学部講師)
平成20年10月8日	看護医療に必要なチャイルドライフ・デザインとはなにか	岡崎 章 (拓殖大学 工学部教授)
平成20年10月22日 ～24日	フリーハンドドローイング実習	齋藤 利明 (札幌市立大学 デザイン学部教授)
平成20年11月4日、 11月18日	世界における空間デザインの流れ	武田 明純 (室蘭工業大学 工学部助教) 中渡 憲彦 (北海道職業能力開発大学校 准教授) 小澤 丈夫 (北海道大学 工学部准教授) 池上 重康 (北海道大学 工学部助教)
平成21年3月23日 ～24日	AdobeCS2によるデザインワークショップ	大渕 一博 (札幌市立大学 デザイン学部講師)

3) 科目担当講師懇談会

年月日	対象者・出席者数	内容
平成21年3月19日	看護学部科目担当非常勤講師（11人）	
平成21年3月23日	共通教育科目担当非常勤講師（6人）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目標等の説明 ・成績評価方法等の説明 ・その他遵守事項の説明 ・意見交換等
平成21年3月26日	デザイン学部科目担当非常勤講師（6人）	

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び員会、
教育研究審議会
会議会

学内運営の概要

資料

研究活動

1 研究活動概要

本学では、教育研究上の特長として「デザイン学部と看護学部の連携」並びに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」並びに「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」を掲げている。平成20年度は、この特長並びに目的を念頭に置き、デザイン学部教員31名、看護学部教員38名の合計69名が、研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、デザイン学部教員と看護学部教員が協働する「小児・母性看護学領域で活用できる感性教材モデルの開発と有用性の検討：造作模型を用いた新生児の『やわらかさ』『温もり』の再現」、「看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究」などを通じて、保健医療福祉等の幅広い分野で、デザインと看護の共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、横断的な対象をつなぐことを視点に入れた「米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用」、「非言語コミュニケーション（笑顔）の相互作用」、「財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み」、「メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害者への地域生活支援および自殺予防に関する研究）」等の研究が遂行された。このほか、札幌市から9件、札幌市農業協同組合から1件の研究を受託した。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「デザイナーの職能資格認証研究」を推進しているほか、「OSCE運営支援システムの開発」、「看護学教育における模擬患者（SP：Simulated Patient）養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価」を通じて、よりよい看護職育成のための研究に取り組んだ。

「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」の観点からは、「Research about the necessity of an International Contemporary Art Biennial for the cultural and structural development of the region Sapporo/Hokkaido（北海道・札幌における文化的・構造的発展のための国際現代美術展の必要性に関する研究）」、「地域再生を目的とした景観再評価に関する研究（札幌地区における建築・アートの実施設計を通じて）」、「世界遺産知床におけるツーリズムに関する研究」、「災害看護啓発活動を行うシステム作り－人材育成に焦点をあてて－」等の研究が行われた。

この他、都市再生に関する研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地場産品のデザイン研究、産業や美術・文化の振興に関する研究、さらに、道内の他の自治体やその地域を対象とし、まちづくりに医療の側面から貢献する地域看護に関する研究に取り組んだ。

2 連携研究一覧

学部間共同研究

教員名	研究課題
◎酒井 正幸 石崎 友紀 吉田 和夫 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 斉藤 雅也 片山 めぐみ 守村 洋	「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案：札幌市円山動物園を事例として
◎羽深 久夫 那須 聖 河野 總子 星 美和子	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究
◎大渕 一博 樋之津 淳子 吉川 由希子 太田 晴美	OSCE運営支援システムの開発
◎松浦 和代 細谷 多聞 斉藤 雅也 吉川 由希子 福島 真里	小児・母性看護学領域で活用できる感性教材モデルの開発と有用性の検討：造作模型を用いた新生児の「やわらかさ」「温もり」の再現
◎大野 夏代 細谷 多聞 樋之津 淳子 三上 智子 鶴木 恭子	病室環境における看護作業の「快適性」実現のための提案型研究

◎印：研究代表者

3 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原田 昭	・札幌市立大学の外部連携環境構築のための研究
吉田 恵介	・地域景観資源評価手法の開発と景観デザイン計画
武邑 光裕	・Creative Commons License における付加ライセンスコード規程ならびに倫理的使用規範などの汎用規則の設定によるコンテンツ流通頒布の促進による連関収益ストリームの生成モデルの研究
石崎 友紀	・地域様式のデザイン製品開発（セミプロダクト、クラフト、福祉機器などの造形デザイン）
上遠野 敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識の研究
齋藤 利明	・オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
酒井 正幸	・ユニバーサルデザイン研究 ・動物園のグランドデザイン研究 ・環境フィールドとしての芸森キャンパスの活用のための基礎研究
城間 祥之	・3D CADによるRapid Prototyping向き形状モデリング法に関する研究
杉 哲夫	・プロダクトデザイン事例研究 ・デザインマネジメント事例研究 ・デザイナーの職能資格認証研究
中原 宏	・市街地の再生に関する研究－大規模住宅団地を事例として－

教員名	研究課題
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツと日本における無子の増加に関する研究 ・超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン ・日本の長期出生動向に関する分析
望月 澄人	・CGアニメーションの制作
矢部 和夫	・湿原景観の保全と再生に関する研究
吉田 和夫	・組織活性化におけるVI（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
エル サニ マロアン	・Research about Creative Industries-focusing on the specific regional aesthetics of the music industry in the region Sapporo/Hokkaido
武田 宣明	・情報を読み解く力の育成教育に関する研究
張 浦 華	・工業製品の形態に対する生理的快・不快反応と嗜好満足度との相関関係
フィッシャー ニーナ	・Research about the necessity of an International Contemporary Art Biennial for the cultural and structural development of the region Sapporo/Hokkaido
細谷 多聞	・環境情報の電子化とその活用に関する研究
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーション（笑顔）の相互作用 ・コミュニケーションストレスの対処 ・英語 e-learningの活用と効果
大渕 一博	・デザイン学習者向け教材の開発と教育効果測定に関する研究
柿山 浩一郎	・製品・サービス発想における、リアルタイム集団アイデア発想システムの開発
斎藤 雅也	・建築の環境技術と住まい手の環境調整行動の繋がりに関する研究
那須 聖	・図形による内部と外部の発生
福田 大年	・情報蓄積型デジタルコンテンツの展開に関する研究
松井 美穂	・アメリカ文学におけるモダニズムとジェンダー－南部女性作家を中心に－
三谷 篤史	・平面2自由度を有する振動機構の開発
山田 良	・地域再生を目的とした景観再評価に関する研究（札幌地区における建築・アートの実施設計を通じて）
片山 めぐみ	・世界遺産知床におけるツーリズムに関する研究
須之内 元洋	・デザインアーカイブを核としたメディア構築

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	・成人看護学領域の技術獲得へのプロセスとその検証
加藤 登紀子	・女性管理職の昇格における影響要因と昇格後の活動の変化に関する研究
河野 総子	・看護職の組織コミットメントと職務満足調査－看護管理者が副院長である施設と看護部長の施設の比較検討－
坂倉 恵美子	・積雪寒冷地における高齢者の主観的幸福感の関連要因分析
スードイ神崎 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・沖家室島高齢者と岩崎村在住高齢者の転倒、転倒リスク、戸外で過ごす時間の関係 ・財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み
樋之津 淳子	・OSCEによる1年生の基礎看護技術の到達度評価について
松浦 和代	・母親の育児に対する自己効力感と子どもの病気後の生活復調に関する検討
宮崎 みち子	・胎児の生きる権利に関する研究

教員名	研究課題
大野 夏代	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的に通用する看護職の人材育成 ・病床環境の安全に関する研究 ・指圧マッサージの看護臨床応用
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の専門性に関する研究
須田 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年目看護師の職場適応と支援モデルの検証：救急部門以外の病棟における活用と課題
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害者への地域生活支援および自殺予防に関する研究）
吉川 由希子	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児をもつ母親の育児行動に対する自己効力感の検討 ・小児看護学臨地実習における病棟スタッフの役割意識の検討
菊地 ひろみ	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護サービスの多様化に関する実態調査
佐藤 公美子	<ul style="list-style-type: none"> ・占領期における看護改革に関する研究 ・基礎看護技術、看護過程における模擬患者（SP）導入の検討
菅原 美樹	<ul style="list-style-type: none"> ・救急看護認定看護師の看護ケアに対する看護管理者の評価に関する研究
高室 典子	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の実践に関する研究
新納 美美	<ul style="list-style-type: none"> ・人の心理社会的健康を育成できるコミュニティの形成に関する研究
藤井 瑞恵	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病患者の食事習慣変容を支援するための研究
星 美和子	<ul style="list-style-type: none"> ・Self-Transcendence,Vulnerability,and Well-being in Hospitalized Japanese Elders
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔アセスメントと口腔ケアプランに関する研究
保田 玲子	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の地域参加と健康なまちづくりに関する研究
渡邊 由加利	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期にある夫婦に対する援助方法の検討 ・看護過程論の授業展開の工夫 ・看護実践能力育成教育としての目的客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－
太田 晴美	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護啓発活動を行うシステム作り－人材育成に焦点をあてて－ ・効果的な客観的臨床能力試験（OSCE）実施・運営を目指して－パーソナルコンピューターを活用したシステム構築－ ・大学が地域の病院と連携する意義
神島 滋子	<ul style="list-style-type: none"> ・脳損傷の認知機能障害スクリーニングツールの開発に向けた研究
河村 奈美子	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階各期における精神保健と看護
進藤 ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みを抱えた高齢者や積雪寒冷地域に居住する高齢者の健康生活に関する研究 ・老年看護教育に関する研究
多賀 昌江	<ul style="list-style-type: none"> ・出産に立ち会う夫の心理と育児期への影響
塚辺 蘭子	<ul style="list-style-type: none"> ・支援専門職のサポートに関する研究－北海道における産業看護職の実態－ ・子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処
照井 レナ	<ul style="list-style-type: none"> ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）の在宅療養者に対する家族のケアリング実践の様相
松村 寛子	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の育児支援に関する研究
三上 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・出産後の母親に対する禁煙指導－看護基礎教育における検討－
工藤 京子	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患患者の、患者会に対する期待と役割
小坂 美智代	<ul style="list-style-type: none"> ・外来治療を受けるがん患者への支援プログラム構築に向けた基礎的研究
鶴木 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・重曹による清拭が皮膚表面に与える影響
原井 美佳	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者看護と看護教育
福島 真里	<ul style="list-style-type: none"> ・二分脊椎児のライフステージからみた発達課題
渕本 雅昭	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床看護師の倫理的葛藤場面に対する認識について

4 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

研究代表者	研究課題
町田 佳世子	コミュニケーション能力評価方法の開発
齊藤 雅也	住環境情報の可視化がヒトの「感覚－行動」プロセスに与える影響
那須 聖	20世紀初期のロサンゼルスにおける健康理論の規範としての住宅建築：グリーン兄弟による住宅の現地調査を通した空間と理論の比較
山田 良	空間作品を通した地域再生に関する実践的研究／モエレ沼公園、大通り市街地（シャワー通り）、十勝千年の森のアートプロジェクトを通じて
スーディ神崎 和代	小規模多機能居住介護施設モデルの検証
村松 真澄	地域高齢者（札幌市）の口腔の健康と主観的幸福感に関する研究
多賀 昌江	夫立会い分娩における夫の心理と育児期への影響－札幌市における自宅出産と助産院での出産に焦点をあてて－
鶴木 恭子	重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響
渕本 雅昭	急性期における意識回復に向けた口腔ケアの実証的研究－複数の感覚刺激を用いて－

共同研究 ※P.73より一部再掲

教員名	研究課題
◎酒井 正幸 石崎 友紀 吉田 和夫 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 大瀬 一博 柿山 浩一郎 齊藤 雅也 片山 めぐみ 守村 洋	「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案：札幌市円山動物園を事例として
◎羽深 久夫 那須 聖 河野 總子 星 美和子	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究
◎大瀬 一博 横之津 淳子 吉川 由希子 太田 晴美	OSCE運営支援システムの開発
◎松浦 和代 細谷 多聞 齊藤 雅也 吉川 由希子 福島 真里	小児・母性看護学領域で活用できる感性教材モデルの開発と有用性の検討：造作模型を用いた新生児の「やわらかさ」「温もり」の再現
◎大野 夏代 細谷 多聞 横之津 淳子 三上 智子 鶴木 恭子	病室環境における看護作業の「快適性」実現のための提案型研究
◎渡邊 由加利 須田 恭子 吉川 由希子 工藤 京子 鶴木 恭子 渕本 雅昭	看護学教育における模擬患者（SP: Simulated Patient）養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価

◎印：研究代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
12	9	11	6	23	15

5 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	審査区分（交付元）	金額（円）
中村 恵子	看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	1,170,000
原 俊彦	札幌市の少子化：政令指定都市の出生率のシステム・ダイナミック・モデル構築	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	910,000
張 浦華	形態に対する快・不快反応の計測システムの構築	基盤研究B一般 (独日本学術振興会)	7,020,000
柿山 浩一郎	多様な学生層への対応が必要な大学全入時代の為の、理解度把握教育手法の開発	若手研究B (文部科学省)	780,000
三谷 篤史	フェムト秒レーザ加工表面を用いた対称振動輸送における微小物体のダイナミクスの解明	若手研究B (文部科学省)	1,690,000
樋之津 淳子	客観的臨床能力試験(OSCE)による卒業時看護技術到達度評価に向けた教授法の検証	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	1,040,000
守村 洋	精神障害者の地域生活における‘Empowerment’のあり方と援助の方向性	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	1,430,000
佐藤 公美子	占領期の看護管理政策に関する考察 -GHQ/SCAP文書による歴史的分析-	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	1,560,000
新納 美美	職員の精神的健康維持・増進に寄与する職場風土とその形成を促す保健活動に関する研究	若手研究B (文部科学省)	910,000
村松 真澄	薬剤を服用している地域自立高齢者の口腔の健康と主観的幸福感に関する研究	若手研究（スタートアップ） (独日本学術振興会)	1,651,000
河村 奈美子	動物との交流をめぐる認知症高齢者のコミュニケーションの発展性－縦断的観察から－	若手研究B (文部科学省)	1,430,000
進藤 ゆかり	帯状疱疹後神経痛を抱えた高齢者の慢性疼痛との共存の過程	基盤研究C一般 (独日本学術振興会)	1,950,000
塚辺 蘭子	メンタルヘルス問題事例の職場復帰の様相－事例性の構造化－	若手研究B (文部科学省)	1,040,000
松村 寛子	地域における母乳育児の継続に影響を与える要因の検討	若手研究B (文部科学省)	910,000

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額（円）
吉田 恵介	国際園芸博覧会補足調査・研究	札幌市市民まちづくり局	1,969,800
武邑 光裕	札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究	札幌市市民まちづくり局	4,788,000
齋藤 利明	「さつとう」のブランドを活かす流通パッケージデザインに関する研究	札幌市農業協同組合	200,000
酒井 正幸	感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究	札幌市環境局	1,040,000
羽深 久夫	シニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	札幌市南区	1,520,400
羽深 久夫	商店街の魅力向上の実現に向けたデザイン研究	札幌市経済局	997,500
望月 澄人	世界に向けて札幌市のPRを目的とするグリーティングカードの作成研究	札幌市総務局	28,000
矢部 和夫	自然体験ゾーン内の植物および動物に関する調査研究	札幌市環境局	420,000
吉田 和夫	東区役所案内サイン整備事業におけるユニバーサルデザインの提案	札幌市東区	433,125
那須 聖	札幌市景観施策普及のための展示計画に係る受託研究	札幌市市民まちづくり局	199,500

共同研究費

教員名	研究課題	共同研究先	金額（円）
酒井 正幸 細谷 多聞	中小製造業における戦略的デザイン活用支援ツールの開発	北海道立工業試験場	700,000
城間 祥之	携帯電話によるICタグ読取・情報表示システムの開発	NPO法人札幌ITフロント	300,000
矢部 和夫	北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究	北海道環境科学的研究センター	1,330,000

研究助成

教員名	研究課題	助成元	金額（円）
スーデイ神崎 和代	財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み－在宅ケア従事者間の連携促進－（※前年度より継続）	(財)在宅医療助成勇美記念財団	1,000,000
スーデイ神崎 和代	アルツハイマー型認知症の残余能力を生かす遅延策－新型アクティビティ・ツールによる介入の効果－	(財)北海道高齢者問題研究協会	717,329

6 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額（円）
中村 恵子	看護の資質向上のため	特定医療法人社団穎心会 心臓血管センター北海道大野病院	800,000
中村 恵子	札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため	医療法人札幌中央病院	300,000
中村 恵子	教育支援金	医療法人徳洲会札幌徳洲会病院	300,000
城間 祥之	人間にやさしいインターフェースを介した商品開発支援システムに関する研究	宇都宮大学	500,000
矢部 和夫	「ウトナイ湖の水位がハンノキの分布と成長に与える影響」に対する研究助成	(財)リバーフロント整備センター	1,000,000

7 海外研修記録

期間	教員名	目的国	目的
平成20年4月13日～19日	斎藤 雅也	オーストリア、オランダ	The 3rd Phase Expert Meeting of Annex49, ECBCS, IEA 招聘講演（ウィーン工科大学）及びThe LOWEX NL project会議（デルフト工科大学）出席
平成20年4月27日～5月1日	細谷 多聞	台湾	デジタルメディアを活用した台湾中部のクリエイティブ産業の発展に関する講演及びシンポジウム出席
平成20年5月16日～18日	原田 昭	韓国	2008 KSBDA International Spring Conferenceのシンポジウムでの招待講演
平成20年5月22日～28日	スーディ神崎 和代	アメリカ	アルツハイマー病に関する最新研究、ケア学会出席及びアルツハイマー施設見学
平成20年5月31日～6月8日	高室 典子 多賀 昌江	イギリス	第28回国際助産学学会参加・発表及びロンドン助産施設見学
平成20年7月8日～14日	武邑 光裕	スペイン、オーストリア、オランダ	サラゴサ万博日本館視察並びにICT研究者等との研究打合せ及び研究交流
平成20年7月30日～9月30日	エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	ドイツ、スイス、韓国、オランダ	各地展示会の準備及びワークショップ
平成20年8月17日～24日	村松 真澄	フィンランド	医療・保健・福祉視察及び応用科学大学視察
平成20年8月19日～26日	上遠野 敏	ドイツ	IBAエムシャーパークの地域再生の実例研究
平成20年8月21日～28日	三谷 篤史	アメリカ	2008年自動化における科学と工学に関する会議参加及び講演
平成20年9月1日～11日	羽深 久夫	スイス、フランス	スイス連邦工科大学における医療施設計画・設計調査及びベルン旧市街世界遺産・アヌシー市街歴史的建造物・ジュネーブ市街歴史的建造物の調査
平成20年9月14日～21日	スーディ神崎 和代	アメリカ	国際医療の質学会出席及び医療の質の専門家免許更新研修
平成20年9月18日～23日	片山 めぐみ	アメリカ	生態展示環境デザイン調査
平成20年9月20日～26日	河村 奈美子	チェコ	世界精神医学学会2008出席及び研究発表
平成20年9月21日～27日	村松 真澄	アメリカ	口腔ケアについての実態調査
平成20年10月4日～11日	城間 祥之	中国	Virtual Conceptに関する国際会議出席及び研究発表
平成20年10月16日～24日	吉田 恵介	イタリア、イギリス	庭園調査
平成20年10月17日～21日	宮崎 みち子	中国	第17回世界医事法学会出席
平成20年11月7日～16日	星 美和子	アメリカ	研究打合せ及び資料収集
平成20年11月16日～20日	三谷 篤史	アメリカ	SPIE 2008 International Symposium on Optmechatronic Technologies 参加及び発表
平成20年12月4日～10日	那須 聖	アメリカ	20世紀初期のロサンゼルスにおける健康理論の規範としての住宅建築に関する調査及び研究打合せ
平成20年12月18日～24日	吉田 恵介	アメリカ	国際園芸博覧会受託に伴うマーケットマネージメントとシェフィンザホスピタルプロジェクトのヒアリング調査

期間	教員名	目的国	目的
平成20年12月18日～26日	星 美和子	アメリカ	研究打合せ、資料収集及びBanner Good Samaritan Medical Centerの看護師への聞き取り調査
平成21年1月31日～3月30日	エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	ドイツ、スイス、オーストリア、フランス	各地展示会準備・オープニング出席、ベルリン映画祭及びワークショップ
平成21年2月10日～17日	羽深 久夫	ドイツ	ナースステーション及び医療施設設計画の調査
平成21年2月13日～20日	武邑 光裕	オランダ、デンマーク	欧州創造都市施策の検証並びに創造資本形成及び次世代著作権施策の調査研究
平成21年2月15日～16日	原田 昭	韓国	アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン打合せ
平成21年2月27日～3月6日	那須 聖	アメリカ	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究の海外事例調査
平成21年2月27日～3月9日	河野 総子	アメリカ、カナダ	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究の海外事例調査
平成21年2月27日～3月9日	星 美和子	アメリカ	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究の海外事例調査
平成21年3月2日～13日	佐藤 公美子	アメリカ	占領期の看護管理政策に関する研究調査
平成21年3月3日～9日	羽深 久夫	アメリカ、カナダ	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究の海外事例調査
平成21年3月13日～20日	山田 良	ノルウェー	ノルウェー日本大使館主催国際文化交流「茶室空間インスタレーション」制作及び講演
平成21年3月21日～29日	羽深 久夫	フィンランド	看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究の海外事例調査
平成21年3月24日～31日	坂倉 恵美子	シンガポール、インドネシア	アルツハイマー病国際学会出席及び市内施設視察
平成21年3月26日～31日	松井 美穂	アメリカ	Carson McCullers Film Festival参加及び現地図書館での資料調査

8 個人別業績一覧

デザイン学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
原田 昭	<p><学術論文></p> <p>1 鶴の形態嗜好における日本とタイの多面的比較感性モデル－チェンラーイ・沖縄における鶴形態に対する嗜好調査に基づく－</p> <p>2 鶴の形態研究における感性評価－チェンラーイ・沖縄の調査から－</p>	共著 共著	平成20年8月 平成20年11月	山階鳥類学雑誌、Vol.40 (2008)、No.1、pp.23-42 家禽資源研究会報、第11号 (2008)、pp.2-11
	<p><学会発表></p> <p>1 サービスの設計</p>	単独	平成21年2月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2009、第25回あいまいと感性研究部会ワークショップ講演論文集、pp.1-21
	<p><展覧会></p> <p>1 Preference Model of Muser Race</p> <p>2 Preference Model of Akha Race</p> <p>3 Preference Model of Taiyai Race</p> <p>4 Preference Model of Okinawa</p>	共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年8月 平成20年9月 平成20年10月	第1回アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン作品集、ソウル（作品制作の監修） 第2回アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン作品集、札幌（作品制作の監修） 第3回アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン作品集、台南（作品制作の監修） 第4回アジア・ネットワーク・ビヨンド・デザイン作品集、天津（作品制作の監修）
吉田 恵介	<p><その他の論文></p> <p>1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－</p>	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<p><研究報告書></p> <p>1 国際園芸博覧会補足調査・研究</p>	共著	平成21年3月	受託研究費研究成果報告書
	<p><学会発表></p> <p>1 農と食のまちづくり</p> <p>2 病院施設アプローチ空間の癒し景観評価</p>	単独 共同	平成20年8月 平成21年2月	平成20年度日本造園学会北海道支部大会研究・事例報告発表会 第9回癒しの環境研究会全国大会
武邑 光裕	<p><研究報告書></p> <p>1 札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究業務</p>	共著	平成21年3月	平成20年度札幌市受託研究費報告書
	<p><学会発表></p> <p>1 事故行動予防および医療コミュニケーションにおける教育のありかた</p>	単独	平成20年6月	日本予防医学リスクマネジメント学会北海道地方会、第2回医療安全フォーラム2008in北海道

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
武邑光裕	<入選・受賞> 1 平成19年度北海道総合通信局長賞受賞（地域文化の創造資本形成と地域映像コンテンツ流通研究の功績に対して）		平成20年6月	北海道総合通信局
	<著書> 1 わくわくゴロリのうごく虫をつくろう	共著	平成20年6月	(株)日本放送出版協会、pp.1-64
	<研究報告書> 1 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 製品造形論授業への学習意欲向上補助教材 2 プラモデルパッケージの道具的性能 3 動物型ロボット玩具の開発	単独 単独 共同	平成20年6月 平成21年1月 平成21年1月	日本デザイン学会誌第55回研究発表大会概要集「デザイン学研究2008」、pp.370-371 道具学会2008年度研究発表フォーラム 道具学会2008年度研究発表フォーラム
	<その他の図書> 1 NHKテレビテキストつくってあそぼ4～8月 2 NHKテレビテキストつくってあそぼ9～12月 3 NHKテレビテキストつくってあそぼ1～3月	共著 共著 共著	平成20年4月 平成20年9月 平成21年1月	(株)日本放送出版協会 (株)日本放送出版協会 (株)日本放送出版協会
石崎友紀	<パネル発表> 1 私の十八番（おハコ）	単独	平成20年11月	道具学会・ハコモノ研究会共催フォーラム
	<作品発表> 1 金属の器 2 錫とアクリルの器 3 ステンレスのテーブルウエア 4 銀とアクリルのジュエリー 5 錫の箱 6 「おもちゃの星」コーナーセットデザイン 7 テーブルウエア	単独 単独 単独 単独 単独 共同 単独	平成20年5月 平成20年5月 平成20年6月 平成20年12月 平成20年12月 平成21年1月 平成21年2月	サッポロクラフト2008 第26回朝日現代クラフト展（歴代グランプリ受賞作家招待作品） (社)日本クラフトデザイン協会会員展「夏の風情 蚊遣り・風鈴・一輪挿し」 2008 Contemporary Jewelry 小筐展～ひみつのはこ～ ETV50（NHK教育テレビ開局50年特別番組）あつまれ！キッズソング50～スプー・ワンワン宇宙の旅～ 第6回日本のクラフト・九州のクラフト
	<入選・受賞> 1 入選・2008伊丹国際クラフト展 2 入選・第48回日本クラフト展		平成20年9月 平成21年1月	伊丹市、(財)伊丹市文化振興財団 (社)日本クラフトデザイン協会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
上遠野 敏	<p><作品発表></p> <p>1 地の塩・・世の光 2 Wind and Seed 12 Years</p> <p>3 Icon B (イコンBEUYS) 耕地のドローイング MilkyWay 自然の保護 シャイなL・H・O・O・Q 泉 六地蔵苔のむすまで 鏡像：フラ・アンジェリコ 鏡像：オフィーリア</p>	単独 単独 単独	平成20年5月 平成20年7月 平成20年11月	サッポロ・アート、CAI02(札幌) アジアプリントアドベンチャー'08inおといねっぷ、高橋昭五郎彫刻の館(音威子府)、 「アジアプリントアドベンチャー inおといねっぷ」展実行委員会 FIX・MIX・MAX!2、ギャラリー門馬・札幌宮の森美術館・CAI02(札幌)、FIX・MIX・MAX!実行委員会
	<p><アートディレクター></p> <p>1 札幌三井ビル仮囲いデザイン 2 円山ZOO LOHASナイトのキャンドルアート 3 地下鉄東西線6000形車両さよならイベント「キャンバストレイン」のデザイン 4 北海道庁赤れんがワインラベル及び関連グッズ開発 5 受動喫煙による健康被害の知識普及に関するポスター</p>	単独 単独 単独 単独 単独	平成20年6月 平成20年6月 ～8月 平成20年7月 平成20年10月 ～12月 平成21年2月	札幌三井ビル、札幌市・三井不動産㈱・㈱北海道博報堂・札幌市立大学(産学デザイン実験プロジェクト) 札幌市円山動物園、6回開催、(有)インターネットジャパン・札幌市円山動物園 札幌市営地下鉄東西線、札幌市交通局・札幌市立大学(官学デザイン実験プロジェクト) 北海道庁赤れんがストア、(株)小六・札幌市立大学(産学デザイン実験プロジェクト) 札幌市北区健康づくり協議会・札幌市立大学(官学デザイン実験プロジェクト)
	<p><その他></p> <p>1 「アートによる炭鉱遺産空間と地域の再生」パネルディスカッション 2 札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」第2号 企画制作編集長</p>	共同 共同	平成20年5月 平成20年12月	平成20年度日本造園学会全国大会 札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」、第2号、pp.1-16
齋藤 利明	<p><著書></p> <p>1 現代日本のクラフトVol.2</p> <p><作品></p> <p>1 創作人形「あやとり」 2 創作人形「紫陽花（あじさい）」</p>	共著 単独 単独	平成20年11月 平成20年5月 平成20年5月	ARTBOXインターナショナル、 pp.32-33 公募 第24回人形道展、札幌市民ギャラリー 公募 第24回人形道展、札幌市民ギャラリー

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究審議会会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
齋藤利明	<作品> 3 環境モニュメント「割りば木」 4 創作人形「葵（あおい）」 5 創作人形「胡桃（くるみ）」 6 創作人形「コナ」 7 創作人形「玉藻Ⅱ」 8 創作人形「祈り」	共同 単独 単独 単独 単独 単独	平成20年8月 平成21年2月 平成21年2月 平成21年2月 平成21年2月 平成21年2月	札幌テレビ放送㈱「24時間テレビ」、イオン札幌発寒ショッピングセンター マリヤギャラリー（札幌市） マリヤギャラリー（札幌市） マリヤギャラリー（札幌市） マリヤギャラリー（札幌市） マリヤギャラリー（札幌市）
	<入選・受賞> 1 入選		平成20年5月	第24回人形道展
酒井正幸	<学術論文> 1 ラフ集合理論と区間AHP法を用いたユーザビリティ評価手法の提案 2 高齢者による操作用語の理解度評価と修辞法的属性分析 3 札幌市円山動物園・類人猿館改修デザイン 4 「円山動物園の森」ビオトープ計画のための円山地区に分布する森林群落の評価	共著 共著 共著 共著	平成20年12月 平成21年1月 平成21年2月 平成21年3月	日本感性工学会論文集、第8巻第1号、pp.197-205 日本感性工学会論文集、第8巻第2号、pp.399-406 日本建築学会技術報告集、第15巻No.29、pp.207-210 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.19-25
	<研究報告書> 1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (2) 高揚感・癒しに関する基礎的研究 2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－	共著 共著	平成21年2月 平成21年3月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第1報）：弟路郎ファミリーシステムの概要 2 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第2報）：弟路郎ファミリーシステムのハードウェア・ソフトウェア構築 3 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第3報）：弟路郎ファミリーシステムの実証実験 4 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価（第1報） 5 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価（第2報）	共同 共同 共同 共同 共同	平成20年6月 平成20年6月 平成20年6月 平成20年8月 平成20年11月	日本デザイン学会55回大会 日本デザイン学会55回大会 日本デザイン学会55回大会 平成20年度日本人間工学会看護人間工学部会大会 平成20年度日本人間工学会北海道支部大会
城間祥之	<著書> 1 デジタルスタイルデザイン	共著	平成20年12月	海文堂出版、pp. 205-222
	<学術論文> 1 A Prototype Manufacturing Process for A Health Care IT Appliance-A Case Study on An Artery Pulse Monitoring System (APMOS) -	共著	平成20年10月	Proc. International Conference on IDMME Virtual Concept 2008, APIAHD_P126, pp.1-12 (CD-ROM出版)

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
城間祥之	<p><その他の論文></p> <p>1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告 －デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－</p>	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<p><学会発表></p> <p>1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告 －デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－</p> <p>2 パッケージデザインによる商品の付加価値創造 －果実ペースト氷菓「よいちの恵み」の場合－</p> <p>3 ログ情報を利用した知的ケアシステムに関する基礎的研究</p> <p>4 パッケージデザインによる商品の付加価値創造 －果実ペースト氷菓「よいちの恵み」のデザインとその評価－</p>	単独 共同 共同 共同	平成20年9月 平成21年2月 平成21年2月 平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会 日本感性工学会感性フォーラム札幌2009 (社)映像情報メディア学会メディア工学研究会 第5回日本感性工学会春季大会
	<p><学術講演></p> <p>1 A Project Research On Esthetic Design of Housing, Interface Design, and Rapid Prototyping for IT Appliances-A Challenge of Sapporo IT Carrozzeria-</p> <p>2 感性的観点からの札幌版：IT機器開発の現状と展望 －心に訴求する筐体とインターフェースのデザインについて－</p>	単独 単独	平成20年10月 平成20年12月	北京科技大学情報工学科特別講演会 宇都宮大学テクノフォーラム21 人間情報科学研究会第13回特別講演会
杉哲夫	<p><学術論文></p> <p>1 A Prototype Manufacturing Process for A Health Care IT Appliance-A case Study on An Artery Pulse Monitoring System(APMOS)-</p>	共著	平成20年10月	Proc.International Conference on IDMME Virtual Concept 2008, APIAH_D_P126, pp.1-12 (CD-ROM出版)
中原宏	<p><学術論文></p> <p>1 札幌市における地域別高齢化の特性に関する考察 －国勢調査データによる市街地構造分析をとおして－</p>	単著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.45-51
羽深久夫	<p><学術論文></p> <p>1 北海道における近代和風建築の特徴</p> <p><研究報告書></p> <p>1 シニアックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究</p> <p>2 商店街の魅力向上の実現に向けたデザイン研究</p> <p><展覧会></p> <p>1 上遠野徹 鉄骨の住宅展</p> <p><その他></p> <p>1 「古民家と札幌の暮らしを考えてみよう」インタビュー記事掲載</p> <p>2 芸術の森地区「雪あかりの祭典」ARTOU記事監修</p>	共著 共著 共著 共同	平成20年6月 平成21年3月 平成21年3月 平成20年11月 ～12月	日本建築学会北海道支部研究報告集No.81、pp.373-380 平成20年度札幌市受託研究費報告書 平成20年度札幌市受託研究費報告書 (株)上遠野建築事務所 La Chieriatte VOL.4 みんなら第58号

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
原俊彦	<学術論文> 1 ドイツの少子化と家族政策の転換 2 札幌市の少子化：日本の政令指定都市の中で見た人口学的特徴 3 Increasing Childlessness in Germany and Japan: Toward a Childless Society? 4 無子の増加－ドイツと日本の比較	単著 単著 単著 単著	平成20年5月 平成20年11月 平成20年12月 平成21年3月	人口学研究 第42号、pp.41-55 人口学研究 第43号、pp.21-35 International Journal of Japanese Sociology (IJJS), Vol.17, pp.42-64 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.5-18
	<その他の論文> 1 北海道の少子化と人口減少：地域社会の持続可能性	単著	平成20年11月	北海道小児保健研究会会誌、平成20年度、pp.2-8
	<学会発表> 1 札幌市の少子化：日本の政令指定都市の中で見た人口学的特徴 2 ドイツと日本における無子の増加－子どものいない社会へ？－ 3 札幌市の少子化：その特徴と要因－出生力の地域格差を考える 4 人口構造と地方都市：札幌市とフライブルク市のマクロ社会学的比較	単独 単独 単独 単独	平成20年10月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月	第60回日本人口学会要旨集、p.86 第81回日本社会学会大会 ドイツ－日本研究所国際シンポジウム「少子化問題と格差社会－日独比較」 第2回日独国際会議・少子高齢社会と家族のための総合政策
	<その他> 1 地域人口の将来	単著	平成20年10月	(財)厚生統計協会「平成20年度 社会保障・人口問題基礎講座 資料」、pp.309-325
	2 新刊短評：ヨーゼフ・エーマー著、若尾祐司・魚住明代訳「近代ドイツ人口史：人口学研究の傾向と基本問題」	単著	平成20年11月	人口学研究 第43号、pp.77-78
	<その他の論文> 1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<作品発表> 1 天国の庭2008 (Animation作品) 2 [オブジェ：閉じ込められた蟹肉] の廃墟 (Animation作品) 3 fruits 01 4 fruits 02	単独 単独 単独 単独	平成20年9月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年9月	第4回地球色展、府中市美術館 第4回地球色展、府中市美術館 第4回地球色展、府中市美術館 第4回地球色展、府中市美術館

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
矢部和夫	<学術論文> 1 樹体の内部形態をもとにしたハンノキの株年齢の判読とハンモック形成過程の推定 2 「円山動物園の森」ビオトープ計画のための円山地区に分布する森林群落の評価	共著	平成21年3月	日本生態学会誌、第59巻、pp.83-89
	<その他の論文> 1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告 －デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.19-25 第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<研究報告書> 1 重点領域特別研究北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究	共著	平成21年3月	平成20年度北海道環境科学研究センター共同研究費報告書
	<学会発表> 1 釧路湿原南部から南西部におけるハンノキの大きさ、現存量、形態と年輪成長、およびハンノキ林の出現を調節する環境要因 2 年輪判読によって推定されたウトナイ湖北西岸におけるハンノキ林の成立過程	単独 共同	平成20年10月 平成21年3月	日本陸水学会札幌大会 日本生態学会盛岡大会
吉田和夫	<研究報告書> 1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 （3）札幌市円山動物園デザインルールインデックス 2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－	共著 共著	平成21年2月 平成21年3月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書
	<その他> 1 札幌市立大学VI関連デザイン制作 ・表紙デザイン 札幌市立大学研究論文集第3巻第1号、札幌市立大学年報平成19年度第2号、リクルートガイドブック、学生募集要項 ・展示パネル 「SAPPRO DESIGN WEEK 2008」（日本生命札幌ビル）、「デザインスクールリーグ2008デザインと新価値創造展」（東京ミッドタウン・デザインハブ）、オープンキャンパス ・掲載広告およびパンフレット等 北海道新聞半5段広告、オープンキャンパス配布資料、「デザインスクールリーグ2008デザインと新価値創造展」パンフレット等協賛広告等々の制作	単独	平成20年4月 ～平成21年3月	
	2 「札幌市立高等専門学校卒業・修了制作展'09」 A2ポスター、A4リーフレット	単独	平成21年1月	札幌市立高等専門学校
	3 東区役所案内サイン整備事業におけるユニバーサルデザインの提案	共同	平成21年3月	札幌市東区受託研究
	4 「卒業・修了制作作品図録2009」編集デザイン	単独	平成21年3月	札幌市立高等専門学校後援会

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<図録等>			
	1 Biennale Cuvée	共著	平成20年4月	OK Center for Contemporary Art Linz, Austria
	2 Selective Knowledge	共著	平成20年4月	National Bank of Greece Cultural Foundation, MIET, Athen
	3 Blind Spots	共著	平成20年5月	JRP Ringier, Zürich
	4 Modern Ruin	共著	平成20年7月	Museum of Modern Art, Brisbane
	5 Speicher fast voll-Sammeln und Ordnen in der Gegenwartskunst	共著	平成20年9月	Kunstmuseum Solothurn
	6 The 7 th Gwangju Biennale 2008	共著	平成20年9月	Gwangju Biennale Foundation, Gwangju, Korea
	7 Der blinde Fleck	共著	平成20年9月	RealismusStudio der NGBK, Berlin
	8 Biennale Cuvée 2009	共著	平成21年2月	OK Offenes Kulturhaus, Oberösterreich, Linz
	9 The view from elsewhere	共著	平成21年3月	Sherman Contemporary Art Foundation, Queensland Art Gallery, Sydney/Brisbane
	<展覧会>			
エルサニマロアン	1 Berlin sunrise(10 sec.Thinking about the future)	共同	平成20年4月 ～5月	QUOBO Kunst in Berlin 1989-1999, Museo de Arte, Lima
	2 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月 ～7月	Selective Knowledge, Institute for Contemporary Art and Thought, Athen
	3 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	Trieste Contemporanea, Trieste
	4 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	Interval 08 Manchester
	5 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	7 th Courtisane Festival 2008 KunstenCentrum Vooruit & Sphinx Cinema, Gent
	6 "The Rise" -film screening	共同	平成20年6月	Art Basel-Art Film Stadtkino Basel
	7 Palace of the Republic-film installation	共同	平成20年7月 ～10月	Modern Ruin, Queensland Art Gallery Gallery of Modern Art, Brisbane
	8 Klub 2000-film screening	共同	平成20年9月 ～現在に至る	Vertrautes Terrain-Aktuelle Kunst in und über Deutschland ZKM Museum für Neue Kunst
	9 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成20年9月 ～11月	7 th Gwangju Biennale General Artistic Director : Okwui Enwezor
	10 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年9月 ～11月	Speicher fast voll Kunstmuseum Solothurn
	11 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成20年9月 ～11月	Nina Fischer & Maroan el Sani Galerie Eigen+Art, Leipzig
	12 TME Tokyo Metropolitan Expressway-film installation	共同	平成20年11月 ～平成21年3月	Urban Reflections StillsGallery, Edinburgh
	13 Aura Research-Photography	共同	平成20年12月 ～平成21年2月	Light InSight NTT/ICC, Tokyo

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
エルサニマロアン	<展覧会>			
	14 10 sec.Thinking about the future,Film installation	共同	平成21年1月 ～2月	Snowscape Moere IV
	15 Spelling Dystopia-film installation “The Rise” - film installation	共同	平成21年2月 ～5月	Moerenuma Park Sapporo Nina Fischer & Maroan el Sani Kunsthaus Glarus
	16 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成21年2月 ～5月	Biennale Cuvee OK, Center for Contemporary Art, Linz
	17 xoo-film installation	共同	平成21年3月 ～7月	Europe XXL-Frontières Invisibles Tri Postal,Lille curated by Iara Boubnova
	18 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成21年3月 ～6月	The view from elsewhere curated by Kathryn Weir Sherman Contemporary Art Foundation (SCAF) Sydney
武田亘明	19 Klub 2000 film screening	共同	平成21年3月 ～5月	Art and Publicity : 40 Years n.b.k. Neuer Berliner Kunstverein, Berlin
	<学術論文>			
	1 情報社会に生きる市民のための7つの能力に関する尺度の開発と評価	共著	平成20年11月	富山大学人間発達科学部紀要、第3巻第1号、pp.121-130
	<研究報告書>			
	1 札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究業務	共著	平成21年3月	平成20年度札幌市受託研究費報告書
	<学会発表>			
張浦華	1 情報社会で生きる「7つの能力」の研究－初等中等教育における「7つの能力」の育成カリキュラムの検討－	共同	平成20年11月	第34回全日本教育工学研究協議会全国大会三重大会研究発表論文集、A-05 (CD-ROM版)
	<講演>			
	1 ネット社会における子どもたちの育成と大人の役割～ネットトラブルから子どもたちを守るために～	単独	平成20年9月	平成20年度 第42回白老町PTA研究大会
	2 ネットに潜む危険から～子どもたちを守るために～	単独	平成20年11月	札幌市PTA協議会南区PTA連合会教育問題講演会
	3 インターネット等情報の危機と地域教育力	単独	平成21年2月	標津町教育委員会「インターネット等有害情報から子どもを守る講演会」
	<研究報告書>			
張浦華	1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (2)高揚感・癒しに関する基礎的研究	共著	平成21年2月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書
	2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表>			
	1 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第3報）：弟路郎ファミリーシステムの実証実験	共同	平成20年6月	第55回日本デザイン学会春季研究発表大会

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
フィッシャーニーナ	<図録等>			
	1 Biennale Cuvée	共著	平成20年4月	OK Center for Contemporary Art Linz, Austria
	2 Selective Knowledge	共著	平成20年4月	National Bank of Greece Cultural Foundation, MIET, Athen
	3 Blind Spots	共著	平成20年5月	JRP Ringier, Zürich
	4 Modern Ruin	共著	平成20年7月	Museum of Modern Art, Brisbane
	5 Speicher fast voll-Sammeln und Ordnen in der Gegenwartskunst	共著	平成20年9月	Kunstmuseum Solothurn
	6 The 7 th Gwangju Biennale 2008	共著	平成20年9月	Gwangju Biennale Foundation, Gwangju, Korea
	7 Der blinde Fleck	共著	平成20年9月	RealismusStudio der NGBK, Berlin
	8 Biennale Cuvée 2009	共著	平成21年2月	OK Offenes Kulturhaus, Oberösterreich, Linz
	9 The view from elsewhere	共著	平成21年3月	Sherman Contemporary Art Foundation, Queensland Art Gallery, Sydney/Brisbane
<展覧会>	1 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月 ～7月	Selective Knowledge, Institute for Contemporary Art and Thought, Athen
	2 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	Trieste Contemporanea, Trieste
	3 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	Interval 08 Manchester
	4 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年4月	7 th Courtisane Festival 2008
	5 Berlin sunrise(10 sec.Thinking about the future)	共同	平成20年4月 ～5月	Kunstencentrum Vooruit & Sphinx Cinema, Gent
	6 Klub 2000-film screening	共同	平成20年5月 ～9月	QUOBO Kunst in Berlin
	7 “The Rise” -film screening	共同	平成20年6月	1989-1999, Museo de Arte, Lima
	8 Palace of the Republic-film installation	共同	平成20年7月 ～10月	Vertrautes Terrain-Aktuelle Kunst in und über Deutschland ZKM Museum für Neue Kunst
	9 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成20年9月 ～11月	Art Basel-Art Film Stadtkino Basel
	10 Toute la memoire du monde-film screening	共同	平成20年9月 ～11月	Modern Ruin, Queensland ArtGallery Gallery of Modern Art, Brisbane

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
フィッシャーニーナ	<展覧会>			
	11 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成20年9月 ～12月	Nina Fischer & Maroan el Sani Galerie Eigen+Art, Leipzig
	12 TME Tokyo Metropolitain Expressway-film installation	共同	平成20年11月 ～平成21年3月	Urban Reflections Stills Gallery, Edinburgh
	13 Aura Research-Photography	共同	平成20年12月 ～平成21年2月	Light InSight NTT/ICC, Tokyo
	14 10 sec.Thinking about the future,Film installation	共同	平成21年1月 ～2月	Snowscape Moere IV Moerenuma Park Sapporo
	15 Spelling Dystopia-film installation “The Rise” - film installation	共同	平成21年2月 ～5月	Nina Fischer & Maroan el Sani Kunsthaus Glarus
	16 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成21年2月 ～5月	Biennale Cuvee OK, Center for Contemporary Art, Linz
	17 xoo-film installation	共同	平成21年3月 ～7月	Europe XXL-Frontières Invisibles Tri Postal, Lille curated by Iara Boubnova
	18 Spelling Dystopia-film installation	共同	平成21年3月 ～6月	The view from elsewhere curated by Kathryn Weir Sherman Contemporary Art Foundation (SCAF) Sydney
	19 Klub 2000 film screening	共同	平成21年3月 ～5月	Art and Publicity : 40 Years n.b.k. Neuer Berliner Kunstverein, Berlin
細谷多聞	<研究報告書>			
	1 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表>			
	1 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第1報）：弟路郎ファミリーシステムの概要	共同	平成20年6月	デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.246-247
	2 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第2報）：弟路郎ファミリーシステムのハードウエア・ソフトウェア構築	共同	平成20年6月	デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.248-249
	3 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第3報）：弟路郎ファミリーシステムの実証実験	共同	平成20年6月	デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.250-251
	4 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第1報 必要要件の分析	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会講演集、28卷、p.233
	5 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第2報 感性的没入感を演出するための設計条件	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会講演集、28卷、p.233

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究審議会会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
細谷 多聞	<p><その他></p> <p>1 国際デザイン展示会の展示計画と展示制作 ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2008</p> <p>2 研究活動展示「新生児型感性教材モデルの開発」</p>	共同	平成20年8月 平成21年3月	ANBD2008日本、札幌市立大学芸術の森キャンパス、平成20年8月20日～27日 北海道ビジネスフォーラム2009、北海道銀行、道銀・日経ベンチャー経営者クラブ、日経BP社・「日経ベンチャー」経営者クラブ、ロイトン札幌、平成21年3月3日
町田 佳世子	<p><学術論文></p> <p>1 コミュニケーション能力、ストレス対処、意欲の関連</p> <p><研究報告書></p> <p>1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (2) 高揚感・癒しに関する基礎的研究</p> <p>2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－</p> <p><学会発表></p> <p>1 コミュニケーション能力とコミュニケーションストレス対処の関連</p> <p>2 コミュニケーション能力の構成要素</p>	単著 共著 共著 単独 単独	平成21年3月 平成21年2月 平成21年3月 平成20年7月 平成20年10月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.35-44 平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書 日本コミュニケーション学会第38回年次大会プロシーディングス、pp.7-8 日本コミュニケーション学会北海道支部第17回支部研究大会
大渕 一博	<p><研究報告書></p> <p>1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (3) 札幌市円山動物園デザインルールインデックス</p> <p>2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－</p> <p><学会発表></p> <p>1 動画像を対象とした色彩分析ソフトウェアの開発</p> <p>2 客観的臨床能力試験(OSCE)運営支援システムの開発－看護学部OSCEにおける取り組み－</p> <p><その他></p> <p>1 OSCEタイマー・OSCE実施支援システムの開発</p>	共著 共著 共同 共同 共同	平成21年2月 平成21年3月 平成20年9月 平成20年12月 平成21年2月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書 第10回日本感性工学会大会 平成20年度情報教育研究集会 札幌市立大学
柿山 浩一郎	<p><研究報告書></p> <p>1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (2) 高揚感・癒しに関する基礎的研究、(3) 札幌市円山動物園デザインルールインデックス</p> <p>2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案－札幌市円山動物園を事例として－</p> <p>3 ユニバーサルデザイン的視点に基づくサイン計画に関する調査</p>	共著 共著 共著	平成21年2月 平成21年3月 平成21年3月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書 平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書(補足資料)、pp.29-36

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
柿山 浩一郎	<p><学会発表></p> <p>1 講義科目における、理解度把握講義システムの活用報告</p> <p>2 講義科目における、理解度把握講義システムの活用と印象調査報告</p>	単独	平成21年2月 平成21年3月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2009 第5回日本感性工学会春季大会・KEER2009予稿集、24D-06、p.28 (CD-ROM版)
	<p><学術論文></p> <p>1 札幌市円山動物園・類人猿館改修デザイン</p>	共著	平成21年2月	日本建築学会技術報告集、第15巻No.29、pp.207-210
	<p><研究報告書></p> <p>1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (1) 魅力ある生態展示デザインの研究、(3) 札幌市円山動物園デザインルールインデックス</p> <p>2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案-札幌市円山動物園を事例として-</p>	共著 共著	平成21年2月 平成21年3月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書
齊藤 雅也	<p><学会発表></p> <p>1 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第1報）：弟路郎ファミリーシステムの概要</p> <p>2 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第2報）：弟路郎ファミリーシステムのハードウェア・ソフトウェア構築</p> <p>3 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究（第3報）：弟路郎ファミリーシステムの実証実験</p> <p>4 ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する研究（その2.環境調整行動インデックス(EBI)と人体エクセルギー消費）</p> <p>5 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第1報 必要要件の分析</p> <p>6 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第2報 感性的没入感を演出するための設計条件</p> <p>7 北海道の住まいの冬季の居間室温と服装に関する研究</p> <p>8 住まい手の温度感覚と環境調整行動の解明</p>	共同 共同 共同 単独 共同 共同 共同 単独	平成20年6月 平成20年6月 平成20年6月 平成20年9月 平成20年12月 平成20年12月 平成21年2月 平成21年2月	<p>デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.246-247</p> <p>デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.248-249</p> <p>デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.250-251</p> <p>日本建築学会2008年度大会(中国) 学術講演梗概集 環境工学(D-2)、pp.599-600</p> <p>第28回日本看護科学学会学術集会講演集、28巻、p.233</p> <p>第28回日本看護科学学会学術集会講演集、28巻、p.233</p> <p>日本感性工学会感性フォーラム札幌2009、第25回あいまいと感性研究部会ワークショッピング講演論文集、pp.27-28</p> <p>日本感性工学会感性フォーラム札幌2009、第25回あいまいと感性研究部会ワークショッピング講演論文集、pp.31-32</p>
	<p><招聘講演></p> <p>1 Human Environmental Behavior and Human Exergy Consumption</p>	単独	平成20年4月	The 3rd Phase Expert Meeting of Annex49, ECBCS (Energy Conservation of Building Community Systems), IEA (International Energy Agency) invited speaker

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
齊藤 雅也	<p><作品></p> <p>1 札幌市円山動物園 類人猿館屋外放養場（基本設計および実施設計監修）</p> <p>2 札幌市円山動物園 園内環境共生カフェ（設計監修）</p> <p>3 札幌市円山動物園 類人猿館屋内展示場の色彩計画（監修）</p> <p>4 札幌市円山動物園 新爬虫類館（仮称）の基本設計</p>	共同 単独 単独 共同	平成20年4月 平成20年7月 平成21年2月 平成21年2月	札幌市円山動物園 札幌市円山動物園、北海道コカ・コーラボトリング(株) 札幌市円山動物園 札幌市円山動物園
齊藤 雅也	<p><パネル出展></p> <p>1 環境教育の拠点としての動物園のグランドデザイン「ビフォーアフター動物園」の実証実験</p> <p>2 動植物の魅力を伝えるデザイン（札幌市円山動物園での取組事例）</p> <p>3 研究活動展示「新生児型感性教材モデルの開発」</p>	共同 共同 共同	平成20年6月、平成20年8月 平成20年8月 平成21年3月	・北海道洞爺湖サミット記念「環境総合展」、札幌ドーム ・札幌デザインウイーク2008、日本生命札幌ビル特設ギャラリー デザインスクールリーグ2008 デザインと新価値創造展、東京ミッドタウン・デザインハブ 北海道ビジネスフォーラム2009、北海道銀行、道銀・日経ベンチャー経営者クラブ、日経BP社・「日経ベンチャー」経営者クラブ、ロイトン札幌、平成21年3月3日
那須 聖	<p><メディア紹介></p> <p>1 エコで快適な暮らし～子どもたちに環境教育を～</p> <p>2 ネットで観察 動物身近に「円山」のサービス好評</p> <p>3 「nature cafe EARTH」オープン</p> <p>4 「打ち水」の熱的効果</p> <p>5 「ウォームビズ・プロジェクト」の紹介</p> <p>6 寒冷地ほど薄着、暖房強い家庭内 俗説実証・女性に顕著</p>	単独 共同 単独 単独 単独 共同	平成20年4月 平成20年5月 平成20年7月 平成20年8月 平成21年1月 平成21年2月	北海道建設新聞、平成20年4月10日、朝刊3面 北海道新聞、平成20年5月29日、朝刊1面 朝日新聞・フジサンケイビジネスアイ（いずれも平成20年7月30日） 北海道テレビ放送㈱「イチオシ！」平成20年8月8日放映 千歳民報・苦小牧民報、平成21年1月21日版 北海道新聞、平成21年2月16日、朝刊24面（札幌版）
那須 聖	<p><その他></p> <p>1 「環境感覚」を活かすモノの開発と暮らしの技術 －自然エネルギーの利用を計画するための一つの鍵－</p> <p>2 北海道の環境ポテンシャルを生かすくつくる技術・使う技術></p>	単独 単独	平成20年4月 平成20年8月	建築設備と配管工事4月号(巻頭言)、pp.5-8 ランドスケープデザインNo.62、2008年10月号、pp.20-22
那須 聖	<p><学術論文></p> <p>1 形式と図式、その先を考える</p> <p><展示></p> <p>1 札幌の景観色70色</p>	単著 共同	平成20年9月 平成20年9月	2008年度日本建築学会大会（中国）計画系研究懇談会寄稿論文、pp.45-46 札幌地下街ふれあい広場

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
福田 大年	<p><作品></p> <p>1 ぐるぐる</p> <p>2 札幌ADC年鑑2007</p> <p>3 FLY</p>	共同 共同 共同	平成20年4月 平成20年5月 平成20年11月	札幌テレビ放送㈱・(財)北海道環境財団、2008年STV創立50周年記念環境キャンペーン「for your child こどものために いまできること」第1弾企画「あしたの森プロジェクト」携帯待ち受けチャリティーコンテンツ 札幌アートディレクターズクラブ、付属CD-ROMの制作 日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA) 北海道地域、合同展覧会WE LOVE HOKKAIDO 2008「タイポグラフィの実験室」ポスター制作
	<入選・受賞>		平成20年9月	札幌アートディレクターズクラブ
	<p>1 札幌アートディレクターズクラブ コンペティション&アワード2008 TV-CM・映像・モーショングラフィック部門銀賞 (作品:札幌ADC年鑑2007「CD-ROMオープニング」FD、PRG担当)</p>			
松井 美穂	<学術論文>	単著	平成20年6月	北海道英語英文学、第53号、pp.15-26
三谷 篤史	<p><学術論文></p> <p>1 Analysis of Contact between Feeder Surface and Microparts Based on Measurements for Microparts Feeder Using an Asymmetric Surface</p> <p>2 Feeding of Submillimeter Microparts Along an Asymmetric Fabricated Surface by Double-Pulsed Femtosecond Laser Process</p> <p>3 Feeding of Submillimeter-sized Microparts along an Asymmetric Surface Using Only Horizontal Vibration: Evaluation of Micro-Fabricated Surface Using Femtosecond Laser Process</p> <p>4 Application of Asymmetric Surface Fabricated by Femtosecond Laser Process for Microparts Feeding</p> <p>5 Submillimeter Micropart Feeding Along an Asymmetric Femtosecond-Laser-Microfabricated Surface</p>	共著 共著 共著 共著 共著	平成20年8月 平成20年8月 平成20年9月 平成20年11月 平成21年3月	<p>Procs.4th IEEE Conference on Automation Science and Engineering</p> <p>Procs. Asia International Symposium on Mechatronics 2008 (AISM2008)</p> <p>Procs.IEEE/RSJ 2008 International Conference on Intelligent RObots and Systems (IROS2008)</p> <p>Procs.SPIE International Symposium on Optomechatronic Technologies (ISOT 2008)</p> <p>International Journal of Automation Technology, Vol.3, No.2, pp.151-156</p>

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
三谷 篤史	<その他の論文> 1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<研究報告書> 1 微小物体輸送におけるトライボロジ特性を考慮したダイナミクスの解明	単著	平成20年5月	平成18年度文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))研究成果報告書
	<学会発表> 1 非対称な形状を有する表面によるサブミリサイズマイクロパーツの水平対称振動輸送－フェムト秒レーザ・ダブルパルス加工表面とマイクロパーツの接触解析－	共同	平成20年6月	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2008 (ROBOMEC2008)
	2 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究(第2報)：弟路郎ファミリーシステムのハードウェア・ソフトウェア構築	共同	平成20年6月	デザイン学研究日本デザイン学会研究発表大会概要集(55)、pp.248-249
	3 のこぎり歯形状を有する表面によるサブミリサイズマイクロパーツの水平対称振動輸送～フィーダ表面における摩擦の方向性に関する検証～	共同	平成20年9月	2008年度精密工学会秋季大会
	4 非対称形状表面によるマイクロパーツの対称振動輸送 第7報：フェムト秒レーザ加工表面の最適化に関する検証	共同	平成20年12月	第9回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2008)
	5 動物型ロボット玩具の開発	共同	平成21年1月	道具学会2008年度研究発表フォーラム
	6 フェムト秒レーザ加工を用いた非対称表面によるマイクロパーツの輸送	共同	平成21年3月	第14回ロボティクスシンポジア
	<学術論文> 1 風景の見せ方に関する考察－アート展による地域再生「定山渓アート縁日」の実践を通じて－	単著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.63-67
	<学会発表> 1 風景の見せ方に関する考察－札幌圏におけるプロジェクト実践報告－	単独	平成20年10月	環境芸術学会第9回大会
山田 良	<招聘講演> 1 Ryo Yamada : Recent Works in Japan	単独	平成21年3月	Steen & Strom, Embassy of Japan, Norway
	<入選・受賞> 1 日本サインデザイン協会SDA賞入選 空間・環境表現部門		平成20年12月	(社)日本サインデザイン協会
	<その他> 1 Nakasato Juji Project	単著	平成20年9月	Architektura&Biznes, Poland, p.67
	2 Nakasato Juji Project	単著	平成20年10月	1000 x Landscape, Braun, Germany, p.320
	3 世界の建築スクール展 Design Teaching at MIT	単著	平成21年3月	建築技術2009年4月号、p.199

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
片山 めぐみ	<学術論文> 1 札幌市円山動物園・類人猿館改修デザイン 2 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する要因の検討	共著	平成21年2月 平成21年3月	日本建築学会技術報告集、Vol.15、No.29、pp.207-210 第39回日本看護学会論文集老年看護、pp.162-164
	<その他の論文> 1 札幌市立大学(新設大学)におけるFD活動報告 -デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践-	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<研究報告書> 1 感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究 (1) 魅力ある生態展示デザインの研究 (2) 高揚感・癒しに関する基礎的研究 2 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案 -札幌市円山動物園を事例として-	共著 共著	平成21年2月 平成21年3月	平成20年度札幌市円山動物園受託研究費報告書 札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 積雪寒冷地における後期高齢者の外出および近隣とのつきあい行動に関する研究 2 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感	共同 共同	平成20年9月 平成20年11月	日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.499-500 日本老年看護学会第13回学術集会抄録集、p.117
	<研究報告書> 1 平成20年度先導的地域情報システムの調査・開発事業 地域メディアプラットホームシステムの開発報告書 2 札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究業務	共著 共著	平成21年3月 平成21年3月	(財)ニューメディア開発協会 平成20年度札幌市受託研究費報告書
	<コンテンツ、システム構築など> 1 音楽アーティストSutekh氏インタビューと映像配信 2 平成20年度先導的地域情報システムの調査・開発事業	単独 共同	平成20年7月 平成21年3月	札幌市立大学デザイン学部 メディアデザインコース 地域メディアプラットホームシステム調査開発コンソーシアム
	<その他> 1 森正洋デザインアーカイブ構築プロジェクト-デザインにおける資産運用モデルの提案 2 続・森正洋デザインアーカイブ構築プロジェクト-メッセージの蓄積からメッセージの発信へ 3 編集プロセスを描くデザイン-超・情報過剰時代における編集の価値 4 価値生成をめざすアーキテクチャの実験	単著 単著 単著 単著	平成20年6月 平成20年9月 平成20年12月 平成21年3月	大日本印刷「artscape」 ミュージアムIT情報 大日本印刷「artscape」 ミュージアムIT情報 大日本印刷「artscape」 ミュージアムIT情報 大日本印刷「artscape」 ミュージアムIT情報

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び教育研究審議会

学内運営の概要

資料

看護学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<p><著書></p> <p>1 CLINICAL SUPPORT BOOK 2 救急・重症ケアマネジメント「マネジメントの基本」「なぜマネジメントが必要なのか」</p>	監修 共著・編集	平成20年9月 平成20年11月	東京法令出版 中山書店
	<p><その他の論文></p> <p>1 救急ケア最前線 知っておくべき救急初期対応「Ⅱ ER 受け入れ体制と準備『患者受け入れ準備のハードとソフト』」 2 大学と病院の人材育成連携・協力プロジェクト－札幌市立大学と民間病院の取り組み－ 3 外傷初期看護ガイドライン JNTEC 4 救急看護の変遷と特色</p>	共著 単著 単著 単著	平成20年4月 平成20年6月 平成20年9月 平成21年1月	JJNスペシャル、No.81、pp.74-79 ナーシング・トゥディ、Vol.23 No.7、pp.80-81 救急医学、第32巻第10号、pp.1369-1371 エマージェンシー・ケア、2009年新春増刊号、pp.61-65
	<p><研究報告書></p> <p>1 救急看護における自殺対策支援に関する研究</p>	共著	平成21年3月	厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業平成20年度総括・分担研究報告書、pp.247-252
中村 恵子	<p><学会発表></p> <p>1 1年次対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価 2 新設大学FD研修会実績から探る看護系大学教員のキー・コンピテンシー 3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－ 4 救急部門に勤務する卒後2年目看護師の職場適応に関する研究－フォーカスグループインタビュー調査より－ 5 救急部門に勤務する卒後3年目看護師の職場適応に関する研究 6 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感 7 救急部門看護師2年目の職場適応に関する体験の特徴－個別インタビューおよびフォーカスグループインタビューより－ 8 新人看護師の適応力を強化するための看護管理者への提言－適応力の支援モデル案を基盤としたワークショップの分析－ 9 救急看護師の職場適応を促す支援モデルの開発－新人看護師～3年目に経験するイベントに焦点化して－ 10 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－</p>	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年10月 平成20年10月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月	日本看護学教育学会第18回学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 第39回日本看護学会成人看護1 第39回日本看護学会成人看護1 日本老年看護学会第13回学術集会 第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.168 第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.168 第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.173 日本看護科学学会第28回学術集会
	<p><学術集会座長></p> <p>1 教育講演「メディカルコントロールの現状と課題－看護師への期待－」</p>	座長	平成20年11月	第10回日本救急看護学会学術集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
加藤 登紀子	<学術論文> 1 4か月児をもつ母親の母乳育児の実施に関する要因の検討 <その他> 1 クエスチョン・バンク保健師国家試験問題解説2009（予想問題及びその解説）	共著 単著	平成21年3月 平成20年6月	日本地域看護学会誌、Vol.11、No.2、pp.68-73 MEDIC MEDIA、p.272
河野 総子	<著書> 1 救急・重症ケアマネジメント <学会発表> 1 体験学生によるOSCE実施に関する評価 2 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－	共著 共同 共同	平成20年11月 平成20年8月 平成20年12月	中山書店、pp.2-15 日本看護学教育学会第18回学術集会 第28回日本看護科学学会学術集会
坂倉 恵美子	<著書> 1 実践と理論から学ぶ高齢者福祉 <学術論文> 1 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する要因の検討 <学会発表> 1 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－ 2 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する要因の検討 3 積雪寒冷地における後期高齢者の外出および近隣とのつきあい行動に関する研究 4 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感 5 看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究 －健康高齢者を対象とした老年看護学臨地実習Ⅰ前後の比較－ 6 地域自立高齢者の主観的口腔の健康と主観的幸福感に関する検討	共著 共著 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成21年3月 平成21年3月 平成20年8月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月	保育出版社、pp.14-16 第39回日本看護学会論文集老年看護、pp.162-164 日本看護学教育学会第18回学術集会プログラム、p.59 第39回日本看護学会抄録集老年看護、p.105 日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.499-500 日本老年看護学会第13回学術集会抄録集、p.117 日本老年看護学会第13回学術集会抄録集、p.143 日本看護科学学会第28回学術集会プログラム、p.25
スティーデイ神崎和代	<学術論文> 1 地域支援事業における認知症予防の推進－アルツハイマー病を主とする認知症の残余能力を生かす遅延策－ 2 夕張市の後期高齢者における健康および生活実態と主観的健康感との関連 <その他の論文> 1 A qualitative study on the effectiveness of Glide Mattress System on Aged Patients with Pressure Ulcers 2 ここまで見極め、これだけは実践したい口腔ケアのポイント「感染予防と口腔ケア」 3 沖家室在住高齢者のライフスタイルと健康度、及び支え合いの考察	共著 共著 共著 単著 単著	平成21年3月 平成21年3月 平成20年6月 平成21年1月 平成21年3月	高齢者問題研究、No.25、pp.1-14 北海道公衆衛生学雑誌、Vol.22 No.2、pp.153-159 Invacare-Europe（スペイン語版） ナーシング・トゥディ、Vol.24 No.1、pp.37-39 北海道民族学、第5号、pp.49-51

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<研究報告書> 1 青森県西津軽郡深浦町高齢者健康調査 2 財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み－在宅ケア従事者間の連携促進－ 3 夕張市における後期高齢者の健康に関する実態調査報告	単著 共著 共著	平成20年4月 平成20年8月 平成20年10月	カナダCarroll Hospital Group 等補助金研究報告書 研究助成報告書、pp.1-14 札幌市立大学看護学部
スレディ 神崎 和代	<学会発表> 1 沖家室島在住高齢者のライフスタイルと健康度、及び支え合いの考察 2 体験学生によるOSCE実施に関する評価 3 財政破綻後の夕張市における後期高齢者の実態調査 4 夕張市の後期高齢者における主観的健康感に関する要因 5 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－ 6 新設小規模多機能居宅介護施設における人材確保 7 夕張市におけるケア従事者が捉える高齢者在宅サービス提供上のニーズ 8 夕張市における地域キーインフォーマントが捉える高齢者の在宅ケアニーズ	単独 共同 共同 共同 共同 単独 共同 共同	平成20年7月 平成20年8月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月 平成21年3月 平成21年3月 平成21年3月	北海道民族学会平成20年度第1回研究会 日本看護学教育学会第18回学術集会 第60回北海道公衆衛生学会 第60回北海道公衆衛生学会 第28回日本看護科学学会学術集会 第13回日本在宅ケア学会学術集会 第13回日本在宅ケア学会学術集会 第13回日本在宅ケア学会学術集会
	<学術論文> 1 学生から見た客観的臨床能力試験(OSCE)トライアルの意義 2 看護専門科目「援助的人間関係論」における取り組み－SP(模擬患者)参加型授業実践の評価－ 3 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討	共著 共著 共著	平成21年3月 平成21年3月 平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.27-34 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74
樋之津 淳子	<学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－ 2 学生からみた客観的臨床能力試験(OSCE)トライアルの意義 3 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－ 4 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－OSCE実施に対する教員へのアンケート結果－ 5 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－ 6 体験学生によるOSCE実施に関する評価	共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.154 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.155 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.230 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.260 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.260 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.258

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	
樋之津 淳子	<学会発表>				
	7 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259	
	8 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259	
	9 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会講演集、p.353	
	<その他>				
	1 前立腺がん患者の看護	単著	平成21年1月	クリニカルスタディ、第30巻第1号、pp.58-72	
	<他の論文>				
	1 学校卒業後の医療的ケアを考えようネット、地域で暮らすために－障がいのある医療的ケアの必要な人の支援を考える－	単著	平成20年10月	病気の子どもと医療・教育、No.15、pp.17-34	
	2 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、p.71-76	
	<研究報告書>				
1 成人前期小児慢性疾患患者の社会生活支援システムの構築と検証	共著	平成20年9月	平成18年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、pp.1-35		
2 新生児型感性教材モデルの開発	共著	平成20年10月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1-4		
<学会発表>					
1 1年次を対象とした客観的臨床能力試験(OSCE)を用いた基礎看護技術の評価	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会		
2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会		
3 新設大学FD研修会実績から探る看護系大学教員のキー・コンピテンシー	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会		
4 幼児をもつ母親の育児行動に対する自己効力感の検討－1歳半児健診群と3歳児健診群の比較から－	共同	平成20年9月	第55回日本小児保健学会		
5 実習用新生児モデルに必要な構成要素の明確化	共同	平成20年11月	第49回日本母性衛生学会学術集会		
6 職業準備行動尺度の信頼性：再テスト法による評価	共同	平成20年11月	第49回日本母性衛生学会学術集会		
7 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会		
8 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討第1報 必要要件の分析	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会		
9 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討第2報 感性的没入感を演出するための設計条件	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会		
10 客観的臨床能力試験(OSCE)運営支援システムの開発－看護学部OSCEにおける取り組み	共同	平成20年12月	平成20年度情報教育研究集会		

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松浦和代	<p><その他></p> <p>1 大人になりゆくあなたに 小児慢性疾患の治療・定期検診を受けながら大人の準備をするためのガイドブック（改訂版）</p> <p>2 社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさん</p>	共著 共著	平成20年10月 平成20年12月	キャリーオーバー・キャリアガイダンス・ハンドブック検討会、pp.1-33 キャリーオーバー・キャリアガイダンス・ハンドブック検討会、pp.1-31
富崎みち子	<p><学会発表></p> <p>1 就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第3報）－仕事と育児の両立に関する思い－</p> <p>2 新設大学FD研修会実績から探る看護系大学教員のキー・コンピテンシー</p> <p>3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－</p> <p>4 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－</p>	共同 共同 共同 共同	平成20年5月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年12月	第64回日本助産師学会 第18回日本看護学教育学会 第18回日本看護学教育学会 第28回日本看護科学学会学術集会
大野夏代	<p><学術論文></p> <p>1 看護専門科目「援助的人間関係論」における取り組み－SP（模擬患者）参加型授業実践の評価－</p> <p>2 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討</p>	共著 共著	平成21年3月 平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74
	<p><その他の論文></p> <p>1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－</p>	共著	平成21年3月	第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76
	<p><学会発表></p> <p>1 看護学生のハンドケアの習慣－「手荒れ」のある医療従事者の手洗い法の提案のための調査－</p> <p>2 安寧のための看護技術としての指圧マッサージ</p>	共同 共同	平成20年7月 平成20年8月	第34回日本看護研究学会学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会
	<p>3 新設大学FD研修会実績から探る看護系大学教員のキー・コンピテンシー</p>	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会
	<p>4 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－</p>	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会
	<p><基調講演></p> <p>1 世界で活躍する看護師の資質</p>	単独	平成20年9月	国際看護研究会第11回学術集会
	<p><その他></p> <p>1 海外出産体験記（スリランカ編）</p>	単著	平成20年12月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」、第2号、p.5

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
須田恭子	<研究報告書> 1 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 救急部門看護師2年目の職場適応に関する体験の特徴 -個別インタビューおよびフォーカスグループインタビューより- 2 新人看護師の適応力を強化するための看護管理者への提言-適応力の支援モデル案を基盤としたワークショップの分析- 3 救急看護師の職場適応を促す支援モデルの開発-新人看護師～3年目に経験するイベントに焦点化して-	共同 共同 共同	平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月	第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.168 第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.168 第10回日本救急看護学会学術集会集録、p.173
	<著書> 1 自殺未遂患者への対応：救急外来（ER）・救急科・救命救急センターのスタッフのための手引き	共著	平成21年3月	日本臨床救急医学会
	<その他の論文> 1 交流集会V「自殺予防と救急看護」座長のまとめ 2 自殺企図患者に対する救急外来（ER）・救急科・救命救急センターにおける手引き-日本臨床救急医学会「自殺未遂者のケアに関する委員会」の取り組み-	単著 共著	平成21年3月 平成21年3月	日本救急看護学会雑誌、第10巻3号、pp.52-53 日本救急看護学会雑誌、第10巻3号、pp.59-63
守村洋	<研究報告書> 1 自殺未遂者のケアに関する研究：専門職・専門領域における自殺未遂者ケアのためのガイドラインの作成 2 自殺企図者に対する救急外来（ER）・救急科・救命救急センターにおける手引き作成の意義 3 救急看護における自殺対策支援に関する研究 4 「癒し」・「高揚」効果の得られる動物園のデザイン提案-札幌市円山動物園を事例として-	共著 共著 共著 共著	平成21年3月 平成21年3月 平成21年3月 平成21年3月	厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 平成20年度総括・分担研究報告書、pp.95-112 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 平成20年度総括・分担研究報告書、pp.151-190 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 平成20年度総括・分担研究報告書、pp.247-252 札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 セルフヘルプ・グループ「すみれ会」のエスノグラフィー-リーダー交代に学ぶ精神障害者セルフヘルプ・グループのありかた- 2 自立支援法時代の精神障害者地域生活支援-セルフヘルプ・グループ「すみれ会」のエスノグラフィー- 3 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究(第1報)：弟路郎ファミリーシステムの概要 4 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究(第2報)：弟路郎ファミリーシステムのハードウェア・ソフトウェア構築	単独 共同 共同 共同	平成20年6月 平成20年6月 平成20年6月 平成20年6月	日本地域福祉学会第22回大会 日本精神保健看護学会第18回学術集会 第55回日本デザイン学会春季研究発表大会 第55回日本デザイン学会春季研究発表大会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
守村洋	<p><学会発表></p> <p>5 ITを活用した動物園の顧客満足度向上研究(第3報)：弟路郎ファミリーシステムの実証実験 6 自殺対策と救急看護 7 精神障害当事者のセルフヘルプ活動－セルフヘルプ・グループ連合会主催の主張大会からの分析－ 8 札幌市立大学看護学部における「育てるOSCE」への取り組み－OSCE評価項目と看護実践能力項目・到達行動目標の分析－</p>	共同 単独 単独 共同	平成20年6月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月	第55回日本デザイン学会春季研究発表大会 第10回日本救急看護学会学術集会 日本精神障害者リハビリテーション学会第16回東京大会 日本看護科学学会第28回学術集会
	<p><著書></p> <p>1 社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさんに</p>	共著	平成20年12月	キャリーオーバー・キャリアガイダンス・ハンドブック検討会、pp.2-5
	<p><研究報告書></p> <p>1 新生児型感性教材モデルの開発 2 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価</p>	共著 共著	平成20年10月 平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書、pp.1-4 札幌市立大学共同研究報告書
吉川由希子	<p><学会発表></p> <p>1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発－ 2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－ 3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－ 4 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－ 5 幼児をもつ母親の育児行動に対する自己効力感の検討－1歳半児健診群と3歳児健診群の比較から－ 6 実習用新生児モデルに必要な構成要素の明確化 7 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第1報 必要要件の分析 8 新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第2報 感性的没入感を演出するための設計条件 9 客観的臨床能力試験(OSCE)運営支援システムの開発－看護学部OSCEにおける取り組み－</p>	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年9月 平成20年11月 平成20年12月 平成20年12月 平成20年12月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.9 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.260 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.154 第55回日本小児保健学会講演集、p.120 第49回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集、p.256 第28回日本看護科学学会学術集会講演集、p.233 第28回日本看護科学学会学術集会講演集、p.233 平成20年度情報教育研究集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
菊地 ひろみ	<著書> 1 多発性硬化症の診断と治療「多発性硬化症患者へのインフォームドコンセントとQOL」	共著	平成20年10月	新興医学出版社、pp.133-143
	<学術論文> 1 夕張市の後期高齢者における健康および生活実態と主観的健康感との関連	共著	平成21年3月	北海道公衆衛生学雑誌、第22巻2号、pp.153-159
	<研究報告書> 1 財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即した現任教育研修の試み 2 多発性硬化症患者の認知機能－BRB日本語版の作成と臨床応用への試み－	共著 共著	平成20年8月 平成21年2月	研究助成報告書、pp.1-14 厚生労働科学研究費補助金免疫性神経疾患に関する調査研究平成20年度統括・分担研究報告書、p.73
	<学会発表> 1 在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発 2 体験学生によるOSCE実施に関する評価 3 多発性硬化症療養者のQOL評価に関する当事者の見解－フォーカスグループインタビューから－ 4 夕張市の後期高齢者における主観的健康感に関する要因 5 財政破綻後の夕張市における後期高齢者の実態調査 6 夕張市におけるケア従事者が捉える高齢者在宅サービス提供上のニーズ 7 夕張市における地域キーインフォーマントが捉える高齢者の在宅ケアニーズ	共同 共同 単独 共同 共同 共同 共同	平成20年6月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年11月 平成20年11月 平成21年3月 平成21年3月	第31回日本プライマリ・ケア学会抄録集、p.201 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.258 第13回日本難病看護学会学術集会抄録集、p.85 第60回北海道公衆衛生学会抄録集、p.47 第60回北海道公衆衛生学会抄録集、p.120 第13回日本在宅ケア学会学術集会抄録集、p.156 第13回日本在宅ケア学会学術集会抄録集、p.157
	<その他> 1 在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発	単独	平成20年8月	北海道高齢者問題研究会
佐藤 公美子	<著書> 1 わが国の占領期における看護改革に関する研究	単著	平成20年10月	風間書房
	<学術論文> 1 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74
	<学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－ 2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発－ 3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－ 4 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－	共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月	第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.154 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.259 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.259 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.260

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営、審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
菅原 美樹	<著書>			
	1 認定看護師に学ぶ救急看護の手技Q&A	共著	平成20年11月	総合医学社、pp.128-131
	2 救急・重症ケアマネジメント	共著	平成20年11月	中山書店、pp.164-168
	3 救急医療	共著	平成21年1月	メディカ出版、pp.99-110
	4 人工呼吸ケアのルール50	共著	平成21年2月	メディカ出版、pp.16-24、pp.106-111、pp.132-142
	<学術論文>			
	1 救急看護認定看護師の看護継続教育への関与の実態に関する調査	共著	平成20年4月	日本救急看護学会雑誌、第9巻3号、pp.64-72
	<学会発表>			
	1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.154
	2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.260
新納 美美	3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259
	4 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259
	5 看護部長による救急看護認定看護師の評価1－担っている中核的な役割について－	共同	平成20年11月	第10回日本救急看護学会抄録集、p.171
	6 看護部長による救急看護認定看護師の評価2－施設全体の実践力の向上について－	共同	平成20年11月	第10回日本救急看護学会抄録集、p.172
	7 看護部長による救急看護認定看護師の評価3－さらなる活用への期待について－	共同	平成20年11月	第10回日本救急看護学会抄録集、p.172
&他	<学術論文>			
	1 職場におけるアディクション問題と保健活動	単著	平成20年8月	保健の科学、第50巻8月号、pp.532-536
	<研究報告書>			
	1 重大な他害行為を犯した精神障害者の再犯予防を目的とした支援に伴う看護師の職業性ストレスとその対処に関する研究 調査結果報告書	単著	平成20年8月	札幌市立大学研究報告書
	<学会発表>			
&他	1 生産性と健康が両立する職場の風土に関する質的検討	共同	平成20年6月	第15回日本産業精神保健学会大会
	2 職場におけるポジティブコミュニケーション測定尺度の信頼性と妥当性 組織別調査による検討	単独	平成20年6月	第81回日本産業衛生学会
	3 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会
	4 医療観察法病棟に勤務する看護師の健康を支える職場環境の検討 印象深い患者との関わりの経験からの探索	単独	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会
	5 母親の母乳育児を志向する態度に関する測定尺度の開発	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
藤井瑞恵	<学術論文> 1 看護専門科目「援助的人間関係論」における取り組み－SP（模擬患者）参加型授業実践の評価－ 2 変形性膝関節症を患った在宅高齢者の対処行動と「生活の折り合い」	共著 共著	平成21年3月 平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61 名寄市立大学紀要、第3巻、pp.31-38
	<その他の論文> 1 術後片手生活となる患者に対する液状石鹼手洗いの啓蒙の評価 2 転倒に対する患者の思い－整形外科手術を受けた患者からの共通要因－	共著 共著	平成20年4月 平成21年3月	第38回日本看護学会論文集看護管理、38巻、pp.222-224 第39回日本看護学会論文集老年看護、39巻、pp.138-140
	<学会発表> 1 メタボリック・シンドローム集簇因子と自律神経機能 2 メタボリック・シンドローム形成に関わる脂肪酸の影響 3 夜間・休日における糖尿病外来患者の自己インスリン投与トラブル 4 薬物治療中の在宅糖尿病患者の夜間・休日における相談ニーズ 5 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－ 6 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－実施マニュアルの作成と実施－ 7 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発－ 8 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－ 9 外来通院中の2型糖尿病患者の治療状況および生活習慣と負担感情の関連－PAIDを用いた調査から 10 在宅糖尿病患者の夜間・休日のトラブル対処に対する電話相談ニーズ 11 救急部門に勤務する卒後3年目看護師の職場適応に関する研究 12 救急部門に勤務する卒後2年目看護師の職場適応に関する研究－フォーカスグループインタビュー調査より 13 病室の環境整備の実態と看護師の整備に関する意識調査－整形外科病棟での安全な環境を考える－	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年5月 平成20年5月 平成20年5月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年10月 平成20年10月 平成20年10月	第51回日本糖尿病学会年次学術集会 第51回日本糖尿病学会年次学術集会 第51回日本糖尿病学会年次学術集会 第34回日本看護研究学会学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 日本看護学教育学会第18回学術集会 第13回日本糖尿病教育・看護学会 第13回日本糖尿病教育・看護学会 第39回日本看護学会成人看護I 第39回日本看護学会成人看護I 第39回日本看護学会看護管理
星美和子	<学会発表> 1 体験学生によるOSCE実施に関する評価	共同	平成20年8月	第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.258

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村松 真澄	<著書> 1 高齢者ケアシリーズ6 介護予防プラクティス 2 口腔ケア基礎知識	共著 共著	平成20年5月 平成20年11月	厚生科学研究所、pp.86-92 永末書店、p.183、p.217
	<学術論文> 1 マウスウォッシュ [®] とオーラルバランス [®] を導入した口腔環境改善への取り組み 2 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する要因の検討	共著 共著	平成20年8月 平成21年3月	旭川赤十字病院医学雑誌、Vol.21、pp.25-27 第39回日本看護学会論文集 老年看護、pp.162-164
	<その他の論文> 1 疾患と看護～ベッドサイドケアの質を高める～第2回「がん患者の口腔トラブル～求められる看護師による口腔ケアの実践その1」 2 疾患と看護～ベッドサイドケアの質を高める～第3回「がん患者の口腔トラブル～求められる看護師による口腔ケアの実践その2」 3 高齢社会－看護学教育に「摂食嚥下障害患者の看護」「口腔ケア」の充実を 4 特集1基礎から学ぶさまざまな患者の口腔ケア 「口腔ケアの基礎知識」「口腔ケア実践の基本技術」「ここまで見極め、これだけは実践したい口腔ケアのポイント『がん治療と口腔ケア』『義歯装着患者の口腔ケア』『人工呼吸器装着患者の口腔ケア』」	単著 単著 単著 監修・共著	平成20年4月 平成20年5月 平成20年8月 平成20年12月	ベストナース、Vol.19 (5)、pp.66-68 ベストナース、Vol.19 (6)、pp.38-39 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会誌、Vol.12 No.21、pp.158-159 ナーシング・トゥデイ、Vol.24 No.1、pp.18-51
	<学会発表> 1 地域自立高齢者の主観的幸福感に関する口腔の健康状態についての検討 2 積雪寒冷地における後期高齢者の外出及び近隣とのつきあい行動に関する研究 3 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関する要因の検討 4 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感 5 看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究－健康高齢者を対象とした老年看護学臨地実習Ⅰ前後の比較－ 6 地域自立高齢者の生活の質に関する調査研究－主観的幸福感と口腔の健康との関係－ 7 地域自立高齢者の主観的口腔の健康と主観的幸福感に関する検討	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年6月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月	第19回日本老年歯科医学会抄録集、p.94、日本老年歯科医学、第23巻第2号、pp.168-169 2008年度日本建築学会大会 第39回日本看護学会抄録集 老年看護、p.105 第13回日本老年看護学会抄録集、p.117 第13回日本老年看護学会抄録集、p.143 第13回日本老年看護学会抄録集、p.217 第28回日本看護科学学会抄録集、p.188
	<教育講演・シンポジスト等> 1 第62回日本口腔科学会歯科・口腔領域看護研究会 教育セミナー教育講演「歯科口腔領域の看護師としてできる口腔ケアにおける実践」 2 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 交流集会3シンポジスト「『歯科衛生士-口腔ケアについて考える』 口腔ケアで連携するために…看護師の立場から」	単独 単独	平成20年4月 平成20年9月	第62回日本口腔科学会歯科・口腔領域看護研究会 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村松真澄	<p><教育講演・シンポジスト等></p> <p>3 第10回日本救急看護学会学術集会 ランチョンセミナー「VAPの口腔看護と口腔乾燥の対策」</p> <p>4 第5回日本口腔ケア学会 シンポジウムⅦシンポジスト「『健康長寿…看護師がする口腔ケアが地域を変える』看護教育の立場から」</p> <p>5 昭和大学口腔ケアセンター設立記念新春シンポジウム シンポジスト「看護師が担う効果的な口腔ケア」</p> <p>6 第11回日本在宅医学会大会 ワークショップⅡ多職種連携で展開する口腔ケアと摂食嚥下「地域支援医療部での活動をもとに『摂食・嚥下と口腔ケア』に関する看護教育の実践」</p>	単独 共同 単独 単独	平成20年11月 平成20年11月 平成21年1月 平成21年2月	第10回日本救急看護学会学術集会 第5回日本口腔ケア学会 昭和大学口腔ケアセンター 第11回日本在宅医学会大会
保田玲子	<p><学術論文></p> <p>1 北海道天塩町の酪農家における腰痛の有無と労働状況・生活習慣との関連</p> <p><その他の論文></p> <p>1 札幌市立大学（新設大学）におけるFD活動報告－デザイン学部・看護学部協同による全学FD、および学部FD実践－</p> <p><学会発表></p> <p>1 都市部における住民主体の健康づくり活動の効果に関する一考察</p> <p>2 新設大学FD研修会実績から探る看護系大学教員のキー・コンピテンシー</p> <p>3 住民主体の健康づくりグループの活動意義および活動活性化へのニーズ</p>	共著 共著 単独 共同 単独	平成21年3月 平成21年3月 平成20年5月 平成20年8月 平成20年12月	北海道公衆衛生学雑誌22、pp92-99 第58回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録、pp.71-76 第34回日本保健医療社会学会論集、p.35 日本看護学教育学会誌18巻学術集会講演集、p.127 第28回日本看護科学学会学術集会講演集、p.528
渡邊由加利	<p><学術論文></p> <p>1 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討</p> <p><研究報告書></p> <p>1 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価</p> <p><学会発表></p> <p>1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－</p> <p>2 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－</p> <p>3 病院施設アプローチ空間の癒し景観評価</p>	共著 共著 共同 共同 共同	平成21年3月 平成21年3月 平成20年8月 平成20年8月 平成21年2月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74 札幌市立大学共同研究報告書 第18回日本看護学教育学会学術集会講演集、p.154 第18回日本看護学教育学会学術集会講演集、p.230 第9回癒しの環境研究会全国大会茨木大会抄録集、p.83

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<学術論文> 1 学生から見た客観的臨床能力試験(OSCE) トライアルの意義	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.27-34
太田 晴美	<学会発表> 1 学生からみた客観的臨床能力試験(OSCE) トライアルの意義 2 体験学生によるOSCE実施に関する評価 3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE) の取り組み -PCを活用したOSCE支援システムMulberryの開発- 4 e-learningによる災害看護教育Disaster Preparing Nursing Certificate programを受講して	共同 共同 共同 単独	平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成21年2月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.155 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.258 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.259 第14回日本集団災害医学会総会・学術集会プログラム・講演集、p.377
	<学術論文> 1 脳損傷患者の認知機能評価に関する研究の動向	単著	平成21年3月	日本脳神経看護研究学会会誌、31(2)、pp.85-94
神島 澄子	<その他の論文> 1 ナーシングプロセス 脳梗塞患者の看護 2 慢性期を見据えた急性期からのADL向上ケア～このケアが慢性期を変える！～慢性期でのQOLが変わる急性期からの座位・立位訓練 3 先輩ナース必携 脳神経外科新人ナース指導育成マニュアル 現場で使えるエビデンスがわかるQ&A 「症状・病態別看護をわかりやすく教えよう『頭蓋内圧亢進』『半側空間無視』」	単著 単著 単著	平成20年4月 平成20年8月 平成21年2月	クリニカルスタディ、29(4)、pp.58-72 Brain Nursing、24(8)、pp.777-783 Brain Nursing、2009年春季増刊、pp.116-124、pp.201-206
	<学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE) の取り組み -2年次学生の到達度と評価内容の検討- 2 脳梗塞発症から受診までの時間に関する検討 3 集中治療室における術後患者の睡眠に関する調査 4 脳神経領域看護師の疲労への影響要因	共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年9月	第18回日本看護学教育学誌、18巻学術集会講演集、p.260 日本脳神経看護研究学会会誌、31(1)、p.12 日本脳神経看護研究学会会誌、31(1)、p.25 日本脳神経看護研究学会会誌、31(1)、p.44
河村 奈美子	<学術論文> 1 認知症高齢者へのアニマル・セラピー -暴力的な行動の消失に向けて- 2 Animal-Assisted Activity: Experiences of Institutionalized Japanese Older Adults 3 4か月児をもつ母親の母乳育児の実施に関する要因の検討	共著 共著 共著	平成20年12月 平成21年1月 平成21年3月	ヒトと動物の関係学会誌、Vol.21、pp.54-61 The Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services, Vol.47(1), pp.41-47 日本地域看護学会誌、Vol.11(2)、pp.68-73

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
河村奈美子	<研究報告書>			
	1 高齢者と家族・施設職員の架け橋となるアニマル・セラピーの構築	共著	平成20年6月	平成18年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書、pp.1-93
	<学会発表>			
	1 動物との交流にみられる認知症高齢者的心の動き	単独	平成20年6月	日本精神保健看護学会第18回学術集会抄録集、pp.96-97
	2 4か月児をもつ母親の母乳育児継続と心の疲労度に関連する要因の検討	共同	平成20年7月	第5回日本うつ病学会うつ病学会NEWS、Vol.5、p.17
	3 4か月児をもつ母親の母乳育児継続に関連する要因の検討	共同	平成20年7月	日本地域看護学会第11回学術集会プログラム集、p.20
	4 B市における4か月児の栄養に関する実態調査から、母乳育児支援のあり方に関する検討	共同	平成20年8月	日本看護研究学会雑誌、31巻3号、p.184
	5 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会プログラム、p.59
	6 Exploring the Wellbeing of Breastfeeding Japanese Mothers	共同	平成20年8月	11 th World Congress of World Association for Infant Mental Health,Congress Scientific Program,p.33
	7 Animal assisted therapy for elderly Japanese dementia patients: A longitudinal study	共同	平成20年9月	14 th World Congress of Psychiatry,WCP3042 (CD-ROM版)
	8 動物との交流の場における認知症高齢者A子さんの他者との関係の中に体験される世界	単独	平成20年11月	日本質的心理学会第5回大会発表論文集、p.85
	9 母親の母乳育児を志向する態度に関する測定尺度の開発	共同	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会
進藤ゆかり	<学術論文>			
	1 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討	共著	平成21年3月	第39回日本看護学会論文集老年看護、pp.162-164
	<学会発表>			
	1 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会プログラム、p.59
	2 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討	共同	平成20年9月	第39回日本看護学会抄録集老年看護、p.105
	3 積雪寒冷地における後期高齢者の外出および近隣とのつきあい行動に関する研究	共同	平成20年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.499-500
	4 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感	共同	平成20年11月	日本老年看護学会第13回学術集会抄録集、p.117
	5 看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究 －健康高齢者を対象とした老年看護学臨地実習Ⅰ前後の比較－	共同	平成20年11月	日本老年看護学会第13回学術集会抄録集、p.143
	6 地域自立高齢者の主観的口腔の健康と主観的幸福感に関する検討	共同	平成20年12月	日本看護科学学会第28回学術集会プログラム、p.25

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
多賀 昌江	<学術論文>			
	1 高齢者による操作用語の理解度評価と修辞法的属性分析	共著	平成21年1月	感性工学研究論文集、第8卷2号、pp.399-406
	2 学生から見た客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルの意義	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.27-34
	3 国際助産師連盟大会探訪記－その1.グラスゴー編－	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.87-91
	4 国際助産師連盟大会探訪記－その2.エジンバラ・ondon編－	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.93-97
	<その他の論文>			
	1 初めて夫立ち会い分娩をした夫の内的経験	単著	平成20年10月	ペリネイタルケア、Vol.27 No.10、p.96
	<学会発表>			
	1 就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第3報）－仕事と育児の両立に関する思い－	共同	平成20年5月	第64回日本助産師学会、日本助産師学会抄録集、p.15
	2 First-time Japanese husbands' inner experience of childbirth	単独	平成20年6月	International Confederation of Midwives 28 th Triennial Congress, CS.94.1 (CD-ROM版)
塚辺 蘭子	3 学生からみた客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルの意義	共同	平成20年8月	第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.155
	4 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価（第1報）	共同	平成20年8月	第16回看護人間工学部会研究会抄録集、p.25
	5 中国人留学生の里帰り出産と健診における日中の文化的差異および看護についての考察	単独	平成20年9月	国際看護研究会第11回学術集会抄録集、p.30
	6 北海道における中国人母子への育児支援事例の分析	共同	平成20年9月	国際看護研究会第11回学術集会抄録集、p.32
	7 就学前の子を持つ母親の実態調査比較による検討	共同	平成20年10月	第38回北海道母性衛生学会学術講演会
	8 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価（第2報）	共同	平成20年11月	平成20年度日本人間工学会北海道支部大会
	9 分娩中に妻から立ち会いを拒否された夫の内的経験：事例研究	単独	平成20年12月	第28回日本看護科学学会学術集会講演集、p.476
	10 自宅分娩中に病院へ搬送となった分娩に立ち会った夫の内的経験：事例研究	単独	平成21年3月	日本助産学会誌、Vol.22 No.3、p.433
	<学術論文>			
	1 北海道内福祉職の職業性ストレスとその関連要因－地域包括支援センター職員の実態調査－	共著	平成21年3月	北海道公衆衛生学雑誌、第22巻2号、pp.107-112
<研究報告書>	2 道内社会福祉専門職の職務満足度とその関連要因－地域包括支援センターの職員を対象にした調査－	共著	平成21年3月	北海道公衆衛生学雑誌、第22巻2号、pp.113-119
	1 公衆衛生関連職種間の連携に関する調査研究－地域包括支援センターにおける関連職種間の連携－	共著	平成21年3月	北海道公衆衛生協会第9号課題研究報告書
	<学会発表>			
	1 子どもの虐待等における保育士の負担－親子への対応に焦点をあてて－	単独	平成20年6月	第81回日本産業衛生学会抄録集、p.2138
2 北海道における産業看護職の実態調査（第1報）属性・雇用状況等に関して	共同	平成20年6月	第81回日本産業衛生学会抄録集、p.3126	
	3 生産性と健康が両立する職場の風土に関する質的検討	共同	平成20年6月	第15回日本産業精神保健学会抄録号、p.64

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
照井 レナ	<学術論文> 1 高齢者による操作用語の理解度評価と修辞法的属性分析 2 アルツハイマー型を主とする認知症の残余能力を生かす遅延策－新型アクティビティ・ツールによる介入の効果－ 3 夕張市の後期高齢者における健康および生活実態と主観的健康感との関連	共著 共著 共著	平成21年1月 平成21年3月 平成21年3月	感性工学研究論文集、第8卷2号、pp.399-406 高齢者問題研究、Vol.25、pp.1-14 北海道公衆衛生学雑誌、Vol.22 No.2、pp.153-159
	<研究報告書> 1 財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み－在宅ケア従事者間の連携促進－	共著	平成20年8月	研究助成報告書、pp.1-14
松村 寛子	<学会発表> 1 在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発 2 体験学生によるOSCE実施に関する評価 3 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価(第1報) 4 高齢者による家電機器操作用語の理解度評価(第2報) 5 財政破綻後の夕張市における後期高齢者の実態調査 6 夕張市の後期高齢者における主観的健康感に関連する要因 7 夕張市におけるケア従事者が捉える高齢者在宅サービス提供上のニーズ 8 夕張市における地域キーインフォーマントが捉える高齢者の在宅ケアニーズ	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年6月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年11月 平成21年3月 平成21年3月	第31回日本プライマリ・ケア学会 第18回日本看護学教育学会学術集会 第16回看護人間工学部会研究会 平成20年度日本人間工学会北海道支部大会 第60回北海道公衆衛生学会 第60回北海道公衆衛生学会 第13回日本在宅ケア学会学術集会講演集、p.157 第13回日本在宅ケア学会学術集会講演集、p.156
	<学術論文> 1 4か月児をもつ母親の母乳育児の実施に関連する要因の検討	共著	平成21年3月	日本地域看護学会誌、Vol.11 No.2、pp.68-73
	<学会発表> 1 4か月児をもつ母親の母乳育児継続に関連する要因の検討 2 4か月児をもつ母親の母乳育児継続と心の疲労度に関連する要因の検討 3 Exploring the Wellbeing of Breastfeeding Japanese Mothers	共同 共同 共同	平成20年7月 平成20年7月 平成20年8月	第11回日本地域看護学会学術集会 第5回日本うつ病学会総会 11 th World Congress of World Association for Infant Mental Health, Congress Scientific Program,p.33
	4 B市における4か月児の栄養に関する実態調査から、母乳育児支援のあり方に関する検討 5 母親の母乳育児を志向する態度に関する測定尺度の開発	共同 共同	平成20年8月 平成20年12月	第31回日本看護研究学会学術集会 第28回日本看護科学学会学術集会
	<その他> 1 札幌市における母乳育児に関する母親への調査報告書	単著	平成21年3月	札幌市立大学看護学部

概要
教育活動
研究活動
社会活動
入学者選抜結果
附属図書館
及び教育、研究、経営審議会
学内運営の概要
資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<学術論文> 1 保健医療学研究法ノート(その3) -科学論文を読む- 2 プリセプターの困難と思いの分析からのプリセプター支援検討(1) -支援体制・時期、研修企画について- 3 看護管理者の考えるプリセプター役割と支援の分析からのプリセプター支援検討(2) -プリセプター支援体制について- 4 基礎看護学実習Ⅰにおける学生の学び-実習アンケートの分析から 5 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討 6 看護専門科目「援助的人間関係論」における取り組み-SP(模擬患者)参加型授業実践の評価-	共著 共著 共著 共著 共著 共著	平成20年12月 平成21年2月 平成21年2月 平成21年3月 平成21年3月 平成21年3月	札幌医科大学保健医療学部紀要、第11号、pp.31-36 第39回日本看護学会論文集看護教育、pp.157-159 第39回日本看護学会論文集看護教育、pp.160-162 名寄市立大学紀要、第3巻、pp.11-16 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61
三上智子	<学会発表> 1 ロイシンリッチリピート(LRR)構造のアイランドドメイン 2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み-1年次学生の到達度と評価内容の検討- 3 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み-OSCE実施に対する教員へのアンケート結果- 4 プリセプターの困難と思いの分析からのプリセプター支援検討(1) -支援体制・時期、研修企画について- 5 看護管理者の考えるプリセプター役割と支援の分析からのプリセプター支援検討(2) -プリセプター支援体制について- 6 ロイシンリッチリピート(LRR)蛋白質とリガンドとの相互作用 7 蛋白質のロイシンリッチリピート(LRR)領域に介在するアイランドドメインの解析 8 ロイシンリッチリピート(LRR)領域に介在するアイランドドメインの構造および機能予測	共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成20年5月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年8月 平成20年12月 平成20年12月 平成21年3月	日本化学会春季シンポジウム 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.154 第18回日本看護学教育学会学術集会抄録集、p.260 第39回日本看護学会抄録集看護教育、p.104 第39回日本看護学会抄録集看護教育、p.105 自然免疫シンポジウム 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本化学会大会合同大会 2008年度日本生物物理学会北海道支部例会
工藤京子	<研究報告書> 1 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価 <学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み-2年次学生の到達度と評価内容の検討- 2 救急部門に勤務する卒後2年目看護師の職場適応に関する研究	共著 共同 共同	平成21年3月 平成20年8月 平成20年10月	札幌市立大学共同研究報告書 日本看護学教育学会第18回学術集会 第39回日本看護学会成人看護I

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
小坂美智代	<学術論文> 1 看護専門科目「援助的人間関係論」における取り組み－SP（模擬患者）参加型授業実践の評価－	共著	平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61
	<学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組み－2年次学生の到達度と評価内容の検討－	共同	平成20年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会講演集、p.260
	<その他> 1 メタ統合で明らかになった終末期がん患者を抱える家族員の体験	共同	平成20年8月	看護研究、Vol.41 No.5、pp.395-401
鶴木恭子	<学術論文> 1 看護専門科目「援助の人間関係論」における取り組み－SP（模擬患者）参加型授業実践の評価－ 2 「看護過程論」における模擬患者参加型授業の学習者評価からの検討	共著 共著	平成21年3月 平成21年3月	札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.53-61 札幌市立大学研究論文集、第3巻第1号、pp.69-74
	<研究報告書> 1 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
原井美佳	<学会発表> 1 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組み－1年次学生の到達度と評価内容の検討－ 2 看護実践能力育成教育としての客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組み－OSCE実施に対する教員へのアンケート結果－	共同 共同	平成20年8月 平成20年8月	第18回日本看護学教育学会学術集会講演集、p.139 第18回日本看護学教育学会学術集会講演集、p.260
	<学術論文> 1 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討	共著	平成21年3月	第39回日本看護学会論文集老年看護、pp.162-164
原井美佳	<学会発表> 1 模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画－ 2 特別豪雪地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関連する要因の検討 3 看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究－健康高齢者を対象とした老年看護学臨地実習Ⅰ前後の比較－ 4 積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感 5 地域自立高齢者の主観的口腔の健康と主観的幸福感に関する検討	共同 共同 共同 共同 共同	平成20年8月 平成20年9月 平成20年11月 平成20年11月 平成20年12月	日本看護学教育学会第18回学術集会 第39回日本看護学会老年看護 日本老年看護学会第13回学術集会 日本老年看護学会第13回学術集会 日本看護科学学会第28回学術集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
	<著書> 1 人工呼吸ケアのルール50	共著	平成21年2月	メディカ出版、pp.157-163
	<その他の論文> 1 基礎看護技術手技チェックリスト40「心肺蘇生法（胸骨圧迫・人工呼吸）」「心肺蘇生法（AED）」 2 先輩ナース必携 脳神経外科新人ナース指導育成マニュアル 現場で使えるエビデンスがわかるQ&A 「意識障害」「瞳孔不同」	単著 単著	平成20年5月 平成21年2月	メヂカルフレンド社、 pp.114-117 メディカ出版、pp.125-141
渕本 雅昭	<研究報告書> 1 看護学教育における模擬患者養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価	共著	平成21年3月	札幌市立大学共同研究報告書
	<学会発表> 1 脳神経領域看護師の臨床における葛藤場面の認識 2 脳神経看護領域看護師の疲労への影響要因 3 脳梗塞発症から受診までの時間に関する検討 4 集中治療室（SCU）における術後患者の睡眠に関する調査	単独 共同 共同 共同	平成20年9月 平成20年9月 平成20年9月 平成20年9月	日本脳神経看護研究学会第35回大会抄録集、p.35 日本脳神経看護研究学会第35回大会抄録集、p.44 日本脳神経看護研究学会第35回大会抄録集、p.12 日本脳神経看護研究学会第35回大会抄録集、p.25

社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 地域との連携研究

研究課題	期間	概要	連携先
札幌市景観施策普及のための展示計画に係る受託研究	平成20年9月9日～平成20年10月15日	札幌市景観計画と札幌市都市景観条例が平成20年4月から施行となり、今後市民の景観施策に対する認知度を高めていく必要がある。今回の計画では、景観施策の普及のための展示内容について、市民の平易な理解を考慮し、展示自体を景観の一部として企画・検討を行い、地下街ふれあい広場において展示「札幌の景観色70色」を行った。	札幌市市民まちづくり局
世界に向けて札幌市のPRを目的とするグリーティングカードの作成研究	平成20年10月14日～平成20年12月31日	年末に札幌市長名で海外に向けて送付するグリーティングカードにおいて札幌市を世界にPRできるデザインを学生に提案させ、もっとも優れたデザイン案を選考した後、リデザイン案を提案した。	札幌市総務局
国際園芸博覧会補足調査・研究	平成20年11月7日～平成21年1月31日	平成20年度の国際園芸博覧会構想の補足として、①事業構造の再検査、②全国都市緑化フェアとの同時開催における事業構造の調査、③開催までの必要経費、組織体制の検討及び市民アンケートの内容について考察を行った。	札幌市市民まちづくり局
自然体験ゾーン内の植物および動物に関する調査研究	平成20年11月14日～平成21年2月27日	札幌市円山動物園周辺の森林群落調査を行い、この地域の自然の質と利用形態を評価した。また、「動物園の森」内に群落モニタリング用のサイトを設置し、整備前の群落を調査した。	札幌市環境局
感性工学に基づく園内総合デザインに関する研究	平成20年11月14日～平成21年2月27日	札幌市円山動物園のエゾヒグマ館と新爬虫類館の基本・実施設計を行い、魅力ある生態展示デザイン事例を提案した。また、園内経路の物理的要素の抽出を行い、明暗のコントロールが高揚感を誘発する可能性のあることと、動物と接する楽しさや驚きが元気の回復と安堵感という癒しの2側面を得ることが確認できた。園内サインについては、現状分析等と動物園スタッフによるインデックス更新方法を新たに提案した。	札幌市環境局

研究課題	期間	概要	連携先
シニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	平成20年12月19日～平成21年3月16日	札幌市南区シニックバイウェイ検討協議会及び札幌市南区シニックバイウェイルート運営代表者会議に参画しながら、南区内の街並み景観の分かり易いモデル化を行い、南区の情報発信として区内の雪あかりの祭典を映像として編集し、南区ブランドとして札幌軟石を釉薬化し試作品を制作した。	札幌市南区
東区役所案内サイン整備事業におけるユニバーサルデザインの提案	平成21年1月1日～平成21年3月15日	札幌市東区役所が案内サインを整備するにあたり、サイン及び導線整理等を含めたデザイン提案を行った。「もっと見える」というデザインコンセプトに基づき、数字と色を利用した分かりやすい誘導システムを開発した。またユニバーサルデザインの観点から、文字の認識度を高め、地域に親しみのある区のキャラクターを使った看板制作など、誰もが利用しやすく区民に親しみを感じてもらえる提案を行った。	札幌市東区
商店街の魅力向上の実現に向けたデザイン研究	平成21年2月12日～平成21年3月16日	平成19年度に実施した「商店街の魅力向上に関する事前研究」を踏まえ、行啓通商店街振興組合、栄町中央商店街振興組合、手稲本町商店街振興組合とワークショップを行い、各商店街の魅力向上に向けた具体的な方策を、テーマを設定して、コンセプト、デザイン内容、実施スケジュールについてデザイン提案を行った。	札幌市経済局
札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるメディア環境の実装及び運用に関する調査・研究	平成21年2月12日～平成21年3月31日	札幌駅前公共地下歩道北2条交差点広場を中心とした、具体的な次世代型の情報発信・メディアコミュニケーションの活用方策やねらいとする効果を明らかにし、広場整備コンセプト、コンテンツ及びその供給手段の具体的なイメージ化、そのために必要となる機材及び設備仕様構築を行った。	札幌市市民まちづくり局
「さつとう」のブランドを活かす流通パッケージデザインに関わる研究	平成20年9月1日～平成20年10月31日	札幌市農業協同組合（JAさっぽろ）が進める「札幌黄」ルネッサンス計画（仮称）において、新たに品質改良を行い開発したタマネギ「さつとう」（商品名）のブランド構築に関わるパッケージのデザイン開発及び提案を行った。	札幌市農業協同組合

2) 高大連携

①デザイン学部 第2回高大連携公開講座

開催日	学校名	受講者数	タイトル	担当教員
平成20年12月16日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 市立札幌大通高等学校	47人	「環境建築」を見る・考える・創造する	齊藤 雅也
			モノをデザインする	杉 哲夫

②看護学部 高大連携講座

開催期間	学校名	受講者数	授業科目／授業形態・時数	担当教員
平成20年4月～5月	北海道札幌新川高等学校	2人	看護学原論（講義・15時間）	河野 総子
平成20年6月～7月		1人	地域保健学概論（講義・15時間）	◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美
平成20年10月 ～平成21年2月		2人	人間発達援助論（演習・30時間）	◎宮崎 みち子 中村 恵子 坂倉 恵美子 松浦 和代
平成20年12月 ～平成21年2月		3人	チーム医療論（講義・15時間）	◎河野 総子 中村 恵子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

3) 高校出前講義

開催日	学校名	タイトル	担当教員
平成20年8月26日	北海道旭川北高等学校	「住まい」のデザイン	那須 聖
平成20年11月12日	北海道札幌旭丘高等学校	メディアをデザインする－You Tube時代とメディアの未来	武邑 光裕
平成20年11月12日	北海道札幌国際情報高等学校	人の感性(心)を読めるヒト。それがデザイナーだ！	柿山 浩一郎
平成20年11月12日	北海道札幌新川高等学校	生活援助科学としての看護技術	樋之津 淳子
平成20年12月5日	北海道小樽潮陵高等学校	iデザインという技術分野の概要、ユニバーサルデザインの基礎等	酒井 正幸
平成20年12月10日	北海道札幌開成高等学校	映像デザインの方法	望月 澄人
		アルツハイマー病（認知症）を看護の眼でみると？	スードイ神崎 和代
平成20年12月10日	北海道苫小牧東高等学校	人の感性(心)を読めるヒト。それがデザイナーだ！	柿山 浩一郎
		看護のシゴト	守村 洋

4) 学生参加事業

参加日・期間	内容	主催者	参加学生数	担当教員
平成20年5月～7月	札幌三井ビル仮囲いのデザイン	札幌市、三井不動産(株)、(株)北海道博報堂、札幌市立大学	9人	上遠野 敏
平成20年6月～7月	地下鉄東西線6000形車両さよならイベント「キャンバストレイン」のデザイン	札幌市交通局	18人	上遠野 敏
平成20年6月14日	北海道神宮例大祭において第16桑園祭典区の委員として運営協力	第16桑園祭典区	5人	照井 レナ
平成20年6月25日～7月2日、7月5日	パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF) 2008「ピース&エコロジーオリジナル缶バッヂ」のデザイン(採用1名)	(財)札幌芸術文化財団	18人	福田 大年
平成20年7月1日～20日	さっぽろシャワー通り 「Anonymous Garden」大通り地区公共休憩スペースの企画立案・デザインと制作・設置	さっぽろシャワー通り商店街、大通地区まちづくり協議会	5人	山田 良
平成20年7月6日	第13回精神障害者社会参加促進研修会及び第24回道回連総会の運営補助業務	北海道精神障害者回復者クラブ連合会	2人	守村 洋
平成20年7月13日	南区砥山地区の地域振興を図る農業祭「八剣山さくらんぼ祭り」の企画・運営	八剣山さくらんぼ祭り実行委員会	12人	吉田 恵介
平成20年7月29日～8月1日	iCommons Summit'08 in SapporoにおけるGlobal Lives Projectワークショップ	アイコモンズ	2人	須之内 元洋
平成20年8月10日	グリコファミリー劇場「つくってうたつておどってあそぼうファミリーステージ」の造形物制作	江崎グリコ(株)	6人	石崎 友紀
平成20年8月30日	桑園地区子ども大縄跳び大会の運営協力	桑園地区連合町内会	11人	新納 美美 進藤 ゆかり
平成20年8月30日～31日	「札幌メディア・アート・フォーラム(SMF)トライアル2008」を開催・運営し、また、参加した学生は「奨励賞」を受賞	札幌メディア・アート・フォーラム	7人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年
平成20年8月31日	札幌テレビ放送㈱「24時間テレビ」で「環境モニュメント」を制作	札幌テレビ放送㈱	10人	齋藤 利明
平成20年9月1日～10月31日	「第1回定山渓アート縁日2008」アートを通じての温泉地域活性・世代間交流、企画立案・ギャラリーデザインと制作・展覧会運営	札幌市南区、(社)定山渓観光協会	8人	山田 良
平成20年9月7日	第25回桑園地区大運動会の運営協力	桑園地区連合町内会	14人	照井 レナ
平成20年9月11日～15日	第3回札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」	SAPPOROショートフェスト実行委員会、札幌市	10人	武田 亘明
平成20年9月20日	「けんこうフェスタ2008 in ちゅうおう」にて血圧測定、アルコールパッチテスト等を実施	けんこうフェスタ2008 in ちゅうおう実行委員会	10人	城間 祥之 三谷 篤史 須之内 元洋 清水 光子 新納 美美

参加日・期間	内容	主催者	参加学生数	担当教員
平成20年9月23日	「ユニヴァーサルデザインフォーラム in 札幌」ワークショップの企画運営	国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD)	9人	酒井 正幸 柿山 浩一郎 多賀 昌江 照井 レナ
平成20年9月29日 ～10月6日	札幌市景観施策PRのための展示 「札幌の景観色70色」	札幌市	5人	那須 聖
平成20年10月 ～現在に至る	三輪自転車開発プロジェクト参加	(株)Will-E	5人	杉 哲夫
平成20年10月 ～平成21年3月	北海道庁赤れんがワインラベルデザイン 及びグッズの開発	(株)小六、札幌市立大学	9人	上遠野 敏
平成20年10月 ～11月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター 「のほほん第2号」イラストの制作	札幌市立大学附属図書館	3人	上遠野 敏
平成20年10月4日	「札幌メディア・アート・フォーラム (SMF) カウンセリング&カンバセーション2008」の開催・運営・参加	札幌メディア・アート・フォーラム	8人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年
平成20年10月19日	第8回ロボット・トライアスロンに参加	ロボット・トライアスロン運営委員会	3人	細谷 多聞 柿山 浩一郎 三谷 篤史
平成20年10月19日	第20回桑園地区文化祭の運営協力	桑園地区連合町内会	1人	新納 美美 進藤 ゆかり
平成20年10月31日 ～11月1日	札幌デザインウィーク2008特別企画 札幌市立常盤小学校ジョイントイベント 「ダンボールハウスを作ろう!」「光博士・熱博士になろう」「常盤の森の探検隊」の 開催・運営・参加	札幌市立大学デザイン学部、 NPO法人北海道デザインネット ワーク	30人	吉田 恵介 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 齊藤 雅也 那須 聖 山田 良 片山 めぐみ
平成20年11月15日	中江病院メディカルフェスティバルの運営補助業務	医療法人中江病院	3人	守村 洋
平成20年11月21日 ～12月20日	「上遠野徹 鉄骨の住宅展」に出展	(株)上遠野建築事務所	3人	羽深 久夫
平成20年11月25日 ～平成21年2月15日	「さっぽろロマンティックパスポート」関連事業「イルミネーション電車」プロジェクトにて、市電の内装をデザイン	さっぽろロマンティックパスポート実行委員会	10人	福田 大年
平成20年11月26日 ～平成21年1月13日	券売機用ワイヤレスカードのデザイン作成（コンペ形式）	札幌市交通局	15人	吉田 和夫
平成20年12月 ～平成21年2月	「受動喫煙による健康被害」の知識普及 に関するポスターの制作	札幌市北区健康づくり協議会	9人	上遠野 敏
平成20年12月 ～平成21年2月	「平成20年度版 札幌市環境白書概要版－さっぽろの環境に私たちができるコト－」パンフレット作成	札幌市環境局	1人	柿山 浩一郎

概要	参加日・期間	内容	主催者	参加学生数	担当教員
教育活動	平成20年12月14日	平成20年度学生まちづくりプレゼンテーションに「雪あかりの祭典ARTOU」をテーマとして参加	札幌市市民まちづくり局	71人	羽深 久夫
研究活動	平成21年1月～平成21年3月	第11回全国病弱教育研究会北海道大会ポスターの制作	全国病弱教育研究会	1人	上遠野 敏
社会活動	平成21年1月5日～12日	「定山渓スノーファンタジー」企画立案・会場デザインと制作・運営	札幌市南区、(社)定山渓観光協会	5人	山田 良
入学者選抜結果	平成21年1月24日	芸術の森地区「雪あかりの祭典」でイベント「ARTOU」を企画・実施	札幌市南区芸術の森地区町内会連合会	71人	羽深 久夫
附属図書館	平成21年1月28日	北海道大学公共政策大学院・札幌市立大学・旭川大学コラボレーション企画「北海道には明日がある。LET'S COLLABORATE!～若者の若者による未来のための研究発表」の運営協力	LET'Sコラボ!事務局	1人	齊藤 雅也
及び教育研究審議会	平成21年2月～3月	札幌市の商店街の魅力向上の実現にむけたデザインの提案	札幌市経済局	11人	羽深 久夫
学内運営の概要	平成21年2月～3月	南区の景観資源や歴史資源をPRするため「雪あかりの祭典」を映像編集	札幌市南区	5人	羽深 久夫
資料	平成21年2月7日	「第4回札幌メディア・アート・フォーラム(SMF) シンポジウム 創造都市Sapporoへの成功戦略②『創造する都市の未来形』」の開催・運営・参加	札幌メディア・アート・フォーラム	26人	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年
	平成21年3月6日	「未来を創ろう！メッセージムービーサミット2009」において円山動物園内で上映する環境メッセージ映像制作	札幌市立大学デザイン学部、札幌市円山動物園、北海道コカ・コーラボトリング(株)	16人	大渕 一博 齊藤 雅也
	平成21年3月13日	第3回環境工学系・卒業論文発表会のポスターデザインコンペ企画	日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会	1人	大渕 一博 齊藤 雅也

5) 札幌市円山動物園プロジェクト

参加日・期間	内容	担当教員
平成20年4月	「円山動物園の森」生態系調査	酒井 正幸 矢部 和夫
平成20年5月17日	「円山動物園の森」春の観察会（市民向け）インストラクター	酒井 正幸 矢部 和夫
平成20年6月 ～平成21年2月	新爬虫類館（仮称）基本デザイン	斎藤 雅也
	エゾヒグマ館（仮称）基本デザイン	斎藤 雅也 片山 めぐみ
	高揚感・癒しに関する基礎的研究	酒井 正幸 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 柿山 浩一郎 片山 めぐみ
平成20年6月19日 ～6月21日	「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008」出展 「環境教育拠点としての動物園グランドデザイン」	酒井 正幸 吉田 和夫 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 斎藤 雅也 片山 めぐみ
平成20年7月 ～平成21年3月	デザインルールに基づくサインデザイン構築に関する調査研究	酒井 正幸 吉田 和夫 大渕 一博 柿山 浩一郎 斎藤 雅也
平成20年10月30日 ～11月4日	「SAPPORO DESIGN WEEK 2008」 円山動物園プロジェクトの成果をパネル出展	酒井 正幸 吉田 和夫 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 斎藤 雅也 片山 めぐみ
平成20年11月2日	「円山動物園の森」秋の散策会（市民向け）インストラクター	酒井 正幸 矢部 和夫
平成20年12月18日	市民向け講演会「欧米の動物園にみる動物とヒトのためのデザイン」	片山 めぐみ
平成21年2月	札幌市円山動物園受託研究報告書提出	酒井 正幸 吉田 和夫 張 浦華 細谷 多聞 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 斎藤 雅也 片山 めぐみ
平成21年2月21日 ～3月3日	BONBORI PROJECT (サル山展望レストハウスにおけるひな祭りの装飾)	片山 めぐみ
平成21年3月	ユニバーサルデザイン的視点に基づくサイン計画に関する調査	酒井 正幸 吉田 和夫 柿山 浩一郎

6) その他の地域貢献諸活動

参加日・期間	内容	主催者	教員名
平成20年4月 ～平成20年12月	アニマルセラピー活動として、高齢者入居施設における動物訪問活動の実施	札幌市小動物獣医師会	河村 奈美子
平成20年4月 ～平成21年3月	こころの健康相談	NPO法人こころ	塚 辺 蘭子
平成20年4月 ～現在に至る	小規模多機能施設人材開発協力	医療法人社団いばらき会	スーデイ神崎 和代
平成20年5月10日、 7月28日、8月9日、 10月25日、 平成21年1月10日	「まちの保健室」において、保健師・助産師・看護師の三者が協力し、市民の心身の相談事に対応	(社)北海道看護協会	宮崎 みち子

概要	参加日・期間	内容	主催者	教員名
教育活動	平成20年5月16日	看護研究発表の審査と講評	神鋼ケアライフ(株)	スーデイ神崎 和代
研究活動	平成20年6月1日	「ラブアース・クリーンアップ in 北海道2008」に伴い、八剣山発見隊30名と地域の環境整備活動に参加	NPO法人北海道市民環境ネットワーク	吉田 恵介
社会活動	平成20年6月1日、7月6日、8月3日、9月7日	「第25回北海道庁旧本庁舎」「第26回旧石田邸」「第27回北海道開拓の村」「第28回小樽運河周辺」解説	古き建物を描く会	羽深 久夫
入学者選抜結果	平成20年6月18日	CAI02開廊記念展「サッポロ・アート・トーク vol.2」におけるアーティストトーク	CAI02	上遠野 敏
附属図書館	平成20年6月19日～21日	北海道洞爺湖サミット記念「環境総合展2008」に出展	北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008実行委員会	羽深 久夫
及び教育、研究、経営審議会	平成20年6月28日、8月28日、平成21年2月21日	「製材と家具製作のワークショップ」「ガウディ建築とスペイン民家の魅力－実測調査から近作まで－」「第一回厚真町古民家現地再生工事解体現場見学会」の司会進行	NPO法人北の民家の会	羽深 久夫
学内運営の概要	平成20年7月30日～8月1日	トライアスカル事業（サマーアートキャンプ IN 江別）小学生体験学習キャンプ	江別市、江別市教育委員会、アトリエ陶「風の村」	矢部 和夫
資料	平成20年8月9日～10日	「北の大地の森林づくり展」に出展	北海道	羽深 久夫
	平成20年8月9日～12日	そらぶちキッズキャンプ「サマー キャンプ2008（第2ターム）」における参加者の日常生活支援	そらぶちキッズキャンプを創る会	吉川 由希子
	平成20年9月4日	市民と共に「仕事と子育ての両立」に関する意見交換	市民ネット西	宮崎 みち子
	平成20年10月	ブランドを活かす流通パッケージのデザイン制作研究	札幌市農業協同組合	齋藤 利明
	平成20年10月17日～19日	「いきいき福祉2008」に出展し、北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA）の組織概要を説明	いきいき福祉2008実行委員会	酒井 正幸 柿山 浩一郎
	平成20年12月6日	現代アートのフロントラインの展覧会「FIX・MIX・MAX!2」におけるアーティストトーク	FIX・MIX・MAX!実行委員会	上遠野 敏
	平成21年1月20日	環境省・チームマイナス6%「ウォームビズ20℃プロジェクト トークイベント」において北海道の室温調査報告	環境省・チームマイナス6%	斉藤 雅也
	平成21年1月30日	「札幌メディア・アート・フォーラム（SMF）研究会」の開催・運営・参加	札幌メディア・アート・フォーラム	武邑 光裕 武田 亘明 福田 大年
	平成21年2月～現在に至る	市立赤平総合病院再構築支援チーム	市立赤平総合病院	スーデイ神崎 和代
	平成21年2月19日	「第3回NUDAサロン」として、雪まつり会場での「気付き発見」ワークショップを企画・運営	北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA）	酒井 正幸 柿山 浩一郎
	平成21年3月2日、3月5日	夕張市立診療所における熱環境実測調査	日本建築学会北海道支部環境工学専門委員会	斉藤 雅也 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり 原井 美佳

2 公開講座開催実績

1) 市民セミナー・市民講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成20年4月29日	歴史の貴重な証言：日本国憲法の男女平等権に込められたペアテ・シロタ・ゴードンさんの思い	ペアテ・シロタ・ゴードン	130
平成20年6月7日	生まれ変わる円山動物園 ～札幌市立大学の取組み～	酒井 正幸 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 吉田 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 細谷 多聞 (札幌市立大学 デザイン学部准教授) 斎藤 雅也 (札幌市立大学 デザイン学部講師) 片山 めぐみ (札幌市立大学 デザイン学部助教) 守村 洋 (札幌市立大学 看護学部准教授) 金澤 信治 (札幌市円山動物園 園長) 吉田 淳一 (札幌市円山動物園 飼育員) 本田 直也 (札幌市円山動物園 飼育員) 野谷 悅子 (フリーライター、(有)うつぐみ代表) 牧野 正昭 (円山西町町内会 会長)	53
平成20年7月12日	アーキテクチャラル・コミュニケーション／作品づくりを通しての地域交流	山田 良 (札幌市立大学 デザイン学部講師)	11
平成20年8月3日	【デザインスクールリーグ2008セミナー 動植物の魅力を伝えるデザイン】 環境教育拠点としての円山動物園のビオトープ展示 ITを活用したオランウータンと顧客のコミュニケーション	矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授) 酒井 正幸 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	12
平成20年9月9日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生活するための知恵①】 積雪寒冷地で健康に暮らす秘訣…あなたのお口は健康ですか？	村松 真澄 (札幌市立大学 看護学部講師)	20
平成20年10月8日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生活するための知恵②】 積雪寒冷地での快適な排尿…排尿について心配なことありませんか？	平井 修二 (医療法人社団共生会 理事長) 原井 美佳 (札幌市立大学 看護学部助手)	19

概要	開催日	タイトル	講師	受講者数
教育活動	平成20年11月18日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生活するための知恵③】 積雪寒冷地の高齢者にとって安全で快適な住環境と入浴法	齊藤 雅也 (札幌市立大学 デザイン学部講師) 坂倉 恵美子 (札幌市立大学 看護学部教授)	19
研究活動	平成21年1月15日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生活するための知恵④】 痛みは、病気のサイン－積雪寒冷地に住む高齢者の注意すべき病気について－	山内 正憲 (札幌医科大学附属病院 麻酔科講師) 進藤 ゆかり (札幌市立大学 看護学部助教)	23
社会活動	平成21年3月24日	地域創成のためのデザイン	小磯 修二 (釧路公立大学 学長・地域経済研究センター長) 濱田 康行 (北海道大学大学院 経済学研究科教授) 原田 昭 (札幌市立大学 理事長・学長) 武邑 光裕 (札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授) モデレータ 城間 祥之 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	43

2) 専門セミナー・専門講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成20年6月21日	【10代の性を守るために】 10代の性－札幌市の危機を直視する 生命の尊厳とセクシャリティ教育が目指すもの 10代の妊娠・出産がかかえる問題点－事例分析から 10代と語る－ピアサポートの意義とスキル	宮村 もと子 (札幌市議会議員・(社)北海道看護協会理事) 宮崎 みち子 (札幌市立大学 看護学部教授) 松浦 和代 (札幌市立大学 看護学部教授) 中出 佳操 (北翔大学 人間福祉学部教授)	77
平成20年6月24日	実践口腔ケア	村松 真澄 (札幌市立大学 看護学部講師)	40
平成20年7月15日	栄える地域のデザイン・減びる地域のデザイン	石崎 友紀 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	10
平成20年8月30日	【臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座】 指圧マッサージ法の基礎的知識と手技の基本 看護場面で活用できる指圧マッサージ手技とツボ（実技）	河内 香久子 (治療室シーズ 院長) 河内 香久子 (治療室シーズ 院長) 大野 夏代 (札幌市立大学 看護学部准教授)	46
平成20年9月1日	わが国の看護人材対策の動向	寺山 洋一 (厚生労働省 医政局看護課看護職員確保対策官)	56

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成20年9月4日	新たなトランスファー技術 -もっとらくらくな動作介助を学ぶ-	佐藤 幸恵 (動作介助研究会) 高城 宗敏 (動作介助研究会) 山本 聰 (動作介助研究会)	16
平成20年9月23日	フィジカルアセスメント(呼吸器系・循環器系)を学ぶ	山内 豊明 (名古屋大学 医学部教授)	59
平成20年10月24日	【アジアの歴史的建造物から学ぶ①】 アジア圏の歴史的建造物と札幌のまちづくり	羽深 久夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	41
平成20年11月1日	【札幌市立大学デザイン学部 北海道デザインワーキング協賛講座 グリーン&エコデザインで生活を楽しむ①】		
	東と西のガーデニング	吉田 恵介 (札幌市立大学 デザイン学部長・教授)	16
	イギリスのガーデンとガーデンシティ	宮前 保子 (株)スペースビジョン研究所 取締役所長)	20
平成20年11月2日	【札幌市立大学デザイン学部 北海道デザインワーキング協賛講座 グリーン&エコデザインで生活を楽しむ②】		
	五感を癒す庭園芸術	井上 剛宏 (作庭家、(株)植芳造園代表取締役)	23
	環境共生の住宅づくり	富永 齊史 (京都造形芸術大学非常勤講師、積水ハウス (株)商品開発部景観企画グループ)	18
平成20年11月3日	【札幌市立大学デザイン学部 北海道デザインワーキング協賛講座 グリーン&エコデザインで生活を楽しむ③】		
	持続可能な農的くらしをデザインする	酒匂 徹 (自然農園ウレシパモシリ 代表)	26
	エコロジカル・ランドスケープのデザイン	矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	15
平成20年11月7日	【地球環境への提言シリーズ①】 ドイツにおける省エネ対策の現状と思考背景 -フライブルクのまちづくりを事例として-	村上 敦 (環境ジャーナリスト)	71
平成20年11月21日	【アジアの歴史的建造物から学ぶ②】 ネパールにおける歴史的建造物とまちづくり	黒津 高行 (日本工業大学 工学部建築学科教授)	32
平成20年12月5日	【地球環境への提言シリーズ②】 環境先進国のドイツにおける改修に関する 支援制度と具体的な事例 国産地場間伐材を用いた断熱改修技術の事例	小室 大輔 (一級建築士事務所エヌクスレイン 代表) 飯田 信男 (飯田ウッドワークシステム(株) 代表取締役社長)	68
平成20年12月19日	【アジアの歴史的建造物から学ぶ③】 韓国における歴史的建造物とまちづくり	中西 章 (東京工業大学附属科学技術高等学校 教諭)	34
平成21年1月23日	【アジアの歴史的建造物から学ぶ④】 日本近世における歴史的建造物とまちづくり	伊東 龍一 (熊本大学大学院 自然科学研究科教授)	28
平成21年2月20日	【アジアの歴史的建造物から学ぶ⑤】 北海道における歴史的建造物とまちづくり	駒木 定正 (北海道職業能力開発大学校 助教授)	25

3) 足・腰振動刺激付きバランス機器による高齢者転倒予防講座 －バランストレーニングで健やかな老後を－

開催日	タイトル		講師	受講者数
平成21年1月24日	Aコース	バランストレーニング①	田中 敏明 (東京大学 先端科学技術研究センター特任教授)	18
平成21年2月21日		バランストレーニング②		14
平成21年1月24日	Bコース	バランストレーニング①		18
平成21年2月21日		バランストレーニング②		18

4) 創造都市さっぽろ市民公開セミナー～創造都市さっぽろに向けて～

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成20年9月17日	創造都市さっぽろに向けて	佐々木 雅幸 (大阪市立大学大学院 創造都市研究科教授)	90

5) 产学連携公開講座

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成20年7月31日	【価値創造経済へのロードマップ 創造する音楽の前線】 エレクトロニカの革新 電子音楽の現在	ステック (音楽アーティスト) 武邑 光裕 (札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授) ト ビ 一 (DJ) 浦尾 画三 (作曲家) 大黒 淳一 (サウンドメディアアーティスト) 須之内 元洋 (札幌市立大学 デザイン学部助手)	70

6) さっぽろ緑花園芸学校

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成21年1月22日	山野草の咲く公園づくり	矢部 和夫 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	41
平成21年2月12日	都市緑化制度・都市計画	吉田 恵介 (札幌市立大学 デザイン学部長・教授) 西 紀雄 (札幌市 環境局みどりの推進部みどりの推進課係長)	35

3 学会及び社会における活動

デザイン学部

教員名	所属学会・委員会等
原田 昭	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 監査／各賞委員会委員 ・日本感性工学会 参与／編集委員会委員 ・日本認知科学会 ・(社)日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA) ・Asia Network Beyond Design 顧問 (Asia Network Beyond Design準備組織) ・(財)国際メディア研究財団 理事 ・札幌市円山動物園第2期市民動物園会議 (第1回～第3回) 委員長 (札幌市環境局)
吉田 恵介	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造園学会 北海道支部常任幹事 ・(社)環境情報科学センター 論文査読者 ・日本都市計画学会 ・人文地理学会 ・(社)札幌消費者協会40年記念ロゴマーク公募審査委員会 委員長 ・北海道特定開発行為審査会 委員 (北海道) ・国営滝野すづらん丘陵公園管理運営計画検討アドバイザー会議 座長 (国土交通省) ・(財)さっぽろ産業振興財団 評議員 ・NPO法人北海道デザインネットワーク 理事 ・札幌市緑の審議会 委員長 (札幌市) ・藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業者選定プロポーザル審査委員会 委員 (株)札幌振興公社 ・創成川アートワーク委員会 委員 (札幌市) ・札幌市都市景観アドバイザー 委員 (札幌市) ・札幌市都市景観賞選考委員会 委員 (札幌市)
武邑 光裕	<ul style="list-style-type: none"> ・日本予防医学リスクマネージメント学会 理事／北海道地方会会长 ・芸術科学会 ・情報文化学会 ・ACM ・創造都市さっぽろ推進会議 座長 (札幌市) ・芸術の森企画検討委員会 委員 (財)札幌市芸術文化財団 ・札幌市都市計画 特別顧問 (市長委嘱) ・石川県新情報書府事業 特別顧問 (石川県) ・札幌市「地上波デジタル放送検討委員会」副委員長 (札幌市) ・(財)デジタルコンテンツ協会 評議員 ・(社)北海道観光振興機構 政策委員会事業計画部会副部会長 ・平成20年度中心市街地商業等活性化支援業務 (人材育成事業) 委員会 委員 (経済産業省) ・地域ブランド構築のためのデザイン・IT活用ガイド検討委員会 委員長 (北海道経済部) ・NPO法人都市文化創造機構 理事 ・札幌メディア・アート・フォーラム 運営委員
石崎 友紀	<ul style="list-style-type: none"> ・道具学会 理事 (研究委員会委員長) ・(社)日本クラフトデザイン協会 理事／教育・研究・交流事業委員会委員 ・日本デザイン学会 ・環境芸術学会 ・芸術工学会 ・北海道芸術学会 ・札幌芸術の森工芸部専門委員会 委員 (財)札幌市芸術文化財団) ・「公共建築の日」及び「公共建築月間」ポスターコンテスト審査委員会 審査委員 (北海道開発局)

教員名	所属学会・委員会等
上遠野 敏	<ul style="list-style-type: none"> ・空知産炭地域活性化戦略会議／広域景観調査会議 委員（空知支庁） ・札幌三井ビル仮囲いデザイン「产学デザイン実験プロジェクト」 アートディレクター（札幌市／三井不動産株／株北海道博報堂／札幌市立大学） ・札幌市円山動物園ロハスナイトキャンドルライト アートディレクター（札幌市円山動物園／有）インターリンクジャパン） ・北海道庁赤れんがワインラベル及び関連グッズ開発「产学デザイン実験プロジェクト」 アートディレクター（株子六／札幌市立大学） ・キャンバストレイン アートディレクター（札幌市交通局） ・受動喫煙による健康被害の知識普及に関するポスター アートディレクター（札幌市北区健康づくり協議会） ・ごはんのある風景絵画展 審査委員長（ホクレン農業協同組合連合会）
齋藤 利明	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人テレビ日本美術家協会 理事／北海道支部長 ・芸術工学会 ・北海道芸術学会 ・「アートボックス」運営評議 委員（札幌駅総合開発株） ・「(仮称) あけぼのアート&コミュニティセンター管理運営団体」選定委員会 委員（札幌市） ・コープ妹背牛新米品種「ななつぼし」のパッケージイラスト公募（小学生対象）のデザイン選考委員会 委員（株電通北海道） ・(社)札幌消費者協会40年記念ロゴマーク公募審査委員会 委員 ・(財)河川環境管理財団「みずもり会議」キャラクター審査会選考委員会 委員長
酒井 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人間工学会 ・日本感性工学会 ・日本デザイン学会 ・日本ヒューマンインターフェース学会 ・北海道カムイミンタラブランデザインコンクール審査委員会 審査委員（北海道カムイミンタラブランデザインコンクール実行委員会） ・札幌市円山動物園ビオトープ協議会 委員（札幌市円山動物園） ・北海道感性産業開発ネットワーク（KIND） 事務局長 ・「平成20年度サービス研究センター基盤整備事業」に係る適用実証委託事業公募審査委員会 審査委員（獨）産業技術総合研究所） ・北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA） 副理事長 ・札幌スタイル推進会議 委員（札幌市経済局） ・第2回道新ぶんちゃん写生コンクール 審査員（株北海道新聞社販売局）
城間 祥之	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 理事／査読委員 ・芸術工学会 校閲委員 ・日本機械学会 ・精密工学会 デジタルスタイルデザイン研究分科会委員 ・日本設計工学会 ・情報処理学会 ・IEEE ・ACM ・北海道MOTコンソーシアム（推進協議会） 委員（経済産業省） ・NPO法人札幌ITフロント 理事 ・International Conference on IDMME Virtual Concept 2008 Organizing Committee 論文審査委員（AIP-PRIMECA）
杉哲夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・(社)日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）アクレジット委員会 委員 ・日本感性工学会 ・札幌スタイル・デザイン開発プロジェクト 副会長（札幌市経済局） ・平成20年北海道地域活性化 支援アドバイザー（獨）中小企業基盤整備機構）

教員名	所属学会・委員会等
中原 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道都市地域学会 論文査読委員 ・日本都市計画学会 ・日本建築学会 ・日本公衆衛生学会 ・札幌市中高層建築物紛争調整委員会 委員（札幌市） ・北海道建築士審査会 会長（北海道）
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 建築歴史・意匠委員会日本建築史小委員会委員／北海道支部歴史意匠専門委員会委員／北海道支部学術委員会委員／北海道支部特定課題研究委員会主査／論文集委員会査読委員 ・建築史学会 ・日本生活文化史学会 ・日本家政学会 ・北海道考古学会 ・NPO法人日本民家再生リサイクル協会 理事 ・NPO法人北の民家の会 理事長 ・NPO法人アルテピアツツアびばい 会員 ・札幌市文化財保護審議会 委員（札幌市） ・「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム 審査委員（一般社団法人日本技術者教育認定機構・日本建築学会） ・空知生活文化創造産業創出産官学連携推進委員会 委員長（一般社団法人北海道中小企業家同友会） ・札幌市南区シニックバイウェイ検討協議会 委員（札幌市南区） ・札幌市南区シニックバイウェイルート運営代表者会議 委員（札幌市南区） ・札幌市南区シニックバイウェイ地域づくり関連部会 委員（札幌市南区） ・大学生参加による町内会加入・活動参加促進ポスター検討・制作事業 オブザーバー（札幌市市民まちづくり局） ・上ノ国町文化財保護審議会 特別委員（上ノ国町教育委員会） ・芸術の森地区「雪あかりの祭典」実行委員会 委員（札幌市南区芸術の森地区町内会連合会） ・定山渓まちづくり協議会 委員 ・商店街等と連携したコミュニティビジネス事業企画提案選考委員会 委員（札幌市経済局） ・南区ユニークサルデザイン・ウォーキングマップ作成実行委員会 委員長（札幌市南区） ・社会福祉法人札幌市福祉事業団札幌市保養センター駒岡リーフレットデザイン委員会 委員 ・札幌市芸術の森地区街づくり推進会議 特別委員（札幌市南区芸術の森地区町内会連合会） ・札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会 幹事 ・南空知文化創造産業創出産官連携推進委員会 委員長 ・（財）札幌市芸術文化財団札幌芸術の森オリジナルグッズ作成委員会 委員
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人口学会 理事／組織・制度検討委員会副委員長／人口学会・東日本部会担当（平成20年5月まで） ・日本人口学会 制度改革委員会委員／人口学研究編集委員／人口学会・東日本部会委員（平成20年6月から） ・日本家族社会学会 家族社会学研究専門委員 ・北海道社会学会 監事 ・日本社会学会 ・日本政治学会 ・日本情報考古学会 ・研究評議委員会 委員（国立社会保障・人口問題研究所） ・北海道立女性プラザ運営協議会 委員（財）北海道女性協会）
望月 澄人	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・イメージ ・子ども環境ポスター・絵画展審査委員会 審査員（札幌商工会議所女性会） ・札幌市認定こども園名称選定委員会 委員（札幌市子ども未来局／札幌市教育委員会） ・札幌市認定こども園にじいろに係る園章選定委員会 委員長（札幌市子ども未来局／札幌市教育委員会） ・ウェブシティさっぽろ管理運営業務実施状況評議委員会 委員長（札幌市市民まちづくり局） ・札幌市デジタル創造プラザ（ICC）入居者審査会 選定委員（アドバイザー）（財）さっぽろ産業振興財團）

教員名	所属学会・委員会等
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造園学会 北海道支部会幹事 ・日本生態学会 ・応用生態工学会 ・北海道環境審議会生物多様性保全部会 委員（北海道） ・植生図検討委員会 委員（環境省） ・釧路湿原自然再生協議会 委員（環境省） ・美々川自然再生技術検討委員会 美々川・ウトナイ湖自然再生ワーキンググループ委員（北海道） ・円山動物園の森協議会 委員（札幌市円山動物園） ・(財)日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ運営協議会 委員
吉田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・東京グラフィックデザイナーズクラブ (TGC) ・日本広告技術協議会 (NAAC) ・札幌市広告アドバイザー（札幌市） ・札幌市都市景観審議会 委員（札幌市） ・札幌スタイル・デザインコンペティション実行委員会 委員（札幌市） ・中央区広報PR用ロゴデザイン選考委員会 委員（札幌市中央区） ・札幌市円山動物園グッズ会議 委員（札幌市） ・創造都市さっぽろ (sapporo ideas city) 産業活性化研究会 委員（札幌市） ・エコデザインアワード2008 実行委員会委員／作品展作品選考審査委員長 (SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会)
武田 直明	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理学会 ・日本教育情報学会 ・日本教育工学会 ・北海道中国哲学会 ・教育とコンピュータ利用研究会 副会長／北海道支部長 ・北海道発明工夫教育連盟 副会長 ・北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会 理事 ・札幌メディア・アート・フォーラム 運営委員 ・ハイパー風土記札幌Inter City OROPPAS運営委員会 運営委員長 ・情報と教育フォーラム北海道オンコの木 代表 ・ネットワークコミュニティフォーラム 幹事 ・バーチャル雪まつり実行委員会 事務局代表 ・北海道デジタルコンテンツ教育連絡会 代表世話人 ・メディアアンビシャス 会員 ・札幌市西岡地域情報化推進協議会 副会長（札幌市） ・北海道放課後子どもプラン推進会 委員長（北海道） ・平成20年度北海道学校支援地域本部事業運営協議会 会長（北海道） ・平成20年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）候補者選考委員会 委員（北海道） ・北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会 委員（北海道） ・「ようこそさっぽろ」運営業者プロポーザル選定委員会 委員（札幌市） ・第3回札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」審査委員会 委員長 (SAPPOROショートフェスト実行委員会／札幌市) ・クリエイティブコモンズ研究会 副委員長 ・札幌市立西岡小学校学校評議員会 委員（札幌市）
張 浦 華	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 ・日本デザイン学会 ・札幌市円山動物園公式ホームページ運営委員会 委員（札幌市円山動物園）

教員名	所属学会・委員会等
細谷 多聞	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・芸術工学会 理事／研究推進委員会 ・日本感性工学会 理事 ・日本看護科学学会 ・札幌市円山動物園ホームページ編集会議 委員（札幌市円山動物園） ・札幌スタイル・デザイン開発会議 委員（札幌市） ・札幌スタイル・デザイン会議 委員（札幌市） ・北海道感性産業開発ネットワーク（KIND） 理事 ・北海道デザインマネジメントフォーラム（HDMF） 理事 ・Asia Network Beyond Design 2008 実行委員会 日本会場担当責任者
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> ・International Communication Association ・International Pragmatics Association ・日本コミュニケーション学会 北海道支部役員 ・大学英語教育学会（JACET） 全国大会準備委員会委員 ・日本語用論学会 ・外国语教育メディア学会 ・札幌家庭裁判所 参与員 ・(財)札幌市水道サービス協会 評議員
大渕 一博	<ul style="list-style-type: none"> ・電子情報通信学会 ・日本教育工学会 ・日本感性工学会 ・日本看護学教育学会
柿山 浩一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・日本感性工学会 編集委員会編集委員 ・日本デザイン学会 広報委員会幹事 ・北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA） 事務局
斎藤 雅也	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 環境工学委員会熱環境運営委員会バイオクライマティックデザイン小委員会幹事／論文集委員会論文査読委員／地球環境委員会地球環境時代における教育小委員会委員／北海道支部環境工学専門委員会幹事 ・空気調和・衛生工学会 ・日本太陽エネルギー学会 ・日本デザイン学会 ・日本感性工学会 ・日本看護科学学会 ・北海道住まい・環境教育学会 ・Low Ex. Net (Network of International Society for Low Exergy Systems in Buildings) ・PLEA (Passive and Low Energy Architecture) ・IEA ECBCS Annex49 日本委員会 委員 (財)建築環境・省エネルギー機構) ・BIS認定制度試験講習委員会 委員 (社)北海道建築技術協会)
那須 聖	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 北海道支部建築計画委員会委員／北海道支部設計競技委員会委員／常議員 ・北海道芸術学会 ・形の科学会 ・札幌市都市景観審議会 委員（札幌市） ・札幌南区シニックバイウェイルート運営代表者会議 委員（札幌市南区） ・北翔大学「学び直しセミナー」プログラム評価委員会 委員
福田 大年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本デザイン学会 ・情報文化学会 ・札幌アートディレクターズクラブ コンペティション＆アワード2008運営委員 ・札幌メディア・アート・フェスタ2008 運営委員（札幌メディア・アート・フォーラム）

教員名	所属学会・委員会等
松井 美穂	<ul style="list-style-type: none"> ・日本アメリカ文学会 北海道支部編集委員（査読者）／北海道支部会計監査 ・アメリカ学会 ・日本英文学会 ・日本ウィリアム・フォークナー協会 ・Carson McCullers Society
三谷 篤史	<ul style="list-style-type: none"> ・日本機械学会 ・日本ロボット学会 ・精密工学会 ・計測自動制御学会 ・IEEE ・北海道トライボロジー研究会 委員（日本トライボロジー学会北海道支部） ・北海道光科学技術研究会 委員 ・第8回ロボット・トライアスロン運営委員会 委員 ・IEEE/RSJ 2008 International Conference on Intelligent RObots and Systems(IROS2008) 論文査読委員 ・感性フォーラム札幌2009実行委員会 委員（日本感性工学会）
山田 良	<ul style="list-style-type: none"> ・環境芸術学会 ・北海道芸術学会 ・アメリカ・ランドスケープデザイン協会 ・北欧建築デザイン協会 ・「OYOYO大通りまち×アートセンター」実行委員会 委員（大通地区まちづくり協議会） ・札幌市南区シニックバイウェイ検討協議会 委員（札幌市南区） ・定山渓まちづくり協議会委員会 委員（札幌市南区）
片山 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 心理・生理小委員会委員 ・日本造園学会 ・日本展示学会 ・人間・環境学会 ・第2回ラッピングコンペティション審査委員会 委員
須之内 元洋	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科学会 ・ACM (the Association for Computing Machinery) ・情報処理学会 ・札幌メディア・アート・フォーラム 運営委員

看護学部

教員名	所属学会・委員会等
中村 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本救急看護学会 理事長／理事／評議員 ・日本クリティカルケア看護学会 監事／評議員／第6回学術集会長 ・日本臨床救急医学会 理事／評議員／倫理委員会委員／会則委員会委員 ・日本集団災害医学会 評議員／査読委員 ・日本健康科学学会 ・日本災害看護学会 査読委員 ・日本老年看護学会 ・日本病院管理学会 ・日本看護診断学会 評議員 ・日本がん看護学会 ・日本看護科学学会 第29回学術集会企画委員／第30回学術集会会長 ・日本糖尿病教育・看護学会 ・日本難病看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護管理学会 監事／評議員／査読委員 ・日本集中治療医学会 ・日本看護教育学会 ・日本看護学教育学会 ・(社)日本看護協会認定看護師制度委員会 委員長 ・(社)日本看護協会専門看護師認定実行委員会 委員 ・北海道医療大学認定看護師運営委員会 委員 ・NPO法人地域の包括的な医療に関する研究会 理事 ・NPO法人動作介助研究会 理事／副理事長 ・札幌市災害時医療体制検討委員会 委員（札幌市） ・医道審議会 臨時委員（厚生労働省医政局）
加藤 登紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本地域看護学会 編集委員会委員 ・日本産業衛生学会 代議員／第81回日本産業衛生学会企画運営委員会委員 ・日本産業ストレス学会 理事 ・日本産業精神保健学会 理事／第50回産業精神衛生研究会企画委員会委員 ・日本公衆衛生学会 ・日本健康教育学会 ・日本人間工学会 ・日本学校保健学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・東京女子医科大学看護学会
河野 総子	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)日本看護協会 日本看護学会 ・北海道救急医学会 ・日本看護研究学会 ・日本病院・医療管理学会 ・北日本看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本災害看護学会 ・日本看護学教育学会 ・医療経済学会 ・組織行動学学会 ・癒しの環境研究会 ・日本医学看護学教育学会

教員名	所属学会・委員会等
坂倉 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学会 ・日本家族看護学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本高齢者虐待防止学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護技術学会 ・北海道医学会 ・北海道建築審査会 審査委員（北海道） ・札幌市介護認定審査会 審査委員（札幌市） ・社会福祉法人札幌市福祉事業団 評議委員
スーデイ 神崎 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・国際感染予防学会 ・国際医療の質学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護科学学会 査読委員 ・日本看護学教育学会 ・北海道公衆衛生学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・北海道民族学会
樋之津 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護研究学会 ・日本保健医療行動科学会 ・日本人間工学会 看護人間工学部会総務・研究誌編集委員 ・日本泌尿器科学会 ・日本がん看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会 ・日本老年泌尿器科学会
松浦 和代	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児看護学会 専任査読者／日本小児看護学会第19回学術集会企画委員 ・北海道小児保健研究会 評議員 ・全国病弱教育研究会 北海道ブロック代表／第11回全国病弱教育研究会全国大会長 ・日本小児保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護学教育学会 ・日本新生児看護学会 第18回日本新生児看護学会学術集会企画運営委員会企画運営委員／査読委員 ・日本看護サミット北海道'09 第14回日本看護サミット北海道'09実行委員会企画運営委員
宮崎 みち子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道母性衛生学会 ・日本母性衛生学会 ・日本助産学会 ・北海道公衆衛生学会 評議員 ・北海道衛生公衆衛生セミナー ・日本看護Critical Thinking研究会 ・日米法学会 ・日本看護科学学会 ・日本助産師会

教員名	所属学会・委員会等
宮崎 みち子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本医事法学会 ・日本生命倫理学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護倫理学会 ・国際看護研究会 第11回学術集会査読委員／第11回学術集会実行委員 ・(社)北海道看護協会 教育委員会委員
大野 夏代	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護研究会 運営委員／第11回学術集会実行委員長／第11回学術集会準備委員長／第11回学術集会大会長／第11回学術集会査読委員会長 ・看護実践における指圧マッサージ研究会 運営委員 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本渡航医学会 ・日本国際保健医療学会 ・日本人間工学会 ・札幌市中高一貫教育検討協議会 委員（札幌市教育委員会）
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道衛生公衆衛生セミナー ・北海道公衆衛生学会 評議員 ・日本公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本看護科学学会 ・桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会 委員（札幌市） ・けんこうフェスタ2008 in ちゅうおう実行委員会 委員（札幌市中央区）
須田 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護管理学会 ・日本家族看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本救急看護学会 ・日本クリティカルケア看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・(社)北海道看護協会 理事
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神障害者リハビリテーション学会 ・日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉実践理論学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本質的心理学会 ・日本看護科学学会 ・日本救急看護学会 ・日本臨床救急医学会 自殺企図者のケアに関する検討委員会委員 ・北星学園大学社会福祉学会 ・(社)日本精神科看護技術協会北海道支部 ・北海道精神保健福祉士協会 ・札幌市地域福祉生活支援センター権利擁護審査会 委員 ・NPO法人すみれ会 理事 ・NPO法人福祉オンブズマンほっかいどう オンブズマン ・さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会 実行委員

教員名	所属学会・委員会等
吉川 由希子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 ・日本小児保健学会 ・日本小児看護学会 第19回学術集会企画委員 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本医療保育学会 ・日本学校保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本家族看護学会 ・全国病弱教育研究会 第11回全国病弱教育研究会全国大会（北海道大会）大会企画実行委員長 ・(社)北海道看護協会 学会委員
菊地 ひろみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本難病看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・日本看護科学学会 ・日本在宅ケア学会 ・看護総合科学研究会 ・北海道公衆衛生学会
佐藤 公美子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護教育学学会 ・日本看護歴史学会 ・日本医史学会 ・日本人間工学会 第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局 ・聖路加看護学会 ・藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会 委員（札幌市）
菅原 美樹	<ul style="list-style-type: none"> ・日本クリティカルケア看護学会 理事／評議員／査読委員／評議員選出委員会委員 ・日本救急看護学会 評議員／JNTEC実行委員会委員／実技セミナー将来構想検討特別委員会委員／専任査読委員 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本災害看護学会 ・日本循環器看護学会 専任査読委員 ・日本集中治療医学会 ・日本臨床救急医学会 ・(社)日本看護協会 認定看護師認定実行委員会委員
新納 美美	<ul style="list-style-type: none"> ・日本産業精神保健学会 ・日本地域看護学会 ・職業性ストレス研究会 ・日本アディクション看護学会 評議員 ・日本公衆衛生学会 ・日本ブリーフサイコセラピー学会 ・日本看護科学学会 ・日本産業衛生学会 ・司法看護研究会 設立コアメンバー（事務担当）

教員名	所属学会・委員会等
藤井 瑞恵	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護技術学会 ・日本看護学教育学会 ・日本糖尿病教育・看護学会 査読委員／第14回学術集会企画委員 ・日本糖尿病学会 ・北海道看護教育研究会 副会長／広報委員 ・日本看護学会
星 美和子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 ・Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing ・Western Institute of Nursing
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・日本口腔ケア学会 評議員 ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員 ・日本老年看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本看護研究学会 ・日本がん看護学会 ・日本老年歯科医学会 ・日本有病者歯科医療学会 ・日本口腔科学会 歯科・口腔看護領域看護研究会 ・北海道歯学会 ・北海道口腔ケア研究会 設立コアメンバー（企画担当） ・北海道プライマリ・ケア研究会 ・旭川口腔ケア普及研究会 幹事 ・ドライマウス研究会 ・食コミュニケーション研究所 理事 ・医療・福祉タウン研究学会
保田 玲子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本保健医療行動科学会 ・日本看護科学学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会
渡邊 由加利	<ul style="list-style-type: none"> ・全国助産師教育協議会 ・日本母性衛生学会 ・日本助産学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会
太田 晴美	<ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床救急医学会 地域救急医療体制検討委員会委員／ 将来計画検討委員会トリアージナース育成検討小委員会委員 ・日本集団災害医学会 ・日本災害看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会 ・日本股関節学会

教員名	所属学会・委員会等
神島 滋子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 ・日本脳神経看護研究学会 北海道部会副会長／評議委員／第36回日本脳神経看護研究学会学術集会事務局長 ・日本救急看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本更年期医学会 ・日本看護学教育学会
河村 奈美子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神保健看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本老年精神医学会 ・日本質的心理学会 ・ヒトと動物の関係学会 ・日本看護研究学会 ・日本地域看護学会 ・日本認知症ケア学会 ・日本アディクション看護学会
進藤 ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピスケア研究会 ・日本家族看護学会 ・看護総合科学研究会 ・日本老年看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本精神保健看護学会
多賀 昌江	<ul style="list-style-type: none"> ・日本助産学会 ・日本看護科学学会 ・日本文化人類学会 ・北海道民族学会 ・日本渡航医学会 ・国際看護研究会 第11回学術集会事務局実行委員／第11回学術集会事務局準備委員 ・日本助産師会 ・日本母性衛生学会 ・日本人間工学会 ・日本看護学教育学会
塚辺 蘭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本産業衛生学会 北海道地方会看護部会役員 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本地域看護学会 ・日本産業精神保健学会 ・日本公衆衛生学会
照井 レナ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本公衆衛生学会 ・北海道公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会看護人間工学部会 ・日本人間工学会

教員名	所属学会・委員会等
照井 レナ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本プライマリ・ケア学会 ・日本医療・病院管理学会 ・日本看護学教育学会 ・北海道医療大学看護福祉学部学会
松村 寛子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本渡航医学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会
三上 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本生化学学会 ・日本母性衛生学会 ・北海道小児保健研究会 ・日本人間工学会 ・日本小児看護学会 第19回学術集会企画委員
工藤 京子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 ・日本看護科学学会 ・日本創傷治癒学会
小坂 美智代	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護科学学会 ・日本がん看護学会 ・日本看護学教育学会 ・千葉看護学会
鶴木 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会
原井 美佳	<ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護管理学会 ・日本看護学教育学会 ・日本死の臨床研究会 ・日本公衆衛生学会
渕本 雅昭	<ul style="list-style-type: none"> ・日本救急看護学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本クリティカルケア看護学会 ・日本集中治療医学会 ・日本看護学教育学会 ・日本脳神経看護研究学会 第36回日本脳神経看護研究学会学術集会事務局

4 非常勤講師実績

デザイン学部

教員名	大学等の名称	科目名
吉田 恵介	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	都市計画設計演習、修了制作 卒業制作
武邑 光裕	北海道大学大学院 放送大学大学院 札幌市立高等専門学校専攻科	アートマネージメント 情報化社会研究－メディアの発展と社会－ デザインマーケティング特論
石崎 友紀	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	近代デザイン史特論 卒業制作
上遠野 敏	北海道情報大学 北海道教育大学 札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	芸術演習 実験芸術Ⅱ、実験芸術演習Ⅱ 修了制作 卒業制作
齋藤 利明	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	修了制作 卒業制作
酒井 正幸	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	修了制作 卒業制作
城間 祥之	札幌市立高等専門学校専攻科	画像設計演習
杉 哲夫	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	修了制作 デザイン・マネージメント、卒業制作
中原 宏	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	修了制作 卒業制作
羽深 久夫	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	建築史特論、建築デザイン特別演習 建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作
原 俊彦	東海大学 北星学園大学	人口・社会動態特論 人口社会学
望月 澄人	札幌市立高等専門学校	卒業制作
矢部 和夫	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	環境保全論 環境デザインⅡ、卒業制作
吉田 和夫	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	視覚デザイン特論Ⅲ 視覚デザイン演習、卒業制作
エルサニマロアン	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅡ
武田 豊明	北海学園大学 北星学園大学 札幌市立高等専門学校専攻科	視聴覚教育メディア論 生活創造専門演習8 視覚デザイン特別演習
張 浦華	札幌市立高等専門学校専攻科	工業デザイン特論Ⅲ
フィッシャーニーナ	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅡ
細谷 多聞	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	材料科学論、工業デザイン特別演習 視覚デザインⅡ、卒業制作
町田 佳世子	東海大学	コミュニケーション特論
大瀬 一博	札幌市立高等専門学校	卒業制作
柿山 浩一郎	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	製品開発計画特論 卒業制作

教員名	大学等の名称	科目名
齊藤 雅也	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	環境設備特論、建築デザイン特別演習、修了制作 建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作
那須 聖	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	建築計画特論、建築デザイン特別演習、修了制作 建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作
福田 大年	北翔大学 北海道教育大学	専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業研究 デザイン史
松井 美穂	北海学園大学 北星学園大学 札幌市立高等専門学校	英米文学講読Ⅰ、英米文学講読Ⅱ アメリカ小説研究AⅠ、アメリカ小説研究AⅡ 英語Ⅲ
三谷 篤史	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	材料力学論、工業デザイン特別演習 工業デザインⅡ、卒業制作
山田 良	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	住居形態特論、建築デザイン特別演習、修了制作 建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作
片山 めぐみ	札幌市立高等専門学校専攻科 札幌市立高等専門学校	住居形態特論、建築デザイン特別演習 建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作
須之内 元洋	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン特論Ⅰ、修了制作

看護学部

教員名	大学等の名称	科目名
中村 恵子	北里大学大学院 青森県立保健大学大学院 客員教授 青森県立保健大学地域連携・国際センター 国士館大学大学院	クリティカルケア看護学Ⅰ 救急看護学特論 リーダーシップ、リスクマネジメント、救急看護概論 臨床薬理学特論
加藤 登紀子	天使大学 札幌医科大学	公衆衛生看護学特論Ⅰ 産業看護論
河野 総子	北海道医療大学大学院 旭川医科大学大学院	看護管理特論 看護管理学特論
坂倉 恵美子	北海道教育大学	生活と保育
松浦 和代	大分大学大学院	看護理論
守村 洋	西札幌病院附属札幌看護学校	精神看護概論Ⅰ、精神看護概論Ⅱ
佐藤 公美子	駒澤大学	現代経済事情Ⅳ
高室 典子	札幌大谷大学短期大学部	小児保健実習a、小児保健実習b

5 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

1) 専門職支援

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成20年4月25日	「福祉関係職員研修」コーディネーター	保健福祉局・各区保健福祉部・子ども未来局の職員	札幌市	原 俊彦
平成20年6月17日	第8回北海道トライボロジー研究会「のこぎり歯形状表面によるマイクロパーツフィーダ」「IT機器の筐体、およびインターフェースデザインと試作品開発」	道内機械系技術員、大学関係者	北海道トライボロジー研究会	城間 祥之 三谷 篤史
平成20年7月15日	集団研修「乾燥地における水資源・環境管理」	西アジアやサハラアフリカで水資源開発管理にかかる計画・政策策定業務に従事する技術者	(独)国際協力機構札幌国際センター(JICA札幌)	矢部 和夫
平成20年8月20日	ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2008 シンポジウム基調講演「今を超えるクリエイティビティ」	デザイナー、デザイン教育者	Asia Network Beyond Design	原田 昭
平成20年8月24日、8月27日	研修会「色彩分析ソフトウェアの利用方法」	デザイナー、経営者	札幌イメージコーディネート研究会	大渕 一博
平成20年9月10日	第3回KANSEIカフェ パネルディスカッション「都市の品質と創造産業」	デザイナー、デザイン教育者	モノづくり推進会議、日本感性工学会	原田 昭
平成21年1月20日	BIS認定養成講習会「開口部の計画」「防暑計画」	建築家、建築技術者	(社)北海道建築技術協会	斎藤 雅也
平成21年2月23日	インテリアコーディネーターズスクエア・スキルアップセミナー「北欧ノルウェーの住居とデザイン」	インテリアデザイナー、インテリアコーディネーター	(株)リビング・デザインセンター、(社)インテリアア産業協会	山田 良
平成21年3月17日	滝野公園のこれから～パークマネージメントの視点から～	造園家	国営滝野すずらん丘陵公園	吉田 恵介

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成20年4月21日	六本木アカデミーヒルズライブラリートーク「デジタル・アーカイブの未来像」	六本木アカデミーヒルズ	武邑 光裕
平成20年5月17日	平成20年度北海道小児保健研究会特別講演「北海道の少子化と人口減少 地域社会の持続可能性」	北海道小児保健研究会	原 俊彦
平成20年5月30日	札幌ビズカフェ・情報通信月間セミナー「内外で浮上する注目の次世代ウェブサービス」	NPO法人札幌ビズカフェ	須之内 元洋
平成20年6月7日	自治労北海道女性部長・女性担当者会議「人をつなぐコミュニケーション」	自治労北海道	町田 佳世子

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成20年7月7日、 7月16日	女性のためのキャリア形成講座「仕事をラクにするコミュニケーション」「対人ストレス、どうしていますか」	札幌市男女共同参画センター	町田 佳世子
平成20年7月15日	(株)クラーク総研第56回定例勉強会「北海道の自立・魅力・発展－クリエイティブイングストリーズ（創造産業群）は都市品質を高めうるか－」	(株)クラーク総研	原田 昭
平成20年7月15日	女性大学「文化遺産としての歴史的建造物」	(財)北海道女性協会	羽深 久夫
平成20年7月26日	室蘭市男女共生セミナー前期開講講演会「生活の中のジェンダー～多様な生き方を求めて～」	室蘭市教育委員会	松井 美穂
平成20年8月23日	札幌・石狩地区幼児放送教育研究会 夏季特別研修会（造形）	札幌・石狩地区幼児放送教育研究会	石崎 友紀
平成20年9月16日	第5回感性技術フォーラム「札幌創造都市の未来」特別講演	北海道感性産業開発ネットワーク	原田 昭
平成20年9月19日	北欧ノルウェーの暮らしと文化	(株)日本住情報交流センター	山田 良
平成20年10月1日、 10月15日～16日	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 「生活スタイルを見直すエネルギー環境教育」 「ペットボトルハウスで考える『温房』『涼房』」 「学校の光と熱の振る舞いを感じる」	(独)科学技術振興機構、北海道旭川西高等学校	斉藤 雅也
平成20年10月2日	第5回北海道ホスピタルショウ2008「医療安全とブランド構築～院内リスクマネジメントに向けて～」	(社)日本経営協会	武邑 光裕
平成20年10月9日	時計台創建130周年記念事業 記念セミナー「開拓使木造建築の源流と魅力Part1－和魂洋才の建築技術－『薩摩藩から開拓史へ』」	札幌市	羽深 久夫
平成20年10月10日	平成20年度社会保障・人口問題基礎講座「地域人口の将来」	(財)厚生統計協会	原俊彦
平成20年10月28日、 11月27日、 平成21年1月15日	デザインマネジメントセミナー 「企業経営とデザイン」「デザイン導入プラン」「デザイン経営のシミュレーション」	北海道経済部、北海道立工業試験場	酒井 正幸
平成20年11月5日	THE NEW CONTEXT CONFERENCE 2008 オープン・ネットワークが生む『ポストWeb2.0』 「ダイナミックなコンテンツ流通が生み出す新ビジネス」	(株)デジタルガレージ	武邑 光裕
平成20年11月10日	ねむろ自然環境フォーラム＆北海道洞爺湖サミット 展「北海道の湿原景観 風蓮湖はどのような湿原を育んだか」	北海道根室支庁	矢部 和夫
平成20年11月30日	ユニバーサルデザインの基本的な考え方及び今後の課題	(社)札幌市視覚障害者福祉協会	酒井 正幸
平成20年12月9日	北海道内工業高等学校巡回講演会 北海道苫小牧工業高等学校「北海道のポテンシャルを活かす住まいの環境」	日本建築学会北海道支部	斉藤 雅也
平成20年12月18日	プレゼンテーション基礎セミナー「人にわかりやすく伝えるための極意」	さっぽろ雇用創出推進協議会	柿山 浩一郎

概要	開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
	平成21年1月21日	JICA研修 南西アジア・大洋州地域IT人材育成コース「A Research on Prototype Manufacturing of IT Appliances in Sapporo Region-A Challenge of Sapporo IT Carrozzeria-」	NPO法人札幌ITフロント	城間 祥之
教育活動	平成21年1月25日	日本コカ・コーラ(株)研究会 特別講演「環境サービスの設計」	日本コカ・コーラ(株)	原田 昭
研究活動	平成21年1月28日	札幌キワニスクラブ第756回例会 特別講演「デザインから観た札幌」	札幌キワニスクラブ	原田 昭
社会活動	平成21年1月31日	武庫川女子大学生活美学研究所定例研究会「術」	武庫川女子大学生活美学研究所	石崎 友紀
入学者選抜結果	平成21年2月5日	さっぽろ市民カレッジ2009冬季講座「札幌の歴史を振り返る-札幌学-」	(財)札幌市生涯学習振興財団	羽深 久夫
附属図書館	平成21年2月28日	NPO法人茨戸川環境市民フォーラム10周年記念シンポジウム「石狩川の自然とヒトをつなぐもの－サービスの設計－」	NPO法人茨戸川環境市民フォーラム	原田 昭
及び教育研究審議会会	平成21年3月19日	札幌市女性職員自主研究グループ「めんたりんぐるーむ」研修会	札幌市	三谷 篤史

看護学部

1) 専門職支援

① 認定看護管理者制度サードレベル教育課程

平成20年度受講者10名（修了者10名）。受講者は第Ⅰ～Ⅲ期全期間（計8週間39日間）を受講。

開講期間	教科目／時間／単位	単元	講義・演習（時間数）	講師
第Ⅰ期（15日間） 平成20年8月25日 ～9月12日	保健医療 福祉政策論／ 30時間／2単位	社会保障の概念	講義（3）	スーデイ神崎和代
		諸外国の保健医療福祉	講義（3）	★寺山 洋一
		保健医療福祉政策	講義（3）	★山田 雅子
		看護制度・政策	講義・演習（6）	★丸山 知子 ★山田 雅子
		制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義・演習（6）	★大田 すみ子
		保健医療福祉政策	演習（9）	河野 総子 ★上田 順子
	保健医療 福祉組織論／ 45時間／3単位	保健医療福祉サービスのマーケティング	講義・演習（6）	★松下 博宣
		地域保健医療福祉計画	講義（6）	★飯田 晃 ★永池 京子
		組織デザイン論	講義・演習（9）	★高橋 テル子
		ヘルスケアサービスの連携	講義（12）	中村 恵子 河野 総子 ★若山 登美子
		保健医療福祉組織論	演習（12）	河野 総子 スーデイ神崎和代
第Ⅱ期（14日間） 平成20年11月17日 ～12月5日	経営管理論／ 75時間／5単位	医療福祉と経済論	講義・演習（6）	★高木 安雄
		医療福祉経営	講義・演習（12）	河野 総子 ★徳田 穎久
		財務管理	講義・演習（6）	★玉川 真弓
		経営分析	講義・演習（6）	★水野 克也
		ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性	講義・演習（12）	★陣田 泰子
		看護経営の今後のあり方	講義・演習（15）	スーデイ神崎和代
		経営管理論	演習（18）	中村 恵子 河野 総子 スーデイ神崎和代
	経営者論／ 30時間／2単位	経営者論	講義（6）	中村 恵子
		管理者の倫理的意思決定	講義（6）	中村 恵子 ★石垣 靖子
		起業家論	講義（6）	★村松 静子
		経営者論演習①	演習（6）	河野 総子
第Ⅲ期（10日間） 平成21年1月19日 ～1月30日		経営者論演習②	演習（6）	河野 総子
※その他／ 30時間	開講式・修講式、ガイダンス、全体会、小論文プレゼンテーション、情報文献検索、 プレゼンテーション講評、課題演習（交渉術）、レポート作成、特別講義			

★印：非常勤講師

(2) その他

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成20年4月 ～平成21年3月	札幌徳洲会病院看護研究支援	札幌徳洲会病院看護職	札幌徳洲会病院	吉川 由希子 菊地 ひろみ 村松 真澄 河村 奈美子 照井 レナ
平成20年4月 ～平成21年3月	看護部教育委員支援	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院、札幌市立大学看護学部	太田 晴美
平成20年4月 ～平成21年3月	北海道医療大学CNSの会教育支援	看護職	北海道医療大学CNSの会	照井 レナ
平成20年4月 ～平成21年3月	夕張市地域ケア従事者研修支援(講習会開催及び市役所との協力)	夕張市地域ケア従事者	札幌市立大学看護学部	スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ 照井 レナ
平成20年4月18日	実習指導者研修Ⅰ	市立札幌病院看護職	市立札幌病院	菅原 美樹
平成20年4月20日、 5月11日、6月22日	エキスパートナース・フォーラム2008 セミナー「摂食・嚥下・口腔ケア『摂食・嚥下ケアとしての口腔ケアの進め方：実践に基づく具体的な手技』」	看護職	エキスパートナース(株照林社)	村松 真澄
平成20年5月～ 平成21年1月 計3回	院内看護研究支援	北海道整形外科記念病院看護師	北海道整形外科記念病院	藤井 瑞恵
平成20年5月8日、 8月21日、10月30日、 平成21年2月24日	看護研究研修会「看護研究個別指導(2)～(4)」「看護研究の進め方」	心臓血管センター北海道大野病院看護職	心臓血管センター北海道大野病院	松浦 和代 神島 滋子
平成20年5月11日	第10回山口摂食嚥下技術セミナー教育講演「簡単口腔ケアで食べる支援」	看護職、医療従事者	第10回山口摂食嚥下技術セミナー	村松 真澄
平成20年5月17日	研修会「簡単口腔ケアで食べる支援」	大谷地病院看護職・介護職	大谷地病院看護部	村松 真澄
平成20年5月18日、 6月1日	エキスパートナース・フォーラム2008 新人教育担当者実践セミナー「知つておきたい！急変時の対応と心電図の基本」	看護職	エキスパートナース(株照林社)	菅原 美樹
平成20年5月20日、 7月22日、9月30日、 10月14日	看護職研修会「フィジカルアセスメント研修Ⅰ・Ⅱ」	心臓血管センター北海道大野病院看護職	心臓血管センター北海道大野病院	樋之津 淳子 佐藤 公美子 三上 智子
平成20年5月21日 ～22日	平成20年度看護研究の基礎研修会	看護職	(社)北海道看護協会	吉川 由希子
平成20年5月23日、 11月11日	院内急変・災害対応研修「院内急変時看護」「救急看護」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	太田 晴美 渕本 雅昭
平成20年5月27日	臨地実習指導研修会「看護教育における実習の意義」	看護師	(社)北海道看護協会	松浦 和代 神島 滋子
平成20年5月30日	NST研修会「NSTにおける口腔ケアの重要性－看護師が行う口腔ケアの視点から－」	自治医大病院看護職・医師・医療従事者	自治医科大学附属病院NST	村松 真澄
平成20年6月～9月	平成20年度看護教員養成講習会「研究方法(演習)」	看護教育従事者	北海道	新納 美美

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成20年6月 ～平成21年2月	看護研究支援	札幌中央病院看護師	札幌中央病院看護部	坂倉 恵美子 小坂 美智代 原井 美佳
平成20年6月7日	新卒看護部職員定期面談	板橋総合中央病院新卒 看護師	IMSグループ看護部	大野 夏代
平成20年6月7日	ヘルパー専門研修2「精神障がい者と 生活」	(財)札幌市在宅福祉サー ビス協会介護職	(財)札幌市在宅福祉 サービス協会	守村 洋
平成20年6月10日、 7月8日、12月9日	教育委員研修「施設内教育①・②」「看 護教育」	心臓血管センター北海 道大野病院看護師	心臓血管センター 北海道大野病院	太田 晴美
平成20年6月13日	研修会「認知症ケアの基礎－アルツ ハイマー病を含む認知症に対するエ ビデンスに基づいたケア方法論－」	認知症ケア従事者	神鋼ケアライフ(株)	スーディ神崎 和代
平成20年6月14日 ～15日、7月26日	Basic Life Support for Healthcare Provider Course	北海道内の看護職・医師	American Heart Association	渕本 雅昭
平成20年6月16日	研修会「認知症高齢者が行方不明・ 捜索方法」	夕張市在宅ケア従事者	札幌市立大学看護 学部	スーディ神崎 和代
平成20年6月19日、 7月8日、9月16日	看護職研修会「訪問看護師のフィジ カルアセスメント」	医療法人社団愛心館訪 問看護ステーションあ いしん看護職	医療法人社団愛心館 訪問看護ステーショ ンあいしん	佐藤 公美子
平成20年6月24日、 7月29日	院内研修会「看護過程Ⅱ」	心臓血管センター北海 道大野病院看護師	心臓血管センター 北海道大野病院	渡邊 由加利 鶴木 恭子
平成20年6月27日	新人教育研修会「新人看護師の理解 と関わり方」	看護師	(社)北海道看護協会	松浦 和代 神島 滋子
平成20年6月27日 ～10月21日 計6回	看護過程研修「看護過程におけるア セスメントの重要性」	札幌南一条病院看護職	札幌南一条病院	星 美和子
平成20年6月29日、 8月2日、8月30日、 12月20日	救急看護師の役割	看護師	日本救急看護学会	中村 恵子
平成20年6月30日 ～8月21日 計5回	平成20年度看護教員養成講習会「研 究方法」	看護教育従事者	北海道保健福祉部	菊地 ひろみ
平成20年6月30日	札幌徳洲会病院看護部研修会「看護 研究の基礎」	札幌徳洲会病院看護職	札幌徳洲会病院	吉川 由希子
平成20年7月2日 ～3日	看護職研修会「看護研究」	北海道内の看護師	(社)北海道看護協会	佐藤 公美子
平成20年7月4日	認定看護管理者制度ファーストレベ ル教育課程研修会「看護管理概説」	看護職	(社)青森県看護協会	中村 恵子
平成20年7月4日、 12月5日	新卒看護部職員研修「こころの健康 づくり①・②」	琴似ロイヤル病院看護師	IMSグループ看護部	大野 夏代
平成20年7月11日	救急患者・家族への対応	看護師	名古屋掖済会病院	中村 恵子
平成20年7月15日	研修会「実践口腔ケア－口腔ケアの EBMと実践に基づく具体的手技」	砂川市立病院看護職	砂川市立病院看護部	村松 真澄
平成20年7月19日、 10月18日	北海道ブロック職員教育研修「世界 の健康問題と国際看護活動」「職場に おけるコミュニケーション」	琴似ロイヤル病院看護師	IMSグループ看護部	大野 夏代

概要	開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
教育活動	平成20年7月20日、 11月9日、 平成21年3月9日	JNTECプロバイダーコース インストラクター（第4回・6回・8回）	看護職	日本救急看護学会	菅原 美樹
研究活動	平成20年8月7日	平成20年度北海道東北支部副学校長・教育主事・教員夏季研修会「日頃の看護教育活動を振り返り明日のステップへ」	看護専門学校教員	全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会	中村 恵子
社会活動	平成20年8月23日	北海道ブロック職員教育研修「世界の健康問題と国際看護活動」	道南ロイヤル病院看護師	IMSグループ看護部	大野 夏代
入学者選抜結果	平成20年8月28日 ～29日	平成20年度保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道保健福祉部	大野 夏代
附属図書館	平成20年8月29日	救急看護の専門性	看護師	財日本救急医療財団	中村 恵子
及び教育、研究、審議会	平成20年8月30日	セミナー「1日で学ぶ！胃ろうケア＜5つのポイント＞と口腔ケア－患者さんの食べる喜びを、再び！－」	看護職	メディカルセミナーズ	村松 真澄
学内運営の概要	平成20年8月30日	口腔ケア研修会「新任者にもできる効果的な口腔ケア－こんな時何を使う？－講義と実践」	順天堂大学医学部附属順天堂医院看護職	順天堂大学医学部附属順天堂医院看護部	村松 真澄
資料	平成20年9月～10月	札幌中央病院看護部看護過程研修Ⅱ	札幌中央病院看護職	札幌中央病院	菅原 美樹 工藤 京子 渕本 雅昭
	平成20年9月6日	北海道医療大学看護福祉学部学会第5回学術大会交流集会「看護の現場で実践する倫理調整－独居で生活する高齢者のケアの検討－」	看護職、福祉職	北海道医療大学CNSの会	照井 レナ
	平成20年9月27日	看護部EBN研修「口腔ケア」	市立札幌病院看護職	市立札幌病院看護部	村松 真澄
	平成20年9月30日、 11月21日	院内研修会「看護過程Ⅰ」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	渡邊 由加利
	平成20年10月2日	第5回北海道ホスピタルショウ2008「がん患者の口腔ケア」	看護職	(社)日本経営協会	村松 真澄
	平成20年10月4日	司法看護研究会第13回ミーティングの企画運営	関東及び札幌市内の看護職	司法看護研究会	新納 美美
	平成20年10月20日 ～21日	訪問看護師養成講習会「訪問看護：対象者論」	訪問看護師	(社)北海道看護協会	スーデイ神崎 和代
	平成20年10月25日	脳神経看護領域におけるフィジカルアセスメントセミナー	看護職	日本脳神経看護研究学会北海道地方部会	神島 滋子 渕本 雅昭
	平成20年10月26日	卒後3～4年目研修「チーム医療について」	心臓血管センター北海道大野病院看護職	心臓血管センター北海道大野病院	河野 総子
	平成20年11月1日	電話トリアージについて	看護師	青森県立保健大学	中村 恵子
	平成20年11月1日	平成20年度北海道産業看護研修会	北海道内の産業看護職	日本産業衛生学会北海道地方会看護部会	塚辺 蘭子
	平成20年11月15日	北海道大学病院看護部副師長研修会「現代の若者の特性・傾向について」	北海道大学病院看護部副師長看護師	北海道大学病院	守村 洋
	平成20年11月26日 ～27日	平成20年度訪問看護師養成講習会「事例検討（演習）」	訪問看護師	(社)北海道看護協会	菊地 ひろみ

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成20年12月10日	研修会「簡単口腔ケア」	介護老人保健施設グーネ北の沢看護職・介護職	介護老人保健施設グーネ北の沢看護部	村松 真澄
平成21年1月～3月	平成20年度北海道看護研究学会研究指導	看護職	(社)北海道看護協会	吉川 由希子
平成21年1月9日～2月23日	平成20年度北海道看護研究学会に係る研究指導	北海道内の病院看護師	(社)北海道看護協会	保田 玲子
平成21年1月22日～23日	認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程研修会「看護管理概説」	看護職	(社)北海道看護協会	中村 恵子
平成21年1月23日	研修会「高齢者の感染予防・管理の基礎－高齢者の特徴理解に基づいた感染管理対策と管理法－」	高齢者ケア従事者	ドマーニ神戸	スーディ神崎 和代
平成21年1月23日	院内急変・災害対応研修「災害看護」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	太田 晴美
平成21年1月23日	講演「キャリア・アンカーの概念を用いた研究成果」	看護職	北海道医療大学 CNSの会	照井 レナ
平成21年1月27日	看護研究研修会「院内研究実績発表会」総評	心臓血管センター北海道大野病院看護職	心臓血管センター北海道大野病院	松浦 和代 神島 滋子
平成21年2月3日	教育講演「口腔ケアの基礎について」	慈啓会病院看護職・医師・医療従事者	慈啓会病院摂食・嚥下委員会	村松 真澄
平成21年2月11日	第6回北海道口腔ケアセミナー 教育講演「口腔アセスメントと口腔ケアプロトコール」	看護職、医師、医療従事者	北海道口腔ケア研究会	村松 真澄
平成21年2月19日	卒後3年目研修「リーダーシップ」	心臓血管センター北海道大野病院看護職	心臓血管センター北海道大野病院	星 美和子
平成21年2月26日	日本産業衛生学会看護部会産業看護職研修会「特定保健指導の現状と今後の在り方－職場における保健指導を中心に事例検討－」	北海道内の産業看護職	北海道産業保健推進センター	加藤 登紀子
平成21年2月27日	有病者の口腔ケアセミナー「効果的な口腔ケアの実践－口腔アセスメントと口腔ケアプロトコールを用いて－」	看護職、医師、医療従事者	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	村松 真澄
平成21年3月8日	ドライマウス札幌サテライトワークショップ教育講演「口腔ケアとドライマウス」	歯科医師、歯科衛生士	ドライマウス研究会	村松 真澄
平成21年3月9日	研修会「認知症の現状と対策－現状と最新のデータと研究に基づいた対策のあり方－」	認知症ケア従事者	エレガーノ甲南	スーディ神崎 和代
平成21年3月11日	講演「認知症高齢者のアクティビティの基本と実践」	認知症ケア従事者	全国認知症グループホーム協会	スーディ神崎 和代
平成21年3月21日	日本産業衛生学会看護部会産業看護職研修会「特定保健指導の現状と今後の在り方－職場における保健指導を中心に事例検討－」	北海道内の産業看護職	北海道産業保健推進センター	塚辺 蘭子
平成21年3月27日	教育講演「高齢者医療・福祉施設における新型インフルエンザ対策」	神鋼ケアライフ(株)社員	神鋼ケアライフ(株)	スーディ神崎 和代

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成20年5月16日	教育講演「高齢者のQOLを支える事業－高齢者理解に基づいた現場構築」	神鋼ケアライフ(株)	スーディ神崎 和代
平成20年6月8日	医療安全フォーラム2008 in 北海道「患者満足度からみた看護師の院内活動のあり方」	日本医療安全学会	中村 恵子
平成20年6月16日	市民が取り組む認知症予防	札幌市清田区保健センター	坂倉 恵美子
平成20年6月17日	1日福祉セミナー(第3回)「メンタルヘルスのススメ」	札幌市ボランティア研修センター	守村 洋
平成20年7月13日	学校卒業後の医療的ケアを考えようネット第4回学習会「地域で暮らすためにー障がいのある医療的ケアの必要な人の支援を考えるー」	学校卒業後の医療的ケアを考えようネット	松浦 和代
平成20年7月15日	健康づくりリーダー養成研修「健康づくりと健康的なまちづくり」	札幌市白石区	保田 玲子
平成20年7月26日	発寒脳神経外科クリニック院内講演会「家族が認知症になったら」	発寒脳神経外科クリニック	守村 洋
平成20年9月12日	アニマルセラピー ボランティアスクール ボランティア研修セミナー「アニマル・セラピーとは?～その基本と効果について」	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会	河村 奈美子
平成20年9月13日	多発性硬化症患者のQOLについてーナースが多発性硬化症患者さんのためにできる事ー	MSナースハンドオンセミナー	菊地 ひろみ
平成20年9月25日	平成20年度生きがいづくりクリエイター養成講座「集団心理」	社会福祉法人北海道社会福祉協議会 北海道長寿社会推進センター	守村 洋
平成20年10月25日 ～26日	第5回八戸PTLS講習会看護師コース インストラクター	(社)地域医療振興協会	菅原 美樹
平成20年10月26日	第7回ひろげようヘルパーの輪 in 厚別「ホームヘルパーに求められる精神障害者の理解と対応の仕方」	厚別区ホームヘルパー連絡会	守村 洋
平成20年10月28日 ～29日	音読療法ボランティアスクールボランティア活動とは?～基本的な役割・心構えについて」「音読療法とは?」「音読療法の実習①・②」	札幌市ボランティア研修センター	坂倉 恵美子
平成20年11月1日	第11回さっぽろ・こころの健康まつり「当事者研究」	第11回さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会	守村 洋
平成21年1月17日	精神療養講座「精神障がい者が望む精神看護とは」	NPO法人札幌市精神障害者家族会連合会	守村 洋
平成21年2月4日	認知症ケアの四方山話－地域の視点から－	グループホーム菜の花いしやま館	照井 レナ
平成21年2月7日	シンポジウム「医療的ケアの必要な障害児への支援をみんなで考えよう」	北海道石狩保健福祉事務所	松浦 和代
平成21年3月14日	平成20年度認定看護師のためのフォローアップ研修「口腔ケアを行うにあたって問題となることとその解決策」ファシリテーター	(社)日本看護協会看護教育研究センター	菅原 美樹
平成21年3月17日	認知症について	桑園地区福祉のまち推進センター	清水 光子

6 国際交流

年月日	内容	
平成20年8月26日 ～8月29日	派遣	北京市朝陽区798芸術区と大連国際服装紡績品博覧会を視察（教員1名、職員1名）
平成20年10月6日	派遣	学術交流協定の打合せのために清华大学美術学院（中国）を訪問（教員1名）
平成20年11月14日	派遣	学生の語学研修の可能性を探るために首都師範大学（中国）を訪問（教員1名、職員1名）
平成21年2月28日	受入	首都師範大学（中国）の外国語学院日語系学生（12名）が来学し、本学学生（7名）と交流会の開催・施設見学

7 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	34	17	51
会議	97	94	191
学会・研究会等	25	9	34
その他	11	9	20
合計	167	129	296

平成21年度入学者選抜結果

1 入学者選抜要項

1) アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果していくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに关心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探求心を持って、柔軟に物事を考え、自主的・意欲的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、地域に根ざした医療に貢献する意志と責任感を備えた人

2) 平成21年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80人	54人	14人	12人	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80人	48人	-	32人	若干名	-

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成20年11月4日 ～11月7日	平成20年11月22日	平成20年12月4日 【入学手続期間】 平成20年12月4日 ～12月10日
	私費外国人留学生（※）	平成21年1月26日 ～2月4日	平成21年2月25日	平成21年3月6日 【入学手続期間】 平成21年3月6日 ～3月13日
一般選抜	前期日程	平成21年1月26日 ～2月4日	平成21年2月25日	平成21年3月6日 【入学手続期間】 平成21年3月6日 ～3月13日
	後期日程（※）	平成21年1月26日 ～2月4日	平成21年3月12日	平成21年3月23日 【入学手続期間】 平成21年3月23日 ～3月27日

（※）は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部 デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部 看護学科	桑園キャンパス

選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜		デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等（※）の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	

※一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等
		教科	科目名等	
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地 歴	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」	
		公 民	「地理B」「現社」「倫理」「政経」から1科目	
		数 学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理 科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から1科目	
	後期日程	外 国 語	「英」（筆記及びリスニング）	
		国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数 学	「数Ⅰ・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	外 国 語	「英」（筆記及びリスニング）	面接
		国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数 学	「数Ⅰ・数A」	
		理 科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から2科目	

3) 平成21年度3年次編入学者選抜概要

募集人員

学部・学科名	募集人員
デザイン学部デザイン学科（推薦入学）	10人（各コース若干名）
デザイン学部デザイン学科	10人（各コース若干名）
看護学部看護学科	10人

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科 (推薦入学)	平成20年7月1日 ～7月2日	平成20年7月26日	芸術の森キャンパス	平成20年8月8日
デザイン学部 デザイン学科	平成20年9月4日 ～9月9日	平成20年10月4日 ～10月5日	芸術の森キャンパス	平成20年10月16日
看護学部 看護学科	平成20年8月13日 ～8月19日	平成20年9月13日	桑園キャンパス	平成20年9月30日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科 (推薦入学)	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2 選抜状況

1) 入学者選抜状況

① 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	54	164	161	60	0	60	59
	後期日程	14	172	97	14	0	14	13
特別選抜	推薦入学	12	52	52	12	0	12	12
	社会人	若干名	1	1	0	0	0	0
	私費外国人留学生	若干名	2	2	0	0	0	0

看護学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	48	130	122	48	0	48	45
特別選抜	推薦入学	32	78	78	35	0	35	35
	社会人	若干名	18	18	4	0	4	4

② 入学者の内訳

(単位：人)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	84	39	27	18	32	52
看護学部	84	45	36	3	10	74
合計	168	84	63	21	42	126

2) 編入学者選抜状況

① 選抜・入学状況

(単位：人)

学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
				一次 合格者	追加 合格者	計	
デザイン学部 (推薦入学)	空間	若干名	8	8	5	0	5
	製品	若干名	3	3	1	0	1
	コンテンツ	若干名	2	2	2	0	2
	メディア	若干名	2	2	2	0	2
	計	10	15	15	10	0	10
デザイン学部	空間	若干名	12	11	3	0	3
	製品	若干名	3	3	1	0	1
	コンテンツ	若干名	4	4	2	0	2
	メディア	若干名	6	6	2	0	2
	計	10	25	24	8	0	8
看護学部		10	23	23	11	2	13
							7

② 入学者の内訳

(単位：人)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	18	12	1	5	3	15
看護学部	7	1	4	2	0	7
合計	25	13	5	7	3	22

附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス図書館…………延べ床面積／1,500m²
桑園キャンパス図書館……………延べ床面積／ 500m²

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成21年3月31日現在)

図書館	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	計	うち 視聴覚資料	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森 キャンパス図書館	58,956	8,208	67,164	2,577	291	53	6
桑園 キャンパス図書館	26,070	1,201	27,271	871	251	6	45
合計	85,026	9,409	94,435	3,448	542	59	51

3) 年間受入状況

区分		和	洋	計
図書館 芸術の森 キャンパス	図書 (冊)	購入	2,148	444
		寄贈	136	19
		計	2,284	463
	雑誌 (種)	購入	48	9
		寄贈	67	3
		計	115	12
図書館 桑園 キャンパス	図書 (冊)	購入	2,807	60
		寄贈	163	11
		計	2,970	71
	雑誌 (種)	購入	76	5
		寄贈	1	0
		計	77	5

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平 日：午前9時～午後9時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時（平日）
休館日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）

4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス図書館	学生・教職員	276	25,889	5,757	11,864	25	54
	市民等学外者	276	609	156	334	0	0
桑園 キャンパス図書館	学生・教職員	274	30,891	4,625	11,058	100	183
	市民等学外者	274	865	223	441	0	0
合計		-	58,254	10,761	23,697	125	237

ILL : Inter-Library Loan

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

1) 役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成20年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度業務の実績に関する報告について ・平成19年度決算について ・自己点検・評価の実施について ・大学院基本計画について
第2回	平成20年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度実績報告の評価結果について
第3回	平成20年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学平成21年度予算編成方針案について
第4回	平成20年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学の中期目標変更案に関する意見について ・公立大学法人札幌市立大学の料金の上限の認可申請について
第5回	平成21年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度年度計画及び予算について ・大学院の設置認可申請について

2) 経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成20年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度業務の実績に関する報告について ・平成19年度決算について ・自己点検・評価の実施について ・大学院基本計画について ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う看護学部の教育課程の変更承認申請及びこれに係る学則変更について
第2回	平成20年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度実績報告の評価結果について
第3回	平成20年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学平成21年度予算編成方針案について
第4回	平成20年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学の中期目標変更案に関する意見について ・公立大学法人札幌市立大学の料金の上限の認可申請について
第5回	平成21年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度年度計画及び予算について ・建築士法の改正に伴う建築士試験指定科目の追加に係る学則の改正について ・大学院の設置認可申請について ・研究所長の選考について

3) 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成20年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度業務の実績に関する報告について ・平成19年度決算について ・自己点検・評価の実施について ・大学院基本計画について ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う看護学部の教育課程の変更承認申請及びこれに係る学則変更について
第2回	平成20年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19事業年度実績報告の評価結果について
第3回	平成20年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学の中期目標変更案に関する意見について ・公立大学法人札幌市立大学の料金の上限の認可申請について
第4回	平成21年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学デザイン学部3年次編入学者選抜方法の変更について

回数	開催日	議題
第5回	平成21年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度年度計画及び予算について ・建築士法の改正に伴う建築士試験指定科目の追加に係る学則の改正について ・大学院の設置認可申請について ・研究所長の選考について

2 役員及び審議会委員名簿 (平成21年3月31日現在)

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
理事	中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
理事	金井 英明	其水堂金井印刷(株) 代表取締役会長
理事	津川 敏典	(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事
理事	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役頭取
監事	藤田 美津夫	弁護士
監事	山崎 駿	公認会計士

2) 経営審議会委員

氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
津川 敏典	札幌市立大学 理事
横内 龍三	札幌市立大学 理事
菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
平本 健太	北海道大学大学院経済学研究科 教授
松平 英明	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
若山 登美子	(社)北海道看護協会 会長
橋本 道政	札幌市立大学 事務局長

3) 教育研究審議会委員

氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
金井 英明	札幌市立大学 理事
大田 すみ子	(社)日本看護協会 北海道地区理事
丹羽 祐而	札幌市教育委員会 委員長
吉田 恵介	札幌市立大学 デザイン学部長
武邑 光裕	札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授
橋本 道政	札幌市立大学 事務局長

学内運営の概要

1 部局長会議

1) 年間活動概要

平成20年度は、下記の構成員により、原則として月1回（第1水曜日）開催し、法人の経営及び大学の教育研究を円滑に行うために必要な連絡、調整、協議を行った。

2) 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月2日	・なし（報告事項のみ）
第2回	平成20年5月7日	・(株)北洋銀行との包括協定の締結について
第3回	平成20年6月4日	・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う看護学部の教育課程の変更承認申請及びこれに係る学則改正について ・平成20年度「戦略的大学連携支援事業」の申請について ・平成19年度決算について ・役員会・審議会の開催について
第4回	平成20年7月2日	・なし（報告事項のみ）
第5回	平成20年8月6日	・入札事務改善について ・札幌市立高等専門学校メモリアルスペースについて
第6回	平成20年9月3日	・なし（報告事項のみ）
第7回	平成20年10月1日	・平成21年度予算編成方針について ・大学院関連に係る部局長会議の進め方等について
第8回	平成20年10月15日	・なし（報告事項のみ）
第9回	平成20年11月5日	・平成21年度サードレベル教育課程の実施について ・情報セキュリティポリシーの対策基準について ・情報倫理に係る関係規程の整理について ・大学院開設準備経費について ・施設管理者（施設管理規程第4条）について
第10回	平成20年11月21日	・大学院学納金に係る料金上限認可申請について ・「インターネットメディアデザイン」における Wikipedia の利用について
第11回	平成20年12月3日	・寒冷地手当に係る給与改定について ・時間年休の導入について ・「インターネットメディアデザイン」における Wikipedia の利用について
第12回	平成21年1月7日	・平成21年度入学式・学位授与式の日程について ・平成22年度デザイン学部編入学試験について ・平成22年度入学者選抜試験実施日程について ・職位の英文名称について
第13回	平成21年2月4日	・式典名称（卒業式）について ・専門業務型裁量労働制に関する協定書の更新について ・建築士法改正に伴う建築士試験指定科目の追加に係る学則等の改正について ・看護学研究科への助産師養成課程の設置について
第14回	平成21年3月4日	・教員評価制度について ・センター試験石狩地区試験場の集約について ・学内委員会について ・札幌市立高等学校との協定について ・清華大学との協定について ・平成21年度予算について

回数	開催日	議題
第15回	平成21年3月17日	・建築士法の改正に伴う建築士試験指定科目の追加に係る学則及び履修等に関する規則の改正について ・役員会・審議会の議題について
第16回	平成21年3月23日	・平成21年度学内委員会について ・研究科長予定者について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
中村 恵子	副学長・看護学部長
吉田 恵介	デザイン学部長
武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
橋本 道政	事務局長

◎印：議長

2 企画戦略会議

1) 年間活動概要

企画戦略会議は、平成20年度に計7回開催した。

平成20年度は、平成19事業年度業務実績報告書について審議を行うとともに、その実績報告書に対する札幌市地方独立行政法人評価委員会からの評価案について審議を行った。また、平成20年度年度計画の進捗状況や、大学院設置に伴う中期目標の変更案についての審議も行った。さらに、第5～7回の企画戦略会議では、平成21年度年度計画について審議を行い、役員会及び審議会を経て3月末日に札幌市へ年度計画の届出を行った。

2) 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年6月4日	・平成19事業年度業務実績報告書について
第2回	平成20年8月8日	・平成19事業年度に係る業務の実績に関する評価案について
第3回	平成20年12月3日	・平成20年度年度計画の進捗状況について
第4回	平成20年12月10日	・公立大学法人札幌市立大学の中期目標変更案に関する意見について
第5回	平成21年2月24日	・平成21年度年度計画について
第6回	平成21年3月4日	・平成21年度年度計画について
第7回	平成21年3月17日	・平成21年度年度計画について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
中村 恵子	副学長・看護学部長
吉田 恵介	デザイン学部長
武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
橋本 道政	事務局長

◎印：議長

3 教授会

1) デザイン学部教授会

① 年間活動概要

デザイン学部教授会は、平成20年度に12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備及びその他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

② 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月1日	・平成20年度入学者について ・学則第32条第2項にかかる履修登録単位数の上限について
第2回	平成20年4月16日	・既修得単位の認定について ・科目等履修生（札幌市立高等専門学校専攻科）の決定について ・平成21年度及び平成22年度の入試について
第3回	平成20年5月21日	・共用実験室について
第4回	平成20年6月18日	・学生の休学について ・科目等履修生及び聴講生の募集について
第5回	平成20年7月16日	・代議員会の設置について ・学生の休学について ・教育情報システムの更新について
第6回	平成20年9月17日	・代議員会（編入学合否）の設置について ・科目等履修生の選考について ・学生の退学について ・学生の復学について
第7回	平成20年10月15日	・編入学における既修得単位の認定について ・語学留学にかかる単位の認定について ・学生の休学について ・施設・備品の整備について ・コース別プレゼンテーションの実施について
第8回	平成20年11月19日	・特別選抜について
第9回	平成20年12月17日	・なし（報告事項のみ）
第10回	平成21年1月21日	・科目等履修生及び聴講生の募集について ・非常勤講師との懇談について
第11回	平成21年2月20日	・代議員会の設置について ・学生の休学について ・札幌市立高等専門学校専攻科生対象の科目等履修生の募集について ・科目等履修生の入学許可について
第12回	平成21年3月18日	・学生の休学について ・学生の退学について ・進級について ・清華大学美術学院との連携にかかる交流内容について

③ 議長及び構成員

議長：吉田 恵介（デザイン学部長）

構成員：デザイン学部教授、准教授、講師、助教

2) 看護学部教授会

① 年間活動概要

看護学部教授会は、平成20年度に12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備及びその他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

② 会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度看護学部入学者について ・平成20年度教授会議事録の署名者について ・成績優秀な学生の履修登録について ・札幌市立大学大学院開設に関する調査 ・チャイムについて ・改正カリキュラムについて
第2回	平成20年4月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・編入学に関する看護学部教授会申し合わせについて ・3年次編入学の既修得単位認定について ・1年次入学者の既修得単位認定について ・休学者について ・代議員会の設置について ・平成19年度授業評価アンケートについて
第3回	平成20年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・クオーター科目の試験について ・カリキュラム改正について ・平成20年度質の高い大学教育推進プログラムの申請について
第4回	平成20年6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学者について ・科目等履修生及び聴講生の募集について
第5回	平成20年7月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・試験について
第6回	平成20年9月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学者について ・卒業研究について
第7回	平成20年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究について
第8回	平成20年11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・試験について ・職位の英語名称について
第9回	平成20年12月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・学事暦について ・科目責任者について
第10回	平成21年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・後期定期試験について ・科目等履修生及び聴講生の募集について ・非常勤講師との懇談について ・平成21年度研究交流会の開催日について
第11回	平成21年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度学事暦及び時間割について ・科目等履修生の選考について ・卒業研究について ・ヘルスケアマネジメント実習について
第12回	平成21年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者及び休学者について ・3年次への進級判定について ・学生の表彰制度について

③ 議長及び構成員

議長：中村 恵子（副学長・看護学部長）

構成員：看護学部教授、准教授、講師、助教

4 附属図書館

1) 年間活動概要

平成19年度までは学内委員会であった図書委員会は、平成20年度より図書館組織と位置づけられ附属図書館運営会議となった。平成20年度は9回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。

主な協議内容は、図書の一括購入の検討、利用者のニーズを把握するためのアンケート調査の実施、附属図書館ニュースレター「のほほん」の作成、生産が中止となるICタグのその後の対応、附属図書館への学生参加等についてであった。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年5月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・市民貸出について ・シネマテークについて ・シラバス掲載図書について ・市民向けの各種講座について ・図書館予算について
第2回	平成20年6月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・私費ILLについて ・シネマテークについて ・図書館予算について（看護学部予算） ・夏季休業前後の図書館スケジュールについて ・図書館アンケートの実施について ・リテラシーの実施について
第3回	平成20年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・シネマテークについて ・リテラシーについて ・図書一括購入について（今年度一括購入） ・他部署からの協力依頼について ・ニュースレターについて ・自己点検・評価について ・公共図書館からの複写等の依頼に対する対応について
第4回	平成20年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・他部署からの依頼について ・桑園キャンパス図書館内のPC設置について ・認定看護管理者制度サードレベル教育課程について ・芸術の森キャンパス図書館内の就職関連図書について ・データベース説明会について ・自己点検・評価について ・図書館アンケートについて ・ニュースレターについて
第5回	平成20年10月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・図書館アンケートについて ・データベース説明会について ・施設・備品要求について ・ニュースレターについて ・平成20年度年度計画の進捗状況の把握について ・運営会議開催日程の定例化について

回数	開催日	議題
第6回	平成20年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・図書館アンケートについて ・平成21年度の電子ジャーナルについて ・冬季休業にかかる図書館の開館等スケジュールについて ・ニュースレターについて
第7回	平成20年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・ニュースレターについて ・図書館の課題について ・ICタグの存続可否について
第8回	平成21年2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・図書一括購入について ・ニュースレターについて ・春季休業期間の短時間開館について ・電子ジャーナルについて ・施設設備品要望の結果について ・平成21年度年度計画について ・ICタグについて
第9回	平成21年3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・司書について ・札幌市立大学附属図書館の学生参加を考える会について ・雑誌等の見直しについて ・ICタグについて ・ニュースレターについて ・平成20年度年度計画実績報告について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎武 邑 光 裕	附属図書館長・デザイン学部教授
上遠野 敏	デザイン学部教授
エル サニ マロアン	デザイン学部准教授
張 浦 華	デザイン学部准教授
斎藤 雅也	デザイン学部講師
加藤 登紀子	看護学部教授
星 美和子	看護学部講師
神島 滋子	看護学部助教
渡辺 春志	事務局総務課経営企画担当課長

◎印：附属図書館長

5 地域連携研究センター

1) 年間活動概要

平成20年度は地域連携研究センターの全体会議を1回開催し、センターの機能、業務及び体制等について確認した。センターでは機能的に活動するために地域・产学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門の3部門を立ち上げ、構成員を各部門に配置し、活動を進めることとした。

また、各部門全体の情報交換並びにセンターとしての運営を統括するために、センター長及び部門長を構成員とする運営会議を立ち上げ平成20年度は計11回開催した。運営会議では、本学への共同研究、受託研究及び寄附金の受入について協議したほか、地域連携事業、公開講座、研究交流会、学内の競争的資金のあり方等について協議を行った。

事業面では、地域・产学連携部門が中小企業家同友会及び札幌商工会議所にヒアリングを行ったほか、国際交流部門では職位の英文名称の策定等を行った。また、人材育成・継続教育部門が中心となり、市民並びに職能人を対象とした公開講座を積極的に開催し、成果を得た。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年5月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の受け入れについて ・NECパーソナルロボットPAPERONIに係る「秘密保持に関する覚書」の締結について ・けんこうフェスタ2008 in ちゅうおう実行委員会への参画について
第2回	平成20年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の受け入れについて ・平成20年度センター検討事項
第3回	平成20年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金の受け入れについて ・研究交流会について ・紀要原稿の募集要領（案）について ・札幌徳洲会病院との連携包括協定調印について ・Asia Network Beyond Design 共催について
第4回	平成20年8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地域イノベーション創出協働体への参加について ・北京・大連視察について ・研究交流会について ・創造都市さっぽろ市民公開セミナー～創造都市さっぽろに向けて～の共催について ・地域メディアプラットホーム調査開発コンソーシアムへの参加について
第5回	平成20年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究の受入れについて ・サードレベル事業予算について ・学術奨励研究費（国際学会発表補助）追加募集について ・自己点検・評価について
第6回	平成20年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・学術奨励研究費（国際学会発表補助）採択について ・施設・備品整備に係る検討について ・平成20年度年度計画の進捗状況について ・公開講座共催について
第7回	平成20年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究・共同研究・寄附金の受け入れについて ・職位の英文名称について ・センター関連年度計画進捗状況 ・北海道ビジネスフォーラム2009への参加について ・平成21年度学術奨励研究費・共同研究費について ・産学デザイン実験プロジェクトについて ・イルミネーション電車（札幌市電）の内装のデザインについて

回数	開催日	議題
第8回	平成20年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・受託研究の受け入れについて（札幌市南区・東区） ・職位の英文名称について ・平成21年度年度計画について（センター関連） ・平成21年度道民カレッジ「ほっかいどう学」大学放送講座の参加について ・芸術の森地区協議会の負担金について ・公開講座「地域創成のためのデザイン」の企画について ・産学デザイン実験プロジェクトについて ・学生まちづくりプレゼンテーションについて ・北海道ビジネスフォーラム2009への参加について ・地域連携デザイン実験プロジェクトについて ・部門見直しについて ・平成21年度学術奨励研究費・共同研究費について
第9回	平成21年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度学術奨励研究費・共同研究費について ・平成21年度研究交流会の日程について ・平成21年度公開講座の予定について ・公開講座「地域創成のためのデザイン」の企画について ・サードレベル募集要項について ・札幌市電「内装デザインプロジェクト」について
第10回	平成21年2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度学術奨励研究費・共同研究費について ・平成21年度公開講座の企画について ・寄附金・受託研究の受け入れについて ・清華大学美術学院との提携について
第11回	平成21年3月11日	・平成20年度業務実績報告書の作成について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田 昭	理事長・学長
○武邑 光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
○河野 総子	看護学部教授
城間 祥之	デザイン学部教授
エルサニマロアン	デザイン学部准教授
大渕 一博	デザイン学部講師
斎藤 雅也	デザイン学部講師
三谷 篤史	デザイン学部講師
須之内 元洋	デザイン学部助手
スーディ神崎 和代	看護学部教授
清水 光子	看護学部准教授
佐藤 公美子	看護学部講師
新納 美美	看護学部講師
西野 守彦	事務局次長・桑園事務室長
上田 理子	事務局総務課地域連携担当課長
大井 康	リエゾン担当コーディネーター

◎印：センター長　　○印：副センター長

6 アドミッションセンター

1) 年間活動概要

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成20年度は計10回の会議を開催し、前年度の入試結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの選抜試験実施要領の策定、入学者選抜に係る現状分析等を行った。

また、学生募集に係る具体的な取り組みとして、オープンキャンパスの開催、高校訪問の実施及び進学相談会への参加等についての企画・運営を行った。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度入学者選抜の実施結果について ・平成21年度入学者選抜スケジュールについて ・平成21年度及び平成22年度入学者選抜要項について ・平成21年度及び平成22年度3年次編入学学生募集要項について ・進学相談会への参加について ・平成20年度第1回オープンキャンパスについて
第2回	平成20年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度入学者選抜要項（案）について ・平成21年度3年次編入学学生募集要項（案）について ・高校訪問の実施について ・大学資料の一斉送付について
第3回	平成20年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度第1回オープンキャンパスについて ・高校訪問の実施について ・入試問題の作成について
第4回	平成20年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度デザイン学部3年次編入学（推薦入学）試験実施要領について ・平成21年度学生募集要項（特別選抜）について ・平成20年度第2回オープンキャンパスについて
第5回	平成20年9月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度看護学部3年次編入学試験実施要領について ・平成21年度学生募集要項（一般選抜）について ・北海道進学コンソーシアムについて ・広報用プレゼンテーションファイルの作成について
第6回	平成20年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度デザイン学部3年次編入学試験実施要領について ・平成20年度第2回オープンキャンパスについて ・自己点検・評価について
第7回	平成20年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度特別選抜試験実施要領について ・平成21年度大学入試センター試験業務従事者について ・平成21年度年度計画の進捗状況について ・施設・備品整備に係る検討について
第8回	平成20年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度入学者選抜試験実施日程について ・大学入試の現状について
第9回	平成21年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度オープンキャンパス実施日程について ・平成21年度年度計画について
第10回	平成21年2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度一般選抜及び私費外国人留学生特別選抜出願結果について ・平成21年度一般選抜及び私費外国人留学生特別選抜試験実施要領について ・平成20年度学生募集活動の実績について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎中村 恵子	副学長・看護学部長
○吉田 恵介	デザイン学部長
杉 哲夫	デザイン学部教授
武田 亘明	デザイン学部准教授
細谷 多聞	デザイン学部准教授
山田 良	デザイン学部講師
坂倉 恵美子	看護学部教授
樋之津 淳子	看護学部教授
吉川 由希子	看護学部准教授
渡邊 由加利	看護学部講師
安立 卓也	事務局学生課長
芳村 直孝	事務局桑園担当課長

◎印：センター長 ○印：副センター長

7 キャリア支援センター

1) 年間活動概要

キャリア支援センター会議は、キャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置され、下記の構成員により、平成20年度は計4回開催した。

キャリア支援センター会議では、デザイン学部及び看護学部のキャリア支援策について情報交換を行うとともに、キャリア支援体制の確立やキャリア支援室の整備、就職ガイダンスの開催など、積極的に学生の就職活動に対する支援策の策定を行った。

2) 運営会議開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月11日	・平成20年度の取り組みについて ・予算について ・今後のキャリア支援体制について
第2回	平成20年4月30日	・平成20年度及び平成21年度の事業について ・就職情報システムについて
第3回	平成20年12月8日	・平成20年度の取り組みについて（中間報告） ・キャリア支援ホームページ及び「SCU Student Blog」について
第4回	平成21年3月19日	・平成20年度年度計画実績報告書について ・平成20年度報告について ・平成21年度について

3) 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
○吉田 恵介	デザイン学部長
○中村 恵子	副学長・看護学部長
齋藤 利明	デザイン学部教授
松浦 和代	看護学部教授
西野 守彦	事務局次長・桑園事務室長

◎印：センター長 ○印：副センター長

8 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

① 年間活動概要

平成20年度の自己点検・評価委員会では、本学の学部完成年度後に認証評価機関による大学評価を受ける予定であることを踏まえ、平成18年度及び平成19年度の2ヶ年を振り返り、開学後初めてとなる自己点検・評価を実施し、計9回の委員会を開催した。

点検・評価に際しては、平成19年度に本委員会にて検討・作成した「自己点検・評価報告書作成マニュアル」に基づき、所管部局長、各学内委員会等が担当項目ごとに点検・評価を行い、その結果を本委員会で取りまとめた。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度自己点検・評価委員会活動報告 ・「自己点検・評価報告書作成マニュアル」について
第2回	平成20年5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)大学基準協会大学評価実務説明会報告 ・自己点検・評価に向けた「目標」の設定について ・自己点検・評価に向けた委員会等への依頼について
第3回	平成20年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会担当評価項目の進捗状況について ・複数委員会が担当する評価項目の取扱いについて
第4回	平成20年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの提出状況について ・本委員会担当評価項目の進捗状況について ・点検・評価結果の取扱いについて
第5回	平成20年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの提出状況について ・教員個人調書の提出状況について ・点検・評価結果の取りまとめについて ・平成20年度年度計画進捗状況の把握について ・施設・備品に係る検討について
第6回	平成20年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの提出状況について ・教員個人調書の提出状況について ・点検・評価結果の取りまとめについて
第7回	平成20年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの提出状況について ・点検・評価結果の検討について
第8回	平成21年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己点検・評価報告書」集約の進捗状況について ・「自己点検・評価報告書」の取りまとめ、進め方について ・スケジュールについて
第9回	平成21年2月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己点検・評価報告書」集約の進捗状況について ・今後のスケジュールについて

2) 総務委員会

① 年間活動概要

総務委員会は、平成20年度に10回の委員会を開催し、平成20年度入学式の実施、桑園キャンパス外壁サインの検討、平成19年度年報の企画・編集及び作成、防災訓練の企画・検討及び実施、救急蘇生法講習会の開催、教員・学生による大学施設の休日利用の検討、料金徴収も視野にいれた大学施設の学外者利用の検討、平成21年度入学式の企画・検討及び実施準備等を行った。

このほか、全学的な施設・備品整備についての取りまとめ、節電の啓発等のエコ対策の取り組み等、他の学内委員会等の所管事項に属さない案件についても所管し、多様な取り組みを行った。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月30日	・平成20年度の主要検討事項について ・大学施設の学外者利用について
第2回	平成20年5月28日	・教員・学生の大学施設の休日利用について ・防災訓練について ・平成19年度年報作成について ・エコ対策の取り組みについて
第3回	平成20年6月25日	・大学施設の学外者利用について ・防災訓練について ・平成19年度年報作成について ・サイン計画について
第4回	平成20年7月23日	・大学施設の学外者利用について ・平成19年度年報作成について
第5回	平成20年9月24日	・施設・備品整備について ・「自己点検・評価」総務委員会関係分について
第6回	平成20年10月22日	・施設・備品整備について ・「自己点検・評価」総務委員会関係分について ・平成20年度年度計画進捗状況の総務委員会関係分について ・平成19年度年報案について
第7回	平成20年11月26日	・施設・備品整備について ・桑園キャンパス外壁サインについて
第8回	平成20年12月24日	・平成21年度年度計画総務委員会関係分について
第9回	平成21年1月30日	・平成21年度入学式について ・大学施設の学外者利用について
第10回	平成21年3月16日	・平成20年度業務実績報告書（年度計画）について

③ 救急蘇生法講習会の実施

開催日	会場	参加人数
平成20年9月25日	札幌市立大学桑園キャンパス	9人
平成20年9月29日	札幌市立大学芸術の森キャンパス	8人

3) FD委員会

① 年間活動概要

平成20年度は、FD委員会として、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行なった。11回開催したFD委員会では、FD活動の方針について論議するとともに、ひとつひとつのFD活動について、実施前後にその内容の確認・検証を行なっている。

平成20年度の具体的な取り組みは、全学FD研修会（4回）、各学部のFD研修会（14回）、学外研修会への教職員派遣（7回延べ29名）、授業評価アンケートの効果的な活用、教員相互の授業参観等である。全学FD研修会では、成績評価及びシラバス作成に関する研修会が、平成21年度シラバスの成績評価に関する記載内容改善の一助となるなど、具体的な成果を上げている。また、平成20年度後期からは、専任教員が授業評価アンケートを受けて作成する「集計結果に関する所見」を学生及び教職員へ公開することとし、学生への直接的フィードバックの取り組みも開始した。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度年度計画について ・前期授業参観について ・平成19年度後期授業評価アンケートの所見について ・学部FD研修会の報告について ・学部FD研修会の申請について
第2回	平成20年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度授業参観の結果について ・学部FD研修会の承認について ・学部FD研修会の報告について ・学外FD研修会の参加について ・学校教育法等に関する研修について
第3回	平成20年6月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・学外FD研修会の参加について ・各学部FD研修会の承認について ・その他FD研修会について
第4回	平成20年7月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法等に係る全学FD研修について ・東北・北海道地区大学一般教育研究会について ・IDE大学セミナーについて ・各学部FD研修会の報告について ・著作権セミナー申込状況
第5回	平成20年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートについて ・全学FD研修会実施報告について ・各種学外FD研修会報告について ・各学部FD研修会の報告について ・各学部FD研修会の申請について
第6回	平成20年10月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観について ・自己点検・評価報告書について ・平成20年度年度計画進捗状況について ・施設・備品整備計画について ・各学部FD研修会の申請について ・各学部FD研修会の報告について ・第2回全学FD研修会について

回数	開催日	議題
第7回	平成20年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観について ・授業評価アンケートの所見の提出について ・シラバスの記載方法等の指導・助言について ・各学部FD研修会の申請について ・各学部FD研修会の報告について ・全学FD研修会について
第8回	平成20年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート結果について ・授業評価アンケート結果に対する所見の公開について ・平成21年度年度計画の策定について ・北海道地区大学等のFDネットワークへの参加について ・各学部FD研修会の申請について ・全学FD研修会の申請について
第9回	平成21年1月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート結果に関する所見の公開について ・平成21年度年度計画の策定について ・各学部FD研修会の報告について ・各学部FD研修会の申請について ・全学FD研修会の報告について
第10回	平成21年3月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート集計結果に関する所見の公開について ・平成20年度後期分授業評価アンケート集計結果に関する所見の提出について ・平成21年度FD委員会活動計画について ・FD研修会に関するアンケートの実施について ・北海道教育大学FD講演会参加報告について ・北海道地区大学等のFD・SDネットワーク構築に向けての意見交換会参加報告について ・各学部FD研修会の申請について ・全学FD研修会「教育著作権セミナー」開催について ・学外FD研修会について
第11回	平成21年3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度後期教員相互の授業参観実施報告について ・平成20年度FD委員会実績報告について ・「北海道地区FD・SD協議会（仮称）」設立準備委員会への参加について ・各学部FD研修会の実施報告について ・全学FD研修会「教育著作権セミナー」の実施報告について ・学外FD研修会の参加報告について

③ FD研修会の実施

開催日	タイトル	講師	対象者及び参加人数
平成20年4月16日	在宅看護学領域及び精神看護学領域講義・演習・実習展開の概要	学内	看護学部 (32人)
平成20年4月23日	臨地実習における指導力の向上－インシデント及びアクシデント発生時の対応を考える	学内	看護学部 (37人)
平成20年5月26日	デザイン学部教員としての心構え	学内	デザイン学部 (4人)
平成20年7月11日	建築士法改正の要点	学内	デザイン学部 (16人)
平成20年8月5日	小児看護学領域における授業と実習展開の概要	学内	看護学部 (30人)

開催日	タイトル	講師	対象者及び参加人数
平成20年8月12日	学校教育法等に係る全学FD研修	大泉 一貫 (宮城大学 教授) 徳永 恵子 (宮城大学 教授)	全学 (62人)
平成20年9月5日	腰痛を防ぐ新たなトランシスファー技術・Part2	齋竹 一子 (@訪問看護ステーション 所長) 佐藤 幸恵 (@訪問看護ステーション 理学療法士) 高城 宗敏 (介護老人保健施設エンジェルコート 相談員) 山本 聰 (ニチイケアセンターみどりがおか ソーシャルワーカー) 学内	看護学部 (23人)
平成20年9月17日	日本看護学教育学会第18回学術集会「OSCEと模擬患者養成」報告について	学内	看護学部 (26人)
平成20年9月22日	腹部・神経系・運動系のフィジカルアセスメント技術について	山内 豊明 (名古屋大学 教授)	看護学部 (23人)
平成20年10月15日	教育GP採択報告	学内	看護学部 (43人)
平成20年11月19日	教育GPの獲得経緯、今後の計画及び展望	学内	全学 (59人)
平成20年11月19日	コース別プレゼンテーション	学内	デザイン学部 (31人)
平成20年11月20日	道内就職環境について	細川 修 (北海道中小企業家同友会 専務理事)	デザイン学部 (24人)
平成21年1月9日	ファシリテータとしての教育力を磨く	藤崎 和彦 (岐阜大学 教授)	看護学部 (34人)
平成21年1月14日	適切な成績評価とシラバスの作成	細川 敏幸 (北海道大学 教授)	全学 (57人)
平成21年3月5日	教育著作権セミナー	尾崎 史郎 (独)メディア教育開発センター 教授)	全学 (28人)
平成21年3月16日	地域看護領域における授業と実習展開の概要	学内	看護学部 (29人)
平成21年3月24日	卒業研究を支援する(2)－指導のポイント－	佐藤 栄子 (藤田保健衛生大学 客員教授)	看護学部 (26人)

4) 広報・情報委員会

① 年間活動概要

平成20年度に計11回の委員会を開催した。

広報関係では学内外の広報活動、大学公式ホームページ、大学案内パンフレット等配布物、大学グッズ、大学シンボルマークの商標登録等について検討した。情報関係では、情報システムの構築(基幹ネットワーク機器、コンピュータ教室等)、グローバルIPアドレスの有効活用、コンピュータウイルス対策、札幌市立大学情報セキュリティポリシー対策基準等について検討した。また、広報の一環として、大学歌について検討した。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学案内パンフレットの完成及び送付について ・大学グッズ「風呂敷」の制作について ・平成19年度からの引継ぎ事項の確認 ・学生募集用ポスターの制作について ・広報・記録用写真撮影について ・ネットワークに関する要望について ・グローバルIPアドレスの枯渇について ・アトリエのネットワーク環境について
第2回	平成20年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集用ポスターの制作について ・大学公式ホームページ改善について ・進学情報誌への広告掲載等の広報計画について ・オープンキャンパスノベルティの制作について ・商標登録について ・グローバルIPアドレスの回収について ・ウイルス対策ソフトの徹底について ・ネットワークに関する要望について ・DMZ II サーバの学生利用について ・保守定例会報告 ・セキュリティポリシー対策基準について
第3回	平成20年6月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学グッズ「風呂敷」の完成について ・進学情報誌への広告掲載について ・シンボルマークの商標登録について ・大学公式ホームページの改善について ・広報用映像の制作について ・ウイルス対策ソフトの徹底について ・セキュリティポリシー対策基準について ・グローバルIPアドレスの回収について ・ネットワークに関する要望について ・保守定例会報告

回数	開催日	議題
第4回	平成20年7月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告について ・シンボルマークの商標登録について ・大学公式ホームページの更新について ・入試広報用映像制作について ・平成21年度大学案内パンフレットについて ・新規に受けた広報提案について ・ウイルス対策ソフトの徹底について ・グローバルIPアドレスの回収について ・ネットワークに関する要望について ・セキュリティポリシー対策基準について ・計画停電について ・英語版ホームページからのスパムメールについて
第5回	平成20年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページの更新について ・シンボルマークの商標登録について ・入試広報用映像制作について ・新聞広告掲載の報告 ・進学情報誌広告掲載の報告 ・情報システム機器の調達について ・セキュリティポリシー対策基準及び情報倫理規程について ・グローバルIPアドレスの回収について ・ネットワークに関する要望について ・地域連携研究センターへの情報提供について ・メンテナンスに伴うネットワークの停止について ・コンピュータ室4（画像処理室）のPCについて ・commonサーバの移設について
第6回	平成20年10月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・進学情報誌への広告掲載について ・シンボルマークの商標登録について ・デザイン学部キャリア支援パンフレットについて ・情報システム機器の調達について ・グローバルIPアドレスの回収について ・ネットワークに関する要望について ・ウイルス対策ソフトの導入確認について ・ウイルス等の脅威に関する周知について ・平成20年度年度計画進捗状況の把握について ・施設・備品整備に係る検討について ・大学歌について
第7回	平成20年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・進学情報誌への広告掲載について ・新聞広告について ・テレビ番組出演について ・平成21年度広報計画について ・新大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・協賛広告の出稿について ・シンボルマークの商標登録について ・情報システム機器の調達について ・グローバルIPアドレスの回収及びウイルス対策ソフトの導入確認について ・コンピュータウイルスについて ・大学歌について ・情報倫理に係る調査等について

回数	開催日	議題
第8回	平成20年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度広報計画について ・新大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・シンボルマークの商標登録について ・新聞広告について ・情報システム機器の調達について ・ウイルス対策の実施について ・グローバルIPアドレスの回収について ・教育GPホームページのURLについて ・大学歌について ・情報倫理に係る対応について
第9回	平成21年1月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・新大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・シンボルマークの商標登録について ・中央バス車内放送広告について ・地下鉄電照広告について ・新聞広告について ・情報システム機器の調達について ・ウイルス対策の実施について ・グローバルIPアドレスの回収について ・情報倫理について ・メール添付ファイルの容量について ・大学歌について ・平成21年度年度計画について ・施設・備品に関する要望について
第10回	平成21年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・新大学案内パンフレットについて ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・シンボルマークの商標登録について ・情報システム機器の調達について ・ウイルス対策の実施について ・グローバルIPアドレスの回収について ・学生ハンドブックについて ・ネットワークに関する要望について ・大学歌について
第11回	平成21年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・新大学案内パンフレットについて ・進学情報誌への広告掲載について ・大学公式ホームページのリニューアルについて ・シンボルマークの商標登録について ・入試広報業務の所管について ・情報システム機器の調達について ・グローバルIPアドレスの回収・使用手続について ・平成21年度の情報システム運用支援・保守管理業務について ・非常勤講師への周知事項について ・大学歌について ・平成20年度活動総括

5) 教務・学生委員会

① 年間活動概要

教務・学生委員会は、平成20年度に11回の委員会を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の専門教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関すること等について議論を重ねたほか、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から課題を提案し、協議を行うことで、教務及び学生支援に関する基盤を構築した。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教務・学生委員会の活動計画について ・新入生の既修得単位の認定について ・授業評価アンケートの結果について ・学部連携演習の進捗状況について
第2回	平成20年5月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度前期履修登録状況について ・授業評価アンケートについて ・奨学金（日本学生支援機構）の申請状況について（在学採用） ・平成20年度前期の授業料減額免除対象者について
第3回	平成20年6月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・「SCU Student Blog」の運用について ・奨学金（日本学生支援機構）の推薦について ・授業評価アンケートについて ・学部連携演習について
第4回	平成20年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験について ・成績送付について ・履修登録漏れへの対応について ・後期ガイダンスについて ・学生アンケートについて ・大学祭について ・授業評価アンケートについて ・外国の大学での取得単位の本学における単位としての認定について
第5回	平成20年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートについて ・科目等履修生の選考について ・既修得単位の認定について ・卒業見込証明書の発行条件について ・後期科目の変更点・クラス編成等について ・後期ガイダンスについて ・学生アンケートについて ・大学祭について ・奨学金（日本学生支援機構）の追加採用について
第6回	平成20年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・既修得単位の認定について ・施設・備品の整備に関する要望について ・年度計画の進捗状況について ・学事暦について ・大学祭について

回数	開催日	議題
第7回	平成20年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価報告書について ・年度計画の進捗状況について ・学事暦について ・学生アンケートについて ・施設・備品の整備に関する要望について ・後期授業料減額免除について ・「SCU Student Blog」の試行について
第8回	平成20年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割について ・学事暦について ・授業評価アンケートについて ・学生アンケートについて ・リメディアル教育について ・学生の成績評価について ・平成21年度年度計画案の策定について
第9回	平成21年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割について ・学事暦について ・授業評価アンケートについて ・施設・備品整備等について ・非常勤講師との懇談について ・後期定期試験の実施について ・平成21年度年度計画案の策定について ・シラバス及び学生生活ハンドブックの作成スケジュールについて
第10回	平成21年2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学生の既修得単位の認定について ・eラーニングについて ・成績の優秀な学生について ・研究生・特別聴講学生（単位互換制度）・長期履修制度の導入について ・学生の施設利用について
第11回	平成21年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度年度計画実績報告書について ・外国の大学における既修得単位の認定について ・学部連携演習のポスターセッションの日程について ・共通教育科目の名称の英語表記について ・学生の表彰制度について

6) 倫理委員会

① 年間活動概要

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った充分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成20年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第2水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。年間の審査申請総数は31件であり、1回当たり平均2.8件の審査を実施した（最大審査件数8件）。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

倫理委員会では、倫理審査に加え、倫理的問題発生時の対応を検討しフローチャートを作成したほか、厚生労働省「臨床研究に関する倫理指針」（平成20年7月31日付け全部改正）について勉強会を開催し、理解を深めた上で、全教員に指針の内容を周知した。また、倫理審査の社会的透明性及び客觀性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理のために、平成19年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、浅井俊雄弁護士が委員として審査に加わった。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月9日	・副委員長選出について ・定例委員会開催日について
第2回	平成20年6月11日	・研究倫理審査（3件） ・迅速審査の方法について ・自己点検・評価について
第3回	平成20年7月9日	・研究倫理審査（3件） ・自己点検・評価項目の検討について
第4回	平成20年7月30日	・自己点検・評価項目の検討について
第5回	平成20年8月20日	・研究倫理審査（2件） ・自己点検・評価項目の検討について ・迅速審査の結果について ・迅速審査について
第6回	平成20年9月10日	・研究倫理審査（8件） ・研究倫理審査における申請書資料・用語等の扱いについて
第7回	平成20年10月8日	・研究倫理審査（3件） ・情報倫理の取り扱い及び規程の見直しについて ・申請書の修正に係る回答のあり方について ・倫理的問題が発生した際の対応について ・施設・備品整備に係る検討について
第8回	平成20年11月12日	・研究倫理審査（4件） ・今年度の研究倫理審査状況について ・臨床研究に関する倫理指針の改正等について
第9回	平成20年12月10日	・研究倫理審査（3件） ・倫理的問題発生時の対応フローチャートについて ・臨床研究に関する倫理指針に係る勉強会開催について
第10回	平成21年1月14日	・研究倫理審査（4件） ・倫理的問題発生時の対応フローチャートについて
第11回	平成21年2月16日	・なし（臨床研究に関する倫理指針改正に係る勉強会のみ）
第12回	平成21年3月11日	・研究倫理審査（1件） ・臨床研究に関する倫理指針Q&Aについて ・平成21年度への申し送り事項について ・平成20年度の研究倫理審査状況一覧 ・外部委員の交替について

7) 大学院設置特別委員会

① 年間活動概要

本学では中期目標・中期計画において、学部に基礎を置く大学院を設置することを定めており、大学開学当初より大学院設置特別委員会を立ち上げ、その開設に向けて具体的な検討を進めてきた。

平成20年度は6月に本学大学院の具体的指針となる「札幌市立大学大学院基本計画」を策定した。この計画に基づき、大学院設置特別委員会を計14回開催し、大学院の理念及び設置の趣旨等を踏まえ、デザイン研究科及び看護学研究科の連携による教育・研究体制、地域貢献への取り組み、目標とする人材像やそれを具現化する教育課程のあり方等について協議した。

また、専門分野に関する事項を検討するため、大学院設置特別委員会の下にデザイン学部及び看護学部のワーキンググループを置き、当該委員会活動をサポートした。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年4月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・設置認可申請に向けた検討項目について ・大学院整備・検討スケジュールについて ・研究科連携科目について ・中期目標の変更について
第2回	平成20年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院開設に向けたスケジュールについて ・大学院基本計画の策定について
第3回	平成20年6月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院基本計画の策定について
第4回	平成20年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院基本計画の策定について
第5回	平成20年9月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・設置認可申請に向けた検討課題について ・大学院基本計画の広報について
第6回	平成20年10月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・運用について（教務関係：サテライトキャンパス、昼夜開講制、長期履修学生制度、入学者選抜方法）
第7回	平成20年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・運用について（教務関係：サテライトキャンパス、昼夜開講制、長期履修学生制度、入学者選抜方法）
第8回	平成20年12月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究科連携科目について ・今後の検討事項
第9回	平成20年12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・運用について（管理関係：自己点検・評価、情報の提供、教員の資質の維持向上の方策（FD））
第10回	平成21年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・制度・運用について（規程関係：大学院学則、履修規則） ・学生アンケートについて
第11回	平成21年2月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートについて
第12回	平成21年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究科名について ・教員人事について ・規程関係について
第13回	平成21年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省への事務相談について
第14回	平成21年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・規程関係について ・研究科連携科目について

8) 教員評価制度特別委員会

① 年間活動概要

当委員会において検討された教員評価制度の試行案について、全教員を対象とし平成19年度実績についての試行を実施した。提出された申告書の集計及び分析を行い、検討を重ねた結果、申告書記入要領の配点等の改定を行い、平成20年度業績についての試行に望むこととした。

② 委員会開催状況

回数	開催日	議題
第1回	平成20年7月31日	・平成19年度教員評価申告書の提出状況及び集計結果について
第2回	平成20年9月25日	・平成19年度教員評価申告書の分析結果について
第3回	平成20年10月29日	・ワーキンググループでの平成19年度教員評価申告書内容確認及び修正結果の報告について ・平成20年度教員評価申告書の記入要領の改定検討
第4回	平成20年12月25日	・平成20年度教員評価申告書の記入要領の改定検討
第5回	平成21年1月30日	・平成20年度教員評価申告書の記入要領の改定検討
第6回	平成21年2月23日	・平成20年度教員評価制度実施について

9) 委員会委員名簿

区分	委員会名	委員名	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会 常置委員会	自己点検・評価委員会	◎宮崎 みち子 杉 哲夫 吉田 和夫 張 浦華 藤井 瑞恵 村松 真澄 渡辺 春志	看護学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局総務課経営企画担当課長
	総務委員会	◎中村 恵子 酒井 正幸 中原 宏 望月 澄人 矢部 和夫 松井 美穂 加藤 登紀子 須田 恒子 菊地 ひろみ 阿部 大	副学長・看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局総務課長
	FD委員会	◎城間 祥之 矢部 和夫 三谷 篤史 片山 めぐみ 松浦 和代 大野 夏代 高室 典子 保田 玲子 安立 卓也 芳村 直孝	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	広報・情報委員会	◎羽深 久夫 吉田 和夫 フィッシャー ニーナ 町田 佳世子 スードイ神崎 和代 守村 洋 佐藤 公美子 太田 晴美 渡辺 春志	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局総務課経営企画担当課長
	教務・学生委員会	◎吉田 恵介 酒井 正幸 中原 宏 原 俊彦 那須 聖 樋之津 淳子 清水 光子 菅原 美樹 渡邊 由加利 安立 卓也 芳村 直孝	デザイン学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
	常置委員会	倫理委員会	◎坂倉 恵美子 石崎 友紀 松井 美穂 三谷 篤史 加藤 登紀子 宮崎 みち子 吉川 由希子 浅井 俊雄 渡辺 春志 上田 理子	看護学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 弁護士 事務局総務課経営企画担当課長 事務局総務課地域連携担当課長
学内委員会		大学院設置特別委員会	◎中村 恵子 原田 昭 吉田 惠介 武邑 光裕 渡辺 春志	副学長・看護学部長 理事長・学長 デザイン学部長 附属図書館長・デザイン学部教授 事務局総務課経営企画担当課長
	特別委員会	教員評価制度特別委員会	◎吉田 惠介 中村 恵子 武邑 光裕 原 俊彦 柿山 浩一郎 河野 總子 松浦 和代 阿部 大	デザイン学部長 副学長・看護学部長 附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部教授 事務局総務課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	◎西野 守彦 石崎 友紀 松井 美穂 浜本 淳二	事務局次長・桑園事務室長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 産業医
		桑園地区衛生委員会	◎西野 守彦 新納 美美 進藤 ゆかり 照井 レナ 浜本 淳二	事務局次長・桑園事務室長 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 産業医
学内運営の概要	デザイン学部	教務委員会	◎中原 宏 望月 澄人 武田 亘明 町田 佳世子 大渕 一博 柿山 浩一郎 那須 聖 福田 大年 片山 めぐみ	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎酒井 正幸 上遠野 敏 羽深 久夫 原 俊彦 フイッシャー ニーナ 細谷 多聞 山田 良 須之内 元洋	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助手

区分	委員会名	委員名	
		教職員名	所属・職位等
デザイン学部	キャリア支援委員会	◎齋藤 利明 吉田 恵介 杉 哲夫 武田 亘明 斎藤 雅也 福田 大年	デザイン学部教授 デザイン学部長 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
学部委員会	教務委員会	◎樋之津 淳子 須田 恭子 高室 典子 星 美和子 保田 玲子 河村 奈美子 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 小坂 美智代	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手
看護学部	学生支援委員会	◎宮崎 みち子 大野 夏代 菅原 美樹 村松 真澄 進藤 ゆかり 工藤 京子 鶴木 恭子 渕本 雅昭	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手 看護学部助手
	キャリア支援委員会	◎松浦 和代 守村 洋 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 塚辺 蘭子 原井 美佳	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手

◎印：委員長

資料

1 中期計画

公立大学法人札幌市立大学は、デザイン学部と看護学部を有する札幌市立大学を設置・管理運営する上での目標である中期目標を達成するために、次のとおり中期計画を策定する。

第1 中期計画の期間

中期計画の期間は、平成18年4月1日から平成24年3月31までの6年間とする。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

- ア 将来の職業人としての自覚・責任の涵養を基礎として、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を養うとともに、それぞれの専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養う。
- イ インターンシップによる就業体験、医療機関等の実習、起業（アントレプレナーシップ）に対応した教育など実践的な能力を養う。
- ウ 産業界、保健・医療・福祉機関、大学、行政等と連携した教育を行うとともに、本学の持つ様々な知的資源を地域に還元する仕組みをつくり、市民文化の向上やまちづくりに幅広く貢献する。
- エ 学生による授業評価アンケートを平成18年度から導入するほか、卒業生からの情報収集、追跡調査等多様な方法により、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証する方策を整備する。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- (ア) 本学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、明確な入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定・公表する。
- (イ) アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入を検討する。
- (ウ) 平成20年度から3年次編入学を実施するなど、より高度な学習ニーズに対応する方策を整備する。
- (エ) 入学者選抜方法の事後評価を継続的に行い、次年度以降の入学者選抜方法の改善・充実を図る。
- (オ) 上記事項を機動的・専門的に実施するため、平成18年度に教職員で構成するアドミッションセンター等の専門組織を設置する。

イ 教育課程

- (ア) 共通教育科目においては、「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。また、デザイン学部と看護学部の学生が共に学習することによって、両学部の交流を深めるとともに、「スタートアップ演習」を始め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れることにより、広い視野を持つことができるよう教育課程を編成する。
- (イ) 各学部は当該学部の共通教育の位置付けを明確にし、共通教育と専門教育の体系性を考慮しながら、早期から専門教育を履修する教育課程を編成する。
- (ウ) 「学部連携演習」など学部間の有機的な連携による授業を展開することにより、学生の専門性を拡充し、もって専門教育の充実を図る。
- (エ) 他大学との連携による単位互換、入学前・後の他大学等における取得単位の認定など単位制度の柔軟な運用について具体的な充実策を検討し、順次、整備・拡充する。
- (オ) 「スタートアップ演習」や「学部連携演習」では地域社会や学外機関と連携したフィールドワーク、調査研究等実践的な授業を展開するほか、寒冷地の特長を生かした「寒冷地デザイン」、「寒冷地医療」など、地域をテーマとした教育を進める。

ウ 教育方法及び履修指導方法

(ア) 2キャンパス

- a 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で行い、専門教育科目はデザイン学部の学生は「芸術の森キャンパス」、看護学部の学生は「桑園キャンパス」で実施する。共通教育科目を受講する看護学部

の学生が、同日中に2つのキャンパス間を移動することのないよう共通教育科目の教育課程及び時間割編成に配慮する。

- b 図書の検索、貸出し・返却はどちらの図書館においても行えるようにする。
- c 遠隔授業の増加及びeラーニング等による芸術の森と桑園キャンパスとの間のネットワーク上の情報量の増加に合わせ、適正な情報システムの拡張を図る。

(イ) 多様な授業・履修形態

- a 学問分野の特性に応じ、講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査などを実施する。
- b 社会人学生ニーズ等に対応し、科目等履修生制度、聴講生制度、研究生制度、特別聴講学生制度を導入するとともに、長期履修学生制度等の導入について検討する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- a デザイン関連企業・団体、保健・医療・福祉関係機関等社会の多様な組織と連携したインターンシップ・学外実習、臨地実習等を行い、より実務的な経験を得る機会の拡充を図る。
- b 豊富な実務経験を持つ専任教員や企業人等の非常勤講師を活用するなど職業人育成のため実学の充実を図る。
- c 専門知識と高度な技術を系統的に学習できるように体系付け、演習と実習を多く取り入れた教育課程を編成するなど職業人育成に即した授業を行う。

(エ) 履修指導方法

- a シラバスは、学習到達目標が明確になるように作成し、ホームページ等で公開する。また、学生の意見を聴取するなどして一層の質的充実を図る。
- b 全教員を対象として、各分野におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- c 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を可能とするセメスター制を実施する。
- d 多様化する学生の資質・学力に対応して共通教育科目を充実・強化するとともに、必要に応じてリメディアル教育（補完授業）の導入を検討する。
- e 履修科目の過剰登録を防ぐ登録単位の上限制など単位の実質化のための措置を講じる。
- f 大学院設置後には、演習・実習等におけるTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入するとともに、少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング、遠隔授業等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態や制度を整備する。
- g 将来の進路に沿って適切に科目を履修できるよう、具体的な履修モデルを提示するとともに継続的な改善・工夫を図る。

エ 学生の成績評価

- (ア) 教育課程に適した公平かつ適切な成績評価を可能とする基準を設定する。
- (イ) 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を継続的に検討し、成績評価制度の充実・改善を図る。
- (ウ) 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準をシラバス、ホームページ等で公開する。
- (エ) 成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するほか、表彰制度の整備、充実を図り、学生の研究・学習意欲を高める。
- (オ) 学生からの成績評価に対する照会等の窓口を設置する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- (ア) 学部の完成年次である平成21年度まで順次教員を採用し、教員組織を完成させる。その間に教育に関する目標を達成するため、授業科目や教育課程の見直しが行われた場合には、求められる教員の資質、研究実績等を把握し、必要に応じ教員組織を見直す。
- (イ) 大学院整備等で新たに必要となる教員を採用する場合には、将来的な教員の年齢構成等にも配慮する。
- (ウ) 平成19年度に実施される学校教育法の改正に対応し、准教授並びに助教及び助手の適切な任用及び配置を行う。
- (エ) 教育現場と実務の積極的な交流により教育研究の充実を図るため、客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入する。
- (オ) 教育効果を上げるため、授業形態、受講者数等に応じてTA制度を導入する。

イ 教員の資質の維持向上

次の取組を開学初年度から順次実施する。

(ア) FDの実施体制

FDについては、専任教員の代表により構成するファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置し、当該委員会を中心にして行う。

(イ) 授業開始前の対応

a 各教員が、授業内容・方法を決定するに当たり、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について理解するために、これらの事項に関する学長、学部長等による研修等を行う。

b 大学での授業が未経験の教員に対しては、大学における教育制度の基本的な枠組みを理解させるために、FD委員会により、学校教育法等に係る研修を行う。

c 教員が作成するシラバスについて、FD委員会において、その記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して、記載方法等の指導・助言を行う。

(ウ) 授業開始後の対応

学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。

(エ) その他の研修及び研究

FDに関する講演会の開催、FDに関する意見、情報等の交換を行う場の設定、FDに関する研究会、研修会等への教職員の派遣等の取組を行う。

ウ 教育環境の整備

(ア) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院が使用しなくなる施設・設備の効果的な転用を図るため、教職員による施設利用の委員会を組織し、計画的な施設整備・改修を進める。

(イ) 施設利用の点検・評価を行い、産学連携等に資する研究・実験スペースを確保するとともに、共用スペースや福利厚生施設の効果的で効率的な運用を図る。

(ウ) 学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を整備するとともに、多様な授業形態を支援するため、平成18年度からeラーニングシステム、遠隔授業システム等を導入する。

(エ) 備品・図書等整備のために教職員による委員会を組織し、年次整備計画の着実な実施を進めるとともに、毎年度、見直し等の計画調整を行い、良好な教育研究環境を整備する。

(オ) 図書等の整備は、札幌市立高等専門学校からの移管図書約30,100冊、札幌市立高等看護学院からの移管図書約5,400冊に開学準備に揃えた約5,900冊の図書に加え、平成18年度には約6,500冊、平成19年度には約7,400冊を整備する。それ以降も図書や視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等の充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

(ア) 学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に教員が直接かつ柔軟に対応する体制を設ける。

(イ) 学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般（ハラスマント対策を含む。）を支援する体制を充実する。特に、平成18年度から専門的な職員を配置するなど学生の心身の健康の保持増進とカウンセリングのための機能強化を検討する。

(ウ) 学生の意見・要望を反映させるため、学生支援委員会などを設置し、学生に対するアンケート等を通じて、学生生活の実態や意向を把握しながら、学生生活を充実させる。

(エ) 学生の自主的学習、課外活動などを支援するため、自家用車による通学ができるよう駐車場の整備について検討する。

(オ) 豊かなキャンパスライフを送るため、課外活動の活性化を支援するとともに、課外活動施設・設備の充実を図る。また、食堂・売店等の福利厚生施設等を充実させる。

(カ) 就職情報の収集・提供を一元化し、進路相談に応じる窓口を設置するとともに、学生の就職に関する戦略を構築し、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンス等を充実するなど積極的に就職活動を支援する委員会などの学内体制を平成20年度までに整備する。

(キ) 行政、地元の企業や関係機関・団体と連携した学生の就職支援体制の整備を推進する。

(ク) 経済的理由により修学の継続が困難な学生に対する授業料の減免等、学生納付金の減免制度を整備する。あわせて、各種奨学金制度の活用を支援するほか、多様な奨学金制度の創設について検討する。

(ヶ) 後援会・同窓会等の組織を設け、これらと連携し、学生生活の充実を図る。

イ 留学生及び障がいのある学生に対する支援

(ア) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

(イ) 障がいのある学生に対する修学上の支援と相談体制を構築する。また、必要に応じて設備・機器によるバリアフリー支援も併せて実施する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

(ア) デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上等に寄与する研究を行う。

(イ) 看護学部については、看護の基礎的な研究に加え地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。

(ウ) 環境、健康、生活、情報等をキーワードに両学部の共同研究に積極的に取り組み、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインや看護等新しい研究領域の開拓を目指す。

(エ) 自主研究に加えて、期間を限った受託・共同型の研究に取り組み、特に競争的外部研究費を導入した学内外で行う特徴あるプロジェクト型研究を推進する。

イ 研究の水準及び研究の成果

(ア) 研究者を受け入れやすい環境（客員研究員・研修員制度、研修派遣制度等）を整備し、国内外の大学や研究機関及び民間企業等との研究者の人事交流を推進する。

(イ) 大学の知を社会に還元するために、公開講座、研究会、講演会等の開催や広報活動を積極的に行う。

(ウ) 研究成果は紀要に掲載するとともに、教員一覧、研究内容の紹介等の情報をホームページ等において公開する。また、国内外を対象とした大学の教育・研究に関わる広報を充実させる。

(エ) 産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。

(オ) 研究成果を教育課程にフィードバックすることにより、教育課程の一層の充実を図る。

(カ) 研究成果は定期的に自己点検・評価、外部評価を行い、研究活動の検証体制を整備する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

(ア) 個人研究費については、固定的に配分する資金以外に、職業人の育成に資する教育にフィードバックできる研究、地域貢献やデザインと看護の連携に資する研究等大学において重点的に取り組むべき研究等に研究費を厚く配分し、中期目標の達成及び中期計画・年度計画の遂行を確保するために、教員からの申請等に基づき、学長等の判断により配分先を決定できる資金を、平成18年度に設ける。

(イ) 平成22年度をめどに、教員が行う教育、研究、学内運営、地域貢献等の業績を評価する制度を導入するとともに、その評価の結果を研究費に反映させることとし、研究環境の向上のための研究資金獲得に対するインセンティブを与える。

(ウ) 共同研究費については、平成18年度から、地域貢献に資する共同研究に重点的に配分するとともに、そのうちの一定部分について、デザインと看護の連携に関する教員の共同研究のための研究費とし、デザインと看護の連携に関する研究を推進する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所（地域連携研究・支援センター）

地域社会への貢献を具体的に展開するために、平成19年度以降に附属研究所（地域連携研究・支援センター）を設置することとし、以下のような機能を整備する。また、こうした機能や取組を効果的に進めるために、平成18年度中にネットワークの拠点となる都心部サテライト施設を設置し、リエゾンオフィス機能を設ける。

a 産学公連携の促進機能

地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。

b デザインと看護の共同研究機能

デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。また、デザインと看護の共同研究や異分野との横断的な取組により、市民の豊かな生活や健康を支援する。

c 地域の健康支援機能

看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導窓口の設置や、地域看護や在宅看護、介護に関する相談・研修

等を通じて、市民のあらゆる健康な生活を支援する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

各学部あるいは両学部における研究は、産・学・公の連携による取組を特色とし、基礎研究に配慮しつつ萌芽的・先端的研究への支援体制を整備し、学術研究の活性化と卓越した研究に取り組む。

また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する体制を整備する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

(ア) IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。

(イ) 医療・看護・介護機器やバリアフリー住宅に関する研究開発等に取り組む。

(ウ) 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。

(エ) 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に係る成果の他自治体への提供等に取り組む。

イ 教育面での貢献

(ア) リカレント教育、公開講座等の教育機能、企業等との窓口機能等を持った都心部サテライト施設を平成18年度中に設置する。また、都心部サテライト施設では、遠隔授業に対応した多様なメディア機器等の整備や情報ネットワーク等の充実を図る。

(イ) 市内の生涯学習機関等と連携した多様なメニューを提供するとともに、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等への需要にこたえる各種プログラムを開発する。

(ウ) 平成18年度から、本学の教職員及び学生以外の市民に対して、図書館を開放する。

(エ) 高校生対象の公開授業・授業聴講制度等高校生が大学の講義を受講できるシステムの整備、高校関係者との協議会の設置等、高等学校との連携を強化する。また、小中学生に対しても大学の持つ教育機能を提供する。

(オ) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の並存期間中における両校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力する体制を構築する。

ウ 大学間連携

大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施などの施策について検討し、順次整備する。

エ 札幌市との連携

上記取組のうち、札幌市の行政施策と関連する部分については、札幌市が設立する公立大学法人であるメリットを生かして、当該施策との緊密な連携によって、様々な地域課題の解決に積極的に取り組み、地域貢献を実現する。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

(ア) 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流制度等の充実を推進する。

(イ) 海外の優れた研究機関等との連携による国際共同研究を推進するとともに、国際会議等を開催し、研究活動の相互交流を促進する。

(ウ) UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学間連国際機関へ参加する。

(エ) 上記事項を推進するため、国際交流の企画と推進を行う体制を整備する。

イ 留学生の受け入れ

(ア) 海外の交流協定校等との教育研究の連携を強化するとともに、交流の実効性を高めるための明確な受け入れ方針を確立する。

(イ) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

平成18年度中に、公立大学法人全体の経営戦略を、役員会等の審議を経て、理事長が策定する。

イ 役員会及び理事のサポート

平成18年度から、理事長及び理事を構成員とし、中期目標、中期計画、予算・決算、重要な組織の設置・廃止等公立

大学法人における最重要事項を審議する役員会を設置する。

理事は、複数任命するとともに、それぞれの理事が専門性を発揮して理事長をサポートするために、理事の役割を分担する。

ウ 企画戦略室の設置等

平成18年度から、理事長、学内理事、部局長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略を企画・立案する企画戦略室を設置するとともに、事務局に、企画戦略室に係る業務をサポートする職員を5人程度配置する。

エ 学内の資金配分

(ア) 研究費については、平成18年度から、個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する仕組みを導入する。

(イ) 研究費以外の予算についても、平成19年度予算以降は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮して、理事長が予算編成方針を策定し、予算を重点的に配分するとともに、理事長が裁量により配分することができる資金を設けるなど、理事長が戦略的かつ柔軟に予算編成・資金配分を行うことができる仕組みを導入する。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用 次の取組を平成18年度から実施する。

(ア) 役員会の構成員となる理事には、経営、財務、地域貢献、産・看・学・公連携等に係る専門家・有識者である学外者を積極的に登用する。

(イ) 経営審議会では、委員の半数以上を学外委員とすることを義務付け、その学外委員には、公立大学法人の経営に関する有識者として、他大学の教員、民間企業関係者等を登用する。

(ウ) 教育研究審議会にも、札幌市立大学の教育研究に対する外部からの意見を取り入れるために、デザイン又は看護に係る教育研究の有識者、後期中等教育関係者等2人程度の学外委員を登用する。

イ 教授会等

(ア) 効果的かつ効率的に法人・大学運営を行うために、重要事項の審議は、できる限り役員会並びに経営審議会及び教育研究審議会にゆだね、教員の法人・大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選するとともに、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。

(イ) 民主的な学内運営に配慮し、意思決定プロセスの明確化・透明化を図るため、原則的に役員会等の重要な会議の議事内容にすべての教職員がアクセスすることができるようとするなど、情報の共有化を進める。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。特に、執行状況を把握するための一定期間ごとの役員会等への業務実績報告、点検・評価委員会への業務執行データの蓄積等を行い、これらのデータを評価に生かすことができるような措置を講ずる。

イ 経営資源の管理・活用

理事長を始めとする経営層が、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」といった公立大学法人の経営資源を把握するとともに、これらの経営資源を業務運営の改善及び効率化のために有効に活用する。特に、公立大学法人の運営によって得られた知識、技術等の「情報」は、まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」となる本学を運営する上で極めて重要な経営資源であることから、情報システム等を用いた情報の共有化を徹底し、その情報を教育研究の活性化や地域貢献に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

学内委員会では、教職員が一体となって公立大学法人を運営する体制を構築し、その企画立案・業務執行体制を強化するために、教員のみを構成メンバーとするのではなく、事務局職員もメンバーとする。

イ 専門性の高い事務局体制

高い専門性を有する事務局職員を確保するために、当初は相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れる。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

学部・学科については、中期目標期間中の平成21年度に完成年次を迎えることから、完成年次までは、現在の体制を維持する。

平成22年度以降については、教育研究に対する社会的動向やニーズ、自己点検・評価、認証評価機関の評価結果、地方独立行政法人評価委員会の評価結果等を踏まえて、学部・学科体制について検討する。

(2) 大学院

大学院については、より高度な専門性を有する人材の育成、研究機能の向上を通じた一層の地域貢献の実現等に必要なものであることから、学部に基づく大学院として、段階的に修士課程及び博士課程を設置することとし、具体的な設置時期、専攻分野、定員等について検討を進める。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

(ア) 任期制について

平成18年度から全教員に5年の任期制を導入し、任期の更新に業績評価結果を反映させることにより、教員の士気の高揚、教員組織の活性化を図る。

(イ) 任用制度について

教育現場と実務の積極的な交流を行うために客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入するとともに、様々な知識・経験を有する教職員を任用するために、公立大学法人であるメリットを生かして、本学における教育研究への支障が生じないよう配慮しつつ、裁量労働制などの柔軟な勤務形態、兼業許可制度などを導入する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

複雑化・高度化する事務に対応するため、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

(ア) 教員が行う教育研究活動等を活性化させるとともに、教員の資質向上を図るため、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する業績を公正・公平に、かつ、客観的・多面的に評価する業績評価制度を導入するとともに、その評価結果を給与、研究費、任期の更新、昇任等に反映させる。

(イ) 具体的な制度導入については、平成18年中に教員の業績評価制度並びに業績の評価結果を反映させる事項及び方法について検討する。

その検討結果に基づいて、平成19年及び平成20年の2年間にわたり教員の業績評価制度を試行的に実施し、平成21年から教員の業績評価制度を本格的に導入するとともに、平成22年度から給与、研究費、昇任等にその評価結果を反映させる。

(ウ) 教員に支給する給与及び研究費に評価結果を反映させる割合については、徐々にその割合を高くしていくこととする。

(エ) 事務局職員についても、その勤務成績を適切に評価するため、公正・公平で客観的な評価システムについて検討の上、実施する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

学部の完成に向けて教員採用を行いながら、中・長期的な大学運営や教育研究活動の展開を把握するとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 財務会計システム、教学システム、図書システム等を導入することにより事務の効率化・合理化を図る。

(2) 事務処理の効率化・合理化のため、電子化された学籍情報を活用し、就職支援システム、証明書自動発行システム等の導入を進める。

(3) ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの導入により、セキュリティが重視される施設への入退室管理、図書の貸出し・返却業務や蔵書点検等の省力化を図る。

(4) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。

(5) 事務局業務については、平成18年度から、当該業務の外部委託及び当該業務を行う職員の人材派遣による受入れ等を実施する。外部委託等による業務の効率化・合理化の効果が高いとの評価が行われた場合には、その業務を拡大する。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 受託研究・共同研究

ア 受託研究及び共同研究を積極的に受け入れるために、平成18年度から、研究推進や連携促進のための学内委員会を設置するとともに、教員の研究成果に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

イ 上記学内委員会及び附属研究所を中心に、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付けることができる体制を構築する。

(2) 科学研究費補助金等

科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行う体制を早期に整備し、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。

(3) 外部研究資金の適正な管理

公立大学法人で受け入れた受託研究・共同研究に係る外部からの研究費等外部研究資金については、その適正な管理を担保するために、内部監査や監事監査でのチェック等の体制を構築する。

(4) 自主事業の実施等

ア 平成18年度から、地域貢献につながる公開講座を実施する。

イ 教員が発明等を行った知的財産のうち、公立大学法人において有効に活用することができるものについては、公立大学法人に承継し、実施料等の収益を上げる。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

(1) 平成18年度から、両キャンパスにおいて重複する事務のうち、特に庶務、経理等の事務を本部がある芸術の森キャンパスにできるだけ集約する。

(2) 環境に配慮し、全教職員に省エネルギー・省資源に対する意識を醸成させることにより、光熱水費等の抑制を図る。

(3) 教職員の定員管理を行い、過度な人員配置を防止するとともに、業務の外部委託等を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

(1) 余裕資金が生じた場合については、取引銀行等と連携し、これら資金の安全かつ効果的な運用により、適正な管理を行う。

(2) 不動産等固定資産については、大学の教育研究に支障のない範囲で学外者に対し使用を認めることやその対価を徴収することを検討する。

(3) 知的財産については、利用価値の高い知的財産を積極的に活用するため、全学的な知的財産ポリシーを策定するとともに、知的財産の管理体制を確立する。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

(1) 点検・評価委員会の設置

平成18年度から、自己点検・評価を行う組織として、専任教員、事務局職員等の代表による点検・評価委員会を設置する。

(2) 自己点検・評価の実施

自己点検・評価については、点検・評価委員会が、自己点検・評価の評価項目及び当該評価項目ごとの評価基準を決定するとともに、当該評価項目に係るデータを収集・蓄積し、そのデータに基づいて、評価項目ごとに設定した評価基準を満たしているかどうかについて評価を行うことにより実施する。

(3) 結果の活用及び公表

評価結果は、点検・評価委員会から役員会等の全学的な重要組織に伝え、当該組織において包括的な改善計画を策定するとともに、学内委員会、事務局等で改善のための実行計画を策定し、改善を実行する。

また、評価結果は、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成・配布により公表する。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

ア ホームページ等による情報提供

平成18年度から、ホームページや刊行物を活用し、以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

① 大学の設置の趣旨及び特色並びに学部ごとの教育研究上の目的及び特色

② 育成する人材像

③ 教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法

- ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
- ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
- ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
- ⑦ 卒業生の就職・進学状況
- ⑧ 自己点検・評価、認証評価機関及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
- ⑨ 設置認可申請書
- ⑩ 学則その他の規程

イ 紀要の発行

教育研究活動の結果を掲載するために、審査を経た制作・論文を含めた紀要を定期的に発行する。

ウ 公開講座の実施等

市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

公立大学法人札幌市立大学が保有する個人情報については、地方独立行政法人が札幌市の個人情報保護条例における実施機関となったことから、当該条例を施行するための規程を整備すること等により、適正な取扱いを行う。

第6 その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

- (1) 教育課程に沿った経年的な施設・設備の整備計画を策定し、教育・研究のニーズに適した整備を行う。
- (2) 施設・設備の保守・修繕等の維持管理計画を策定し、毎年度の点検・調査により状況を評価し、実施に移行するマネジメントサイクルを確立する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全衛生管理への対応

事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、安全衛生管理に関する教職員及び学生の意識の向上を図る。

(2) 災害等に対する危機管理体制

災害等が発生した場合に対応するため、平成18年度中に危機管理体制マニュアルや防災計画を策定するとともに、関係機関や地域との連携等の危機管理体制を整備する。

(3) 公立大学法人の遵法・倫理

役員、教職員及び学生が違法行為を行うことを未然に防止するため、また、ハラスメント等を防止するため、さらに、違法行為等が行われた場合に適切に対応するための全学的な体制を構築する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- (1) マイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコーポレート・リレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）の導入によりエネルギーの有効利用を図る。
- (2) 断熱・遮熱性能に優れた建築システムの採用（ダブルスキン構造）により、環境負荷を軽減するとともに、室温管理等を行い、省エネルギーを徹底する。
- (3) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

第7 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

（注）運営費交付金は、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金については、予算編成過程において各事業年度の札幌市の予算編成方針に基づき再計算され、決定される。

第8 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

第9 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
なし。

第10 剰余金の使途
決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第11 施設及び設備に関する計画

施設・設備の改修・修繕	予定額	財源
・既存校舎の改修	総額	施設整備費補助金
・経常的修繕費	504百万円	(504百万円)
・大規模修繕		

(注) 一般的な耐用年数を基に試算しているため、金額については見込みである。具体的な額については、各事業年度の予算編成等において決定される。

第12 人事に関する計画

1 適正な定員管理

学部完成年次（平成21年度）まで順次採用を行い、必要な教職員を確保する。

学部完成後には、大学の教育研究等の質の向上に関する目標や業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために必要となる中・長期的な大学運営や教育、研究活動の展開を把握し、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

2 専門性の高い事務局職員の育成

事務局職員について、複雑化・高度化する事務に対応するため、开学時には相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れ、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

3 研修の充実

教職員の能力開発や意識向上を図るため、外部研修を含め研修体制を充実する。

第13 中期目標の期間を超える債務負担
なし。

別紙 予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積もりを含む）

1. 予算（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	9,354
授業料等収入	1,968
受託研究等収入	132
その他収入	64
計	11,518
支出	
教育研究経費	1,983
受託研究等経費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,583
施設整備費	209
計	11,518

[人件費の見積り]

中期計画期間中総額6,623百万円を支出する。

ただし、退職手当は除く。

2. 収支計画（平成18年度～平成23年度）

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	11,591
経常費用	11,591
教育研究経費	1,386
受託研究等費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,511
減価償却費	736
雑損	215
収益の部	11,591
経常収益	11,591
運営費交付金収益	9,089
授業料等収益	1,968
受託研究等収益	132
資産見返運営費交付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	112
雑益	279
物品受贈益	215
その他収益	64
純利益	0

3. 資金計画（平成18年度～平成23年度）

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	11,518
業務活動による支出	11,309
投資活動による支出	209
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	11,518
業務活動による収入	11,518
運営費交付金による収入	9,354
授業料及入学金検定料による収入	1,968
受託研究等による収入	132
その他収入	64
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

2 平成20年度年度計画

1) 平成20年度年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

- ・ 共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」に区分し、体系的な教育を行う。
- ・ 専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」、専門的知識や技術を学ぶ「専門科目」に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。
- ・ デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的に教育を行う。
- ・ 看護学部の教員は、領域ごとの特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的に教育を行う。
- ・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や企業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、インターンシップを通じた就業体験の場を提供する。また、企業等に対しては、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
- ・ 看護学部においては、保健、医療、福祉分野への关心と理解を深め、将来の看護職としての動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために実習指導者会議を開催する。
- ・ 多様な講師の活用や関連施設を活用した実習など産業界、保健・医療・福祉機関、高等教育機関、行政等と連携した教育を行い、地域に貢献できる人材の育成に努める。また、知的資源を地域に還元する仕組みづくりについて検討を進めめる。
- ・ 教務・学生委員会は、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証するため、学生による授業評価アンケートを実施する。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、使命感および勉学意欲を持った学生を確保する。
- ・ アドミッション・ポリシーは、オープンキャンパスや高校訪問、進学相談会等で広く周知するほか、ホームページでも公開する。
- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜（前期・後期）、特別選抜（推薦入学・社会人・私費外国人留学生）を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入について検討する。
- ・ 3年次編入学生を受け入れるため、編入学試験を実施する。また、社会人等の学習ニーズに対応するため、科目等履修生及び聴講生の募集を行う。
- ・ 入学者を対象としたアンケート調査等を実施するなど、入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。

イ 教育課程

- ・ 「日本語表現法」「プレゼンテーション」「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。
- ・ 「スタートアップ演習」では、両学部の学生が専門分野を学ぶ上での問題点の発見や課題解決手法等を習得させる。さらに、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。
- ・ デザイン学部においては、1年次から共通教育とともに、体系的にデザインの基礎となる専門教育科目を実施し、2年後期から始まるコース別専門教育に円滑に移行できるよう配慮する。

- ・ 看護学部においては、1年次から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、専門教育科目を実施する。
- ・ 1年次の「スタートアップ演習」、3年次からの「学部連携演習」で、学部間の有機的な連携による授業を展開する。
- ・ 学生の入学前の取得単位認定を実施するとともに、他大学との単位互換等単位制度について検討を進める。
- ・ 「スタートアップ演習」や「学部連携演習」において、地域の様々な課題を取り上げた実践的な授業を実施するとともに、「寒冷地デザイン」「寒冷地医療」など、地域の特色を生かした教育を進める。

ウ 教育方法及び履修指導方法

(ア) 2キャンパス

- ・ 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス（芸術の森、桑園）間を移動することのないような時間割編成を行うなど、看護学部の学生の一層の負担軽減の方策について検討する。
- ・ 学生を対象に図書館の両キャンパス間の検索、貸出し・返却を行う。
- ・ 遠隔授業、e ラーニングシステムを検証し、ネットワーク上の情報量の増加の推移を見守りながら、検討を進める。

(イ) 多様な授業・履修形態

- ・ 教育分野や教育内容の特性に応じ、演習、実習を取り入れた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査、模擬患者を活用した演習などを実施する。
- ・ 科目等履修生規則及び聴講生規則に基づき募集を行う。また、研究生の受入れと特別聴講学生制度および長期履修学生制度の導入について検討する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- ・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や企業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、企業等に対し、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
- ・ 保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために実習指導者会議を開催する。
- ・ 実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。
- ・ 豊富な実務経験を持つ専任教員、非常勤講師を採用し、職業人育成のための教育を行う。
- ・ 実務経験豊富な外部講師を招聘し、特別講義等を行う。
- ・ 学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を修得できるよう授業を行う。

(エ) 履修指導方法

- ・ シラバスに「科目的ねらい、目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価アンケート等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。
- ・ 全教員を対象として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- ・ 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を行うため、セメスター制を実施する。
- ・ 学部ごとにセメスターにあわせて履修にあたっての留意事項、スケジュール等についてガイダンスを実施する。
- ・ デザイン学部においては、2年後期のコース別教育にあたり、事前に適切なコース選択ができるようきめ細かな履修指導を行う。
- ・ 看護学部においては、看護実習の開始前に、実習に当たっての履修指導を行う。
- ・ 「英語Ⅱ」における習熟度別クラス編成の導入など、多様化する学生の資質・学力に対応するための共通教育科目の充実・強化に努める。
- ・ 一部専門基礎科目について補習（特別講義）を実施するとともに、リメディアル教育（補完授業）の導入の必要性について検討を進める。
- ・ 履修科目の過剰登録を防ぐためキャップ制を導入し、登録単位に上限を設ける。
- ・ 少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態による教育を実施する。
- ・ デザイン学部では空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により

具体的な履修モデルを作成し、シラバスに明示する。

エ 学生の成績評価

- ・ 学則で定めた成績評価基準に基づき、適切な成績評価を行う。
- ・ 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を検討する。
- ・ 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準を学生生活ハンドブックに明示するとともに、シラバス、ホームページで公開する。
- ・ 成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するとともに、表彰の実施を検討する。
- ・ 学生からの成績評価に対する照会等について両キャンパスに設置した窓口において対応する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- ・ 学年進行に対応して計画的に教員を採用する。
- ・ 新たに教員を採用する場合には、将来的な年齢構成等にも配慮する。
- ・ 助教および助手の適切な任用及び配置を行う。
- ・ 実務経験の豊富な客員教授の活用を図る。

イ 教員の資質の維持向上

- ・ 学長、学部長等は、授業開始前に、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について研修を行う。
- ・ 大学での授業が未経験の教員に対しては、FD委員会が中心となり、学校教育法等に係る研修を行う。
- ・ 教務・学生委員会は、シラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成する。FD委員会は、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
- ・ 学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
- ・ FDに関する講演会や学内の研修会を実施するほか、両学部教員による研究交流会を実施し、情報交換を行う。
- ・ FDに関する外部の研究会や研修会に教職員を派遣する。

ウ 教育環境の整備

- ・ 札幌市立高等専門学校の学年進行に伴う芸術の森キャンパスの教室等の転用および札幌市立高等看護学院の閉校に伴う桑園キャンパスの整備について、計画的に実施する。
- ・ 学内施設利用に関する点検・評価を行い、効果的で効率的な施設運用を図るとともに、必要な措置を講ずる。
- ・ 学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を優先度を考慮し逐次整備する。
- ・ eラーニングシステム等を活用し、多様な授業を実施する。
- ・ 総務委員会において、備品整備の優先度等を勘案した整備計画の検討を行い、その結果等に基づき教育研究環境の整備を進める。
- ・ 図書館運営会議において、図書の選定・充実を図るとともに、図書および学術情報等に係る環境改善について定期的に検討する。
- ・ 図書等については、図書、視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等について選定作業を行い、充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

学生の修学・進路・生活を支援するため、以下の取組みを行う。

- ・ 両学部におけるメンター制度により、学生の修学・進路・生活および心身の健康等にわたる各種相談等に、教員が直接かつ柔軟に対応する。
- ・ 学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般を支援するため、学部の学生支援委員会を中心に、両学部におけるメンター制度を活用した支援を行う。
- ・ 両キャンパスに配置したカウンセラーおよび看護師等の専門スタッフにより、学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活の支援を行う。
- ・ 教務・学生委員会において、学生生活の実態や意向を把握するためのアンケートを実施し、学生生活の充実に向けた改善策を検討する。
- ・ 自家用車による通学を必要とする学生には、許可条件、駐車場の確保等の検討を行う。
- ・ 学生の地域活動等に対して、情報提供、教職員の助言等を行う。
- ・ 学生の福利厚生および課外活動のための施設・設備の拡充を検討する。

- ・進路相談窓口等を拡充するとともに、学生の就職に関する戦略を構築し、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンス等の就職活動を支援するキャリア支援センターおよびキャリア支援委員会を設置する。
- ・キャリア支援センターおよびキャリア支援委員会を設置し、地元の企業や関係機関・団体等との連携を一層促進する。
- ・経済的理由により就学が困難な学生に対し、学生納付金の減免制度や各種奨学金制度を活用し、支援する。
- ・後援会組織と連携し、大学祭などの課外活動の支援を行う。

イ 障がいのある学生に対する支援

- ・障がいのある学生に対し、教務委員会および学生支援委員会が中心となり、修学上の支援と相談を行うほか、必要に応じて設備・機器等の整備を行う。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

- ・デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生等に寄与する研究を行う。
- ・看護学部については、看護の基礎的な研究、地域看護の充実および市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。
- ・両学部において、保健・医療・福祉分野や環境、健康、生活、情報等をキーワードとする共同研究を推進する。
- ・科学研究費補助金を含む競争的研究資金への募集情報を周知し、外部資金導入による研究の促進を図る。

イ 研究の水準及び研究の成果

- ・大学院の開設を視野に入れ、研究者を受け入れやすい環境（客員研究員・研修員制度、研修派遣制度等）を検討する。
- ・大学の知を社会に還元するため、公開講座、研究会、講演会等を開催する。
- ・地域連携研究センターに、紀要編集委員会を設け、教員の研究成果を掲載するため紀要（SCU Journal of Design & Nursing – 札幌市立大学研究論文集 –）を発行する。また、シーズとなる教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する。
- ・共同研究等を推進する地域連携研究センターが中心となり、産業界等との連携を深め、共同研究等地域課題に対応した研究を促進する
- ・専門教育の進行に併せて研究成果の教育課程・講義へのフィードバックについて教員対象のアンケート等を実施し、検討する。
- ・自己点検・評価委員会において、自己点検・評価の評価項目および評価基準に基づき、研究成果の点検・評価を行うとともに、研究活動等の検証体制についてさらに検討する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

- ・個人研究費ならびに学術奨励等競争的研究費を活用し、様々な地域課題に取り組む戦略的な研究を支援する。
- ・教員評価制度特別委員会で業績評価の平成19年度試行結果を踏まえ、検証・試行を行うとともに、制度化に向けた検討を進める。
- ・共同研究費については、地域貢献に資する共同研究ならびにデザインと看護の連携した共同研究に重点的に配分し、両学部の連携研究を推進する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所（地域連携研究センター）

- ・地域連携研究センターが、サテライトキャンパスを活用し、産学連携事業等のニーズ調査を行い、さらに効果的な地域貢献事業の実施を検討する。
- ・地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランドおよび新産業の創出を支援する。
- ・デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。
- ・看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導窓口の設置について検討する。
- ・地域看護や在宅看護・介護に関する研修会、講演会などを開催する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

- ・地域連携研究センターは、各学部あるいは両学部における研究を支援し、その推進を図る。また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

- ・ IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。
- ・ 医療・看護・介護機器ならびにバリアフリー住宅等に関する研究開発等に取り組む。
- ・ 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
- ・ 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に取り組み、その成果の公表、提供等を通じて地域貢献に取り組む。

イ 教育面での貢献

- ・ サテライトキャンパスにおいて、遠隔授業に対応した多様なメディア機器等の整備や情報ネットワーク等の充実を検討する。
- ・ 関係機関との連携等により、多様な講座を提供するとともに、専門職業人の継続教育等への需要に応えるプログラム開発に取り組む。その一環として、地域連携研究センターにおいて、認定看護管理者育成を目的としたサードレベルの教育を行う。
- ・ 市民への図書の貸出しを実施する。
- ・ 高校生を対象とした出前講座や公開講座等を行い、高等学校との連携強化を図る。また、小中学生に対しても、大学の持つ教育機能の提供を進めていく。
- ・ 札幌市立高等専門学校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力を図る。

ウ 大学間連携

- ・ 大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施について情報収集し、検討する。

エ 札幌市との連携

- ・ 札幌市の政策課題に関し、情報交換の場を積極的に設け、地域課題の解決に対する取組みを行う。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

- ・ 地域連携研究センターが中心となり、海外の大学・研究機関等との連携等による研究者・学生の交流を推進する。
- ・ 国際会議の開催や参加等を通じて、国際的な大学・研究機関との連携、交流を促進する。
- ・ UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関に参加する。
- ・ 地域連携研究センターが中心となり、国際交流の企画と推進を行う。

イ 留学生の受入れ

- ・ 海外の交流協定校との教育研究の連携を強化し、交流協定校からの留学生の受け入れ方針を検討する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

- ・ 経営戦略に基づき、理事長のリーダーシップにより、目標達成に向け着実な業務運営を行う。

イ 役員会及び理事のサポート

- ・ 役員会において最重要事項の審議を行うとともに、各役員の専門性を發揮するため、役割を分担し理事長をサポートする。

ウ 企画戦略室の設置等

- ・ 企画戦略室において経営戦略に係る事項を推進する。

エ 学内の資金配分

- ・ 研究費については基礎的な個人研究費のほかに、学術奨励等競争的研究費を設ける。また、理事長の裁量により留保する戦略的経費の中から大学が様々な地域課題に取り組む戦略的な研究費に充てる。
- ・ 研究費以外の予算についても、理事長が裁量により重点的に配分することが出来る資金を設けるなど、平成21年度予算編成方針は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮し、策定するとともに、戦略的かつ柔軟な予算配分を行う。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

- ・ 学外から登用した専門家・有識者である理事の活用を図る。

- ・ 学外から登用した経営に関する有識者である経営審議会委員の活用を図る。
- ・ 学外から登用した教育研究に関する有識者である教育研究審議会委員の活用を図る。

イ 教授会等

- ・ 教授会及び学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。
- ・ 役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう情報の共有化を行う。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

- ・ 公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。
- ・ 役員会等に対し業務実績報告を行うとともに、自己点検・評価委員会が業務執行データの蓄積等を行う。

イ 経営資源の管理・活用

- ・ 役員会、経営審議会、部局長会議等を通じて理事長を中心とする経営層が、法人の経営資源の把握が容易となるよう運営を行う。
- ・ 理事長は経営戦略に基づき、効果的、効率的な経営資源の配分・活用についてそのリーダーシップを發揮する。
- ・ 公立大学法人の有する知識、技術等の情報を、電子メールや教職員専用学内ホームページ等により積極的に情報提供し、情報の共有化を図るとともに、教育研究の活性化や地域貢献に積極的に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

- ・ 学内委員会には、事務局職員も学内委員会の委員として参加し、教職員が一体となって公立大学法人の運営にあたる。

イ 専門性の高い事務局体制

- ・ 高い専門性を有する事務局体制を維持するため、札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替えを進める。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

- ・ 学部・学科は、完成年次である平成21年度までは現在の体制を維持する。

(2) 大学院

- ・ 平成22年4月、大学院修士課程の開設を目指し、大学院設置特別委員会において、教育課程、教員組織、施設・設備等に関する具体的な調査・検討を行うとともに、平成21年5月末の文部科学省に対する設置認可申請に向けた準備を進める。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

- ・ 教員評価制度特別委員会で業績評価の平成19年度試行結果を踏まえ、検証・試行を行うとともに、制度化に向けた検討を進める。
- ・ 教員の裁量労働制・兼業許可制度について継続し運用する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

- ・ 大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、学内研修を実施するとともに、学外研修会等への参加を促進する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 教員評価制度特別委員会で業績評価の平成19年度試行結果を踏まえ、検証・試行を行うとともに、制度化に向けた検討を進める。

・ 事務局職員については、札幌市の勤務評価制度を参考にその勤務成績の評価システムを試行する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

- ・ 学部の完成および大学院設置に向け、計画的に教員採用を行うとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行い、適正な教職員数を実現する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 財務会計システム、教学システム、図書システム等の改善を行い、事務の効率化・合理化を図る。
- ・ 既存システムの拡充等について検討を進める。
- ・ ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの運用により事務の省力化を図る。

- ・電子メールや教職員専用学内ホームページの活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。
- ・事務局業務については、平成19年度に行った業務の外部委託について、業務の効率化・合理化の効果の検証・評価を行い、その結果等を踏まえ、委託業務を拡大するなどの業務改善を進める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・地域連携研究センターにおいて、教員の研究活動に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。
- ・地域連携研究センターにおいて、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付ける。
- ・地域連携研究センターにおいて、科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行い、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。
- ・外部研究資金について、定期的に監査を実施する。
- ・地域貢献につながる公開講座を実施する。
- ・知的財産規程に基づき、有効に活用することができる知的財産については、本学教員が職務発明した権利を大学が継承する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・事務局職員の配置にあたっては、庶務、経理等の事務を芸術の森キャンパスに集約するなど、適正な職員配置を行う。
- ・冷房、暖房の温度設定管理を徹底し、光熱水費の抑制を図る。
- ・清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。
- ・教職員の適正な人員管理を行うとともに、必要に応じて事務局業務の外部委託を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

- ・余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。
- ・学内施設が地域等で有効に活用されるよう利用規程等に従って運用する。
- ・知的財産ポリシーに基づき、地域連携研究センターの下にある知的財産委員会は、知的財産の管理・運用を行う。

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・自己点検・評価委員会は、自己点検・評価の評価項目および評価基準に基づき、蓄積したデータにより自己点検・評価を実施する。
- ・自己点検・評価委員会は、評価結果を役員会等に報告する。これに基づき役員会等において包括的な改善計画を策定するとともに、学内委員会および事務局等で改善のための実行計画を策定する。また、評価結果は、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成・配布により公表する。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

- ・学内の情報をわかりやすく、迅速に情報提供できるようホームページの逐次改善を行う。
ホームページでは以下に掲げる情報等を積極的に提供する。
 - ① 大学の設置の趣旨及び特色ならびに学部ごとの教育研究上の目的及び特色
 - ② 育成する人材像
 - ③ 教育課程の内容および開設科目のシラバス等教育内容・方法
 - ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境および研究活動
 - ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
 - ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
 - ⑦ 自己点検・評価および地方独立行政法人評価委員会の評価結果
 - ⑧ 設置認可申請書
 - ⑨ 学則その他の規程
 - ⑩ 図書館に関する情報
 - ⑪ サテライトキャンパスに関する情報
 - ⑫ オープンキャンパスに関する情報

⑬ 大学行事に関する情報

⑭ 大学の資料請求に関する情報

- ・ 本学における教育研究活動の結果を掲載するために、地域連携研究センターに紀要編集委員会を設置し、審査を経た制作・論文を含めた紀要（SCU Journal of Design & Nursing – 札幌市立大学研究論文集 –）を発行する。
- ・ 市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

- ・ 個人情報保護事務取扱規程および個人情報保護ポリシーに基づき個人情報の適正な取り扱いを行う。

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

- ・ 大学完成時に向け、教育課程に沿った施設・設備の整備計画を早期に策定し、これに従い、順次整備を進める。
- ・ 施設・設備の点検・調査を必要に応じて行うなど状況の把握に努め、修繕等が必要な場合は、速やかに処置する。また、施設・設備の保守・修繕等について、中・長期的な維持管理計画を策定する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

- ・ 事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、教職員および学生への周知を図る。
- ・ 危機管理マニュアルおよび防災計画の適切な運用を図る。
- ・ キャンパス・ハラスマント防止委員会により、ハラスマントや違法行為が行われた場合の対応を行うとともに、防止策や対応策の周知を図る。
- ・ 学生に対して、ガイダンスの実施や学生生活ハンドブックを通して、学則の周知徹底を図る。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 本学が導入するマイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコーディネーションシステムについて、エネルギー有効利用の検証を行う。
- ・ 学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を使用する。
- ・ 環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。
- ・ 電子メールや教職員専用学内ホームページの積極的な活用によりペーパレス化を図る。

VI 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

X 施設及び設備に関する計画

- ・ 札幌市立高等専門学校の学生数減少に伴う施設改修
- ・ 札幌市立高等看護学院の閉校に伴う施設改修
- ・ 経常的修繕等
- ・ 大学院施設整備に係る設計費等

総額 161百万円

(注) 金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XI 人事に関する計画

- ・ 学部の完成及び大学院設置に向け、計画的に教員採用を行い、必要な教職員を確保する。
- ・ 札幌市からの派遣職員のプロパー化の推進により、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。
- ・ 教職員の能力開発や意識向上を図るために学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙 予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積りを含む）

1. 予算

(単位：百万円)

区分	金額
収入	
運営費交付金	1,702
施設整備費補助金	80
授業料等収入	313
受託研究等収入及び寄附金収入	22
その他収入	11
剰余金繰入	10
計	2,138
支出	
教育研究経費	480
受託研究等経費及び寄附金事業費等	20
人件費	1,156
一般管理費	321
施設整備費	161
計	2,138

2. 収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	
経常費用	2,077
教育研究経費	380
受託研究等費	20
人件費	1,156
一般管理費	385
財務費用	14
減価償却費	122
収益の部	
経常収益	2,067
運営費交付金収益	1,678
授業料等収益	327
受託研究等収益	22
資産見返運営費交付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	18
雜益	11
その他収益	11
純利益（純損失）	△10
目的積立金取崩益	10
総利益（総損失）	0

3. 資金計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	2,407
業務活動による支出	1,927
投資活動による支出	104
財務活動による支出	107
翌年度への繰越金	269
資金収入	2,407
業務活動による収入	2,048
運営費交付金による収入	1,702
授業料及入学金検定料による収入	313
受託研究等による収入	22
その他収入	11
投資活動による収入	80
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	279

2) 札幌市地方独立行政法人評価委員会「公立大学法人札幌市立大学の平成20事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について」抜粋（平成21年9月）

全体評価

(1) 総評

平成18年度に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成20事業年度で開学3年目を迎え、デザイン学部と看護学部を併せ持つユニークな大学としてその個性を發揮しつつ、地域に根ざした公立大学として一層の地域貢献が期待されている。また、一期生の卒業を翌年度に控え、学生の就職や進学といったキャリア支援に対する取組にも力点を置いている。

平成20事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、1項目でC評価（やや遅れている）とし、そのほかの4項目についてはA評価（計画どおり進捗している）又はB評価（おおむね計画どおり進捗している）となっているが、年度計画の小項目ごとの評価を勘案すると、全体としては、行うべき事業を行い順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した平成20年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数170項目のうち、5項目がIV評価（年度計画を上回って実施している）、163項目がIII評価（年度計画を十分に実施している）となっており、これらを合わせると170項目中168項目（98.8%）が年度計画の水準を満たしている。

(2) 年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイントは、次のとおりである。

ア 大学の教育研究等の質の向上

(ア) 教育

地域に根ざした公立大学という理念にもとづいて、デザイン学部と看護学部の特徴を生かした教育活動を行い順調に発展しており、明確な教育目標を掲げ、その実現にむけて着実に前進している点は高く評価できる。

また、全国的に高等教育における教育方法や教育評価法の改革が日進月歩の勢いで進んでいるが、両学部ともその流れに遅れることなく改善の努力を重ねている。その成果を外部に向かって積極的に発信できる力が備わればより高い評価が得られるだろう。

(イ) 研究

地域に関係した共同研究のテーマ設定や予算づけが適切になされている。

また、「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」の取組が教育GPに採択されたことは特筆に値する。

一方で、デザイン学部の科学研究費補助金の申請割合は、依然として低い水準であるといわざるを得ない。研究費の申請が市立大学の教員としての活動を維持するための義務と捉え、全学的な取組を望む。

(ウ) 地域貢献等

両学部とも、地域貢献に資する受託研究に積極的に取り組んで成果をあげている。また、高等学校との連携による出

前講座や公開講座は、量的にも質的にもきわめて優れた取組であり、高く評価できる。

一方で、国際化のための活動が全国的に見ると「周回遅れ」となっていることを取り上げざるを得ない。札幌市立大学では、平成22年度より開設される大学院を中心に留学生を受け入れていくとのことだが、評価では、どれだけの数の留学生を引き受け、どれだけの数の学生を外国に留学させているかが目安となる。この件については、広報も含めた基本的な戦略の見直しが必要であろう。

イ 業務運営の改善及び効率化

「公立大学法人札幌市立大学経営戦略」に基づき、平成20年度はキャリア支援センター及びキャリア支援委員会を設置し、学生の将来を見据えた体制の強化を行ったことは評価できる。

一方で、マネジメントサイクルの徹底については、学部完成前の中途な状況であっても管理サイクルの期間を短期間定めて実施することは可能である。経済情勢をはじめ、大学を取り巻く環境もめまぐるしく変化しており、取組のさらなる強化が必要である。

ウ 財務内容の改善

両キャンパスとともに、電気・ガス・水道の消費実績が前年比でかなりの削減が図られた。また、削減の手法も工夫が凝らされ地道で且つ着実に節約を重ねた行動が顕著である。

エ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供

この大項目の中にある「自己点検・評価」に関する項目について「Ⅱ」評価としたが、本件の重要性を鑑みると他の小項目にも影響する重大な欠陥をはらんでいる。

自己点検評価システムのあり方やチェック体制の強化などの根本的な見直しが必要である。

オ その他業務運営

施設保全計画の実行に当たっては、「検討システム」を早急に構築し、PDCAによる管理を期待する。

(3) 今後の課題

- 評価書の記述に当たっては、「アウトカム評価」や「エビデンスに基づく評価」という評価の基本にかかる部分を再度ご検討願いたい。次年度の評価書には、現在の取組の成果を反映した記述になっていることを望む。
- 大学の国際化について取組の遅れが目立っている。大学院開設を来年に控え、具体的な戦略の実行が必要である。
- 自己点検・評価の形骸化が懸念されるところである。今後新たな中期計画の策定を控え、自己評価システムのあり方は大学経営上重要な事柄であり、基本的な見直しを行う必要がある。

3 平成20年度決算

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算 - 予算)	備考
収入				
運営費交付金	1,702	1,702	0	
施設整備費補助金	80	80	0	
授業料等収入	313	318	5	
受託研究等収入及び寄附金収入	22	17	△5	
補助金収入	0	20	20	(注1)
その他収入	11	12	1	
目的積立金取崩	10	0	△10	
計	2,138	2,149	11	
支出				
教育研究経費	480	491	11	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	20	17	△3	
人件費	1,156	1,078	△78	(注2)
一般管理費	321	319	△2	
施設整備費	161	93	△68	(注3)
補助金事業費	0	20	20	(注4)
計	2,138	2,018	△120	
収入 - 支出	0	131	131	

※ 予算と決算の差異について

(注1) 当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。

(注2) 教員の欠員により、減少しました。

(注3) 施設の改修を計画より行わなかたことにより、減少しました。

(注4) 当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び員会、
教育研究審議会
会議会

学内運営の概要

資料

4 教職員数 (平成21年3月31日現在)

1) 学部別教員数

学長	1
副学長	1
デザイン学部	30
看護学部	36
合計	68

2) 職位別教員数

学部		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	3	7	0	1	26	25
	女	0	3	1	1	0	5	17
看護学部	男	0	1	0	0	1	2	38
	女	8	4	10	9	4	35	16
合計		23	11	18	10	6	68	96

3) 職員数

	事務系	司書系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	31	0	0	2	0	0	33
女	21	8	3	0	2	0	34
合計	52	8	3	2	2	0	67

5 管理職一覧表 (平成21年3月31日現在)

役職名	教職員名
学長	原田 昭
副学長 兼 看護学部長	中村 恵子
デザイン学部長	吉田 恵介
附属図書館長	武邑 光裕
事務局長	橋本 道政
事務局次長 兼 桑園事務室長	西野 守彦
事務局総務課長	阿部 大
事務局総務課経営企画担当課長	渡辺 春志
事務局総務課地域連携担当課長	上田 理子
事務局学生課長	安立 卓也
事務局桑園担当課長	芳村 直孝

6 教員一覧表 (平成21年3月31日現在)

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教授	原田 昭	教授	中村 恵子
教授	吉田 恵介	教授	加藤 登紀子
教授	武邑 光裕	教授	河野 總子
教授	石崎 友紀	教授	坂倉 恵美子
教授	上遠野 敏	教授	スーデイ神崎 和代
教授	齋藤 利明	教授	樋之津 淳子
教授	酒井 正幸	教授	松浦 和代
教授	城間 祥之	教授	宮崎 みち子
教授	杉 哲夫	准教授	大野 夏代
教授	中原 宏	准教授	清水 光子
教授	羽深 久夫	准教授	須田 恭子
教授	原 俊彦	准教授	守村 洋
教授	望月 澄人	准教授	吉川 由希子
教授	矢部 和夫	講師	菊地 ひろみ
教授	吉田 和夫	講師	佐藤 公美子
准教授	エル サニ マロアン	講師	菅原 美樹
准教授	武田 豊明	講師	高室 典子
准教授	張 浦華	講師	新納 美美
准教授	フィッシャー ニーナ	講師	藤井 瑞恵
准教授	細谷 多聞	講師	星 美和子
准教授	町田 佳世子	講師	村松 真澄
講師	大渕 一博	講師	保田 玲子
講師	柿山 浩一郎	講師	渡邊 由加利
講師	斎藤 雅也	助教	太田 晴美
講師	那須 聖	助教	神島 滋子
講師	福田 大年	助教	河村 奈美子
講師	松井 美穂	助教	進藤 ゆかり
講師	三谷 篤史	助教	多賀 昌江
講師	山田 良	助教	塚辺 蘭子
助教	片山 めぐみ	助教	照井 レナ
助手	須之内 元洋	助教	松村 寛子
		助教	三上 智子
		助手	工藤 京子
		助手	小坂 美智代
		助手	鶴木 恭子
		助手	原井 美佳
		助手	渕本 雅昭

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び員会、
教育研究審議会
会議会

学内運営の概要

資料

7 学生定員及び学生数

1) 学生定員

(平成20年5月1日現在)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看護学部	80	10	340
合計	160	30	700

2) 学生数

(平成20年5月1日現在)

学部	学年	男女別		出身地別		計	
		男	女	道内			
				札幌市内	札幌市外		
デザイン学部	1学年	28	61	46	29	14 89	
	2学年	27	53	40	26	14 80	
	3学年	33	63	58	27	11 96	
看護学部	1学年	9	75	38	42	4 84	
	2学年	7	74	36	42	3 81	
	3学年	10	78	35	47	6 88	
合計		114	404	253	213	52 518	

3) 科目等履修生・聴講生

(平成21年3月31日現在)

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン学部	0	0	0
看護学部	1	0	1
合計	1	0	1

8 授業料等

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800

9 奨学金貸与・授業料減額免除実施状況 (平成21年3月31日現在)

1) 奨学金貸与状況

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	27	60	2	89
2学年	36	47	3	86
3学年	25	70	3	98
合計	88	177	8	273

2) 授業料減額免除実施状況

学年	学期	全額免除者	半額免除者	計
1学年	前期	0	8	8
	後期	0	13	13
2学年	前期	0	12	12
	後期	0	12	12
3学年	前期	0	11	11
	後期	0	12	12
合計	前期	0	31	31
	後期	0	37	37

10 学生の入選・受賞

デザイン学部

年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成20年5月	阿部 由理	えにわっこサポート事業ロゴマークコンテスト 最優秀賞	恵庭市
平成20年6月	樋田 ゆうき	札幌メディア・アート・フォーラム(SMF) ワークショップ2008 審査員チョイス賞(佐々木慶太賞)	札幌メディア・アート・フォーラム
平成20年6月	山根 伸子	札幌メディア・アート・フォーラム(SMF) ワークショップ2008 審査員チョイス賞(鎌田順也賞)	札幌メディア・アート・フォーラム
平成20年6月	阿部 由理	札幌市時計台創建130周年記念ワズユーカード デザイン採用	札幌市交通局
平成20年7月	阿部 由理	PMF2008スタッフオリジナル缶バッヂ 採用(コンテンツコース選考)	(財)PMF組織委員会
平成20年8月	菊地 清功 鈴木 史人	札幌メディア・アート・フォーラム(SMF) トライアル2008 奨励賞	札幌メディア・アート・フォーラム
平成20年8月	大坪 聰一郎	第3回LRT&BRTデザインコンテストB部門 入選	「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」実行委員会

年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成20年8月	阿部 由理	富良野ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会 シンボルマーク募集 優秀賞	ナキウサギの鳴く里づくりプロジェクト協議会
平成20年9月	栗林 拓海 他	アイアンフィルムメーカーコンテスト2008 グランプリ	SAPPOROショートフェスト実行委員会・札幌市
平成20年10月	佐藤 文香	第2回ラッピングデザインコンペティション 採用	NPO法人ジャパン・ラッピングクラブ
平成20年10月	福田 和	エコデザインアワード2008 札幌市長賞	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成20年12月	渡辺 沙織	札幌市長海外向けグリーティングカードデザイン採用	札幌市総務局
平成20年12月	笠井 瞳	ガーデンアイランド北海道2008 絵画コンクール入賞	ガーデンアイランド北海道2008推進会議、NPO法人ガーデンアイランド北海道
平成21年2月	阿部 由理	「EGGs'08」ポスターコンペティション 最優秀賞	(社)日本建築学会北海道支部
平成21年2月	福田 和	スカンジナビアスマイルフォトコンテスト 入選	スカンジナビア政府観光局
平成21年3月	神馬 抄 本川 葵 吉田 優 渡辺 沙織	DoCoMoクリエイターズカップ2008 学生部門 iモーション 優秀賞	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ北海道支社
平成21年3月	高倉 誠生 他	DoCoMoクリエイターズカップ2008 学生部門 iモーション 奨励賞・審査員特別賞	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ北海道支社
平成21年3月	栗林 拓海 他	DoCoMoクリエイターズカップ2008 学生部門 Flash 奨励賞	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ北海道支社
平成21年3月	佐々木 里絵	札幌市立認定こども園にじいろ園章デザインコンテスト 最優秀賞	札幌市子ども未来局
平成21年3月	阿部 由理	札幌市立認定こども園にじいろ園章デザインコンテスト 佳作	札幌市子ども未来局
平成21年3月	大條 三貴	札幌市立認定こども園にじいろ園章デザインコンテスト 佳作	札幌市子ども未来局
平成21年3月	渡辺 沙織	札幌市立認定こども園にじいろ園章デザインコンテスト 佳作	札幌市子ども未来局
平成21年3月	渡辺 沙織	未来を創ろう!メッセージムービーサミット2009 最優秀賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成21年3月	栗林 拓海	未来を創ろう!メッセージムービーサミット2009 ワイズ・プロジェクト賞、キッズプロモーション賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成21年3月	大澤 笠原 夏美 恵里	未来を創ろう!メッセージムービーサミット2009 北海道新聞社賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)
平成21年3月	本川 葵	未来を創ろう!メッセージムービーサミット2009 ジャスマックプラザホテル賞	北海道コカ・コーラボトリング(株)

11 学生の課外活動 (平成21年3月31日現在)

	公認団体	主な入選・受賞等
1	バスケットボール部	
2	吹奏学部	
3	軽音楽部	
4	美術部「noumenon」	
5	バドミントン部	
6	YOSAKOIソーラン部「真花」	第17回YOSAKOIソーラン祭り新人賞・敢闘賞受賞
7	テニスサークル「テニサー」	
8	芸森地域キャストサークル「非魔人團」	
9	絵本ボランティアサークル「しゃばん玉」	
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	
11	テニスサークル「TIROL」	
12	デザインサークル「GNING」	
13	自動車サークル「CCH」	
14	ソフトボールサークル「SOFTiMo」	
15	服飾制作サークル「Alice」	
16	作品制作サークル「さくさく」	
17	料理サークル「SCU Cooking Studio」	
18	メンタルヘルスサークル「Placebo」	
19	環境エコサークル「Think of Earth」	
20	創作活動サークル「創-KIZ-」	
21	茶道サークル「Cha部」	

12 後援会

学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的とする後援会（平成19年2月発足）は、平成20年度役員10名体制となった。

＜概要＞

役 員	(会 長) 藤本 欣也 (副会長) 小菅 恵 (理 事) 荒井 昌子、小石 俊治、塙地 弘光、田中 直人、樋口 千郁、三上 敬良 (監 事) 大條 雅弘、竹内 信行
主な事業	・課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動、雪あかりの祭典等）支援 ・就職対策（キャリア支援室整備、就職関連図書整備、就職ハンドブック制作等）支援 ・後援会会報「SSA News」の発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円）

概要

教育活動

研究活動

社会活動

入学者選抜結果

附属図書館

及び教育研究審査会

学内運営の概要

資料

13 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成20年4月	平成20年度履修要項
平成20年4月	平成20年度学生生活ハンドブック
平成20年5月	平成21年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項（推薦）
平成20年6月	平成21年度入学者選抜要項
平成20年6月	平成21年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成20年6月	平成21年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成20年6月	平成20年度大学案内パンフレット
平成20年9月	平成21年度学生募集要項（特別選抜）
平成20年10月	就職パンフレット
平成20年11月	平成21年度学生募集要項（一般選抜）
平成20年12月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター のほほん第2号
平成20年12月	札幌市立大学年報 平成19年度第2号
平成21年3月	就職ハンドブック
平成21年3月	SCU Journal of Design & Nursing – 札幌市立大学研究論文集 – 第3巻第1号

14 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成21年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (m ²)	校舎面積 (m ²)	総数	面積 (m ²)
芸術の森キャンパス	167,617	21,763	58	5,780
桑園キャンパス	18,152	9,310	19	2,016
合計	185,769	31,073	77	7,796

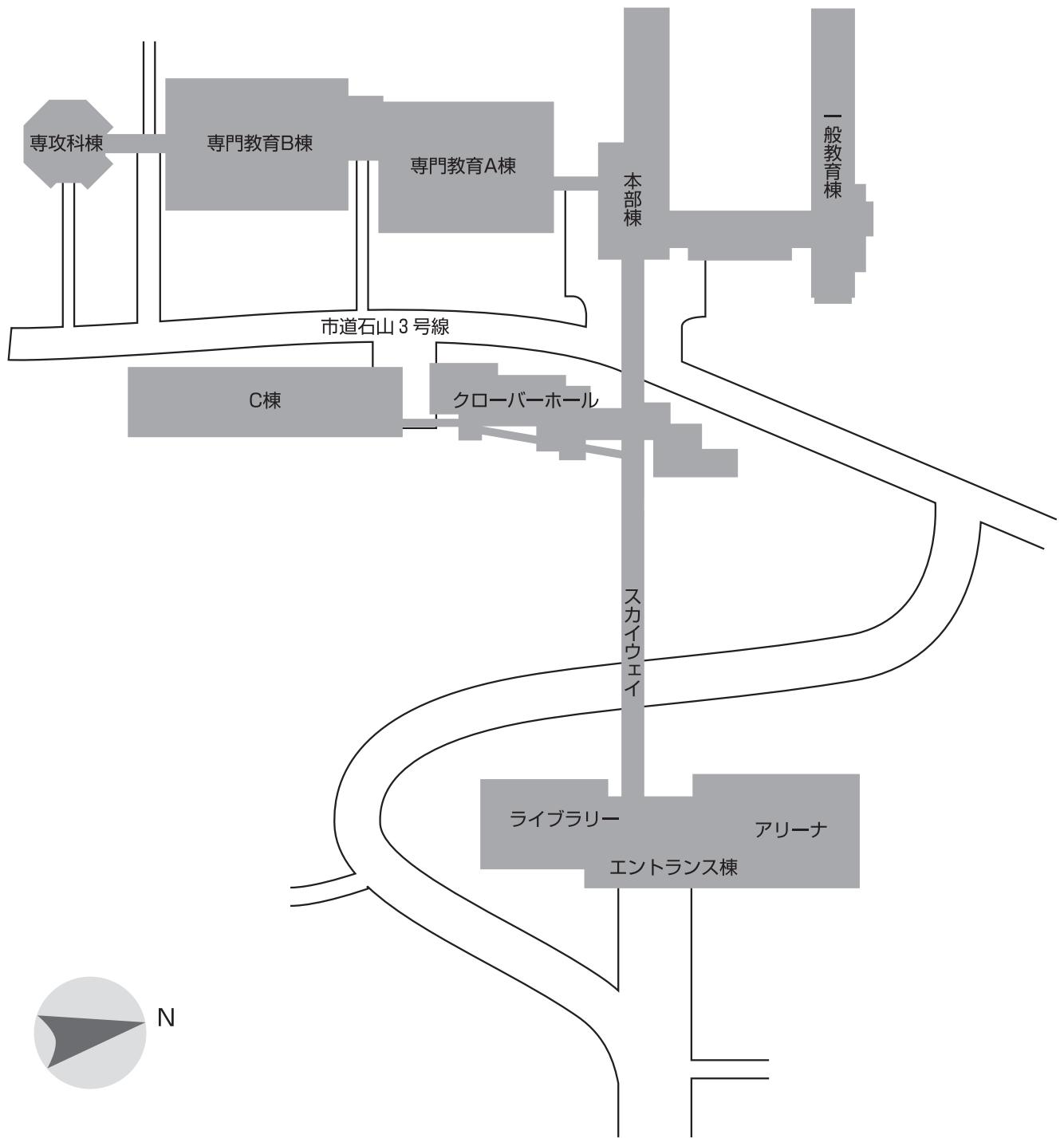
2) 芸術の森キャンパス [大学本部・デザイン学部]

<施設配置図>

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

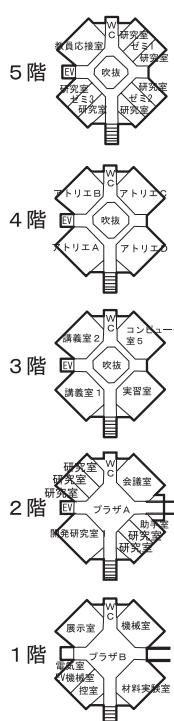
TEL : 011-592-2300 (代)

FAX : 011-592-2369



<校舎配置図>

<専攻科棟>



<専門教育B棟>



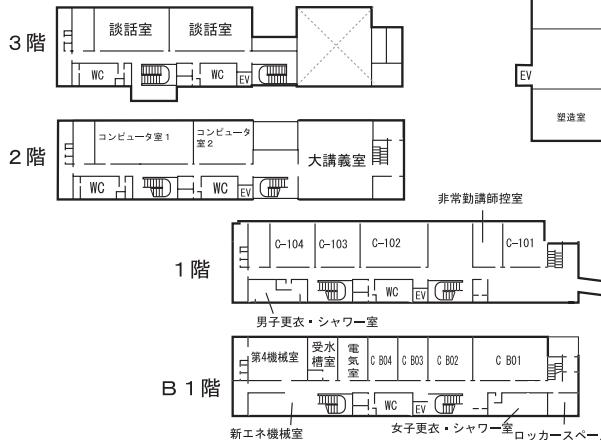
<本部棟>



<一般教育棟>



<C棟>



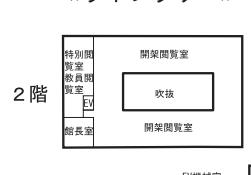
<専門教育A棟>



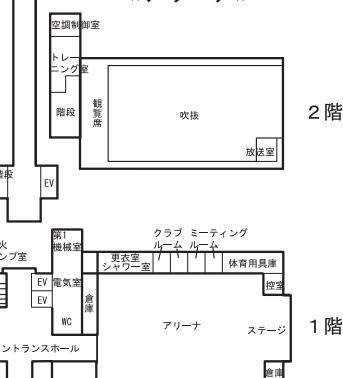
<クローバーホール>



<ライブラリー>



<アリーナ>



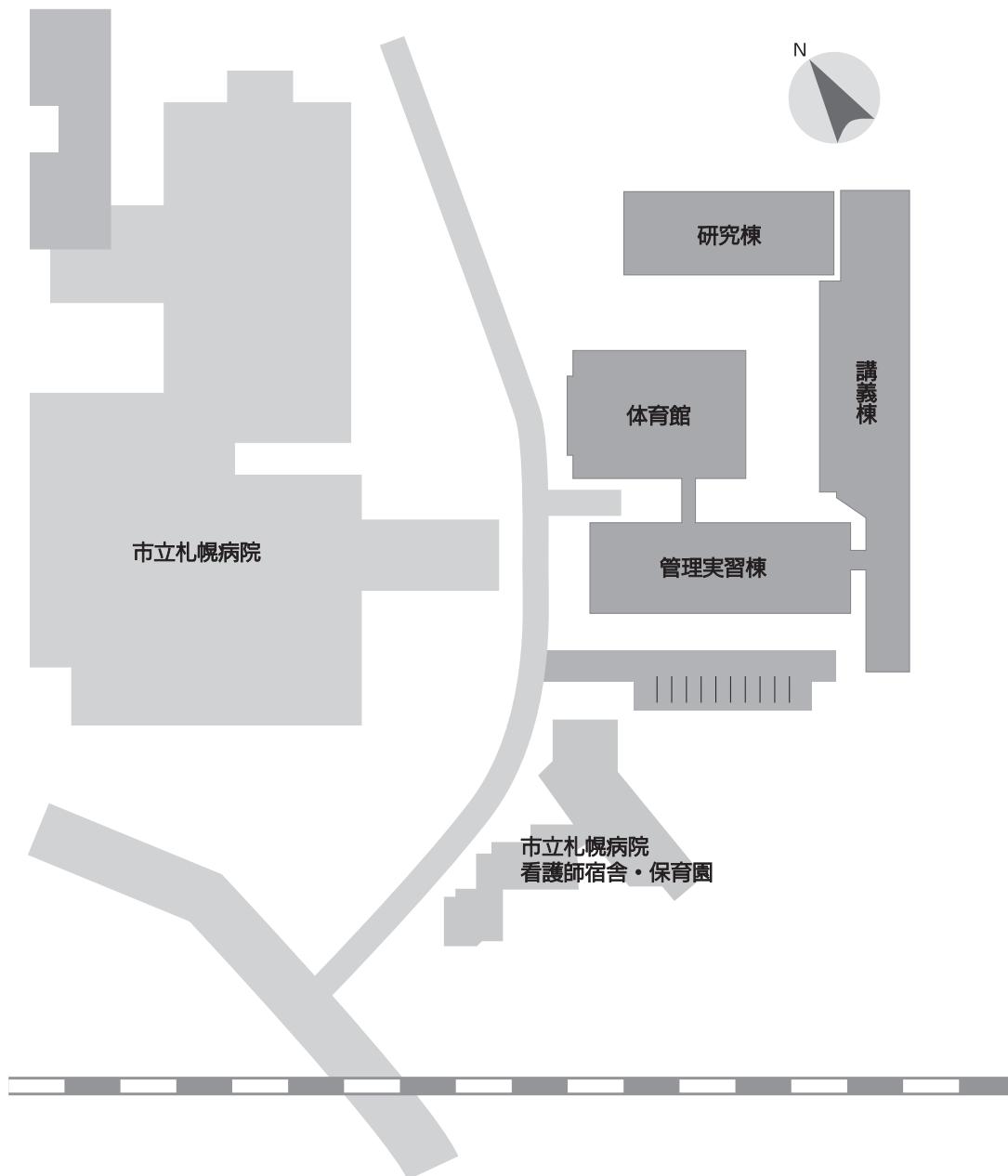
3) 桑園キャンパス [看護学部]

<施設配置図>

〒060-0011 北海道札幌市中央区北11条西13丁目

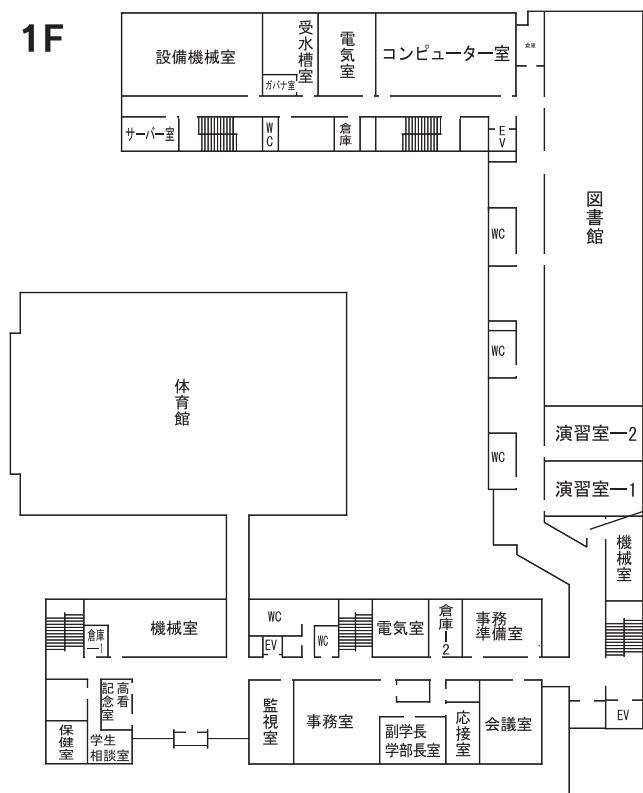
TEL : 011-726-2500 (代)

FAX : 011-726-2506

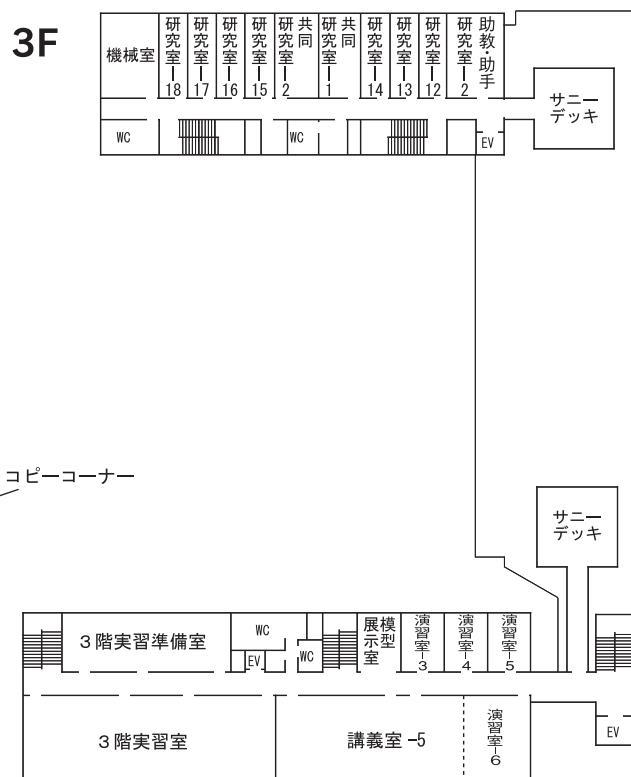


<校舎配置図>

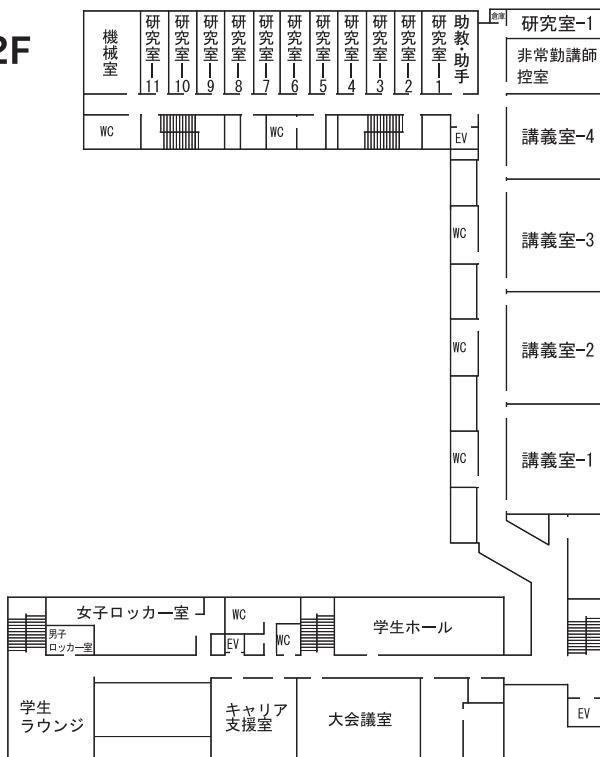
1F



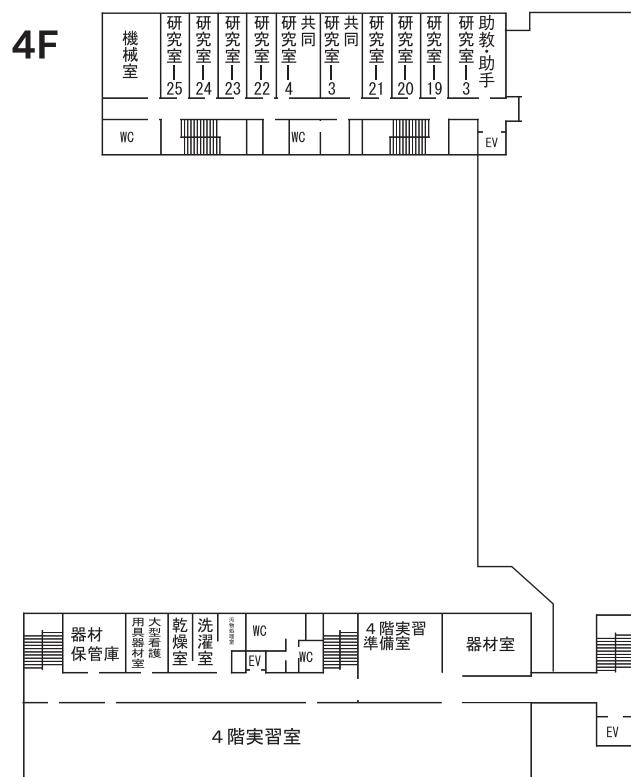
3F



2F



4F



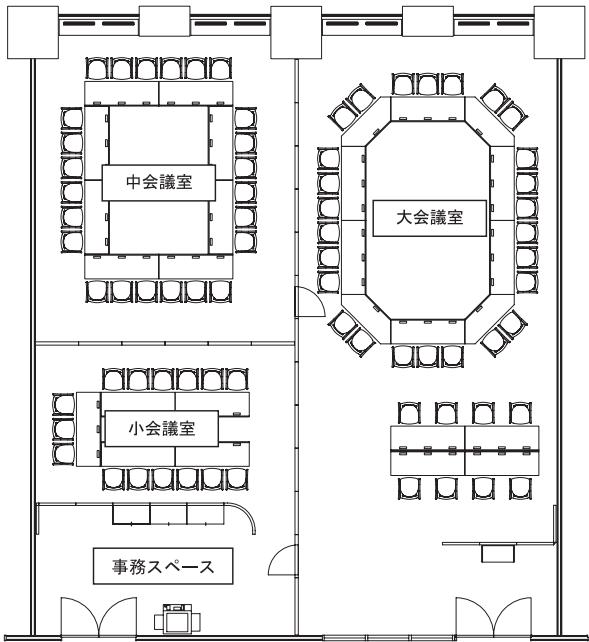
4) サテライトキャンパス

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル5階

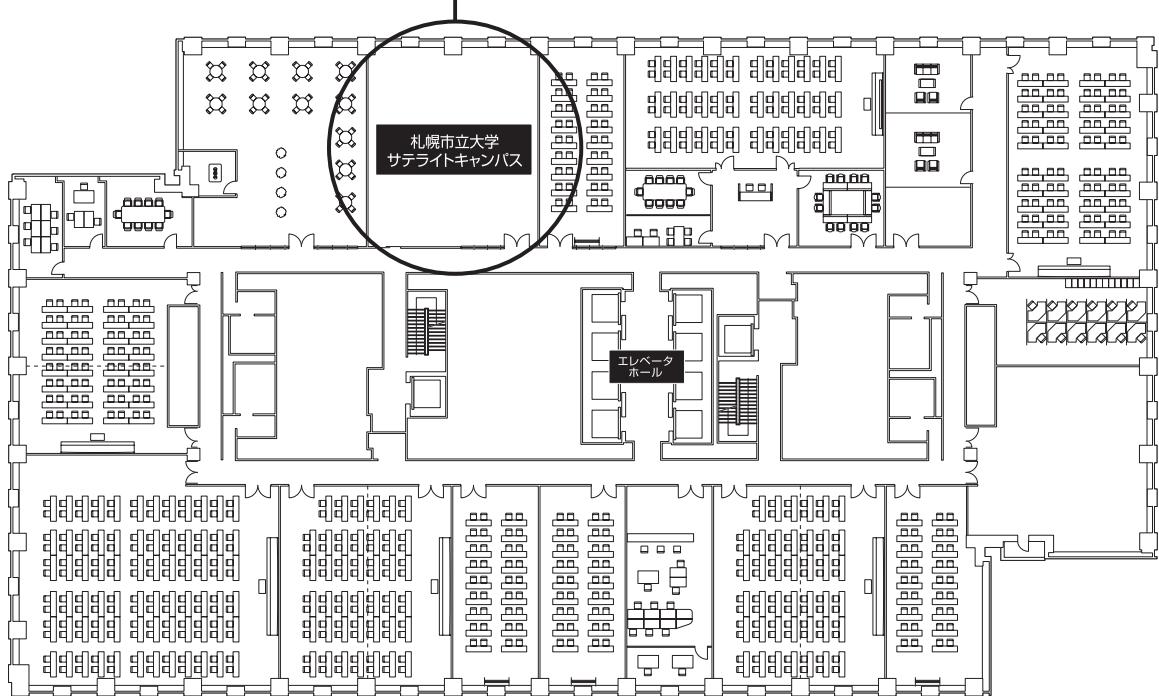
TEL : 011-218-7500

FAX : 011-218-7507

<施設平面図>

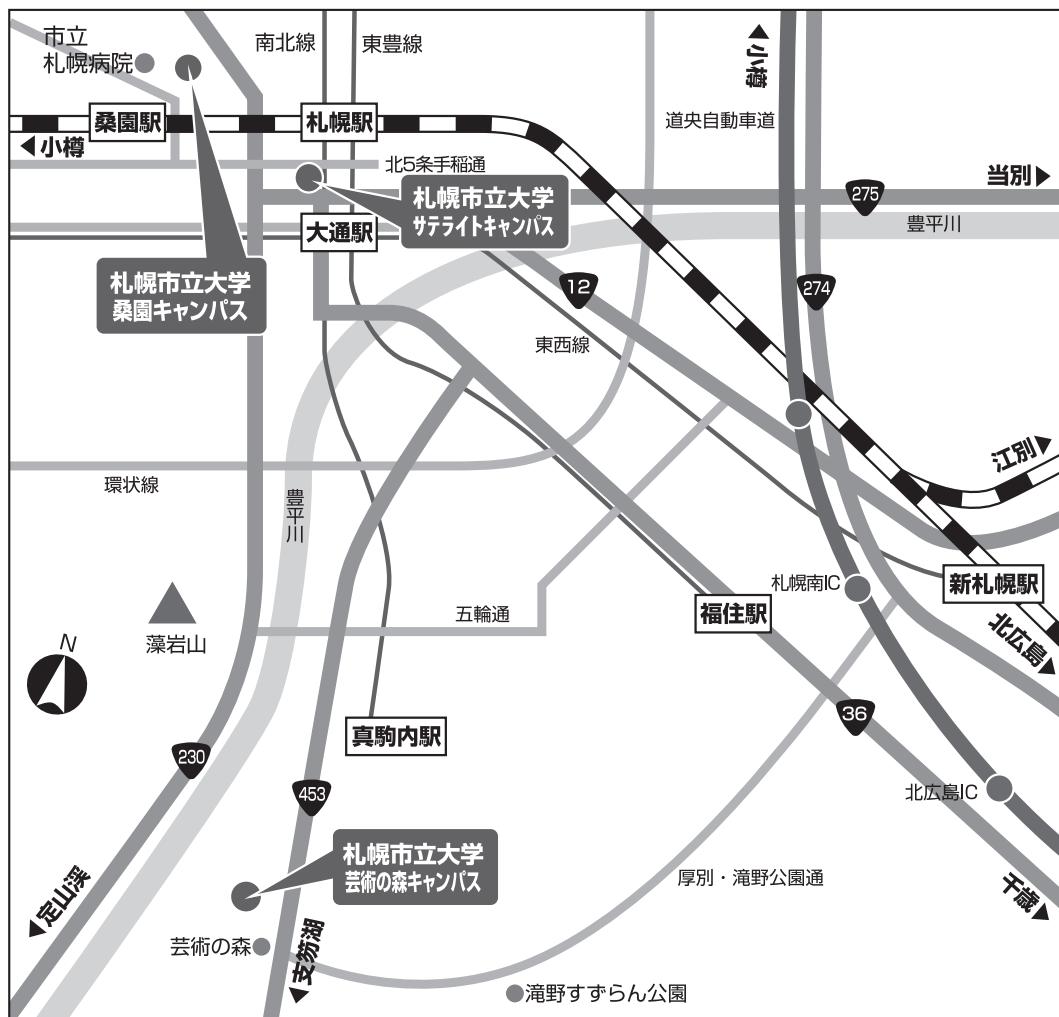


<日本生命札幌ビル5階平面図>

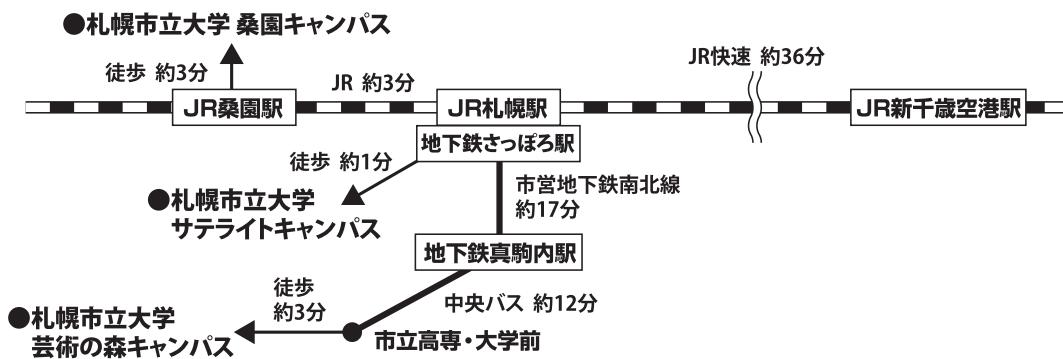


15 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



編集後記

札幌市立大学年報第3号をお送りいたします。

平成20年度は、本学が開学3年目を迎える、学生や教員、開講授業科目などが増え、また、教育活動や研究活動、社会活動が充実いたしました。これに伴い年報の掲載内容も昨年度から大幅に増えています。

編集にあたりましては、特に記載事項の統一や、掲載箇所の適切さについて配慮しております。また、レイアウトの変更などを行い、見やすくいたしました。

年報は本学の活動の記録です。本号の掲載内容から平成20年度の札幌市立大学の活動を眺望できます。また、号を追うごとに本学の成長の姿を見ることができます。この第3号が学内外を問わず、多くの皆様にご高覧いただければ幸いです。

最後に年報編纂にあたりまして、御多忙の中、原稿を執筆いただきましたすべての教職員の方々にお礼を申し上げます。

平成21年12月

総務委員会 望月 澄人（デザイン学部教授）

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成20年度 第3号

編 集 総務委員会

編集責任者 中村 恵子（総務委員会委員長）

発 行 日 平成21年12月31日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL : 011-592-2300 FAX : 011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>

E-mail : nenpo@scu.ac.jp